

学問分野別履修要領

外国語科目

英語

英語科目は、履修者が「高校卒業程度」の英語力を備えていることを想定しています。このレベルの履修者を対象とするのが、以下の説明で〈中級〉に分類される科目です。〈基礎〉とある科目は〈中級〉に至るまでの課程を復習するものとなっています。なお、科目名に付いているⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅶの番号は、科目間の難易度の区別や履修順序などを表しているわけではありません。

以下に各教科書のレベルと特徴を示しますので、受講する上での参考とし、実力に合わせた学習計画を立ててください。

「英語Ⅰ」：〈中級〉文法と作文。高校までに修得した文法のまとめを行う。普通。

「英語Ⅱ」：〈基礎〉文法、作文、リスニング、スピーキング。高校ぐらいまでに習得しておくべき英語の基礎知識の復習を行う。やや易しい。

「英語Ⅲ」：〈中級〉新聞記事、文学作品の読解。やや難解。

「英語Ⅶ」：〈中級〉評論の読解。普通。

英語が得意な人は、教科書を手に取り、自由に好きな科目を履修して下さい。英語が苦手な人は、まず「英語Ⅱ」を履修して下さい。英語の基礎的な能力をバランスよく高めることができます。そして、「英語Ⅶ」を履修して下さい。初めは、辞書を使わずに全体に目を通し、話の流れを把握しましょう。その後、注や辞書を利用し、細かいところまで教科書を精読して下さい。英語教職課程履修者は、「英語Ⅰ」を履修し、文法の知識をしっかりと習得することが望ましいと思います。英文学専攻予定者には、文学作品が中心の「英語Ⅲ」の履修を勧めます。

テキスト科目だけではなく、スクーリング（夏期・夜間・週末）と放送授業でも履修できます。主にリーディングとライティングに分かれますが、担当者によっては、リスニングやスピーキングなども含めた総合的な訓練を目指す授業もあります。言葉はコミュニケーションのためのものです。スクーリングでは、クラスメートや教員と積極的にやりとりをする中で、さらなる英語力の向上を目指して下さい。

言葉の学習には、「習う」側面と「慣れる」側面の両方があります。教科書に向かい、思い悩みながら取り組んで、習うことと合わせて、色々な英語に多く触れ、ひたすら慣れることも大事です。習うことだけに捕われるとつまずいてしまうかもしれません。慣れることにも心がけて、焦らずじっくりと時間をかけて取

り組んで下さい。

補助教材『学習のすすめ』英語の学び方も参考にしてください。

ドイツ語

ドイツ語未習者は、まず最初に初級前期・初級後期の単位をスクーリングで修得することを目標とするとよいでしょう。ドイツ語のような言語は文法体系の概観ができていると、その後の独習が楽になるからです。また、組み合わせとしては、初級前期または初級後期のみで卒業単位には足りる場合でも、スクーリングの共通テキストについては初級前期・初級後期を通じて学習し、言語構造を概観してから次に進むことが望ましいと思います。

時間的な余裕がある人、または当面スクーリングに出席するのが難しい人は、放送授業により初級前期・初級後期のいずれかを修得することもよいでしょう。

しかしいずれの場合でも、完全な未習者が初級前期よりも先に初級後期を、あるいは初級前期と初級後期を並行して履修することは勧められません。

スクーリング中級、上級の授業には担当者によってさまざまなヴァリエーションがあり、必ずしも配本テキスト第三部あるいは第四部の内容に類似の授業が行われるわけではありません。教室での対話を通じて学習を深めるためにも、講義要綱を熟読した上で、ぜひいろいろな授業を積極的に履修して下さるよう望みます。

補助教材『学習のすすめ』ドイツ語の学び方、ドイツ語辞書とのつきあい方も参考にしてください。

フランス語

フランス語未習者は、まず最初に初級前期・初級後期の単位をスクーリングで修得することを目標とするとよいでしょう。スクーリングではフランス語の文法体系の習得と同時に、発音やコミュニケーションの表現を学習でき、その後の独習が楽になるからです。また、組み合わせとしては、初級前期または初級後期のみで卒業単位には足りる場合でも、スクーリングの共通テキストについては初級前期・初級後期を通じて学習し、言語構造を概観してから次に進むことが望ましいと思います。

時間的な余裕がある人、または当面スクーリングに出席するのが難しい人は、放送授業により初級前期・初級後期のいずれかを修得することもよいでしょう。

しかしいずれの場合でも、全くの未習者が初級前期

よりも先に初級後期を、あるいは初級前期と初級後期を並行して履修することは勧められません。

スクーリング中級、上級の授業には担当者によってさまざまなヴァリエーションがあり、必ずしも配本テキスト第三部あるいは第四部の内容に類似の授業が行われるわけではありません。教室での対話を通じて学習を

深めるためにも、講義要綱を熟読した上で、ぜひいろいろな授業を積極的に履修して下さるよう望みます。

補助教材『学習のすすめ』フランス語の学び方、フランス語辞書の使い方も参考にしてください。

文学部専門教育科目

文学部履修要領について

文学部での学習の進め方は、他学部比べて多様です。その分、学生のみなさんひとりひとりが自分で学習の方向を管理しなければなりません。ここには、文学部1、2、3類に属するいくつかの専攻（文学部は17専攻あり、その他に自然科学および諸言語があります）からの学習に関するいろいろな助言が掲載されています。みなさんは、まず、自分の所属する類に該当する専攻（1類は哲学、倫理学、美学美術史学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学、2類は日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、3類は国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学）の助言を参考にしてください。さらに自分の卒業研究の方向性が明らかであるならば、その研究に該当する専攻の助言には特に注意を払って味読してください。もちろん自分の所属する類でなくても、みなさんが履修するテキスト科目を担当する専攻の助言にも注意しなくてはなりません。ただいくつかの科目（「ロシア文学」「人文地理学」など）については、ここには言及がありませんので、科目別履修要領の各科目の項を参照してください。

哲学専攻

哲学専攻で設置されている科目で履修の順序に特に注意が必要なのは、論理学です。現在「論理学」は、総合教育科目と専門教育科目に各々設置されていますが、数学と同様テクニカルな要素を持った論理学では、基礎から順序立てて学習を積み重ねていく必要があります。したがって、まず総合教育科目で学問の概要を学ぶとともに基礎を固め、ついで専門性の高い段階へと学習を進めていくことになります。

他方、総合教育科目に設置された「哲学」と専門教育科目に置かれている「西洋哲学史Ⅰ」、「西洋哲学史Ⅱ」は、いずれも卒業論文作成にあたって問題を絞り込む際に、その前提となる哲学的な思考法ならびに哲学史上の知識を習得するための科目です。したがって、学習にあたって特に順序を気にする必要はありません。意欲と時間の余裕があれば、それぞれを平行して学習していただいてもかまいません。また「科学哲学」は、科学とは何かを哲学的に掘り下げる学問ですので、「哲学特殊」とでもいうべき性格をもっています。したがって、特定の関心と、ある程度の予備的知識が要求されることになります。

また、テキスト科目がその性格上網羅的な傾向にあるのに対して、スクーリングでは各担当者がそれぞれの問題関心に当たってもっともアクチュアルなテーマで講ずる傾向があります。したがって、スクーリングの履修にあたっては、学習者の関心に応じて適宜選択していただくことが、学習への動機付けという観点からして効果的でしょう。

この分野の主要な参考文献に関しては、三田哲学会編集の『哲学 別冊文献案内』が重要な情報を満載していますので、ぜひ参照してください（<http://web.flet.keio.ac.jp/~bibiken/mita-tetsu/>）。また、哲学専攻の専任スタッフが最近どんな問題関心のもとで、

どんな論文を書いているかなどについては、文学部の公式HPで詳しく紹介されています（<http://www.flet.keio.ac.jp/academics/philosophy/index.html>）もしくは<http://www.flet.keio.ac.jp/faculty/philosophy/>）。あるいは、文学部が毎年発行している『文学部専任教員一覧』にも詳しい記載があります。こちらの方は卒論指導登録許可を受けた者に対し、希望により販売しています。

最後に、大学で哲学を学ぶ皆さんにお勧めしたいのは、入門書の類を何冊も読むよりは、これと思った本物の哲学書を邦訳でよいから直に読むこと、何度も繰り返し読むことです。最初はよく分からなくても、何度も繰り返し読むうちに、次第に私たちを思考することの深みへと導いてくれるはずです。そのときすでにあなたは、みずから哲学を始めているのです。

倫理学専攻

本専攻に関わるテキストとしては、次の2書がある。

- ・「倫理学」小泉 仰著
- ・「現代倫理学の諸問題」大谷愛人、池上明哉、小松光彦共著

前書はヘブライ思想など古典的な視点をも包摂して倫理学的観点を教授するものであるのに対し、後書は表題に見られるように近代からの思想の諸潮流を解説しながら現代に課題として残された諸問題を提示して近現代の倫理思想に重きを置いている。そのようにテキストの性格も違い、内容的にもそれぞれ独立したものであるため、講読の順序は問わない。関心の置き所によって選択すべきである。但し、いずれもその書のみを一冊読めば倫理学がわかるといった標準的教科書的な内容ではないので、書かれている事柄の奥行を理解するためには、テキストに紹介されている参考文献は言うまでもないが、それらに関連するものも積極的

に読破した上で理解を進めていく必要がある。

美学美術史学専攻

本専攻は広く「美と芸術」に関わる事象を研究対象としています。本専攻には西洋及び東洋（日本）美術史、音楽学・音楽史、アートマネジメントの専任スタッフがいますが、通信教育科目としては「日本美術史Ⅰ」のみ設置されています。

「日本美術史Ⅰ」テキストは日本美術とは何かを考えるための入門書です。通史としての体裁はとっていますが、単なる時代順に配列された作品リストの解説ではなく、代表的な作品を通して、時代背景に対応した様式展開の様相とそこから透けて見える日本美の特質を追求する方針をとっています。芸術史研究は多様な方法が可能ですが、一つの研究視点として参考として下さい。

美あるいは芸術は、本来的にモノあるいは個別的な対象に即して体験として現象していますし、体験はあくまでも個人的なものです。それにもかかわらず普遍性・永遠性という相貌のもとに共有されることを要請しているようです。個々の作品の鑑賞を通してしか芸術の体験はできません。したがって、芸術学・芸術史研究も研究者個人の美的・芸術的経験が前提として要求されます。美学あるいは芸術史の学習は、単に文献や研究書を読解するだけではなく、先ず自身の目や耳を通して感受し、思考するということが肝要です。芸術作品の鑑賞はもちろん、日常生活においても美を発見する機会は無限です。先ずは「美」に気付くこと、そしてその感動について思いめぐらすこと、そこから思いがけない豊穡な学問世界が開かれてくるかもしれません。

日本史学専攻

日本史関係で設置されている科目は、総合教育科目の「歴史（日本史）」と専門教育科目の「日本史概説Ⅰ」「日本史特殊Ⅰ—法と政治の日本古代史—」「日本史特殊Ⅱ—キリシタン史—」「日本史特殊Ⅳ」「古文書学」の、あわせて6科目です。

日本史の学習を進めていくにあたって、まず必要なのは日本の歴史全体の流れを一通り押さえておくことです。その意味で、最初に「歴史（日本史）」を履修することで、勉強の基礎を固めた上で、専門科目の勉強に入るのが望ましい順序です。

専門科目の中でも、比較的広い時代にわたる概括的な歴史を扱うのが「日本史概説Ⅰ」です。特に日本の中世史や近代史で卒業論文を書く予定の方は、是非とも履修してほしい科目ですが、それ以外の方でも、政治・経済・社会・文化など様々な面から歴史を考える視点は、大いに参考になるでしょう。

「古文書学」は、歴史を研究するための材料である史料について学ぶ科目です。日本史で卒業論文を書くための基盤となる科目であり、特に古代・中世史を扱うとする場合には必ず履修しておいて下さい。

より深く一つのテーマを掘り下げるのが「日本史特

殊」という科目です。時代やテーマの対応関係としては、古代史が「日本史特殊Ⅰ」、キリシタン史が「日本史特殊Ⅱ」、近世・近代史が「日本史特殊Ⅳ」ということになります。単に知識を身につけるだけでなく、絞り込んだテーマで史料に基づいて歴史を描き出す手法を学ぶことで、卒論執筆の参考にして下さい。その意味では、必ずしも自分が特に関心のある時代・テーマでなくとも、勉強の役に立つ何かが得られるはずですよ。

以上の各科目のテキストの学習は、実は日本史の勉強の出発点に過ぎません。それぞれの講義要綱やテキストの中で紹介されている参考文献を初めとして、多くの概説書・専門書を読んで、歴史に対する理解を深めて下さい。卒業論文のテーマに迷っている方も、そうした積極的な勉強を進めていけば、間違いなく自分の興味・関心の対象が見つかります。

東洋史学専攻

東洋史関係で設置されている科目は、総合教育科目の「歴史（東洋史）」と専門教育科目の「東洋史概説Ⅰ」「東洋史概説Ⅱ」、および「東洋史特殊」のあわせて4科目です。

東洋史の学習を進めていくに当たって、まず必要なのはアジアおよび中東・イスラーム世界に対していろいろな意味で幅広い関心を持つことです。それは歴史だけに留まらず、現代に至るまでの政治・経済・社会・文化全体を指します。その上で、とりわけ強く興味を抱くエリアに地域を絞って深く学習していくことを勧めます。アジアといっても広く、そこに住む人々のあり方は一様でないからです。

「歴史（東洋史）」はアジア全般に関して概括的な知識をつける科目です。専門科目としての「東洋史概説Ⅰ」は中国の古代史を中心として通史的な知識をつけることを目的としています。「東洋史概説Ⅱ—中国史—」は中国近現代史に重点を置きながら、歴史の流れを通して現代の東アジアのあり方を考えることを目的としたもので、専門課程で身につけるべきハンドリングもあわせて指導しています。

慶應義塾大学の東洋史研究のもう一つの核である中東・イスラーム史研究の初歩は「東洋史特殊」で補えます。「特殊」ではありますが、トルコ民族の通史を知ることができます。

以上の各科目のテキストの学習は、東洋史の学習全般の単なる一歩に過ぎません。歴史学とは人間が営んできた、さらにいま営んでいる政治・経済・社会・文化および国際関係を総合的に研究する学問であり、その意味では学習に当たって多様な学問領域を包摂するものです。一にも二にも知識欲と好奇心が必要であり、それを具体化するために豊富な読書量と知識を習得しなければなりません。その入り口にあってはまずテキストを熟読することが必要十分条件だといえます。

西洋史学専攻

ここでは、西洋史学専攻が設置している科目について

て、どの科目をどのような順序で履修すれば効果的な学習をすることができるかという観点から、これらの科目を概観しておきますので、皆さんの学習の一助としてください。特に西洋史学の領域で卒業論文を書くことを予定している学生諸君は、論文にとりかかる前に、これらの科目のすべてを履修しておくことが望ましいのは言うまでもありません。

是非とも最初に履修して頂きたいのは総合教育科目の「歴史（西洋史）」です。この科目は、古代から現代に至るまでの西洋の歴史全体のアウトラインをおさえることを目的としていて、他の科目での学習の基礎となります。これと同時に進行で履修するのが望ましいのは「史学概論」です。この科目では、高等学校までの歴史とは違って、大学で学ぶ歴史が単なる暗記ではなく、過去と現在の対話のプロセスであることを学びます。これら2科目を終えた上で、「西洋史概説Ⅰ」及び「西洋史概説Ⅱ」を履修してください。総合教育科目の「歴史（西洋史）」で幅広く得た知識をふまえて、「概説Ⅰ」では西洋の古代・中世全般について、「概説Ⅱ」では近・現代全般について、比較的深い知識を身につけることができます。最後に履修するのが望ましいのは「西洋史特殊Ⅲ」で、中世から近代に至るイギリス国制史を扱っています。これらの領域に特に興味を持たない学生諸君も、とりわけ西洋史で卒業論文を書こうとする人たちは、これらの科目の学習を通じて、歴史学の探求の方法を学んでいただきたいと思います。

なお、どの科目についても、教科書そのものは単に骨組みに過ぎないものと理解しておいてください。それぞれの科目分野で実質的な学習を行うためには、それぞれの教科書に挙げた参考書をはじめとして、できるだけ多くの概説書ならびに専門書を読んで、知識の肉付けをするように心がけてください。

民族学考古学専攻

民族学考古学関係の科目は以下の3つが設置されている。

- ・「考古学」
- ・「西洋史特殊Ⅰ—古代オリエント史—」
- ・「オリエント考古学」

これらのうち「考古学」では取り扱う地域・時代を幅広く設定し、人類学といった周辺領域との関連を含め、理論や方法論を包括的に解説する。一方、「西洋史特殊Ⅰ—古代オリエント史—」と「オリエント考古学」では、文明の起源の地としてのオリエント（西アジア地域）の古代史を取り上げる。「西洋史特殊Ⅰ」では西洋文化の起源として地中海世界を含む西アジア地域の歴史を講じるが、「オリエント考古学」では新石器時代以降の西アジア世界における考古学的研究の成果を紹介する。いずれも概説的な内容であり、履修順序に指定や推奨はない。ただし、科目内容と方法論には相互に関連があるので、複数履修することによって考古学への学術的理解は深まるはずである。

スクーリングの「考古学」では担当教員が専門とする地域や時代の内容も盛り込まれる。受講者各人に馴染みのある地域が事例として取り上げられることも多

いだろう。さらに、時空を超えた異文化理解として考古学を位置づけるとき、文化人類学や歴史人類学が重要な関連分野として浮かび上がる。スクーリングの「民族学」ではこの点に着目し、文化の構築性をテーマに歴史研究と文化研究の接合が論じられる。

民族学考古学の世界に関心を持つ受講生には、V. G. チャイルド『考古学とは何か』（岩波書店）や、鈴木公雄『考古学入門』（東京大学出版会）・『考古学はどんな学問か』（東京大学出版会）、C. クラックホーン『人間のための鏡』（サイマル出版会）、A. マザール『聖書の世界の考古学』（リトン）、R. ワグナー『文化のインベンション』（玉川大学出版部）といった入門書に目を通すとよい。なお、専攻 HP (<http://www.flet.keio.ac.jp/~toru38/ethnoarch/>) も参考になるだろう。

国文学専攻

当専攻に関わるテキスト科目は、総合教育科目の「文学」、専門教育科目の「国語学」、「国語学各論」、「国文学」、「国文学史」、「近代日本文学」、「国文学古典研究Ⅰ」、「国文学古典研究Ⅱ—Ⅰ」、「国文学古典研究Ⅱ—Ⅱ」、「国文学古典研究Ⅲ」、「国文学古典研究Ⅳ」、「国語国文学古典研究Ⅴ」などである。どの科目から履修しても差し支えない（科目間に学習上の優先順位はない）。ただし、テキスト（教科書）で触れている作品はできるだけ多く通読してほしい。原典を読解することが何よりもテキストの理解を深めることにつながるからである。近年では古典でも著名な作品ならば手軽に現代語訳や、時としてはマンガで読むこともできるが、それでは大学という場で専門的に学ぶ意味がない。時間を惜しまず、原典をじっくり読んでほしい。なお、基本的な原典テキスト、参考書、辞典類、研究書などは慶應義塾大学藝文学会の編集・刊行している『藝文研究 文献案内』に詳しく記しているので、そちらを参照されたい。

国文学で卒業論文を書こうとする者は、夏期・夜間のスクーリングにできるだけ出席することが望ましい。それは、テキストからだけでは理解しにくい研究の意義や方法論を直に教員から聴くことのできる絶好の機会だからである。

中国文学専攻

現在、通信教育課程では、中国文学関連の科目として、以下の4科目が設置されている。

「中国文学史」：古代から現代に至るまでの各ジャンルにおける文学通史。

「漢文学Ⅰ」：古典文学概論、および代表的詩文の作品選。

「漢文学Ⅱ」：『論語』注釈。

「漢文学Ⅲ」：『孟子』注釈。

文学に親しむための決まった方法はない。興味のある書物の一つ一つ読み進めればそれでよい。しかしながら、中国文学は三千年におよぶ歴史を持つ世界であり、代表的作品だけでも膨大な数に上る。短期間に効

率的な学習をするためには、まず文学史の基礎的知識をしっかりと習得し、各ジャンルの歴史の変遷を把握した上で個々の作品を鑑賞することが望ましい。したがって、「中国文学史」を「漢文学」より先に履修することを推奨する。なお、総合教育科目人文科学分野の「文学」の科目においても、中国文学関係のものが含まれている。

外国文学の学習においては、ぜひ原典に触れてほしい。文学は言葉の学問であるから、翻訳のみではその作品のエッセンスは伝わってこない。幸い古典文学の場合には、漢文の訓読で原作を読むことができる。現代文学を中心に学ぶ学生は、スクーリングなどを利用して中国語を履修することが望ましい。

参考文献は、各テキストの巻末を参照されたい。古典に関しては、特に角川書店の「鑑賞・中国の古典」シリーズ（全24巻）を入門書として薦めたい。原文・訓読・注釈に加えて、各分野の専門家である編者が詳細な解説を加えているので、作品の背景を知るためのよき道案内になる。

英米文学専攻

- 英文学、米文学、英語学の分野で卒業論文を執筆する学生は第3類の英米文学関連の科目をなるべく多く履修することが望ましい。
- 卒業論文開始後の早い時期に（あるいは、それより以前に）「ACADEMIC WRITING II」（4単位）を履修してもらいたい。
- 英米文学関係の科目数は多く、各々の科目についての文献をここで挙げることは不可能であるが、基本的な参考文献については文学部英米文学専攻のウェブサイト（<http://www.flet.keio.ac.jp/englit/>）または、『藝文研究 別冊』〔2011年度版文献案内〕（藝文学会編）（kcc-channel にログイン⇒「学習サポート」⇒「補助教材」⇒「藝文研究 別冊」）を参照されたい。
- 卒業論文は日本語で執筆してもかまわないが、第一次資料及び重要な第二次資料は必ず英語で読む必要がある。英文を読む機会を与えてくれる科目を少しでも多く履修してもらいたい。

独文学専攻

他の文学においてもそうであるように、ドイツ文学を学ぼうとする人たちに期待されているのは、まず数多くの文学作品に触れてみることです。翻訳でなるべく多くのドイツ文学作品に触れていただき、そこで自分なりの読書体験をしてほしいということが、受講者に期待する第一のことです。もちろん、われわれの設置した講座やテキスト科目などがきっかけとなって、これまでまったくドイツ文学に無縁であった人にドイツ文学への個人的興味をもっていただき、作品に触れてもらうこともまた心から歓迎すべきことです。そしてこういった個人的な読書体験、読書からの感動を基礎にしながら、その体験や感動を文学史や文学理論によって学問的に位置づけていくのがドイツ文学研究の

基本的な方法論ではないでしょうか。この目的のためのガイドとなり、助言者となり、あるいは研究方法のモデルとなるのがテキストとスクーリング講義なのです。その場合、いくつかの参考書にあたり、自分の感動を歴史的な流れのなかに置いてみたり、あるいは理論的に構築したりする手続きが必要となるでしょう。

現在われわれのテキスト科目としては「近代ドイツ演劇」「近代ドイツ小説」が設置されています。これらはいずれもドイツ文学を学ぶ上での重要な時代をカバーしていますから、ドイツ文学やその歴史について基本的な認識を得る最初のステップとして利用してください。これらの二つのテキストはいずれも入門者のために書かれたものですが、内容的には相当高度なところまで踏み込んでおり、コンパクトにまとまっていますので、いろいろな参考書にあたる前に、まずこれらのテキストを熟読することをお勧めします。参考書はあくまでもテキストを理解するための補助であり、なによりもこれらのテキストを理解することが肝心です。そして、そこで知りえた文学作品にもし日本語訳があり、それに興味をお持ちになったら、ためらうことなく作品に向かってください。さきほども言及しましたように、読書の感動こそが基本中の基本なのです。二つのテキストのうちどれを先に学ぶべきかといったことは、受講者の関心によって決まります。いずれから学び初めてもかまいません。

スクーリング科目としては、「ドイツ語学文学」「ドイツ文学史」「ドイツ文学研究」などの講座が設置されています。これらの科目はそれぞれ、理論的認識、歴史的認識を深めるためのきっかけとして利用されるべきものです。担当者によって、扱う時代やテーマ、作品、作品を扱う手法などが異なりますが、それもまたテキスト科目ではカバーできない部分を知りうる良い機会であり、個々の担当者の個性ある講義を通じて、さらに認識を深めていただきたいと思います。とくにドイツ文学で卒業論文を書こうとする受講者には教員を個人的に知る絶好の機会ですから、積極的に参加してください。担当者は皆さんのご質問にできるかぎり答えてくれることでしょう。これらの科目もまたテキスト科目と同様にいずれを先に受講すべきかということは問題になりません。テーマに関心がもてるほうから受講すべきでしょう。

ところで、ドイツ文学というジャンルに特徴的なことは、オーストリアやスイスといったいわゆるドイツ語圏の文学も含んでいることです。したがって、皆さんが受講されるのは、正確に言えば「ドイツ文学」ではなく「ドイツ語圏の文学」ということになるでしょう。これらの国々が優れた文学者や文化の担い手を輩出していることはいうまでもありません。ドイツにのみ視野を限定することなく、自分の関心を広くオーストリア、スイスの文学や文化にも向けてください。

今、「文化」という言葉を使いましたが、われわれが受講者に望んでいるのは、なにも狭い意味での「ドイツ語圏の文学研究」といったものばかりではなく、広やかにドイツ語圏の文化全般（音楽、美術、建築など）に触れてもらうことです。いずれの国の文化もそうであるように、ドイツ、オーストリア、スイス文化は多様な魅力に満ちています。通信教育課程に設置しているドイツ文学講座を、受講者の皆さんが魅力あふ

れるドイツ（語圏）文化に触れるきっかけの一つとして利用して下さることが、われわれにとってなにより嬉しいことなのです。

参考書や辞典類はあまりに数多くあり、残念ながらここでいちいち触れることは不可能です。詳しくはスクーリングの担当者や卒業論文の指導教授などに聞いてください。また、コンピュータを使用できる方は、慶應義塾大学図書館のOPACシステムや文部科学省のNacsisのWebcat、あるいは国会図書館のサイトなどから検索機能を使って、自分の関心のある領域の所蔵データを得ることができます。しかし、基本はあくまでも上記の二冊のテキストとスクーリングにおける講義であるということを念頭においてください。数多くの参考書にあたることも大事ですが、それ以上にテキストを良く読んで、基本を知ることが重要なのです。

仏文学専攻

フランス文学を学ぶためには、まず「文学」（4単位）のテキスト科目で日本、中国、英米、独、仏という東西にわたる広い文学的展望を身につけてから、「フランス文学概説」（3単位）、「フランス文学史Ⅰ」（4単位）、「フランス文学史Ⅱ」（4単位）の各論に進むとよいでしょう*。一方で、個別の作品に積極的に触れることが重要であるのは言うまでもありません。翻訳書で十分ですので、できるだけ多くの作品を読み込んでください。

*2016年度より、従来の「十九世紀のフランス文学Ⅰ」「十九世紀のフランス文学Ⅱ」「二十世紀のフランス文学」が廃止され、同じ時代を一冊のテキストで扱う「フランス文学史Ⅱ」が新設されることになりました。また2017年度には、18世紀以前のフランス文学を対象とした「フランス文学史Ⅰ」も新設されました。

スクーリング科目は、テキストでは十分に扱うことのできない主題を中心に講義を進めます。こちらもおおいに活用してください。

フランス文学を理解するために、フランス語を習得し原書を読みこなすことが望ましいのは言うまでもありませんが、必須ではありません。時間が限られている場合は、むしろ翻訳書を活用して多くの作品に触れることをお勧めします。（もちろん、それと並行して、少なくとも初級レベルのフランス語を身につけることも推奨します。）

フランス文学をテーマにした卒業論文の執筆を希望する場合は、通信教育部事務局から卒業論文指導登録時に配布される『文学部の卒業論文指導に際しての諸注意』の該当箇所を参照してください。注意事項やスタッフ紹介、推薦図書などを記してあります。

なお、仏文学専攻では、卒業論文のテーマとしてフランスの歴史や文化、思想、フランス語学（フランス語を対象とした言語学）、などを選ぶこともできます。これらの分野に特化したテキスト科目とスクーリングは開講されていませんが、論文指導は可能です。

社会学専攻

社会学分野のテキスト科目は、総合教育科目3分野科目の「社会学」、文学部専門教育科目の「社会学史Ⅰ」「社会学史Ⅱ」「社会心理学」「教育社会学」「都市社会学」の6科目から成り立っています。社会学分野で卒業論文を書こうと思う学生のための履修モデルを掲げておくと次の通りです。まず3分野科目の「社会学」を学習して、社会学が対象とする領域の全体について全般的な知識を身につけたあと、専門教育科目の「社会学史Ⅰ」「社会学史Ⅱ」を履修して、社会学の諸理論について基礎的な知識を修得します（その場合「社会学史Ⅰ」は社会学史の全体を取り扱っており、「社会学史Ⅱ」は各論にあたるので、Ⅰを履修したあとにⅡを履修することが望まれます）。そのあと各自の関心にしたがって「社会心理学」「教育社会学」「都市社会学」のうちのいくつかに進むことが望ましいと思います。テキスト科目とスクーリング科目のあいだにはとくに関連づけはありませんが、積極的に社会学分野のスクーリング科目を履修してください。しかし、これはあくまでも履修のためのモデルとして理解していただきたいと思います。社会学は非常に幅の広い学問分野であり、さまざまな入口から入り、さまざまな出口に出ることが可能です。要は各自の問題関心次第です。自分の問題関心にしたがってさまざまな履修パターンを考えることが可能です。また社会学はそれだけで完結した閉ざされた分野ではありません。社会学の分野で研究をするためには、哲学や文学・歴史についての知識も必要となります。積極的に他の分野の科目も履修してほしいと思います。社会学は私たち自身の社会生活についての学問です。書物で学習するだけではなく、日頃から自分の身の回りで起こっていることをよく観察して問題関心を磨いておくことが重要となります。

社会学の辞典・事典を手元に置いて、わからない言葉が出てきたら、すぐに引いて確認をする習慣を身につけてほしいと思います。いくつか代表的な辞典・事典を以下に挙げておきます。

- ・濱嶋朗・竹内郁郎・石川晃弘編『新版・社会学小辞典』（有斐閣）
- ・森岡清美・塩原勉・本間康平編『新社会学辞典』（有斐閣）
- ・見田宗介・栗原彬・田中義久編『社会学事典』（弘文堂）
- ・日本社会心理学会編『社会心理学事典』（丸善）

心理学専攻

義塾の心理学研究室では、実験を中心とする実証科学的な方法に基づく、主として基礎的な心理学の研究・教育が行われている。通信教育課程においてもこのような実証科学的な心理学が講じられている。

通信教育課程で受講することのできる科目としては、まず、総合教育科目の「心理学（知覚・認知）」および「心理学（行動・個性）」の2科目が、毎年夏期にスクーリング科目として開講されている。これらの科

目は、広く心理学で扱っている問題を紹介し、それらに対するさまざまな科学的アプローチについて論じている。学生諸君にとっては、科学的な心理学で扱っている問題やそれらの研究方法はあまりなじみがないと思われるので、心理学分野の研究を志す諸君はぜひ履修してもらいたい。また、テキスト科目としては、総合教育科目の心理学は設置されていない。

専門教育科目に関しては、テキスト科目2科目が設置され、スクーリングでも毎年2科目が開講されている。テキスト科目の「心理学Ⅰ」は、「行動の科学としての心理学」という立場から、知覚、学習、感情の問題を論じている。このテキストを履修することによって、さまざまな専門用語があらわしている概念とそれら概念間の諸関係を理解することが求められる。履修者は、心理学関係の辞典や参考書を利用しながら確実に心理学的概念を習得することが望ましい。

テキスト科目の「心理学Ⅱ」は、「実験・測定・モデル」というサブタイトルが付けられているが、その名のとおり方法論に関する問題が論じられている。その意味で、この科目は心理学分野の研究を志す諸君にぜひ履修してもらいたいが、内容的には数式なども多く使われていて非常に手ごわい科目となっている。履修するものは、すべての数式を理解し覚えようなどとは思わずに、その「精神」、すなわち概略的な考え方を読み取る努力をするとよいであろう。

専門のスクーリング科目のテーマは、担当教員の専門に応じて多岐にわたっている。これらの科目は通常、他の専門教育科目（テキスト科目、および他のスクーリング科目）を履修済みであることを前提としていることはない。したがって、履修を希望するものは、好きな順序で好きな科目を何科目でも履修することができる。（ただし、同じ担当者が同じ科目名で開講する科目を除く。）学生諸君は、特に自分の興味に近そうなものは積極的に履修してほしい。

しかし、心理学的な考え方は、慣れない初学者にとっては難解なことが多いので、ぜひ総合教育科目を履修しておくことが望ましい。不可能な場合には、あらかじめ各自概論書などを読み、勉強しておくことが必要であると考えてほしい。

心理学は、学習を進めていく上で積み重ねを必要とする程度が高い領域である。したがって心理学関係で卒業論文を書くことを目指す諸君や、ある程度体系的に心理学の勉強をしたいという諸君は、次のような履修の仕方を目指するとよいであろう。

まず、先に述べたように、総合教育科目の心理学については、スクーリング科目を履修することを目指してほしい。また、心理学の科目ではないが、統計学の科目を最低1科目履修することをお勧めする。総合教育科目の「統計学」であってもかまわないが、心理学の卒業論文に取り組もうと考えている場合には、専門教育科目の「心理・教育統計学」を履修・修得することが必要条件であると考えてほしい。心理学では、統計学的な考え方は非常に多用されているので、実際に卒業論文のためにデータを集めて分析する、という人以外も、統計学を学んでおくと、心理学の理解は大きく助けられるであろう。

専門教育科目は、テキスト科目もスクーリング科目も、興味があるものを、履修できるときに、好きな順

序で、できるだけ多く履修するとよいであろう。卒業論文の指導を受けるためには、2科目以上の専門教育科目を修得していることを条件とする。ただし、先に述べたように、テキスト科目の「心理学Ⅱ」は非常に難解であるので、他の科目をいくつか履修した後にチャレンジしたほうがよいかもしれない。また、その他の科目に関しても、心理学関係の科目は比較的難解なものが多いので、専門科目を履修する前に、市販の入門的なテキストに目を通しておくとよいであろう。

心理学の領域は多岐にわたっており、同じ問題に対しても複数のアプローチが可能な場合も多い。漠然とでも、心理学関係の卒業論文のテーマを考えている人は、なるべく早い時期に、スクーリングや科目試験、あるいは、郵送による質問などの機会を利用して教員に相談してもらいたい。

〈通信教育部における心理学の学習について〉

- ・専門教育科目のスクーリングを受講する場合は、極力、総合教育科目の心理学を修得しておくこと。やむをえない場合は、それに相当する予習が必要である。また、統計学の科目を修得しておくことが望ましい。
- ・心理学の卒業論文の作成を希望する学生は、指導に入るまでに、専門教育科目の心理学を2科目以上、および「心理・教育統計学」（「統計学（A）」も可）を修得しておくこと。

教育学専攻

1. 教育学の学問体系および履修の順序について

文学部の教育学は、①教育哲学、②日本教育史、③教育心理学、④比較教育学の各分野をいわば四本柱としている。これを実際に設置されている専門教育科目と対応させるならば、「教育思想史」が①および④に、「教育史」が②および④に、「教育心理学」および「心理・教育統計学」が③に該当する。ただし、この四分野は、それぞれが全く別個の視座や方法に基づいて、成立しているわけではない。各分野とも、「教育」という視座を共有し、「教育」という営みの追究を目指して展開される学的営為であることにはかわりはない。この「教育」という視座をとりわけて問題とする分野のことを、私たちは教育基礎論と呼び、上記四分野の土台として最も重視する。設置科目としては、「教育学」がこの学に相当する。したがって、教育学関係科目の履修は、まずは「教育学」から開始し、その上で各分野の学習に向かうことが望まれる（各分野の順序は特に考慮するには及ばない）。またスクーリング科目として「教育学特殊」が設置されているので、そこでの特殊テーマに関する講義も勉学や研究の参考となるであろう。さらには、教職課程設置の諸科目も上記のものに関連しているので、履修してみるのも良い。

2. テキスト科目とスクーリング科目との関係について

上記のテキスト科目以外に、毎年二つのスクーリング科目（夏期一科目・夜間一科目）を開設している。スクーリングの二科目は、上記の①または②と③、もしくは①または④と③の組み合わせで開設されており、

いずれも上記の四分野の学習を補強することを目指している（ただし、科目名は担当者によって異なる）。したがって、スクーリング科目も、上記「教育学」履修後であれば、どのような順序で履修しても構わない。

3. 求められる学習態度、入門書、参考文献などについて

教育学はそれ自体がすでに学際的かつ総合的傾向をもつ学問分野である。それゆえに、学習者の側に「教育」という視座が確保されていなければ、その学営みは求心力を失い、拡散されてしまう恐れを常に孕んでいる。

この意味からも、教育学の学習にとって最も根本的な要件は、「教育とは何か」を絶えず問い続ける姿勢だといえる。村井実『教育学入門(L)(F)』（『村井実著作集』第1巻、小学館、1988年、所収）や、村井実『「善さ」の復興』（東洋館出版、1998年）などは私たちにその自覚を喚起してくれる書である。なお、これ以外の文献については、三田哲学会 HP 掲載の『哲学 別冊文献案内』（<http://www.flet.keio.ac.jp/~bibiken/mita-tetsu/10/>）を参照されたい。

経済学部専門教育科目

はじめに

経済学部通信教育課程において学ぶ諸君は、専門教育科目を履修して、所定の単位を修得しなければならない。これらの履修科目の中には、6科目の必修専門科目が含まれている。学則にも明示されている通り、それらの必修科目は、「経済原論」、「経済政策学」、「経済史」、「財政論」、「金融論」、そして「経営学」の6科目である。これらの必修科目は、経済学の様々な分野について学習を行う上で、最も基本的な基礎知識を与えてくれるものであり、

まず、何よりも先にしっかりとその内容を理解し、その知識や考え方を身につけたものとしなければならない。

さらに、専門教育科目は、第Ⅰ類から、第Ⅶ類にいたる、7つの分野から構成されている。この類の構成は、経済学および商学のさまざまな教科目の分野別メニューを表しているとともに、これらの分野の専門科目をバランス良く履修することによって、経済学全体についての理解を深めることが出来るようになるといえる。そこで、以下において、これらの類の分類に沿いながら、スクーリング開講科目を含め、開設科目の履修上の注意点ならびにガイドラインを示してみることにしたい。

A. 分野別履修要領

I 経済理論・計量経済に関係する科目

経済理論・計量経済の分野については、「経済原論（ミクロ経済学）(E)」、「経済原論（マクロ経済学）(E)」、「統計学（A）」が入門科目にあたり、それらの科目の参考文献が入門書に相当する。

経済理論

経済学は大まかに言って、ミクロ・マクロの体系からなる経済理論、統計的方法を用いる現状分析、および史料による歴史の実証を目指す経済史からなる。その中で経済理論は、ありとあらゆる経済学での応用分野にとっての不可欠な分析用具を提供するものであり、その基本的内容は世界基準として定型化されている。したがって経済学部で学ぶ学生は、まずミクロ・マクロ経済理論の基礎を十分に学習しておくことが望ましい。

ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎理論を扱う科目が「経済原論（ミクロ経済学）」、「経済原論（マクロ経済学）」である。これらは必修科目という位置づけからもわかるように、他の多くの経済学の科目に対する予備知識とされるべき科目である。マクロ経済学が国民総生産・失業率・物価水準といった経済全体の集計量を問題にするのに対し、ミクロ経済学は個々の経済主体（家計・企業など）の経済活動に焦点を当てる。「経済原論（マクロ経済学）」で学んだ知識をもとに、より進んだ形で国民所得の決定やその統御を目指すマクロ経済政策について学ぶのが「国民所得論」

である。同様に「経済原論（マクロ経済学）」での理論に基づいて、景気循環や経済成長といった国民所得の変動について学ぶのが「経済変動論」である。

経済理論は複雑な現実の経済現象に対して、一貫したものの見方を提供してくれる。そしてどんな応用分野にも適用される理論を学ぶためには、単なる暗記などではなく、しつこく自分の頭で考える姿勢が必要となることに注意してもらいたい。最後に、経済学および経済理論の広範な体系を初学者にとっても学びやすい形で解説している書物として、以下のものを挙げておく。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス『クルーグマン ミクロ経済学』・『クルーグマン マクロ経済学』大山他訳（東洋経済新報社）

計量経済学

計量経済学は、「経済原論（ミクロ経済学）(E)」、「経済原論（マクロ経済学）(E)」レベルの経済理論を用いて、現実の経済を「統計学（A）」を基礎としてデータを用いて分析する。

経済理論・計量経済に関する科目は、最初にやさしい理論、手法を学び、徐々に複雑な理論、手法を学んでいく。これは、現実の複雑な経済を分析するにあたって必要なステップであるので、読み飛ばすことなく各章を順番にしっかりと学習していくことが不可欠である。また、単に読んでいだけでは理解しているかどうかの点検ができない。必ず、各章を読み終わるまでにその章についての練習問題に挑戦し、理解の深さについてチェックする必要がある。

この分野の研究を志す学生は、常に現実の経済問題への応用を頭に入れておくことをお勧めする。新聞、

各経済雑誌を読みながら現実の経済問題を理論を用いて考える習慣をつけていくことが、問題発見、そして独自の論文を書くための出発点となる。また、政府機関が出版している各種白書、研究所が出版する報告書の多くに理論・計量的な分析が数多くあるので、関心のある経済問題については出来る限り読むようにして欲しい。

なお、これらの科目の履修にあたっての案内を、もっと詳しく知りたい人は、後述の『別冊三田会雑誌 スタディガイド』の、「第2章 マクロ経済学」、「第3章 ミクロ経済学」、そして、「第6章 統計学」の各章を読みたい。

II 経済史・学史・思想史に関係する科目

経済史

経済には歴史的に形成された現象が多々あり、それらのことは必ずしも理論的には理解できず、歴史的に分析してみる必要がある。経済学において経済史が重視されている理由はここにある。なお経済史は、経済学の一分野であるとともに、歴史学の一潮流を構成するものであり、履修にあたっては、経済学の基礎的知識とともに、歴史に生きる人間の社会的・文化的営為についても幅広い知識と洞察力が要求される。履修条件は特にないが、まずは必修科目である「経済史」をよく学習し、その後、西洋経済史および日本経済史の科目別履修要領にしたがって学習すること。経済史の学習においては、結果よりも学習の過程が重要である。

なお、詳しくは、『別冊三田学会雑誌 スタディガイド』の「第1章 経済史」の章を読みたい。

学史・思想史

通信教育課程には、テキスト及びスクーリングにより「経済学史」、「社会思想史」等の科目が設置されている。まず、これらの学問分野について簡単に説明したい。経済学は、堅固な学問体系を誇る科学ではあるが、その進歩が本質的なものであるかどうかは議論のあるところである。もし、過去における経済学のディシプリンが現代のそれよりも劣っているということが自明の理でないとするならば、経済学の過去をふりかえってみることに多様な意義が存することになる。このような立場から経済学の過去を扱うのが経済学史である。さらに、経済学という狭い枠を越えて、社会というもののすべての言説を歴史的観点から問題にしようとするのが、社会思想、社会思想史である。ここには、経済についての言説のみならず、法思想史、政治思想史、そして場合によってはその他の知の領域についての歴史的展開も含まれる。したがって、社会思想史のほうが経済学史よりも扱う範囲は広範なものである。

つぎにこれらの分野を学ぶ場合の準備について述べてみよう。まずは、受講者が現代の諸問題についての鋭い問題意識をもっていることが望まれる。問題は、さしあたり経済問題でもよいし、あるいは社会問題であつてもかまわない。さらに、各人がなんらかの意味での歴史的関心を有していることが要求される。現代

の問題はすべて過去に通じているからである。現代の問題を正確に理解するための一つの方法が歴史的な接近方法だといってもよいだろう。

最後に、それぞれの科目について前提とされることがらについてふれたい。上記の科目全般について歴史的素養が必要とされるから、経済史、あるいは歴史学の講義に接しておくことは良い準備となるだろう。これによって歴史的センスがみがかれるからである。さらに、経済学史については、経済理論の入門講義を聴講しておくことがよいだろう。また、社会思想史については、とりわけ社会と自己とのかわりについて自覚的に認識しておくことが必要である。日常茶飯におきている問題を実感としてだけではなく、整理した上で客観的にそして理論的にとらえることが望まれる。こうしたことすべてが、社会思想史研究への良いイントロダクションになる。

III 経済政策に関係する科目

経済政策分野には2つの主要な目的がある。第1は、個別の経済現象の理論的な意味を明らかにすることであり、第2は、そのような理解に基づき、貧困の解消、不公平の是正、物価の安定、経済発展等、具体的問題解決のための処方箋を立案することである。従って、まず、マクロ経済学やミクロ経済学等の基礎理論を十分に理解する必要がある。その一方で、新聞、白書類などを通じて現実経済の問題についての理解を深め、経済政策についての関心を高めておいて欲しい。

テキスト科目としては、「経済政策学」、「財政論」、「金融論」、「社会政策」が用意され、スクーリングでは、それらに加えて、「工業経済論」、「社会福祉論」、「公共経済学」などが開講されている。「経済原論」を深く学習した上でそれらに臨めば、一層充実したものになるであろう。

IV 日本経済・国際経済に関係する科目

この分野の専門科目には、「日本経済論」、「国際貿易論」、「経済発展論」など、経済学における応用の分野や現状分析の分野が含まれている。現実の経済を分析しようとするとき、理論や経済史、さらには政策の基礎が必要だが、それと同時に、具体的な経済現象についての個別的な知識や理論がなくてはならない。特に、現在、世界の経済は、グローバル化の進展の中で、極めて強い相互依存の体系に移行する過程の中にある。このような現実を理解しようとするとき、国際経済学や経済発展論の知識は欠くことが出来ない。スクーリング科目として「国際経済学」、「国際金融論」、「世界経済論」などが開講されている。

この類の科目の履修にあたっての履修条件は、先ず何よりも、先に述べられた、必修科目の理解を深めることにある。国際経済や経済発展の分野では、マクロとミクロの経済理論の知識を前提にして、さまざまなモデルや理論が展開される。また、具体的な経済を分析しようとするならば、歴史的な背景や、政策や制度

の基礎知識はどうしても必要となる。また、現実の経済を対象とするには、さまざまなデータを収集したり分析したりすることになる。そこでは統計学の知識が必要になることは言うまでもない。急がば回れ、先ず、経済学の基礎をしっかりと身につけることが、この分野における研究のためには不可欠となろう。

V 環境・社会に関係する科目

この分野の専門科目には、テキスト科目としては「地理学」、「人口論」、「都市社会学」、またスクーリング科目としては「経済地理」、「社会史」といった、経済現象や経済活動をより深く理解しようとする際に関連してくる隣接諸科学の学問分野が含まれている。途上国の抱える経済問題の中心には、人口や環境、そして都市や地域の問題がある。先進国においても、少子高齢化や女性の社会進出、環境問題や都市問題、地方の過疎化など社会問題はきわめて重要な問題といえる。これらをはじめとした、現代社会において看取される諸問題の現状や課題、背景、歴史的経緯、分析方法を学び、グローバルな視点から学習することが、この分野の共通したテーマである。また、経済活動の担い手である「人」にとりわけ注目し、社会を構成する様々な要素と人との関係を歴史的視点から学ぶことも、この分野の重要な課題の一つである。狭義の経済学だけでなく、人や社会に関わるこれらの科目を習得することが、社会科学を学ぶうえで必要な思考力を高め、視野を広げることにつながるであろう。

VI 商学関係の科目

この分野は、商学系統の学問分野であり、経営学、会計学、商業学の3つの分野から構成される。

【経営学】

経営学は、企業を対象としてその行動や構造を明らかにする学問である。企業は、現代経済の中心の主体として価値を創造し、財・サービスの供給や雇用機会の創出に寄与している。その際、もちろん、社会のルールにしたがわなければならない。さらに、情報通信技術の発展や経済のグローバル化といった劇的な環境変化によって、企業の経営にはかなり複雑な問題がつけつけられている。

経営学は、環境変化に直面している企業を「組織」としてとらえ、その仕組みを解明していく。この分野は、企業のどのような特徴に焦点を合わせるかによって分化している。したがって、企業の戦略、経営者の役割、組織の性質やデザイン、組織形態の進化と多様性、企業倫理、企業文化、そして企業間関係などの多様な問題を扱う。経営学は、ミクロ経済学とも深い関係をもっているが、独自の観点を併せもっており、事例研究や計量的手法なども適宜援用しながら、多面的な観点からの企業の理解が模索されている。

【会計学】

会計は、経済主体の活動を主に貨幣額によって記録・測定し、これを利害関係者に伝達する行為であって、利害関係者の意思決定に資することを目的として

行われる。会計学は、財務会計論と管理会計論の2つに大別される。財務会計論は、企業の資本および損益を測定し経営成績ならびに財政状態を明らかにして、これを企業の外部利害関係者に報告するための会計を研究領域とする。他方、管理会計論は、経営上の意思決定を行い経営活動の業績を評価する上で有用となる情報を、企業内部の管理者各層に提供するための会計を研究領域とする。これらに加え、会計情報の信頼性を確保するために行われる会計監査も会計分野の重要な研究領域となっている。

【商業学】

商業学は、ミクロ・マーケティング論とマクロ・マーケティング論に大別される。ミクロ・マーケティング論は、個別企業のマーケティング活動（具体的には、製品、価格、チャネル、プロモーション等に関する意思決定と管理）とそれに関連する消費者行動を、また、マクロ・マーケティング論は、それらが集計された概念として、社会的に構造化・制度化されたマーケティング・システム（例えば、日本の流通機構）を、それぞれ対象として扱う。いずれのタイプのマーケティング論であっても、それぞれの対象とそれを取り巻くマーケティング環境との相互作用に着目しながら、様々なマーケティング現象を客観的に記述・説明・予測・統制することを目標としている。

商学関係の専門教育科目としては、必修科目である「経営学」をはじめ10科目ほどがテキスト科目として設置されているほか、スクーリング科目として毎年3～4科目が開講されており、商学関係の科目を幅広く学ぶことができるようになっている。詳しい内容・学習方法については、それぞれの科目の科目別履修要領を熟読してもらいたい。なお、スクーリング科目は毎年同じ科目が開講されるわけではないので履修にあたっては十分注意して欲しい。

VII 法律に関係する科目

法律に関する科目の履修上のガイダンスは、法学部の履修要領を参照されたい。

B. 「別冊三田学会雑誌 スタディガイド」について

経済学部に通学課程では、基礎的な専門分野の履修について、学生の履修をガイドするために、多くの専門科目について、やさしくどのように学習をしていったらよいかを書きまとめた冊子がある。基礎的な専門科目の履修については、通学課程も通信教育課程も基本的には同じであり、この「スタディガイド」は、通信教育課程の学生諸君にも同じように役立つものと考えられる。

扱われている専門分野とは、経済史、マクロ経済学、ミクロ経済学、マルクス経済学、社会問題、統計学（計量経済学にもふれる）、環境経済学、経済思想の歴史、経済数学の分野である。これから経済学を勉強しようとする人々や、既に経済学の履修をはじめている人には、有効なガイドといえよう。

法律学分野

法学は、きわめて体系的な学問です。その全体が一つの体系になっているため、その体系に則り、最初は基本的な科目から学び、その基礎知識の上に成立する特別法を後から学ばなければ、本質的な理解には達し得ません。

法と呼ばれるものは、広く考えれば様々な社会の慣習等も含めた、当該社会のルールを意味します。しかし、現在「法律」と呼ばれるものは、憲法をその頂点とし、国会の議決を経て制定された国家の法を意味します。法学を大別すると、基礎法学と解釈学に分類できます。法が成り立つ基礎に遡ってそのあり方を模索するのが基礎法学ですが、それには歴史的側面から学ぶ「法制史」、思想的側面から学ぶ「法哲学」、あるいは諸外国の法制度から示唆を得る「外国法」が含まれます。これに対し、現行法の解釈・運用のあり方を条文・裁判例を通じて学ぶ分野は、広く法解釈学と呼ばれています。

法解釈学の対象である法律は、その頂点に「憲法」を置きます。法律科目を学ぶ最初は、法を学ぶ意義および法の全体像を知るための「法学（憲法を含む）」と、「憲法」を学ぶことから始めるべきなのです。法学は伝統的に、私法と公法の二つの系統で考えられてきました。私法領域とは私人間の法律関係（契約、民事責任、親族、相続など）を規定するもの、そして公法領域とは国家対国家・国家の行政主体・そして国家と私人の関係を規定する領域です。各々の領域は、その基本的部分から体系立てて学ぶ方が理解し易く、また早く効率的に習得できます。

私法領域を学ぶには、その全ての基本となる「民法」から学習すべきでしょう。法律は一般法と特別法という関係で捉えられます。全体的かつ基本となる原則を定める一般法に対して、より限定された対象にとって特に必要とされる特則を定めるのが特別法です。例を挙げれば、一般的に全ての私人の関係を規定する民法の中で契約等の概念は定められますが、これに対して商法は、特にその中でも企業の取引等を対象として特別な規定を定めています。基本原則は民法にあり、その構造が理解できていることを前提として、商法の議論はなされるのです。そのため、まず基本構造を理解した後に特別法を学ぶ方が、体系的に無理がなくかつ早く理解できます。また知的財産法も、基本的な財産法である民法の応用といつてよいでしょう。

同様に公法もまた体系的に学ぶべきです。ただし公法領域は、国家が私人の罪を律する「刑法」部門、国内の行政主体間及び国家と私人の関係を律する「行政法」部門、あるいは国際間の国家の関係を律する「国際法」部門等に分類されます。各部門は直列的ではなく、むしろ憲法を頂点としてその下に並列して存在しています。従って、どの分野を先に学ばなければならないという順位はありません。強いていうなら、初学者が比較的取り組みやすい領域は、おそらく「刑法」でしょう。窃盗や殺人のように我々の頭で実例が想像し易く、かつそこで求められるのは、被疑者・被告人となった者の人権をどう守るかという問題でもあり、憲法をそのままだに表現する部門といえるからです。

上記の二領域に加え、現代社会では第三の領域たる社会法のウェイトも増しています。社会法とは、私法の行き過ぎた形式的平等を是正するため、いわば社会的弱者に対し国家的視点から保護を加えるために形成された領域です。現代社会では、労働者と使用者との間を規律する「労働法」、企業間・国家間の公正競争を担保する「経済法」などがあげられます。この領域は、一方で私人間の契約等を基礎としつつ、他方その総合的コントロールを国家的視点から行うという意味で行政法学であるといえます。従って、社会法は公法と私法の双方にまたがる領域として、上述の体系が理解できた後に取りかかるべきです。

以上のような法の体系をふまえながら、計画的に学習することを、心がけていただきたいと思います。

法哲学部門

●法哲学という分野

基礎法学の中心科目の一つである法哲学は、個別の法分野を扱う実定法学の科目とは異なり、広く「法的なもの」「法一般」を対象としてその性格・本質・機能などについて哲学的・理論的に分析することを主な目的としている。その成果はしばしば、他の法律科目を学修する前提としての導入段階と、それらの履修を終えたのちに「では法とは何であったか」と振り返って考えるための最終段階において扱われてきた。本課程のカリキュラム上は主として後者を念頭に配置されているので、実定法学の科目をある程度履修し、法解釈や法的思考についての経験を得た上で履修することを勧める。

法一般について哲学的・理論的に分析することの主

な意義は、現に存在する「ある法」とは異なる「あるべき法」について考える点にある。たとえば、適切な法解釈を可能にするためには法がどのような性質を備えていなくてはならないか。法の目的は機会の平等に置かれるべきか、結果の平等を目指すべきか。あるいは、道徳的な理念を法によって強制することはどこまで・どのような理由で許されるのか。これらの問いに対しては、現実の法がどのようなになっているかという問題とは別に、どうあるのが正しいかという議論を立てることができる。だが逆に言えば法哲学の議論において実定法を十分な根拠とすることは許されない（それは「現存するが不正な法」かもしれない）、それ以外の論拠によって自説を正当化する必要がある。このため、法哲学を十分に理解し自分でも議論できるようになるためには、むしろ法律学以外の分野（哲学を中心とするがそれに限られない）に対する広い理解が必要になるだろう。履修にあたってもその点に注意し、

政治学・経済学なども含めた幅広い視野を得るように努めてほしい。

●入門書・概説書

テキストについてはこのたび全面書換を行なった。参考文献についても新しいテキストで詳細に説明してあるが、たとえば以下のような最近の教科書が参考になるだろう。瀧川・宇佐美・大屋『法哲学』（有斐閣、2014年）、深田・濱編『よくわかる法哲学・法思想〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2015年）。読んで面白いものとして、長尾龍一『法哲学入門』（講談社学術文庫、2007年）も勧める。

●参考文献・資料類

特に個々の思想家の見解については、哲学の文献を参照することが有用である。また、『岩波哲学・思想辞典』（岩波書店、1998年）なども併用するとよい。

憲法部門

憲法とは、国家統治の組織と作用の基本法で、その目的は、全ての国民の個人としての尊厳が確保された国家生活の実現である。そのために、全ての国民が、自由で、平等で、適正に扱われ、正当な待遇を受け、平和裏に、個性的に欲望を充足できる（つまり、「自分らしく生きられる」幸福な）状況を実現するために、権力の在り方を規制するものである。これを換言するならば、全ての国民の個性が解放されているながらも、同時に、全体として秩序が保たれた国家生活の実現である。

このような憲法は、最高法として、他の諸法を違憲審査の対象とするもので、そういう意味で、国家基本六法の中で唯一超然とした、いわば「独立王国」である。

また、どの国でも、憲法は、独立、敗戦、統合などといった大きな歴史的出来事に際して作られるものである。だから、憲法の学習に際しては、いわゆる法学概論に加えて、歴史、哲学等、広く人間に関する知識と洞察が不可欠になる。

1. テキスト（科目試験）とスクーリングの関係

テキストは、参考書を併用して、憲法の全体的かつ体系的な学習を期待するものである。他方、スクーリングは、時間の制約がある反面、学生が担当者に直接出会える機会でもあるので、むしろ、現代的で身近な憲法問題の解説を通していわゆる憲法感覚を伝えることを目的としている。

2. 憲法の学習方法

まず、自分で気に入った（つまり、読み易い）版の新しい参考書を書店で見つけて通読し、加えて、配本テキストで日本国憲法の基本構造を知り、さらに、スクーリングで新しい問題の意味を知れば、憲法の学習は完了する。その際、常に、専門的な単語（用語）の意味（定義）と原理（原則）の意味（条件）を確認しながら学習を進めることがコツである。

行政法部門

1. 「行政法」は、国や地方公共団体が登場するあらゆる法律関係を学習の対象に設定する。そのなかには、行政内部の話も出てくるし、行政と国民（私人）の関係において運転免許やパスポートの取得、公営による上下水道・病院・交通等のサービスの提供、飲食店営業や酒類販売、公益事業（電気・ガス・運輸・通信・放送等）への許認可など、学生諸君にとって身近な話も出てくる。守備範囲が広く、したがって「行政法」に関わる法律は数多くあるが、「行政法」という一般的かつ形式的な法典は存在しない。民事法、刑事法、訴訟手続法、社会法など、他の法分野も当然包含した上で、「行政法」と称するだけの特色を見極めることが「行政法」研究の最終ゴールに設定されている。このように行政法は、身近な存在でありながら、そのフィールドは途方もなく大きいものである。
2. 省庁再編、地方分権、規制緩和、情報公開、政策評価など、行政組織の在り方を含めた行政システム自体は変革し続けている。日々の報道にも、行政法の学習素材は無数に見つけることができる。単に教科書を丸暗記するといった学習ではなく、次々にあられる行政現象をどのように解けばよいか、頭の中でシミュレーションしてみるという学習が極めて有効になってくる。
3. 他の法律学科目として、憲法及び民法（総則・物権・債権）の学習がある程度終了していることが望ましい。また、行政法の基礎理論は、しばしば行政事件訴訟法等の訴訟手続法とセットになったものなので、民事訴訟法を学習することも望まれる。
4. 初学者はまず教科書から学習に入ることになるだろうが、既存の教科書は性質上、どうしても抽象的な記述が多くならざるを得ない。そのなかでも、初学者にとって読みやすく、学問的水準も保たれた教科書として、櫻井敬子・橋本博之『行政法』（弘文堂）、大橋洋一『行政法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）等を勧めたい。また、先述のとおり、できる限り裁判判決や日常的行政現象を念頭に置いて、論点を理解する工夫が望まれる。曾和俊文・金子正史『事例研究行政法』（日本評論社）、大貫裕之・土田伸也『行政法事案解析の作法』（日本評論社）、北村和夫・深澤龍一郎・飯島淳子・磯部哲『事例から行政法を考える』（有斐閣）等の事例問題集の活用を勧めたい。

刑法部門

1. 刑法学とは

刑法学とは、現行刑罰法規（とくに刑法典）を対象とする法解釈学の一部門です。刑法典は、第1編の「総則」と第2編の「罪」という2つの部分によって構成されています。総則とは、あらゆる犯罪に共通するものをまとめて一般的に扱った部分のことをいいます。たとえば、故意は、傷害罪であれ、文書偽造罪であれ、すべての犯罪に共通して問題となります。そこで、刑法は、総則の38条において、

故意について一般的に規定しています。個別の犯罪について規定した刑罰法規は、刑法典の第2編「罪」以外にも数多く存在しますが、刑法典の総則は、特別刑法の処罰規定にも適用されるのが原則です（刑法8条）。

2. 刑法総論と刑法各論

総則と各則の区別に対応して、刑法学は、総論と各論とに分かれます。この両方を勉強しなければ、刑法をきちんと学んだことにはなりません。各論は個別の犯罪（たとえば、殺人罪、強盗罪、放火罪…）を規定した刑罰法規の解釈論を内容としています。これに対し、総論は、犯罪と刑罰の基礎理論や犯罪一般に共通する成立要件をめぐる議論などを対象とします。各論の勉強は、「障害物競走」のようなもので、個々の論点をじっくり学んでいけばいつかマスターできますが、総論の勉強はまるで「棒高とび」で、総論特有の体系的な思考を身につけないかぎり、「ものにする」ことはできないという難しさがあります。

3. 刑法学の学び方

総論と各論の勉強方法については、どちらから先に学びはじめなければならないという決まりはありません。各論の方が具体的で理解しやすいと感じる人も少なくないでしょうし、総論の議論がわかっていないと各論も理解できないと考える人も多いでしょう。お勧めしたいのは、まずは平易な入門書を読んで、刑法学の全体を概観した後、総論または各論を詳しく勉強するという学習方法です。たとえば、最初に読むのに適した本として、井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第6版〕』（有斐閣、2017年）があります。また、刑法総論・各論の入門書として、それぞれ、井田良『入門刑法学・総論』（有斐閣、2013年）、同『入門刑法学・各論』（有斐閣、2013年）があります。これらを通読した上で、指定テキストに取り組むのが良いでしょう。

法律学のどの分野も独学には困難が伴いますが、特に刑法学は概念が複雑でテキストのみによる学習ではなかなか成果が上らない場合も多いと思います。仲間とゼミを組んで議論することが効果的だと思いますが、スクーリングを活用して教員の言葉に耳を傾け、また難しい論点については勇気を奮って質問に行くことをお勧めします。

刑事訴訟法部門

刑事訴訟法は、実体法である刑法を具体的に実現する手続法です。民法や刑法のような実体法は、抽象的に権利・義務や国家刑罰権を定めていますが、その実現のためには手続法を定めておかねばなりません。そこで、民事について民事訴訟法、刑事について刑事訴訟法があります。

民事訴訟法は、私的紛争を法的に解決するための手続法ですが、刑事訴訟法は、国家刑罰権の実現のための手続法です。

刑事訴訟法では、刑法が実現される過程を学ぶので、刑法の知識を前提とします。

刑事訴訟法を学ぶにあたっては、訴訟手続全体につ

いての考察が必要です。訴訟手続のそれぞれの段階での事象は、相互に密接に関連しています。手続の発展的・有機的関連を全体的に考察することが重要です。

法律を学ぶにあたっては、法律概念を正確に理解してください。ことに刑事訴訟法は、個人の権利を大きく制約することがあるので、その概念があいまいでは基本的人権の保障はおぼつかないことになってしまいます。

刑事訴訟法ではテキスト科目もスクーリング科目も基本的に同じです。

法律を勉強するに際しては、かならず条文にあたってください。いわゆる「六法」は常に手元に置いておく必要があります。ただ、刑事訴訟法の場合、構成が総則・各則となっていて、実際の手続の流れに沿っていませんから、条文をひくのがややめんどろと感ずる人がいるかもしれません。

刑事訴訟法では具体的な事件の解決に関心を持ちます。したがって、判例集も重要な資料ですから、図書館などで参照してください。なお、いわゆる判例解説は、解説者の視点がいっていますから、判例集に直接あたって読むことが大切です。

最後に、刑事訴訟法の入門書として、亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』（信山社、2016年）をあげておきます。

その他、刑事訴訟法を学ぶ上では、裁判傍聴も欠かせません。近くの裁判所にいって刑事裁判を傍聴してみてください。

刑事政策学部門

刑事政策学は、犯罪の少ない安全な社会を創るための政策や制度のあり方を研究する学問です。具体的には、犯罪者に対しどのような刑罰や処分を設けるべきかという刑事制裁論と、犯罪者に対する刑罰や処分を執行する過程でどのような処遇や教育を行うべきかという犯罪者処遇論が中心となりますが、どのようにすれば犯罪や非行を未然に防ぐことができるかという犯罪予防論も重要です。犯罪被害を受けた被害者の立ち直りに向けてどのように支援するのがよいかを検討する被害者学（被害者支援論）も欠くことのできない分野となっています。

いずれも犯罪（被害）の現状や制度の運用状況を踏まえたうえで政策や制度のあり方を検討する必要があります。ため、テキストだけでなく、各種の犯罪統計や白書を必ず参照するようにしてください。犯罪白書は、1次統計をわかりやすくまとめ、図表化したもので、これを常に参照しつつ、必要に応じて、元の統計（警察庁平成～年の犯罪、検察統計年報、司法統計年報、矯正統計年報Ⅰ・Ⅱ、保護統計年報など）にも当たってください。犯罪白書は、毎年、特集の部分があり、法務総合研究所が行った調査結果など貴重なデータが得られます。また犯罪白書以外にも、警察白書、青少年白書、高齢社会白書、男女共同参画白書、犯罪被害者白書なども大変参考になります。

また、勉強にあたっては、テキストである安部哲夫＝守山正編著『ビギナーズ刑事政策』（第3版）（成文堂、2017年）をしっかりと読むことから始める必要

がありますが、テキストはレポート作成の上での単なる出発点にしか過ぎませんから、テキストを読むだけで終わってはいけません。テキストを読んだ上で、テキストに掲載されている参考文献や論文は勿論、更にそれらの中に示されている参考文献や論文といった具合に、当該問題に関する参考文献や論文を幅広く集め、読み込む必要があります。特に、刑事政策のような政策学は、犯罪情勢の変化や新しい立法などで常に変化していますので、図書館の文献目録やデータベース(CiNii 国立国会図書館蔵書検索など)を利用して、該当分野の新しい論文に必ず触れるようにしてください。関係論文が数多く掲載される雑誌や報告書の一覧(一般の法律雑誌を除く)を下に掲げておきます。

従って、レポートや科目試験は、テキスト以外の資料や文献にきちんと当たっていることが最低条件となります。テキストをまとめてあるだけのレポートは、何回提出されても合格にはなりません。数多くの参考文献に当たり、何が論点かを見極め、それについて洞察を加えることがレポートの課題です。ましてや、インターネットに掲載されている情報をコピーしてペーストして切り貼りしたようなレポートは添削の対象にはなりません。悪質なものは不正行為として処分の対象になりますので、くれぐれも注意してください。学問に近道はありません。時間をかけ、こつこつ地道に取り組んでください。

なお、刑事政策学に属するテーマで卒論を書くことを希望する場合、刑事政策学のレポートとテキスト科目試験の両方に合格していることが条件となりますので、注意してください。

また、テキストは、現在、第2版のものが流通していますが、2017年7月に第3版が刊行されました。第2版刊行後、日本でも新たな制度や立法が実現していますので、テキストを未購入の者は、第3版の方を購入し、既に第2版を購入済みの者でも図書館などで第3版の内容を確認しておくことを勧めます。

参考雑誌・報告書一覧(法律主要雑誌は除く)

- ・警察 警察学論集、警察公論、警察時報、科学警察研究所研究部報告(防犯少年編)
- ・法務省・検察 罪と罰、研修、法律のひろば、法務省法務総合研究所研究部報告
- ・裁判所 法曹時報、家庭裁判月報(廃刊)、家裁調査官研究紀要(旧・調研紀要)
- ・矯正 刑政
- ・保護 更生保護学研究(「更生保護と犯罪予防」の事実上の後継雑誌)、更生保護
- ・その他 犯罪と非行、刑事法ジャーナル
- ・学会誌 刑法雑誌、犯罪社会学研究、犯罪心理学研究、矯正教育研究、被害者学研究犯罪学雑誌、警察政策、更生保護学研究

民法部門

1) 民法とは、その一 ～実質的民法と形式的民法～

民法とは、私法関係(←→公法関係)を規律する原則的な法(＝一般法)を、意味しています。個人と個人、会社と個人など、私達の私的法律関係を規律する、

その法ルール、それが民法なのです。これが実質的にみた場合の民法の定義です。民法は、人が生まれてから死ぬまでの一生の活動にかかわる法律です。

他方、民法を形式的にみた場合には、皆さん方がもっている六法全書(ポケット六法や基本六法と呼ばれる市販の本)に掲載されている「民法典」と称される法典、それが民法に他なりません。それが形式的意義における民法です。

2) 民法とは、その二 ～一般私法～

私達は国家(日本国)という社会形態を組織し、その中で社会生活を営んでいます。としますと、国家と私達との関係、換言すると私達の国民としての生活関係、これを「公法関係」といいますが、これを規律する法ルールが、「公法」と呼ばれるものです。

これに対して、国家とは直接的には関係することなく、私達相互の生活関係、これを「私法関係」といいますが、これを規律する法ルールが「私法」と呼ばれるものです。

私法と公法との区別を前提としますと、民法は私法に属し、その一つであり、その原則的なものです。この点から、民法は私法分野の基本法と呼ばれています。そしてここから、商法、会社法、消費者契約法、など、たくさんの私法の特別法が作られているのです。

3) 日本民法典の編成は ～五つの編～

先に述べてきたように、私達相互の私的法律関係を規律し、六法全書にのっている民法典、これが民法に他なりません。この民法典は、その編成として、次の五編より成っています。①第1編・総則、②第2編・物権、③第3編・債権、④第4編・親族、⑤第5編・相続、の五つです。通信教育課程における民法の学科目やテキストもまた、原則的には、この五つの編に即して、設置され配本されているのです。

4) 各編の内容は ～財産法(前三編)と家族法(後二編)～

民法典は総計1000条を越える大部のものです。各編毎にその内容を把握しておけば、それ程、とりつきにくいものでもありません。

①まず、総則編は、民法(主として財産法)における通則を定めています。ここでの学習が、民法を理解するための、土台であり基盤となります。まず、第1歩の作業です。平野裕之「コア・テキスト 民法Ⅰ 民法総則 第2版」(新世社、2017年)を参照してください。

②次に、物権編は、物を直接的に支配しうる権利として、所有権を中心として、各種の物権(占有権・地上権・永小作権・地役権・入会権)を定めています。その前半部分の「ヤマ場」は物権変動論です。その後半部分の担保物権(留置権・先取特権・質権・抵当権)についての諸規定に関しては、近時、学問的にも実務的にも、極めて大事なものとなってきています。石田・田高・占部ほか『民法Ⅱ物権 リーガルクエスト』(有斐閣、2010年)を参照してください。

③さらに、債権編には、その内容上二つに分かれ、債権一般に関する総則、そして各個の債権発生原因についての特則、を定めるものです。前者は債権法総論、後者は債権法各論、と呼ばれています。池田真朗『スタートライン債権法〔第5版〕』(日本評論社、2010年)を参照してください。

④また、親族編は、家族関係としての婚姻・親子・後見の扶養について、定めています。

⑤最後に、相続編は、人の死亡をきっかけとして生ずる財産関係、つまり財産の承継たる相続や遺言について、定めています。④⑤については、大伏由子＝石井美智子＝常岡史子＝松尾知子『親族・相続法〔第2版〕』（弘文堂、2016年）を参照してください。

以上、民法は五つの編より成り、前三編は財産法であり、後二編は家族法である、ということが出来ます。

5) 学習の基本姿勢は——読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと——

民法の学習に限りませんが、まずテキストを読むことです。また、スクーリングで講義を聞くことも、大事です。耳から聴いて、理解するのです。レポート作成も、そして報告したり、相互に議論することも、肝要です。慶友会の仲間とゼミを組んで、議論しながら勉強するのも大変有益です。さらにひとこと加えれば、民法の学習には、日頃から相手の立場に立って物事を考える習慣をつけることが有益です。

商法部門

商法分野からは、「商法総則・商行為法」、「会社法」、「保険法・海商法」、「手形法」が専門教育科目として設置されている。これらは実質的意義における商法の重要分野である。

商法は、その内容から企業法と言い換えることができ、企業組織法と企業取引法とで構成される。企業組織法の最重要分野が会社法（会社法という名称の単独の法律が編纂されている）である。もっとも、会社は数ある企業組織の1つに過ぎず、個人企業が代表する他の企業組織については商法総則（商法典の第1編に該当し、商法分野全体の総論もその範囲に含まれる）が規整している。会社法と商法総則は平成17年に大きく改正されている（会社法は平成26年にも大幅に改正されており、さらに次の改正作業が進行中である）。企業取引の通則および各種営業について定めるのが商行為法（商法典の第2編に該当する。平成29年5月に改正された）である。特殊な営業である保険業の組織と取引を対象とするのが保険法である（保険法および保険業法という名称の法律が制定されており、平成20年に大改正されている）。海商法は、海上企業組織と海上企業取引についての特別法である（商法第3編および国際海上物品運送法が中心となる。平成28年10月、国会に改正法案が提出され、審議中である）。手形法（手形法および小切手法という名称の法律が制定されている）は、企業の決済手段の1つである。なお、手形法・小切手法についても改正作業が進められている（なお、平成29年5月改正民法第3編第1章第7節に有価証券の通則が定められている）。

経済社会の仕組みを理解するには商法の勉強が必須だといえよう。特に、会社法は重要である。一方で、商法は、企業組織および企業取引についての法分野であるから、専門性・技術性が強く、保険法、海商法そして手形法についてはその傾向が顕著である。したがって、商法科目を履修するにあたっては、まず会社法および商法総則・商行為法から始めるとよいであろう。

そして、この両科目についても同様であるが、保険法・海商法および手形法については、民法総論、債権総論および債権各論を履修した後で勉強を始めると効率的である（左記民法の各分野は、平成29年5月に改正されたことに注意）。

商法は企業法であるから、経済社会の進展とともに頻繁に改正される。したがって、最新の実務動向に注意していると、商法の面白さが倍増するであろう。そして、商法分野の勉強には最新の文献・資料を用いなければならない。特に、法改正前の文献・資料に基づいてレポートを作成することがないように気をつけて欲しい。

民事訴訟法学部門

1. 民事訴訟法学の領域

(a) 狭義の民事訴訟と広義の民事訴訟

民事訴訟は民事紛争を法律に従って解決するための制度であり、その方法は、原告の法的な主張（例えば自己が権利者であるとの主張）が正しいか否かを、原告の主張とそれに対する被告の反論を聞き、両者の言い分が食い違っている点は証拠調べを行い、裁判所が判断するというものである。裁判所の判断は判決によってなされるから、民事訴訟は判決手続とも呼ばれる。判決手続以外に民事紛争の解決のための裁判手続としては、強制執行手続、民事保全手続、倒産処理手続などがある。

ところで強制執行手続と民事保全手続は、かつては民事訴訟法典に規定されていた。そこで、これらも民事訴訟といわれることがある（広義の民事訴訟）。また、判決手続に関する特別手続として、督促手続、手形・小切手訴訟、少額訴訟、人事訴訟、行政訴訟などがある。督促手続、手形・小切手訴訟、少額訴訟は民事訴訟法が規定しており、「民事訴訟法」のテキストにおいて説明がなされている。人事訴訟は人事訴訟法、行政訴訟は行政事件訴訟法が規定している。なお民事訴訟法が広義の民事訴訟手続を規定していないことから、一般に民事訴訟というときは狭義の意味で使用されている。

(b) 判決手続以外の紛争解決のための手続

強制執行手続は、債務名義といわれる給付請求権の存在を公証する文書（確定判決が代表的な債務名義）に基づいて、執行機関が請求権の実現を図る手続である。民事執行法が規定している。民事保全手続は、判決手続や強制執行は時間がかかるので、それらを補完するための手続であり、強制執行の実効性を確保するために、暫定的措置（仮差押え、仮処分）を行う手続である。民事保全法が規定している。倒産手続は債務者に対して複数の権利が競合しかつ債務者の財産が不足していて、それらを満足させることができない場合、総債権者が公平な満足を得るための手続である。倒産手続には債務者の財産を清算して各債権者に分配する手続と、債務を棚上げして債務者の更生を考える手続がある。前者は清算型といわれ、破産法、商法の特別清算手続が規定している。後者は再建型といわれ、会社更生法、民事再生法が規定している。

2. 本部門の履修の順序と基本的な学習態度

判決手続（狭義の民事訴訟）の原理や原則は、あらゆる民事の訴訟法や手続法の基礎や根幹に影響を与えているので、判決手続以外の民事訴訟法学（広義の民事訴訟手続）の領域のいずれを学ぶにしても、まず判決手続を勉強することが必要である。そして、次に、それ以外の紛争解決のための手続や判決手続に関する特別訴訟手続を勉強するのがよい。すなわち、判決手続を規定している民事訴訟法をしっかり勉強して、この部門の特有の原理や基礎理論を修得し、手続的正義や手続保障というものについて具体的に理解することが重要である。

通信教育として開講されている科目名でいえば、まず「民事訴訟法」、次に「破産法」という順番になる。すなわち、テキスト科目としては、判決手続については「民事訴訟法」、倒産手続のうちの破産手続に関しては「破産法」という名称で、開講されている。スクーリングの科目も同様で、例年、この2科目が開講されている。なお強制執行手続と民事保全手続については、現在は開講されていない。

なお、勉強に際しては、法の改正に注意しなければならない。司法制度改革に伴い、民事訴訟法や関連する法律の改正は多い。このような状況であるから、勉強に際しては常に最新の六法を参照しなければならない。また参考書を利用する場合は、できる限り最新の法改正を織り込んでいるものを利用すべきである。もっとも、理論的な問題や法の改正に影響されない問題であれば、改正を記述していない参考書でも利用できるから、法の改正によって従前の参考書が価値がなくなるというものではない。

3. 本部門の参考書

開講されている「民事訴訟法」と「破産法」の勉強方法や参考書については、それぞれの講義要綱やレポート課題集の参考文献欄を参照すること。他の手続の場合は、手続を規定している法律名を表題とする本が参考書になる。すなわち、民事執行法、民事保全法、破産法、会社更生法、民事再生法等を題名にしている本である。ただし倒産手続に関しては、個々の法律名だけでなく、それらを統合した「倒産法」という本も出版されている。

本部門を最初に概観したい場合には、中野貞一郎『民事裁判入門 [第3版補訂版]』（有斐閣・2012年）、上原敏夫ほか『民事訴訟法 [第7版]』（有斐閣Sシリーズ）（有斐閣・2017年）などが、手頃な入門書である。「民事訴訟法」をもう少し本格的に学習する場合は、三木浩一ほか『民事訴訟法 [第2版]』（クエストシリーズ）（有斐閣・2015年）（2018年7月に第3版出版予定）を推薦する。

4. その他

民事訴訟法学者は一般に判決手続と関連手続を研究領域（守備範囲）にしている。日本民事訴訟法学会は毎年3月末に「民事訴訟雑誌」を刊行しているが、そこには判決手続（狭義の民事訴訟）に限らず、本部門（広義の民事訴訟）に関する最新の研究が発表されている。

社会法(労働法・経済法)部門

社会法という領域は、それまでの公法・私法という二分法からすれば、その双方の法領域にまたがる、第三の領域である。

社会法は、19世紀という資本主義社会草創期においてその必要が生じ、創造された。19世紀前半の社会理念は、私人の自由と平等を重んじ、その権利の絶対性を尊重するあまり、私人間の契約に係る領域には国家は介入しないことを是とした。私人間の自由意思による契約は絶対であり、独立した私人が自ら決定したことは、そのまま尊重されることがより良い社会の形成につながると考えられたのである。しかし、法的主体間に存する事実上のアンバランスを無視した形式的平等主義は、結果として社会の貧富あるいは強者と弱者の間の不平等をかえって助長する結果となった。

19世紀後半になると、これらの社会的矛盾を是正するためには、私人間の契約に係る領域であっても、場合によっては国家的見地から政府が介入し、社会のバランスを改善する事が求められるようになる。そのためのルールを確定する、一種の政策的法領域が社会法と今日呼ばれている領域である。

この領域には、使用者と労働者という雇用に係る個人間のあるべきバランスを求める「労働法」、あるいは経済主体としての企業間もしくは国家間の取引に係る領域における・自由競争を確保しようとする「経済法」、個人の幸福追求を国家が如何に支援するかを政策的に遂行する「社会保障法」などが、含まれる。

この領域を学ぶには、まずその前提として契約とは何かを理解できていなければならない。労働契約にしても、商取引にしても、その基本は契約である。従って民法の学習は全ての基本であろう。しかし同時に、この領域は前述したとおり、一方で私人間の契約を対象としながら、場合によってはその契約を国家的見地から取り締まり、あるいは国家的見地からの給付に関する法体系である。だからこそ、憲法・行政法に関する知識が不可欠である。

このように、社会法を学ぶには、私法・公法にまたがる双方の理解が必要である。従って、この領域はむしろ基礎的・一般的法律科目を履修した後に学ぶべき、特別法の領域であることを自覚して欲しい。基礎がなければ、それらの修正原理としての「社会法」を学ぶことは困難である。更に、具体的紛争は民事訴訟として生ずることもあれば、事案によっては行政訴訟の形をとって提起される場合もある。将来この分野で卒論を書く者は、卒論指導にはいる前に、それら訴訟法に関する学習も同時にしておくべきであろう。

国際法部門

国際法とは

国際法とは、伝統的概念にしたがえば、国家を構成単位とする国際社会に妥当する法規範のことです。

国際法もまた法規範であるゆえ、憲法をはじめとする国内法諸分野と多くの特徴を共有しています。しかし、両者の間には、それらが妥当し、また逆にそれら

を支える社会構造の相違に由来する決定的な相異点が存在しています。それは、立法府、行政府、司法府といった通常の近代的国内社会において法の諸々の作用を担う機関（特に、警察・検察や裁判所といった典型的な法の執行・強制機関）が、国際社会には存在しないという点です。そのため、国際法には、法の本質とも考えられる強制力が欠如しているものとみなされがちです。そこからさらに、「国際法は法か」という問いがしばしば発せられることとなります。

国際社会のこのような構造は、その構成単位である各国家が最高・絶対とされる主権を有し、それゆえにすべての国家は平等であり、上位者を認めないという法的擬制によって規定され、国際法理論もそれを前提として提示されてきました。国家と国家の関係ということで公法の一分野であるはずの国際法ですが、平等な法的地位にある諸国家間の関係が私法上の私人間関係に類似したものと観念されたため、近代国際法に関する学説及び実行は古代ローマ法に由来する私法理論に大幅に依拠することによって形成されました。しかし、20世紀（特に、第一次世界大戦後）に明白となる国際社会の構造変化によって、従来の国際法理論では理解され得ない事象が数多く生じています。

国際法の学び方

以上のような基本構造と歴史的背景を有する国際法の学習と理解のためには、法学の基礎理論（法解釈学のみならず、法哲学及び法史学を含む）、私法と公法に関する多面的な知識が必要とされることとなります。そしてそれらの知識をもとに次のように国際法の学習を進めればよいでしょう。

まず、テキスト〔大森他『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、第2版、2014年）等〕によって国際法学の概要を把握し、次に専門的概説書によって体系的理解の獲得を目指すことをすすめます。さらに興味があれば、特定の分野や事項に関する個別の専門文献（単行書・雑誌論文）へと進めばよいでしょう。なお、教科書や文献の理解を深めるために、それらの中で引用されている条約や判例については資料集（条約集・判例集）〔位田他編『コンサイス条約集』（三省堂、第2版、2015年）等〕を参照することも重要です。

外国法部門

なぜ、外国法を学ぶか

外国法を学ぶ目的は、二つある。一つは、法の本質を問うためであり、もう一つは、現実の国際関係に役立てる為である。後者の目的の理由は明瞭である。友好的で、効率のよい国際関係を築くには、どんなレベルであっても、相手方の制度、機構、文化を理解することは基本的な必要条件であるからだ。この目的の為には、様々の国家の法を知ることが必要になってくる。しかし、法律学の研究において、特に重点が置かれているのは、フランス法及び、ドイツ法、そして英米法である。その理由は、第一の目的と深く関係してくる。

そして、慶應義塾のカリキュラムにおいて、外国法は、基礎法という分野に属するものとして、扱われている。そもそも、基礎法とは、法哲学のように法の本

質を考えるための学問であり、また、憲法のように、国家及び、ある国の法制度及び理念の基礎を決定する法分野である。ではなぜ、外国法は基礎法に分類されるのだろうか。外国法を学ぶことによって何が見えてくるのであろうか。

日本の法律は、その後、独自の発展を遂げたとはいえ、近代の初期に、ヨーロッパに成立していた法及び、法哲学を基礎に、制定された。それゆえ、現代においても、その理念を理解し、それが、新しい時代においても、その普遍の理念がどのように生かされるべきかを考える為には、日本法の母法たるドイツ法、フランス法を知ることには大変有意義だと考えられる。これらの国家の法や、その理論を学ぶことにより、直接に日本法に利用し、その内容を充実させることができる。

では、英米法についてはどうであろうか。周知のごとく、英米法は、大陸法とは異なった理念によって、動いている。その特徴は、慣習をもとにした判例法であり、また、陪審制度など、独特の訴訟手続きを持っている。現実的な理由以外、この様に、異なった法制度を研究する理由は、どこにあるのだろうか。それは、法に対する異なったアプローチを学ぶことが、法の理解を深め、充実させるところにある。なぜ、法が存在するか、法の本質は、法はいかにあるべきか、これらの問いは、法を学ぶ者が、それにどっぷり浸かっている体制を学ぶだけでは、見えてこない場合が多い。異なる視点、異なるスタンスから、ものを考えることから、その本質や問題点が見えてくる場合が多いのである。外国法を学ぶということは、この、異なった視点を得ることだと言える。

部門共通—判例の読み方

現代の法律学では、より現実の紛争解決に近づくことのできる、リアリティのある学習が求められています。そのために、従来のいわゆる理論的な教科書だけでは足りず、実際の紛争とその解決策を示す「判例」の学習が重要になります。これは、憲法、行政法、刑法、民法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法、社会法等の各部門に共通の要請であるといえます。

判例の検索方法や読み方・学び方、そして法律学における判例の機能などを解説した総合的な判例学習書としては、池田真朗編著『判例学習のAtoZ』（有斐閣、2010年）があります。また、最近の類書として、田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&リポート』（有斐閣、2016年）があります。レポートおよび卒業論文作成のために必要な判例検索のノウハウは、上記書籍で十分に知ることができますが、万が一、不足がある場合には、法学関係の資料の検索方法を網羅的に紹介した、いしかわまりこほか『リーガル・リサーチ』（日本評論社、第5版、2016年）を参照してください。

判例学習の方法は、場面によって分けて考えることが必要です。

まず、普段の学習の際に、テキストで引用されている判例を参照し、理解を深めるための道具としては、市販の判例教材が役立ちます。たとえば、有斐閣の『判例百選』、信山社の『判例プラクティス』、日本評論社の『新・判例ハンドブック』の各シリーズは定評

があります。これらは解説のついた教材ですが、事件の事実関係と判示内容の紹介に特化した教材もあります。レポート課題が法制度や判例・学説の批評を内容とする科目の場合、解説付きの教材を用いて論点についての理論的な理解を深めることが有効でしょう。他方、事例問題をレポート課題とする科目の場合、多数の判例を収録し、事実関係と判示内容を詳しく紹介している教材を使用した方が、課題の趣旨の理解の助けになるかもしれません。

これに対し、レポートや卒業論文の作成の際に判例を参照する場合には、判例の出典そのものにあたり、原文を読む必要があります。その理由は、上で紹介したような判例教材における「事案の概要」や「判決要旨／決定要旨」は、執筆者の手により要約されたものであり、誤りが含まれている可能性が否定できないからです。自分の目で原文を読み、内容を確認したうえで、レポート・卒論に引用してください（なお、他人の要約を借用する行為は、「孫引き」として許されない行為とされており、場合によっては不正行為として扱われます）。

判例の原文を読むといっても、複数の当事者が登場する複雑な事件の場合、事実関係を理解するだけでも容易ではありません。特に民事判例にそのような傾向がみられますので、以下では、参考までに、前掲『判例学習のA to Z』の「序説」に沿って、判例の読み方のコツを説明します。

- ① まず、判例（事実、判旨）を読むときには、必ず紙と鉛筆を用意してください。最初にすべき作業は、事実関係の把握・整理です。事実関係を読む際には、文章を、鉛筆で適宜区切りながら読んでください。最初に判旨を読んではいけません。
- ② 登場人物が多数ある事案、当事者の主張が多岐にわたる事案については、必ず関係図を描いてください。
- ③ さらに、取引関係がいくつか重なっているケースでは、それらを時系列で整理してみる必要があります。時の流れを示す直線の上に、日付を入れた出来事メモを順番に書き込んで行きます。これだけの準備作業を行ったうえで、
- ④ 原告が何を求めてどんな訴えを提起したのか、適用条文は何かを確認してください（この段階では、まだ判旨を読んではいけません）。適用条文は何法の何条なのかを想像し、その条文にあたって、規定内容を確認し、その条文では何が足りないのか、どんなことを足さないとこの紛争が解決しないのかを考えることが重要です。そして最後に、
- ⑤ 判旨を読んでください。

かなり面倒な作業に思えるかもしれませんが、法学というのは、実社会で日々生起する法的紛争を解決するためのものだという原点を思い出して、粘り強く学習してください。

政治学分野

本塾の政治学教育にかかる科目は、大別して、政治思想論、政治・社会論、日本政治論、地域研究・比較政治論、国際政治論、という5部門に分かれています。ただ、これら5部門は相互に関連しており、バランスよく履修することが、政治学ないしは政治という現象を正しく理解するために必要となります。内容をごく簡潔に要約すれば以下の通りです。政治思想論は古今東西の政治理論ないし政治思想の理解を深めるための科目です。政治・社会論は経験的もしくは科学的と呼ばれる政治理論、および社会学や行政学・法学・経済学などの視点から政治現象の解明を目指す科目です。日本政治論は日本社会における政治の仕組みや思惟を過去から現代にかけて解明する科目です。地域研究・比較政治論は世界各地における政治制度や政治の動態を北米・南米・ロシア・中東・アフリカ・中国・東南アジアなどの地域ごとに個別に解明したり、比較論的視座から分析したりする科目です。国際政治論は日本を含む諸国家ないし諸機関どうしの相互作用を全体としてとらえ、世界的視野から平和と紛争を考察する科目です。

政治哲学・政治思想史部門

政治哲学も政治思想史も、政治学の基礎概念にかかわる学問分野です。この部門では「政治哲学」、「ヨーロッパ中世政治思想」、「政治思想史」のテキスト科目を用意しています。

ところで今、「政治学」と述べました。言うまでもなく政治学とは「政治」を対象とする学問ですが、では人間の様々な社会活動のうち何が「政治」と言えるのか、こういう問題が当然のことながら出てきます。言い換えますと、経済現象でも社会学的現象でもない、政治現象の確定が求められているわけです。

これは決して簡単な問題ではありません。私たちの目に通常映っているのは、社会的活動の漠然とした束だからです。したがって私たちは無意識のうちに、ある一定の基準を設定し、それを用いて「政治」を社会

から抽出していると言えます。そして、ここで言う基準をより厳密に・より体系的に論じようとする試みこそ政治哲学に他なりません。そのため、テキストを通じて履修者はまず「政治の本質」を改めて考察することになります。

また、人間は生きる意味・目的を求めてやまない動物です。とすれば、そういう人間にとって政治はどのように評価されるべきなのか、こういう問いは全体主義や民族紛争を見聞きした私たちにとって切実なものであるはずです。「政治の価値」が再検討されなくてはならない所以ですが、「政治哲学」は「政治に関する世界観の学」として、この問題にも立ち向かいます。

さて、政治哲学が基礎政治学の共時的な理解を目指すとするれば、政治思想史はその通時的な理解を目指す学問領域だと言えます。

およそ学問には、過去の学説に照らし合わせて、自らの意義を確認しようとする契機がありますが、政治

学において学説史の学習はまことに重要だと言わなければなりません。政治学は他の学問以上に、過去に用いられた術語を批判・検討しながら、私たちの政治生活の理解を深めようとする傾向が強いからです。たとえば「民主政治」ひとつとっても、現代の多くの理論家たちは古代ギリシアを引証基準にして考察を行っているのです。

ところで、皆さんが手にするテキストはもっぱら、ヨーロッパの地で展開された政治思想を扱っています。日本政治思想にはほとんど言及がなされません。しかし、近代日本の幕開けとともに先人たちが政治思想を含む西洋文化の吸収に努力してきた結果、ヨーロッパ文明は今日、私たちの「第二の自我」と言うべきものになっています。そのことを疑う人はいないでしょう。ですから、日本政治思想を深く学んでみたいと思っている方も、ヨーロッパ政治思想の「応用問題」として目を日本に転じることは、決して間違いではないはずです。

履修者に求められる視点を少し具体的に述べますと、まず「ヨーロッパ中世政治思想」ですが、上に記したとおり、私たちにとって重大な意味を持つヨーロッパ政治思想の「原型」が形成されたのが、中世と呼ばれる時期であることに注意を払って下さい。では、ここでいう「原型」とはどのようなものか。それは皆さんが学習を進める中で明らかになるはずです。と同時に、そういう問題意識をもって中世政治思想を学ばれるならば、ここでの理解がヨーロッパ文明そのものの理解と直結していることに気が付かれることでしょう。

「政治思想史」では、ヨーロッパ政治思想史を飾るビッグネームが打ち立てた理論を学習します。ここで意識してもらいたいのは、彼ら思想家たちの理論それぞれが、近代的な政治観の確立に寄与しているということ、その結果私たちに与えても「どこか親しみが持てる」ものになっていることです。ただし、テキスト執筆者が語っているように、そこで感じられた「親しみ」は、あくまで現代の思想的課題に対する私たちの認識の道筋を整えるための出発点です。私たちが探求すべき政治は、近代政治思想のナイーブな延長線上にあるのではないからです。その意味では、過去の思想家たちに問いかけようとする姿勢こそ、学習を通じて最も求められるものだと言えましょう。

政治理論部門

政治理論にかかわる専門教育科目で現在テキストが配布されているのは、島田久吉・多田真鋤著「政治学(J)」です。この他に、「政治学」「政治理論」「政治過程論」のスクーリング科目が開講されています。

法学部通信教育課程乙類として開講されている諸科目に共通するのは、それらがすべて政治学の科目であるという点です。したがって、それらの科目の基本からの理解には、政治学とは何かを理解していることが不可欠です。

たとえば、いま、あなたが日本研究者の集まりに参加しているとします。そこには、経済学、社会学、人類学、宗教学、文学、医学等々の研究者が集っているはずです。これらの研究者に囲まれて、あなたが他の

研究者とは異なり「政治学として研究を行なう」というのはどういうことか、その説明を求められたらどう答えるでしょうか。

この間は、政治学の出発点で問われるべき問であり、また到達点として明快な答をもつべき問でもあります。「政治学(J)」の履修は、この答を探すために必要な第一歩だと考えてください。

日本政治部門

政治を理解するためには、政治思想や政治制度、さらには政治の歴史や実態を学ぶことが必要不可欠です。また、世界各国の政治状況を理解するためには、まずは自国の政治状況を十分に理解し、これを正しく把握しておくことが、何よりも肝要であることもあらためて指摘するまでもありません。法学部ではこのような要請に応えるため、とくに「日本政治」の部門を設置しています。

「日本政治」の部門では、日本政治の歴史や実態を詳しく勉強するため、「日本政治史」、「日本政治史Ⅰ(古代)」、「日本政治史Ⅱ(中世)」、「日本外交史Ⅰ」、「日本外交史Ⅱ」のテキスト科目を用意しているほか、夏期もしくは夜間スクーリングに際しては、上記科目ばかりでなく、現代日本政治の実態の理解を深めてもらうために、「日本政治論」の講座を開講しています。

「日本政治」というと、他国の政治と異なり、私たちにとって身近な存在であり、誰でも簡単に学ぶことができるものと思われがちです。しかし、ジャーナリスト的な興味をこえて、アカデミックな分析手法や研究成果を習得することは、そう簡単なことではありません。「日本政治」の勉強は、対象には接近しやすいのですが、その分だけ、逆に高度なレベルが要求され、なかなか厳しいものがあるからです。履修希望者は、安易な気持ちを捨て、たとえ困難な課題にぶつかったとしても、これを乗り越える努力をして欲しいと思います。そして履修生諸君が、この機会を利用して日本政治の「過去」と「現在」を正しく理解し、その上で、それぞれがこの国の「将来」についても真剣に考えてくれることを期待しています。

履修にあたっては、それぞれの科目担当者が示している指針や履修条件を十分に参照・吟味し、くれぐれも途中で挫折したり、後悔することのないようにして下さい。また、履修科目選択の順序は、とくに指示がない限り、全く自由です。

地域研究部門

「各国別、各地域別の研究で、特定の国あるいは地域の総合的理解と、他の国・地域との比較を重視する」学際的学問が地域研究です。ここでいう「総合」とは、ある地域の近現代または現在が抱える問題に対し、複数の専門領域からアプローチし、その成果を総合して理解するという意味です。その際学際研究のやり方をめぐり、1人の研究者が、すでに確立している社会科学の複数の学問分野をマスターして取り組むのか、それとも1人の研究者は1つの専門分野に特化し

て研究を進め、その上で他の専門分野の研究者と共同研究を行うのかという疑問が生じます。この方法論上の問題は学会でも決着のついていない問題なので、ここではこれ以上問いません。

いずれにしても地域研究者は第1にその地域の文化に惹かれ、言語を修得し、現地での生活を体験し、近現代史を概観した上で、地域特性を研究対象にします。その意味では実証的な学問です。しかしそれだけでは不十分で、上述のように社会科学の学問分野を少なくとも1つマスターし、そこで練り上げられた問題の見方や分析手法を地域の研究にできるだけ使う必要があります。

法学部学生が地域研究に取り組む場合、差し当たり政治学関係の諸科目を幅広く学ぶのが近道といえます。整合性、体系性の点で、政治学とは何かという問題が残るでしょう。また多くの場合政治学の理論は欧米地域の近現代を研究対象にして作られているため、その理論を地域研究、特に途上国研究に応用しようとしても途惑うことが多いです。しかしそうであったとしても、地域の実証的な研究と社会科学の理論的研究との関係は相互に交流し、影響を与え合い、時に緊張関係に陥りながら長期的には地域研究からのフィードバックによって社会科学理論自体が作り変えられてゆくものと考えてべきです。

従って冒頭に挙げた「他地域との比較」の重視についても、その比較軸は社会科学の理論的イシューです。ある地域の人間の行動様式は特性を持つと同時に、他地域のそれと比較してみれば共通点も見出せます。より広い地域設定の中で問題を理解することが、理論的一般化にとっては必要です。以上に述べた地域研究の学問的特徴、方法論について詳しく知りたい者は、『入門現代地域研究』、『特集：地域研究の海へ』（『地域研究論集』）、『講座現代の地域研究』を読むとよいでしょう。また今日、地域研究は地域や国家間の体系的な比較を通じて政治現象を理論的に説明しようとする比較政治学と密接な関係にありますので、以下に掲げる比較政治学のテキストを読むことも勧めます。

現在テキスト科目では、「現代中国論」「アメリカ政治史」「ロシアの政治」が開講され、スクーリング科目ではそれ以外の諸地域もカバーされています。理論的アプローチは科目毎に少しずつ違いが見られますが、自らの関心に従ってどの地域から学習してもよいです。できれば卒論などに繋げて関心地域を掘り下げて学習してください。

地域の問題を見つける上で、『世界年鑑』（共同通信社、各年）をはじめとする年鑑類を活用するなどして、各地域の現状をフォローするのが役に立つでしょう。また本塾図書館での資料探しの他に、特に途上国研究に取り組む場合、日本貿易振興会アジア経済研究所の図書室を訪ねるとよいでしょう。

- ・粕谷祐子『比較政治学』（ミネルヴァ書房、2014年）
- ・加藤普章編『入門現代地域研究』（昭和堂、1992年）
- ・共同通信社『世界年鑑』（各年）
- ・久保慶一他『比較政治学の考え方』（有斐閣、2016年）
- ・国立民族学博物館地域研究企画交流センター編『地

域研究論集』第1巻第1号「特集：地域研究の海へ—その方法と可能性」（平凡社、1997年）

- ・矢野暢編『講座現代の地域研究』第1～4巻、（弘文堂、1993～94年）
- ・『現代用語の基礎知識』特別編集、『国際情勢ベーシックシリーズ第1～10巻』、世界各地域の現代史を概説（自由国民社）
- ・日本貿易振興会アジア経済研究所 <http://www.ide.go.jp>
- ・地域研究コンソーシアム <http://www.jcas.jp>

国際政治部門

国際政治部門では、歴史的な視座からこれまでの国際政治の大きな潮流を展望して頂くと同時に、現代の国際政治の諸問題を理解する基礎を学んで頂くことになります。国際政治では、平和と戦争、内政と外交、地域主義とグローバル化などの多様な問題群を理解することが求められ、そのためには国際政治の基礎概念を正確に理解することが必要となります。

国際政治部門としては、『ヨーロッパ政治史』と『西洋外交史』のテキストがあります。『ヨーロッパ政治史』は1単位で、ロシア革命から1950年代までのヨーロッパ各国の政治と外交を学ぶことになります。『西洋外交史』は2単位の科目で、第一次世界大戦後のパリ講和会議から第二次世界大戦までの時代の欧米を中心とした外交史を学ぶことになります。いずれの科目もテキストがやや古くなり、また戦後の時代をあまり扱っておりませんので、参考書を用いて戦後のヨーロッパ統合の問題や、外交や国際秩序の変容についても同時に学んで頂くことになります。

国際政治部門の総合的な科目としては、夏期スクーリングあるいは夜間スクーリングで「国際政治論」を用意しております。これは国際政治論の概論であり、国際政治の理論と歴史、そして現状を学んで頂くことになります。担当講師の指定したテキストや参考文献を幅広く読んで頂くと同時に、動きつつある現代の国際情勢にも関心を寄せて下さい。

国際政治は日々めまぐるしく動いております。毎年、新しい展開が見られ、重要な外交合意が創られ、深刻な危機が勃発しています。歴史的な視野と同時に、現代を理解する洞察力を養い、世界の動きに関心を寄せて頂ければと思います。

総合教育科目

哲学

4単位

A048-0302

【講義要綱】

哲学の歴史は学問の中では最も古く、多くの人間が解決に悩んだ問題の歴史です。哲学を学ぶには、「問題」の方に力点をおくやり方と、「歴史」の方に力点をおくやり方があります。どちらのやり方にもそれなりの利点がありますが、この講義では、前者のやり方を取り、哲学的問題とはどのような問題なのか、それを解決するためにはどのように考えればよいのかを、実際の問題を扱いながら考えて行きます。その際に強調したいことは、哲学は科学を中心とする現代の理論的営みと無関係なものではないということです。したがって、この講義が目指すのは、現代に生きる私たちがそれぞれの生活の中で生じる哲学的な問題に直面したとき、それを解決する方法や手懸りを提供することです。

【テキストの読み方】

テキストをどのように読み進めるかはきわめて重要です。そこでこのテキストの読み方について説明します。このテキストは論証の部分と、歴史的経緯や状況の説明の部分とからなっています。事件や事実を叙述する場合と、その背後のからくりや原因と結果の関係を推理する場合は大きく違ってきます。叙述の代表は小説や報道記事です。何が何時どのようなようになったかという報告は、素直に読むだけで事の経緯がわかりますから、考えながら読む必要はありません。映画やテレビドラマが面白いのは筋の展開や心理描写にあり、それらは考えなくてもわかります。一方、論証の代表例は数学の定理の証明です。シャーロック・ホームズの推理も論証の一つです。数学の定理や名探偵の推理はしっかり考えないとわかりません。このテキストはこれら二つの異なる部分、つまり論証部分と叙述部分からなっていることに注意してください。

読んでいる部分が論証なのか、叙述なのかをまず確認してください。いずれの部分かによって読み方が違ってきます。論証部分はかつて数学のテキストを読んだときのことを思い出しながら、その時と同じように読んでみてください。時間をかけてゆっくり読まなければなりません。途中でわからなくなったら先に進むのではなく、前に戻らなければなりません。何度も前のページを見返すことが必要になります。一人で読む場合、このような読み方は一方的に辛抱強さを要求しますから、ついつい加減になったり、読み飛ばしたりしてしまいます。辛抱強く、何度も読み返す、わかるまで頑張る、といった根気が求められます。これに対して、叙述の部分は日本語さえわかれば大抵苦勞なしに理解できます。正確に理解することを心掛ければまず心配は要りません。用語や人名が不明ならそれを調

べる程度で済みます。でも、自分が正しく内容を理解したかどうかの確認は叙述の部分の方が厄介で、誤解しないよういつも注意しなければなりません。論証部分はわからない場合にはわからないという自覚が必ずあり、わからないことがはっきりわかります。

さらに、このテキストのもつ特徴は（問）があちこちにあることです。問は必ず解答してください。テキストの内容が理解できたかどうかの目安になります。テキストが二つの異なる部分をもつことを念頭に置きながら丁寧に読み進め、必ず「わかった」、「理解した」という確信がもてるまで何度も読み直してみてください。

【関連科目】

哲学から個々の学問が生まれていったことを考えれば、すべての科目が哲学に関連していると言っても過言ではありません。テキストの内容に対応する科目は何かを常に意識しながら学ぶと個々の研究を通じて哲学が理解できる筈です。

実際に関連の強い科目は論理学と科学哲学です。論理学は推理推論するために知っておかなければならない事柄ですし、科学哲学は哲学の個々の分野の一つです。

【参考文献】

野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書、1996年
柴田正良『ロボットの心』講談社現代新書、2001年
戸田山和久『知識の哲学』産業図書、2002年
西脇与作編『入門科学哲学』慶應義塾大学出版会、2013年

【レポート作成上の注意点】

特に注意してほしいことは、教科書や参考書に書かれている事柄をまとめるだけのレポートにならないようにすることです。もちろん、教科書や参考書で理解したことを前提としなければなりませんが、その上で、あなた自身はどう考えるのかということを中心に書いてください。他方、教科書や参考書から学んだことをすべて無視して、自分の考えだけを書くという、逆の誤りにおちいることも避けてください。また、自分はこう考えると述べるだけでは、レポートにはなりません。必ず、なぜそう考えるのかという理由や根拠を挙げてください。レポートの書き方については、補助教材『学習のすすめ』を参考にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

論理学(A)

4単位

A015-7903、A7950

【講義要綱】

論理学の研究はアリストテレス以来長い歴史をもっています。私たちが何かを推理するときに不可欠の規則が論理規則と呼ばれ、それがないと考えることさえ覚束ない基本的な規則と考えられています。それを研究するのが論理学で、19世紀末のフレーゲの研究によって論理学はそれまでにない新たな発展をすることになります。数学的な思考と記号の使い方が論理学に取り入れられ、数学やコンピュータ科学と結びつきながら、様々な分野で応用され、基礎研究には欠かせない役割を演じています。

この講義では論理的な推論や真偽概念について基本的な事柄を学ぶことを目的にしています。それによって自分が論理的に考えることができるようになるだけでなく、他人の考えが正しいかどうかもしっかり判定できるようになれるはずです。

【テキストの読み方】

文学部の他のテキストと違って記号や数式、論理式がたくさん登場します。自然な言語ではなく、記号言語を使って文や命題を論理式に書き直し、推論が正しいかどうか調べることが主要内容ですから、それをしっかり肝に命じて読み進めてください。丁寧に説明されていますから、普通に読み進めれば、テキスト以外の参考文献を参照しなくても完全に理解できます。根気強く読めば、このテキスト一冊だけで論理学の基本は理解できるのです。補助教材『学習のすすめ』も参考にしてください。

【関連科目】

論理学が生まれた経緯や歴史から哲学が強い関連をもった科目です。推論することが主要な研究方法である哲学では論理的な推論が大切な道具になっていますから、論理学の知識は哲学の問題を扱う上で必要なのです。また、数学的な形式をもった内容ですから、数学基礎論、計算理論、コンピュータ言語等は論理学と密接に結びついています。さらに、言語学との関連も20世紀後半には強くなり、統語論、意味論等で重要な役割を果たしています。

【参考文献】

論理学のテキストはたくさんありますが、テキストの読み方で書いたようにこのテキスト以外のテキストをまずは忘れてこのテキストだけに集中してみてください。どれも似た内容なら一冊だけ暗記するほどに読むのが一番です。

【レポート作成上の注意】

他の文献を参照する必要はありませんから、テキストの内容だけを十分に使ってレポートを作成してください。文献を検索し、巧みにそれを使うのではなく、テキストの内容を正しく理解し、それだけを使って問題を解くことに専念してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

文学

4単位

A012-7601、A7610

「文学の学び方」については、補助教材『学習のすすめ』も参考にしてください。

●中国文学関係

【講義要綱】

漢詩は、3000年近くという長い歴史を持つ、中国古典文学の中でもっとも中心的な位置を占め続けてきた文学ジャンルです。本講義を通じて、奥深い漢詩の世界に対する理解を深めてもらいたいと思います。

なお中国の古典文学は、どのジャンルにおいても、いわゆる西欧の文学（literature）の概念とは異なる独自の在り方、発展・変化の過程を有しています。そうした状況を、中国の文化・歴史的な背景や中国語の特徴と関連づけて考え、また他国・他地域の文学と比較してとらえることは、自らの「文学観」を相対化し、中国文学に対して多角的で深い視座を持つために非常に重要であると考えられます。このような視座を持つことは、文学に限らずおよそ人文科学すべての分野において、必須であると思われます。本講義を通じて、そのような視座を養ってもらいたいと希望します。

【テキストの読み方】

テキストに加え、下記参考文献の①～③を読んで、中国文学の特徴を各ジャンルごとに（特に漢詩を中心に）把握すること。さらに、④を読んでそれぞれの特徴や各作品を文学史の観点から整理し、前後の時代の特徴と比較すること。また、特に漢詩については、⑤～⑧を読んで知識・理解を深めること。

加えて、各詩人および作品についてさらに深く考察し、先行研究を調査するために、⑨を利用すること。

【履修上の注意】

まずは参考文献を読んで、中国文学の特徴、とりわけ他の国・地域の文学と比較して顕著な特徴について、特に漢詩のジャンルを中心によく理解すること。

次に、自分が選択した詩人や文学者、作品にそうした特徴がどのように表れているのかについて、他の詩人・文学者との比較を含めて注意深く分析し、先行研究も踏まえつつ論じること。

【参考文献】

- ① 吉川幸次郎『中国文学入門』講談社学術文庫、1976年
- ② 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社、1991年
- ③ 前野直彬『中国文学序説』東京大学出版会、1982年
- ④ 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会、1975年
- ⑤ 小川環樹『唐詩概説』岩波書店（岩波文庫）、2005年

- ⑥吉川幸次郎『宋詩概説』岩波書店（岩波文庫）、2006年
- ⑦吉川幸次郎『元明詩概説』岩波書店（岩波文庫）、2006年
- ⑧松浦友久『漢詩一美の在りか』岩波書店（岩波新書）、2002年
- ⑨『中国古典文学案内』日外アソシエーツ、2004年

【レポート作成上の注意点】

指定の字数内で、はっきりと読みやすく書くよう心がけること。引用文は自分の文章と区別できるようにし、出典と引用箇所を明記すること。また、レポート本文中で参考文献を引用したり使用する場合は、参考文献の書誌情報に加え、必ずその引用ページも明記すること。

●日本文学関係

【講義要綱】

近代は、人口が都市に流入した時期でもあります。文学に携わる人の中にも、生まれた土地を離れ、高校や大学などに進学した人が多くいます。都市に特徴的な、交通網の発達、産業構造や家族の変化、商店やデパートの発達、見知らぬ人同士の出会い、複数の言語などは、文学の形式や内容の変化と大きくかかわっています。故郷や自然が再発見され、憧憬として描き出されていくのも、都市の認識との対照によるものと言えます。また、日本人が海外を訪れ、風景や文化の違いに思索を深めることもあります。都市は、人に何を考えさせるのか、文学を通して学んでゆきます。

【テキストの読み方】

紹介した参考文献は、複数の作品を横断する形で書かれていますので、その中から作品を選び、必ず自分で目を通した上で、自分ならどのように解釈するかを考えてください。都市の歴史や地理などの事実については、文学に限らず、研究書などを自分で調査していくことも必要です。参考書には、日本文学で扱われた外国都市についての書籍も加えました。

【参考文献】

- 前田愛『都市空間のなかの文学』1992年、ちくま学芸文庫
- 東郷克美・吉田司雄『近代小説〈都市〉を読む』1999年、双文社出版
- 和田博文ほか『言語都市・上海』1999年、『言語都市・パリ』2002年、『言語都市・ベルリン』2006年、いずれも藤原書店
- 金井景子ほか『浅草文芸ハンドブック』2016年、勉誠出版

【レポート作成上の注意点】

必ず、レポートの書き方についての文献を参照してください。参考にした文献については、最後に文献を羅列するのではなく、どこに何を使用したかの対応関係がわかるように、注番号で示してください。また、文献をまとめただけに終わらないように、自分の考察・意見を重視してください。

●フランス文学関係

【講義要綱】

フランス文学は、特に近現代において、小説、詩、演劇、批評、思想といった文学のあらゆるジャンルで、人類の芸術の歴史から見ても突出した創造を達成しました。それは人間の感性、世界観、思想をおおきく広げ、深化させました。皆さんは今回の学習を通して、いくつかの作品を読むことにより、その一端に触れることになります。学習に何よりも大切なのは、まず自分自身の感覚・知性を全開にし、読書をひとつの「経験」にまで深めることです。そして、もしその作品に興味を持ったら、作者の生涯、時代背景、あるいは文体などについて文献を探索し、さらに作品の理解を広げるようにしてください。

さてフランスの首都パリほど頻繁に文学のテーマとなり、絵や版画に描かれ、映画の舞台となった都市はありません。フランス革命後の民主化と都市化にともなって、パリは劇的に変化し、その結果、パリは文学や芸術において特権的な都市になります。こうしてメルシエ、バルザック、フロベール、ボードレール、ゾラ、ブルトン、アラゴン、ジュリアン・グリーン、モディアノなど多くの作家がパリを語りました。なぜそれほどまでにパリは表象されたのか、について考えてみてください。

【テキストの読み方】

取り上げた作品をレポートの課題にそくして、ていねいに読んでください。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目】

テキスト『フランス文学概説』、『フランス文学史Ⅰ』、『フランス文学史Ⅱ』の学習も役立ちます。

【参考文献】

- 饗庭孝男（編）『パリ 歴史の風景』、山川出版社、1997年
- エリック・アザン『パリ大全』、以文社、2013年
- 石井洋二郎『パリ 都市の記憶を探る』、ちくま新書、1997年
- 小倉孝誠『19世紀フランス 夢と創造』、人文書院、1995年
- 小倉孝誠『「感情教育」歴史・パリ・恋愛』、みすず書房、2005年
- 小倉孝誠『パリとセーヌ川』、中公新書、2008年
- 小倉孝誠『ゾラと近代フランス 歴史から物語へ』、白水社、2017年
- イヴァン・コンボー『パリの歴史』、小林茂訳、白水社、2002年
- 澤田肇ほか（編）『パリという首都風景の誕生』、上智大学出版、2014年
- 本城靖久『十八世紀パリの明暗』、新潮社、1985年
- 松井道昭『フランス第二帝政下のパリ都市改造』、日本経済評論社、1997年
- 宮下志朗『パリ歴史探偵術』、講談社現代新書、2002年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する際は、参照した文献にあった要素を単にまとめるのではなく、それらの要素をいったん消化したうえで、自分自身であらためて作品についてよく考え、それを記述するよう心がけてください。参考文献からの引用のモザイクにならないよう注意してください。あくまで「自分なり」の視点で論じることが重要です。

●演劇関係・ドイツ文学関係

【講義要綱】

ドイツ語圏の文学は、哲学や音楽、また自然科学とも複雑に関連し合って、大きな表現の世界を作り上げてきました。また、ヨーロッパの中央部に位置しながら、長らく統一国家が形成されなかったことも、ドイツ語圏の文化をより一層複雑なものとしています。多様性の中の総合性、変転の中の普遍性を見つめる視線をもって、ドイツ語圏の文学に取り組んでみていただきたいと思います。

【履修上の注意】

テキスト『近代ドイツ演劇』や『近代ドイツ小説』も通読しておくことをおすすめします。

【関連科目】

文学研究は、視点の置き方次第で、あらゆる学問領域に関連付けることが可能です。問題意識を大胆に広げてみてください。

【参考文献】

手塚富雄・神品芳夫『ドイツ文学案内』岩波文庫、1993年
柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2003年
池内紀『ぼくのドイツ文学講義』岩波新書、1996年

【レポート作成上の注意点】

自分の書きたいテーマが何であるのか、つねに鮮明に意識しつつ、全体の構成を見据えながらレポートを作成してください（実際に、論文・レポートの内容の見取り図を書いてみるとよいでしょう）。自分の研究分野にどのような先行研究があるのかも可能な限り調べて、論述の冒頭において簡潔に言及するようにしてください。参考文献に記されている「見解」と、自分のそれとが混同しないように、つねに心理的な「距離」をとりつつ文献に接してください。

●英米文学関係

【講義要綱】

文学作品には、それが書かれた時代と社会の姿が否応なく反映される。作者がそれらをいかに理解し自分自身の問題とした上で、作品としてどのように再構成・表現したかに注目して欲しい。必ずレポート課題で指定したテーマを中心に据えること。自分の興味に応じて時代、作品を選ぶことになるが、この段階でよく調べ考え抜くことが良いレポートを書く秘訣である。読んで面白かった作品を選び、その面白さ、自分の興味を喚起した点について論理的に考察すること。それ

にあたっては、参考文献を渉猟し、作品とその時代、そして作者への理解を深めることも重要である。

【参考文献】

加藤憲市ほか訳『コンプトン英国史・英文学史』大修館書店、1996年（定評ある百科事典から関連項目を訳出したもの。文学史を大づかみに理解する上で役に立つ。）

中村邦生ほか編著『たのしく読めるイギリス文学—作品ガイド150』ミネルヴァ書房、1994年（有名作品のあらすじ、作者、典型的な読み方などを要領よくまとめている。作品選びに便利。）

【レポート作成上の注意点】

1. レポート冒頭で、作家名、作品名、翻訳を用いるなら訳者名、使った版の出版社名、出版年を明記すること。
2. レポートの内容・論旨を端的に示す独自のタイトルを付けること。
3. 末尾には完備した文献一覧をつけること。
4. 作品の「あらすじ」は不要。自分の論を展開する上で不可欠な場合のみ、必要に応じて部分的に導入すること。
5. 自分の考えと参考文献等から得た知識とは明確に区別し、後者を引用する場合はもちろん、咀嚼し要約などして用いる場合でも、それぞれの箇所注を施し、出典を明記すること。
6. その他の点については、『塾生ガイド』掲載の「レポート作成上の注意」に紹介されているような手引き書を参考にすること。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史(日本史)

2単位

A043-9591

市販書採用科目

【テキスト】

竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編『教養の日本史〔第2版〕』東京大学出版会、1995年

【第1回】

【講義要綱】

日本古代国家は、七世紀半ば以降、城柵を拠点として古代の新潟県および東北地方への領域拡大策を進めた。その結果、蝦夷の生活領域を脅かすことになり、様々な対立や紛争が生れることとなった。蝦夷政策の歴史的過程についてその時々の政治状況や地域情勢を踏まえながら理解することは、古代国家の特質を考える上でも重要な意味をもっている。

【テキストの読み方】

テキスト『教養の日本史』36～37頁も参照すること。

【参考文献】

熊谷公男編『東北の古代史3 蝦夷と城柵の時代』吉

川弘文館、2015年
鈴木拓也編『東北の古代史4 三十八年戦争と蝦夷政策の転換』吉川弘文館、2016年
川尻秋生『平安京遷都』〈シリーズ日本の古代史⑤〉岩波新書、2011年
熊谷公男『蝦夷の地と古代国家』〈日本史リブレット11〉山川出版社、2004年

【第2回】

【講義要綱】

近年、日本近世史研究者の間でも環境史への関心が高まってきている。環境史の捉え方は一様でないが、ひとまず「自然と人間の関係史」と理解しておきたい。このテーマには幾つもの視角からアプローチできるが、近世史研究においては、災害・資源・動物・自然観などに着目した成果が蓄積されてきている。これらの内、主に災害の問題を取り上げ、考察を加えることを課題としたい。

【参考文献】

倉地克直『江戸の災害史—徳川日本の経験に学ぶ—』中公新書、2016年
北原糸子『日本震災史—復旧から復興への歩み—』ちくま新書、2016年

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史(東洋史)

2 単位

A063-1601

【講義要綱】

中国を中心としたアジア地域および中東・イスラーム世界の歴史について、概論的な知識を習得する。その上で、東洋史研究において特に重要なテーマに関して、課題・参考図書の精読、関連文献の調査・研究によってさらに理解を深めて行くことを目標とする。歴史(東洋史)の学び方については、補助教材『学習のすすめ』も参照すること。

【参考文献】

佐藤次高編『西アジア史Ⅰ アラブ』〈新版世界各国史8〉山川出版社、2002年
佐藤次高『イスラーム—知の営み』〈イスラームを知る1〉山川出版社、2009年
檀上寛『永楽帝—華夷秩序の完成』講談社学術文庫、2012年

【レポート作成上の注意点】

課題・参考文献の文章を引用、または典拠として利用した場合には、必ずその頁数を註として明記してください。なお、註はレポートの最後にまとめて示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史(西洋史)

2 単位

A003-7102

【講義要綱】

この科目は、高等学校「世界史」の西洋史部分と、大学で学ぶ学問的に高度な西洋史との橋渡しをすることを目的としています。従ってテキストは、「世界史」よりは多少詳しく、かつ学問的にも多少高度に書かれています。入学後、他の難解な科目を履修する前に、この科目で歴史の勉強の基礎を作ってください。

【テキストの読み方】

レポート課題に取り組む前に、テキストを一読して西洋史の全体的な枠組みを把握し、同時に西洋史的な感覚をやしなってください。続いて、レポートの課題図書を読みながら、同時に歴史の流れや事実をテキストで確認していくとよいでしょう。その際、自分なりにノートに整理して知識をまとめておくと、科目試験の勉強にも役立つはずです。科目試験に向けては、細かな事実を暗記するのではなく、歴史の流れとそれに対する歴史家による解釈をきちんと押さえて理解しておくようにしてください。

【履修上の注意】

この科目は、入学後早い段階で履修されることを想定しています。だから、事前ではなく同時に、西洋の文学史、近代思想史、政治学、経済原論などを履修すれば、この科目の理解に役立ちますし、科目間の相乗効果も期待できます。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅰ(古代・中世)」「西洋史概説Ⅱ(近代・現代)」「西洋史特殊Ⅰ—古代オリエント史—」「西洋史特殊Ⅱ—近世ヨーロッパの宗教・政治・社会—」「西洋史特殊Ⅲ—近代イギリス国家の成立(中世から近世へ)—」

【参考文献】

西洋史全般については、テキスト巻末の参考文献を参照してください。レポート作成のためにはレポートの課題図書を丁寧に読んだ上で、レポート課題および下記のレポート作成上の注意点にあげる参考文献を、無理のない範囲内で参照してください。複数の参考文献を読んで考えるという勉強方法は、西洋史の勉強にとどまらず、卒論に至る今後の通信課程での学習全般に役立つでしょう。

【レポート作成上の注意点】

- ・課題図書を読む際には、テキストで歴史の事実や流れを押さえつつ、ノートをとって丁寧に読むこと。
- ・レポートの記述において、課題図書および他の参考文献を参照した箇所は、必ず注を付けて出典(著者、書名、出版社、出版年、該当頁)を示すこと。
- ・各国史の概説書(など)としては、ミネルヴァ書房の『大学で学ぶ西洋史』『近代〇〇史』『概説〇〇文化史』(〇〇は国名)などのシリーズや、山川出版社の新版世界各国史シリーズ、世界歴史大系シリーズ

ズ、などの中から、各自が公共図書館などで利用可能なものを利用するとよい。

【成績評価方法】

科目試験による。

法学(憲法を含む)

4単位

A021-8402

【講義要綱】

皆さんは、「六法」という言葉はご存じだと思います。憲法、民法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法を6つの基本的な法分野として、明治期の日本で一冊の法令集としたことが始まりです。書店の書棚には様々な出版社からのいろいろな「六法」が並んでいますが、頁をめくると、実際は6つどころではなく、数多くの法令が収録されていることに気づかれましょう。上記の商法も、かつてはその第2編を中心として規定されていた「会社法」の部分が平成18年から独立した法令となり、「六法」にも収録されるようになりました。もちろん基本的で重要な法令であることには変わりありませんが、時代によって法令の内容も数も変化してゆくのであります。

ところで本科目名である「法学（憲法を含む）」（以下、「法学」と記します）は、当然のことながらある具体的な法令の名前ではありません。「法学」は「六法」に代表される数多くの法令間に共通する用語・ものの考え方・概念に着眼して、広く法一般に対する皆さんの関心を拓くことに目的を置いて開講されています。

テキストを開いて頂ければ分かるように、内容は緒論と本論に分かれており、本論はまた総論と各論に分かれています。この本論の総論部分が「法学」での学習範囲となります。まずは難しくとも、その部分を通読するよう心掛けてください。そして入門者である皆さんにおかれては、「法学」とはなぜこのような方法で物事を考えるのか？ という疑問ではなく（実はこの疑問はとても大事なのですが）、まずは、法を学ぶとは、あるいは「法学」的思考を持つとは、物事をこのように考えることなのだ、ということを受け入れてみるよう努力してください。最初のうちは難しくとも、やがて学んだひとつの事項が他の事項に関連付けられることが分かり、次第に奥行きをもった大きな体系思考が自分の中に拡大してゆくことに気づくことでしょう。その時、皆さんは他の法律科目へのより深い誘いを得たことになるのです。

この「法学（憲法を含む）」では、レポートの課題や科目試験を通して、皆さんの基本的な理解力を問う出題をしてまいります。履修者の皆さんには頑張って頂きたいと思います。

【関連科目】

「法学概論」、「法哲学」等

【参考文献】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』有斐閣双書

笹倉秀夫『法学講義』東京大学出版会
西村健一郎編『判例法学』有斐閣 等

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考書の丸写しは皆さんの勉強にはなりません。まずその課題について、テキストの説明文を良く読んでください（本論の各論部分も範囲です）。そこで理解が得られない場合には、図書館等で、上記参考文献なり関連する文献なりを参照して情報を得て下さい。参照文献については、著者名・書名・出版社名・刊行年・参照頁を、レポートの最後に明記することも忘れないでください。一味深みのあるレポートを作成したいのであれば、出題者はなぜこうした課題を求めたのか、を頭の隅に置いて書いてみることをお勧めします。

【成績評価方法】

科目試験によりです。

政治学(A)

4単位

A001-6403

【講義要綱】

トップに立つ政治指導者（国によりその名称は異なります）の選出方法は、国により異なります。それは、政治体制の特徴を反映するものでもあります。日本、米国、中国の各々について概観した上で、比較検討を加えてください。政治体制の特徴をきちんと理解できているか、考察の前提として問われことになります。さらに、いかなる点に注目して比較するか、その比較のポイントも明確にする必要があります。

【テキストの読み方】

政治体制の特徴は、テキストでしっかり学ぶ必要があります。中国についてテキストでは直接論及されていませんが、参考になる論述はあります。

【参考文献】

中村勝範編『各国政治システム概論』（慶應義塾大学出版会 絶版）

【レポート作成上の注意点】

テキストだけでなく、他の参考文献にも目を通す必要があります。上記に紹介したものは、コンパクトにわかりやすくまとめている点で良書ですが、絶版のため（恐らく公立図書館に所蔵されていることが多い）、それ以外の参考文献を用いても可です。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済学

4 単位

A018-8102、A8125

【講義要綱】

現実の経済を理解し分析するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。概要は以下の通りである。

1. 総論：経済の本質、経済循環の構造
2. ミクロ経済学
 - 消費者・生産者行動
 - 市場均衡
 - 経済厚生と国際経済
3. マクロ経済学
 - 国民所得決定のしくみ
 - 財政・金融政策の効果
 - 景気変動と経済成長

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにしてください。補助教材『学習のすすめ』経済学の学び方も参考にしてください。

【履修上の注意】

高校レベルの数学は理解しておくことが望ましい。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門〔第3版〕』有斐閣、2013年
 塩澤修平『基礎コース 経済学〔第2版〕』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

仮定と論理的帰結の区別を明確にすること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学

4 単位

A054-0791

市販書採用科目

【テキスト】

ギデンズ『社会学〔第5版〕』而立書房、2009年
 ※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版（2004年）を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

テキスト『社会学』第5版（第4版も可）は、一般的に広範囲のテーマに関する社会学的な思考を述べてあります。社会学は社会科学の一分野です。社会学の基本的特徴は、経済学、法律学、経営学、政治学などの社会科学が、人間社会のさまざまな現象をいわば縦割りにして研究対象としているのに対して、それらの現象の基底において横断的に存在する社会的行為、社会関係、社会集団、組織に関する問題を考察、分析するところにあります。

社会学的思考、分析は社会学において使用される概念および概念枠組の操作を通してなされるものですか

ら、社会学的思考、分析を身につけるには、社会学の基礎概念をよく理解することが必要となります。テキストに出て来る基礎概念、キータームに注意してテキストをよく読み、理解し、それらの術語を使って具体的問題を記述、説明できるようになることが大事です。

【テキストの読み方】

このテキストには、1～22のセクションがあります。関心のあるところから読んでも構いません。またそれらセクションの最後に、まとめ、考察を深めるための問い、読書案内がつけられています。これらはあくまでも理解を助けるための情報です。まとめを読んで済ませることのないようにしてください。必ず本文を読み、まとめ等の情報を適切に利用して、理解を深めてください。また末尾の用語解説も参考にし、注意深く読んでください。その上で、そこに紹介された概念やアイデアを利用して、様々な出来事を「社会的」に見ることができるようになってください。補助教材『学習のすすめ』社会学の学び方も参考にしてください。

【履修上の注意】

社会学的なものの見方を身につけることが大事です。特に各セクションの視角をマスターしてください。レポートでは、論述という形式を習得しているかどうか大事な評価基準になります。特に大事なのは、参考文献リストを作成し、テキストや参考文献を参考や引用した場合、レポート本文でその旨を、注などによって、明記することです。

【関連科目】

社会学史、教育社会学、都市社会学 社会学（専門）

【参考文献】

レポート作成にあたっては、あなたの関心やテーマに応じて文献を探し出すことが重要です。少なくとも5本以上の文献をテキストの他に探すが、合格の条件になります。

【レポート作成上の注意点】

- ① 参照や引用には注をつけて、出典を明らかにすること。ネットからの情報はホームページ名とダウンロード日時を明らかにすること。
- ② レポートの章立てを行うこと（1、課題設定。2、その課題を選んだ理由。3、本論。4、今後に残された課題。5、参考文献や資料）。

【成績評価方法】

科目試験による。

統計学(A)

4 単位

A055-0902

【講義要綱】

社会科学分野の研究においても、統計的分析が不可欠となっており、社会科学における基礎学問とし

ての「統計学」の重要性が高まってきています。統計学では、①統計的記述（実際のデータの特徴をどのように捉えるか）、②統計的推測（標本から母集団の特徴をどのように推定するか）、③統計的検定（理論的主張をどのように検定するか）、④相関・回帰分析（複数の変数の間の相関・因果関係についての分析）について様々な分布を用いながら学ぶことにより統計的分析の基礎を身につけます。

【テキストの読み方】

各章の最初に示されているその章の解説を読み、まずは細かいところは気にせずその章を一通り読むことによって、概要をつかんでください。そして、次に例題を手掛かりにしながらコツコツと読み進めてください。分析によっては計算量が多くなってしまう場合があります。その際にはエクセルを積極的に活用してください。各章末にエクセルの利用に関する解説が示されています。例題を理解していくことによってレポートに取り組む準備が整うことになるでしょう。また、基礎の部分に落ち着いて取り組めるよう、この科目では、テキストに発展項目と示されている節は試験・レポートでは範囲外としています。まずは基礎の部分にしっかり取り組んでください。

そして、章末の練習問題にも取り組むことによって理解を深めてください。それらは、いずれも現実社会のデータに関するものです。現実のデータを用いて統計分析を考えることによって応用力が身につきます。巻末の解答の指針を丸暗記するのではなく、それぞれの問題で確認すべき分析や考え方は何かを意識しながら取り組んでください。試験では、データを用いた計算とそれに関する統計学的考え方の理解が問われますので、練習問題を理解することによって試験に向かう準備が整うことになるでしょう（発展問題は試験の範囲外になります。また、試験はテキストに登場する式や分布の暗記を求めるものではありません。そのため、試験問題には、解答に必要な主要な式や分布表が提示されます。試験は電卓持ち込み可ですが、必要な計算機能は $+$ 、 $-$ 、 $\times$ 、 $\div$ 、 $\sqrt{\quad}$ のみです。これ以外の計算機能が必要な場合は、解答に必要な計算の結果が問題用紙に示されます。関数電卓を用いたほうが有利となるような問題は出題されません。また、解答にあたって微分や積分の計算が必要となる問題は出題されません）。

補助教材『学習のすすめ』統計学の学び方も参考にしてください。

【履修上の注意】

テキストには、微分・積分が現れますが、本テキストは、微分・積分の知識や習熟については前提としていません。統計的な分析の理解や実践において必要なのはそれらの「考え方」にすぎません。科目試験だけでなく、レポートにおいても微分・積分の計算が要求されることはありません。（確率分布に関して複雑な計算が必要な場合や特殊な計算が必要な場合は、テキスト付録の分布表やエクセルの関数を用います。）

【関連科目】

この科目を履修する前に事前に履修すべき科目はあ

りません。

【参考文献】

テキストの参考文献のページを参照のこと。

【レポート作成上の注意点】

統計学は計算結果や図表も含めてレポートを作成する科目であるため、指定箇所を除き、特に分量に制約を設けません。そして、レポート作成にあたっては、答えを求めるまでの経過もきちんと示してください。（ワークシートを活用して整理して示してください。）経過が示されていない場合、添削・採点の対象となりません。また、考察や説明が求められている場合、その設問も必ず解答してください。計算が出来ただけでは統計学が理解出来たとは言えません。計算途中で必要となるワークシートおよび図についてはエクセルで作成したものを印刷し、それを貼りつけても構いません。また、統計学のレポートではテキストで取り上げられるデータ分析の実践を通じての復習に重点が置かれるため、論述形式のレポートにあるような参考文献の使用は必要ありません。

【成績評価方法】

科目試験による。

当該科目試験における出題範囲は、テキスト全体から発展項目・発展問題を除いた部分とします。

数学(基礎)

2単位

A041-0001

【講義要綱】

●第1章 集合（集合、写像）、第2章 数列（数列、数列の極限、級数）、第3章 関数（数の極限と連続、指数関数・対数関数、三角関数）

数学の多くの分野は集合を基礎にしてその理論が構築されている。ここで学ぶ写像の概念は数列、関数へと特殊化されて、社会科学のさまざまなところで応用されている。広く諸科学を専攻するための「基礎の基礎」として、ぜひ学習されるようお勧めしたい。

数列や関数の極限の考え方は、物事の漸近的な様子を記述する上で重要である。「限りなく近づく」（収束）、あるいは「限りなく大きく（小さく）なる」（発散）というイメージに親しむことを目指す。

さらに、特によく用いられるいくつかの重要な関数について学ぶ。それぞれの定義と特徴について学習し、取り扱いに慣れることが大切である。

●第4章 個数の数え上げ（直積の要素の個数、和集合と共通部分の要素の個数、順列と組合せ）、第5章 確率（標本空間と確率空間、事象と確率、確率の計算と順列・組合せ、条件付き確率、確率変数と期待値）、第6章 事象と認識（順序、束、分割、集合体、可測空間と可測写像、エントロピー）

初めに個数の数え上げの手法を学ぶ。数え上げる対象の代表的なものとして順列と組合せがあるが、ここでは数え落としや、数え過ぎのないよう規則的に数え上げる態度を養う。

次に確率論の初歩を学ぶ。社会現象に不確実性を伴

うことはごく普通のことであり、その不確実性は確率を使い記述される。確率の概念を数学的に表現するためのいくつかの概念を導入し、これらとすでに学習した数え上げ手法に基づき確率の計算も行う。さらに、確率論で最も重要な概念である、確率変数とその期待値について学習する。

最後に、事象とその認識の問題をあつかう。事象を認識するときのその粗さや細かさを数学的に表現する方法を学習する。このときすでに学んでいる集合論の知識がいたるところで使われ、また、確率論とも密接に関係してくる。さらに、エントロピーの概念も紹介される。

【テキストの読み方】

教科書を通読した後に、必ず練習問題を解くこと。また、要点をまとめた自分なりのノートを作成するとよい。

補助教材『学習のすすめ』数学（基礎）の学び方も参考にしてください。

【参考文献】

高等学校の教科書（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ）
志賀浩二『集合への30講』朝倉書店、1988年

【レポート作成上の注意】

問題文からどのように着眼し、どのような思考をして結論に至ったのか、添削者が読み取れるように丁寧に記載すること。答えを求めるまでの過程が明示されていない場合、添削、採点の対象となりません。

分数式を記入する場合には $\frac{k+1}{(k^2+3k+1)^2}$ のように分子を上、分母を下に記述すること（分母分子を斜線の前後に書かないこと）。

【成績評価方法】

科目試験による。

数学(微分・積分)

2単位

A024-8501、A8542b

【講義要綱】

●第1章 微分法（関数の極限、導関数、Taylorの定理、関数の性質、微分法の応用）、第2章 偏微分法（多変数関数の極限、偏導関数、極値問題、偏微分の応用）

例えば0時から x 時までの車の移動距離を $y=f(x)$ で表すと、 a 時から b 時までの車の平均速度はその間の移動距離 $f(b)-f(a)$ を時間 $b-a$ で割ったものになる。その間車の速度は一定ではなく、絶えず変化していると考えるのが自然であろう。では a 時での車の瞬間の速度はどうなるであろうか。 b が a に近ければ近いほどその間の平均速度は瞬間の速度に近づくと考えられる。そこで b を a に限りなく近づけるといふ極限の概念がでてくる。 b を a に限りなく近づけたときの平均速度の極限 $f'(a)$ が a 時の

瞬間速度である。車の移動の様子は速度 $f'(x)$ 加速度 $f''(x)$ によってある程度調べることができる。

1章ではいろいろな関数 $f(x)$ について $f'(x)$ の求め方、 $f'(x)$ と関数 $f(x)$ の増減、 $f''(x)$ と関数 $f(x)$ の凹凸との関係、関数の極値について学ぶ。また、関数を多項式関数で近似し、その誤差を調べる、Taylorの定理を学ぶ。

2変数の関数 $z=f(x, y)$ は空間の曲面を表していると考えられる。

曲面 $z=f(x, y)$ が山を表していると想像してください。山の様子を知るにはどのような方法があるだろうか。例えば地図は等高線で山の様子を表している。同様にいろいろな高さ c の等高線 $f(x, y)=c$ を考えることにより曲面の様子を調べる。また山を縦方向に切断してその切断面を調べることによって山の様子を知ることができる。 $z=f(x, y)$ は $y=b$ とすると x だけの関数 $z=f(x, b)$ となるし、 $x=a$ とすると y だけの関数 $z=f(a, y)$ となる、1変数の関数は1章により詳しく調べることができるので、これらを利用して $z=f(x, y)$ の様子も調べることができる。

2章では2変数関数 $z=f(x, y)$ について $x=a$ または $y=b$ と固定したときの微分にあたる偏微分を学ぶ。また山の頂上にあたる極大値、山道を歩いたときの峠にあたるある条件のもとでの極大値などを学ぶ。

●第3章 不定積分（不定積分、置換積分法・部分積分法、有理関数・無理関数・三角関数の積分）、第4章 定積分（定積分、定積分の計算、定積分の定義の拡張）、第5章 定積分の応用（面積・体積、道のり・曲線の長さ）、第6章 重積分（2重積分、重積分の計算、体積・曲面積）、第7章 微分方程式（微分方程式とその解、微分方程式の解法）

積分法は微分法の逆の演算で微分法と表裏一体をなすものです。ここでは前半で学んだ微分、偏微分等の知識を踏まえて積分に関する基礎事項を学びます。

【テキストの読み方】

1章ではまずいろいろな関数 $f(x)$ について導関数 $f'(x)$ を求められるようにしてください。合成関数の導関数の公式が使えるようになると、導関数を求めることができる関数がぐっと増えます。次に $f'(x)$ 、 $f''(x)$ を調べることにより $y=f(x)$ のグラフの概形を描けるようになるようにしてください。

2章ではまず偏導関数の計算を練習してください。偏導関数についても合成関数の偏導関数の公式は重要です。次に、2変数関数の極値、条件付き極値問題に進んでください。

補助教材『学習のすすめ』数学（微分・積分）の学び方も確認してください。

【レポート作成上の注意点】

第1回

答えだけではなく、その結論に至る過程も丁寧に記述してください。

1. は関数のグラフについての問題です。
2. は高次の導関数の問題です。
3. は2変数関数の極値についての問題です。
4. は2変数関数の条件付き極値問題です。

テキストの該当する箇所をよく読んで、理解してからレポートを作成してください。

第2回

最終的な「答」のみを記載したものは不可です。問題文からどのように着想し、どのような思考をして結論に至ったのかわかるように、ていねいに記述してください。

問題2. 4) ではテキスト P38の(4. 18) 式を、また問題3. 3) では同 P39の(4. 24) 式をそれぞれ用いて解答してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

数学(線形数学)

2単位

A058-1001

【講義要綱】

●「線型代数とは何か、なぜ学ぶか」

線型代数とは何かと聞かれれば、1次式と2次式の数学と答えることができます。数学が考える対象として関数はより一般性をもっていますが、社会科学・心理学などを学ぶときには、様々な量の関係のモデルを、それらの量の1次式と2次式で構成するのが基本です。しかも、モデルは確率・統計を用いて、現実のデータに適合したものを採用しますが、その最適化のプロセスで線型代数が大いに役に立ちます。中学のときに学んだ連立1次方程式をさらに深めた内容を学ぶと聞くと、ばかっていると思うかもしれません。しかし、人類が量を記述する最も基本的な方法が線型代数で与えられるのです。

●第1章 ベクトルとその幾何学

この章では、ベクトルの加法、減法、定数倍などの演算に加えて、内積を用いた幾何学とその応用について学びます。ベクトルの代数的側面と併せて対応する幾何学的イメージを習得できるとよいでしょう。この章を学ぶ前に、高校で学んだベクトルの内積について復習しましょう。

●第2章 行列

m 個の変数を用いた n 個の1次式があるとします。これをまとめて表現するのに、行列を用います。この章では、行列の演算について詳しく学びます。

●第3章 連立1次方程式

この章では、連立1次方程式の「掃き出し法」を学びます。ここで計算機アルゴリズムに触れることができます。この章の主眼は、連立1次方程式の具体的な解法にあります。その背後にある基本行列を用いる理論が線型代数の基本になります。

●第4章 行列式

行列式は、 n 個の変数を用いた n 個の1次式で表される連立1次方程式の解法を与えてくれます。この量が、行列の基本的な性質を記述してくれるのです。ここでも「掃き出し法」は重要な役割を演じます。

●第5章 線型部分空間

連立1次方程式が定める解空間を記述するのに必要な線型部分空間について学びます。ここでは、基底や次元といった根本的な概念の理解が重要です。ここで

も再び「掃き出し法」は重要となります。

【注意】第1章、第2章、第3章が第1回レポートの内容で、第4章、第5章が第2回レポートの内容です。

【テキストの読み方】

テキストにはたくさんの演習問題が出題されています。これを地道に解きながらテキストを読みましょう。補助教材『学習のすすめ』数学(線形数学)の学び方も参考にしてください。

【履修上の注意】

高校2年生までの数学を学んだ人が対象です。

【関連科目】

「数学(微分・積分)」

【参考文献】

特になし。

【レポート作成上の注意点】

計算結果のみを記述するのでは、合格になりません。必要十分な情報は何かを考えながら、レポートを作成しましょう。用いた変形は必ず記述しましょう。特に基本変形を用いる場合は、使った変形を明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

地学

4単位

A051-0601

【講義要綱】

この科目は、私たちの身の回りの世界である地球と宇宙について、広く深く考察するものです。地球の姿や活動のしくみ、大気や海洋、太陽系や天体の姿とその成り立ちなど、さまざまな分野を含みます。それらは相互に関連し合っており、ある事象を説明するのに別の分野の知見が必要になることもあります。この課題を通して、地球や宇宙について認識を深め、日々の生活に役立ててほしいと思います。

【テキストの読み方】

まず、副読本『新しい高校地学の教科書』(講談社ブルーバックス)をよく読み、課題領域の全体像を理解して下さい。テキスト「地学」には課題に該当する内容が書かれていないこともありますので注意して下さい。各課題につき2000字の要件がありますので、この副読本から抜き取るだけでは不十分です。他の文献にもあたって知識を深めるといいでしょう。地学の領域は近年目覚ましく前進していますので、できるだけ新しい文献にあたるといいでしょう。内容をよく理解したら、全体のバランスを考えながら、レポート作成にとりかかって下さい。補助教材『学習のすすめ』地学の学び方も参考にしてください。

【履修上の注意】

地学は「理科・自然科学」科目です。地震などの自然災害や地球環境問題など、社会学的な視点から捉えてよさそうなテーマもありますが、ここではそれは求められていません。あくまで自然科学の立場から、課題を捉えてください。

【関連科目】

「化学」「物理学」

【レポート作成上の注意点】

個々の課題に対して、本筋ではない、周辺事項をたくさん記載して、ページを費やす人がときどきいます。何が求められているか、課題を良く読んで理解し、全体のバランスにも留意してうまくまとめて下さい。引用に終始せず、自分の言葉でまとめる技術も大切です。

【成績評価方法】

科目試験による。

物理学

4単位

他に実験スクーリングによる2単位の修得が必要(計6単位)

A059-1101

【講義要綱】

物理学はテキスト学習とスクーリングにおける実験からなる合計6単位の科目です。テキストと実験を通じ、現代物理学の基本的な知識と考え方を学びます。単にテキストの内容を理解するだけではなく、興味を持った問題に関し、自分で調べ、考えて理解できる能力を身に付けることを目指しています。このような能力は物理学にとどまらず、あらゆる分野で威力を発揮するでしょう。

テキストは、20世紀の物理学を中心にして、いくつかの分野を深く学ぶ内容となっています。前半では量子力学とミクロの世界について考えます。後半では宇宙の物理と相対性理論について学びます。理論だけではなく、具体的な物理現象の仕組み、そして、理論が正しいと考える根拠を明らかにしていきます。テキストの内容はスクーリングで行う実験の内容とも密接に関連しています。

スクーリングの実験は、1人か2人一組で行います。配布される実験テキストに手順の詳細な説明があるので、誰でも結果を得られます。実験ではその持つ意味を考え、理解することが重要です。実験結果を得て実験レポートを提出する際に、必ず教員と質疑応答を行い、実験内容の理解を確かめます。実験を通じて、物理学テキストでも強調した、自然科学における実証の持つ意味を実感できると思います。また、理論と現実とのつながりも実感できるでしょう。インフォーマルで充実感があり、楽しい経験だと思います。

通信教育課程の物理学には高校での物理学の履修は必要ありません。また、使う数学は中学程度です。ただ、これは簡単という意味ではありません。新しい概念を学ぶのは誰にとっても難しいものだからです。テキストでは、必要な基礎的概念は適宜に導入し、説明しています。テキストを理解することを目指して下さ

い。科目試験の問題もテキストの内容を理解すれば解けます。

物理学は様々な現象がなぜ起きるかを考える大変面白い学問だと思います。物理学を楽しんで欲しいです。補助教材『学習のすすめ』物理学の学び方も参考にしてください。

【参考文献】

特に指定しません。テキストを理解するとともに、自分で興味を持った本や記事を読んで考えることを勧めます。

【レポート作成上の注意点】

テキスト学習では3回のレポート提出が求められています。レポートは物理学テキストの内容を理解すれば解答できる課題です。解答は内容を消化して、自分の言葉でわかりやすく表現して下さい。

物理学では課題に的確に答えられれば字数は気にする必要はありません。数式や図は必要に応じて使って下さい。計算をする場合には、必ず途中過程を記して下さい。10の累乗の計算法(テキスト付録参照)の理解は、レポートとスクーリングの実験の両方で必要です。3回分のレポートをいきなりまとめて提出するのではなく、まず1回分を提出し、評価とコメントを見てから残りを提出することを勧めます。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価となります。

化学

4単位

他に実験スクーリングによる2単位の修得が必要(計6単位)

A060-1301

【講義要綱】

化学という学問は、さまざまな物質の成分や構造などを調べ、反応により別な物へ転換する方法を扱っています。例えば、空気の78%は窒素 N_2 ですが、これを高圧下で水素 H_2 と反応させ、アンモニア NH_3 を合成する方法を、1907年にドイツのハーバーが開発しました(1918年度ノーベル化学賞受賞)。窒素分は植物の肥料として欠かせない成分であり、この発明のおかげで、世界の人口が増加していても、食糧難にならずに済んでいるといえます。その一方で、「化学物質」が環境を破壊する事態も発生しています。これらの問題にどう対処すべきか考える上で、化学結合や反応性を理解しておく必要があります。一般に化合物の構造は、元素記号と結合の線で表します。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方(概念)および構造式の意味がわかるようになることです。

【テキストの読み方】

第1章は、高校あるいはそれ以前に習う化学の基礎をまとめています。化学に自信がある人は、第1章の演習問題から取り組んでください。それから各章を読み、演習問題もやってみてください。もし問題の意味や答えが分からないときは、テキストの関連部分を読

み返してください。自分なりに精いっぱい問題を解いてから、巻末の解答例をみて答を確認してください。レポート課題との対応は、[第1回] 1～3章、[第2回] 4～7章、[第3回] 8～10章です。補助教材『学習のすすめ』化学の学び方も参考にしてください。

【参考文献】

特に指定しません。

【レポート作成上の注意点】

「参考文献」の記載は、レポート [第3回] 問題5についてだけ必要です。それ以外は、省略しても結構です。また、回答にあたっては、問題文中の「○○すること」、という指示にしたがってください。分量は制約しません（2000字に達しなくても、あるいはそれを少し超えても構いません）。説明問題への回答は、テキストでいかによく学習しているかを示す機会ですので、できるだけいねいに書いてください。ただし、自分なりに要点をまとめることが重要です。教科書や参考書などの丸写しはやめてください。計算問題に対しては、結果だけでなくそれを導出するための考え方や、途中の計算式も書いてください。特に、答えを導くにあたっての論理を明確に述べることが、非常に重要です。

元素記号を書く場合、大文字と小文字は区別し、添え字の位置にも注意してください。たとえば、(正) H_2O や CH_4 を、(誤) h_2o や CH_4 のように書いてはいけません。構造式を書く場合は、炭素の原子価が4（結合の手が4本）であることに注意してください。

【成績評価方法】

- ①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価。

生物学

4単位

他に実験スクーリングによる2単位の修得が必要(計6単位)

A049-0501

【講義要綱】

近年、生命科学分野の発展はめざましいものがあります。医療や環境など、我々にとって身近な問題を考えるためにも、基礎固めとして生物学の考え方をしっかり学ぶ必要があります。この教科書は生物学の基礎からはじめ、生物学的諸問題をじっくり考えられるように作られています。テキストの内容をしっかりと読みこなし、参考書を読めば、より深い理解が得られるでしょう。現在の『生物学』テキストは慶應義塾らしさを多く盛り込んだため、基礎部分がやや手薄になってしまっています。学生のみなさんの理解を助けるために2015年度よりサブテキストを指定しています。テキストと合わせて熟読してください。

【テキストの読み方】

生物学の各分野は非常に緊密に連携しているので、課題に関連する部分を読んだだけではしっかりした理解につながりません。全体に目を通した上で、関連する分野を繰り返し熟読することで理解が深まります。

参考文献では基礎的な記述が省略されている場合があるので、必ずテキストの関連する内容を確認してからレポートを作成すること。補助教材『学習のすすめ』生物学の学び方も参照すること。

【履修上の注意】

この科目は実験スクーリングの履修が必要な科目です。スクーリング前にレポートに取り組んでみるか、少なくとも教科書に一通り目を通しておきましょう。

この科目のレポートは1回の提出あたり2000字以内が基準です。大幅に超過することがないように気をつけること。参考文献やインターネット情報の「関連ありそうな部分」を抜き書きしてつないでも良いレポートにはなりません。課題で求めていることに対して直接的かつ簡潔な記載を心がけること。

科目試験は教科書の内容がしっかり理解できていることを重視します。十分な準備をして臨んでください。

【参考文献】

サブテキスト：南雲保（編）『やさしい基礎生物学〔第2版〕』羊土社、2014年

第1回：山内一也『ウイルスと人間』岩波科学ライブラリー、岩波書店、2005年

河岡義裕、堀本研子『インフルエンザ パンデミック 新型ウイルスの謎に迫る』ブルーバックス、講談社、2009年

【レポート作成上の注意点】

第1回：まず、テキスト（第1章、第3章、第4章）をよく読んで、内容を理解してください。さらに、ウイルスに関する参考文献を読んで、理解を深めてください。レポート課題の趣旨に沿って要点を整理し、論理的で説得力のあるレポートを作成してください。レポートの本文中で文献を引用する場合は、「○○は△△である⁽¹⁾。」というように、引用する文献に番号をつけ、レポートの最後に文献の詳細を記載してください。

第2回：良い文章と美しい図からなる完成度が高いレポートに仕上げて下さい。文章は、短い文から構成されることで、論理性が保証され、簡潔でリズムカルなものとなります。図は、下書き、清画、色づけにより、質が上がります。文章と図に齟齬がないか、互いが補完し合っているかをチェックすることにより、表現すべき事象の重要なポイントに曖昧さが無くなり、翻って正確なレポートへと仕上がっていきます。

本課題の(1)は、通信教科書のみならず多くの成書に記載されている細胞骨格が細胞分裂のダイナミズムを制御するメカニズムに関する設問です。書き写しがちになることが懸念されますが、自身で理解した内容を、自身の文章と画で解説し、オリジナルな回答になるよう意識して下さい。課題(2)は、細胞骨格に関する最新の研究成果からの出題となります。細胞は力を感じて応答します。この現象は、どのような場面で生じているのか

考えてみて下さい。細胞骨格が関与するメカノレスポンスのメカニズムも調べながら、他のトリガーにより引き起こされる細胞応答とくらべ、メカノレスポンスの特性がどのように異なっているかも解説することに挑戦してみてください。メカノレスポンスについては、ネット検索で調査できます。東北大学のグループが発表している「メカノセンシングにおける細胞骨格、細胞接着の機能」(藤原佐知子、大橋一正、水野健作)という文書が参考になると思います。

第3回：教科書第8章の8.1、サブテキスト第11章の11.1、第1章の1.2は特に関連が深いので、熟読してください。その上で、分からない用語やポイントを、索引にあたるなどして教科書とサブテキストで調べてください。課題で求められている内容には、教科書とサブテキストの両方で十分対応できると思いますが、他の文献やインターネット情報を参考にしても、もちろん結構です。その場合、出典を明示するようにしてください。

【成績評価方法】

- ①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価。

英語Ⅰ

2単位

A045-0001

【講義要綱】

英文法の正確な知識を持つことは、読解においても作文においても会話においても大きな力となることは言うまでもありません。この科目では、文の構造・八品詞から始めて短い文章を文法的見地から精読し暗記することで、英文で発信された情報を正確に受信できる能力を涵養することを目的にしています。併せて、受講生諸君は多くの英文を読むことで、その知識を確かなものとして定着させてください。英語の学習には、なにより勤勉な学習態度が要求されます。テキストの「はしがき」「本書の構成」「今後の学習のために」に科目担当者の信念と方法が記されています。まずはそれを熟読してください。

【参考文献】

テキスト pp. 237-38 の「今後の学習のために」を参考にしてください。なお自習用として、次の書籍も役に立ちます。
小宮繁、小菅隼人『学びなおし English』慶應義塾大学出版会、2016年

【レポート作成上の注意点】

単に解答のみを書くのではなく、指示に従ってできるだけ詳しく説明を加えること。

全てに解答していないレポートは採点しません。文字はていねいに書いてください。判読が困難なレポートは大幅に減点します。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅱ

2単位

A047-0101

【講義要綱】

●第Ⅰ部 文法・作文

本科目の目的は、英語を実際にコミュニケーションの道具として使っていく際に、どうしても身に付けておかなければならない英文法の基礎知識を学習することにある。

●第Ⅱ部 リスニング・スピーキング

本科目の目的は、第Ⅰ部で習得した英文法の基礎知識を、実際に、リスニングとスピーキングの中で応用する力を身に付けることにある。

【履修上の注意】

●第Ⅱ部 テキストの第Ⅰ部「文法・作文」をよく学習すること。

【参考文献】

辞書はできるだけ刊行後5年以内のものを使用すること。

【レポート作成上の注意点】

〔第1回〕〔第2回〕 問題文をしっかりと読んで、その通りに解答すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅲ

2単位

A046-0001

【講義要綱】

『英語Ⅲ』の主な目標は、時事的なトピックを扱う英字新聞や現代人の抱える諸問題に取り組む著述家の作品に触れることによって、リーディングの能力を向上させることです。記事やストーリーを楽しみながら、知らず知らずのうちに様々な英語の言い回しを学び、ボキャブラリーを増やして、英文の読解力を養うことができます。

Part I は、受講者に多読の習慣をつけてもらうことを目的としました。新聞記事をテキストの一部に採用することによって、英字新聞に親しんでもらえればと思います。また科目試験では、問題作成時の大きなニュースを出題する予定です。テキスト外からの応用問題となるので注意してください。

フィクションの部では娯楽性に重点をおいて選択しました。英語Ⅲのテキスト本文僅か100ページ足らずを読んで、即英語ができるようになるわけではありません。文庫本を読むような感覚で、英語のペーパーバックが読めるようになって欲しいと思います。そのための導入になるようにと編集したつもりです。

Part II では、イギリス人作家1名、およびイング

ランド在住のアイランド人作家2名の作品を収録しています。最初の作品—ジョージ・オーウェル「象を撃つ」はルポルタージュで、歯切れのよい直截的な表現を特徴としています。次にウィリアム・トレヴァーの短編「中年の出会い」は、フラッシュバックの手法を用いながら、男女の邂逅による出来事を心理の裏に入って巧みに描写しています。そしてエドナ・オブライエンの小品「暗黒の時間のなかで」は、初めて大学都市ケンブリッジを息子と共に訪れた作者が、女性特有の感性でその印象を綴っています。

客観的な情景、作中人物の意識の推移、会話の部分などが融合していることがあります。テキストの解説を参照し、ストーリーの概略を把握した上で、作品の文脈に注意しながら読んでください。

【履修上の注意】

この科目は、中学・高校時代のベーシックな英文法の輪郭を習得した学習者なら、誰でも履修できます。仮定法、関係代名詞、主語・動詞の倒置などに留意しながら、少しずつ読み進んでください。

センテンスが長いときには、意味のまとまりごとに、鉛筆で斜線を入れるなど、自分で工夫してみましょう。

【参考文献】

Wayne I. Phillips ほか著『アメリカの文化と社会』成美堂（文章構成の把握、語彙の増大に便利。）

【レポート作成上の注意点】

レポートでは、どの程度、テキストの英文を理解できているかについて試す問題が出されています。いずれも基礎的な知識を問う問題で、比較的容易に理解できるものばかりですが、作品全体を読んでいないと難しいかもしれません。和訳に関する質問では、名訳を期待しているわけではありません。語学的に正確な、日本語として分かりやすい文章を書くように心掛けてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅶ

2単位

A031-8901、W8976

【講義要綱】

数十ページにおよぶ長い英語の文章を読んで、それを的確に理解できるようになることを目標としています。

【履修上の注意】

英文を読むためには、英文法の基本的な事項をひと通り習得しておくことが是非とも必要です。

【参考文献】

英文法が未習得の方には、参考書として『総合英語 Evergreen』（いっずな書店、2016年）を推薦します。

【レポート作成上の注意点】

英文和訳の設問は、翻訳の技術ではなく、英文の構造と内容の理解を試すためのものですので、その点に留意して訳文を作成するように心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第一部

2単位

A064-1601

【講義要綱】

第一部は初級文法の前半を扱います。具体的な文法事項は発音、動詞の現在人称変化、冠詞と名詞、不定冠詞類、定冠詞類、人称代名詞、前置詞、名詞の複数形、動詞の現在人称変化（特殊）、語法の助動詞、未来形、接続詞、定形後置、zu 不定詞句などです。教科書をよく読んで、基本を身につけてください。また、辞書を活用して、ドイツ語を単なる単語の羅列ではなく、意味のある文章として理解するよう心がけてください。

第1回レポートはテキスト1～8課、第2回レポートはテキスト9～15課を対象としていますが、言うまでもなく学習内容は積み重ねなので、第2回は第1回の範囲を修得していることを前提としています。

【履修上の注意】

テキストを熟読し練習問題により習熟を図るのはもちろんのこと、市販の文法参考書・問題集の類も適宜併用してください。また、とりわけ品詞分類や構文に留意しながら独和辞典をひく習慣をつけることが大切です。

【参考文献】

尾崎盛景・稲田拓『ドイツ語練習問題3000題』白水社

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第二部

2単位

A065-1601

【講義要綱】

第二部は初級文法の後半を扱います。

第1回レポートはテキスト1～7課（形容詞、数表現、分離動詞、非分離動詞、再帰表現、動詞の3要形、過去形、完了形など）、第2回レポートはテキスト8～15課（分詞、非人称表現、受動態、関係代名詞、接続法など）を対象とします。第2回は第1回の範囲を修得していることが前提です。

【履修上の注意】

上記の内容を理解するためには、第一部の知識が前提となります。不明な点がある場合は、必要に応じて第一部へ立ち戻り、その都度確認してください。また、

辞書を活用して、ドイツ語を単なる単語の羅列ではなく、意味のある文章として理解するよう心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第三部

2 単位

A056-0901

【講義要綱】

『ドイツ語第一部』および同『第二部』で学んだ基本的な文法事項に関する知識を用い、『ドイツ語第三部』ではドイツの社会や文化に関するさまざまな話題を取り上げたテキストを読みます。その際、ドイツ語の基本文法がしっかりと頭に入っていることが何よりも重要です。そのため、テキストには「文法の復習」コーナーが設けられています。また、必要に応じて『第一部』と『第二部』のテキストも読み返しながらいレポート課題に取り組んでください。

【テキストの読み方】

各課のドイツ語のテキストを、まずは辞書を引きながら独力で日本語に翻訳してみましょう。意味不明の日本語になった場合は必ず何かを間違えています。動詞の形や名詞（句）の性・数・格を確認することが大切です。文法事項でわからない点については「文法の復習」コーナーの解説を読んでください。

【履修上の注意】

『ドイツ語第一部』および『同第二部』レベルの文法を理解していることが履修の条件です。

【参考文献】

常木実『標準ドイツ語』郁文堂、1996年、2700円（税込）
（初級から中級までをカバーする参考書です）
中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ 改訂版』白水社、2003年、1728円（税込）
（主として中級から上級レベルを対象とするドイツ語文法一覧です）

【レポート作成上の注意点】

文法事項に関する問題は、『ドイツ語第三部』のテキストに書かれている説明をよく読んだ上でこれに取り組んでください。

和訳問題では、出来上がった日本語の文を自分で読んでみて意味がきちんと通じるかどうかを確認してからレポートを提出してください。

独訳問題で多い誤りは、動詞定形の位置、冠詞や形容詞の語尾、前置詞の格支配など。ごく初歩的なものが多いので、常に初心にたちかえって復習を重ねましょう。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第四部

2 単位

A028-8802、A8784

【講義要綱】

ドイツ語第四部はすでに初級、中級の段階をクリアした学生を対象にしたいちばんレベルの高い科目です。卒業論文作成のため資料蒐集のできるレベルを目標にしています。レポートにとりかかる前に初・中級の文法事項を総復習して、再提出を繰り返さないよう留意して下さい。ことに分詞構文や冠飾句、接続法を用いた文章などに慣れるように努めるとともに、文章全体の要点を把握する力をつけて下さい。

【履修上の注意】

配布テキストの文法事項は何度でも読み返し、完全に身につけて下さい。ドイツ文にしばしば使われる形容詞の名詞化、冠飾句などに慣れて下さい。

【参考文献】

岡田公夫ほか『基礎ドイツ語文法ハンドブック』三修社、2004年
中島悠爾ほか『初心者のためのトレーニングドイツ語』白水社、1994年
小栗浩『独文解釈の演習』郁文堂、1961年
岩崎英二郎『ドイツ語副詞辞典』白水社、1998年
中山豊『中級ドイツ文法』白水社、2007年
『独和大辞典』小学館

【レポート作成上の注意点】

シラバスにも書きましたが初級文法は完全にマスターしておいて下さい。これまでの添削の経験ではまだこれが充分できていない方があり、レポートの書き直しを繰り返すことは時間的にも労力の上からも不利であり、添削する側も残念です。関係代名詞や従属接続詞の及ぶ範囲、接続法の用法を無視したレポートが多いようです。丹念に辞書をひき、かつ常識を働かせることは訳文にあたって当然のことながら重要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第一部

2 単位

A062-1501

【講義要綱】

『フランス語第一部』は、読む・書く・話す・聞くの4つの能力をバランスよく養う目的で書かれた、フランス語初学者のための教科書です。独学でフランス語を始める通信教育課程の学生に向けて、通常の文法教科書よりも解説を丁寧にし、練習問題も多くしてあります。頑張って最後までやり遂げれば、フランス語の発音と語彙、文法の基礎は身につくでしょう。

学習を進めるに当たっては、次のことに注意してください。

○言語の修得には、**定期性**と**継続性**が肝要です。しかし、授業に通うのと違い、自宅での学習ではこの2

点を確保することが難しいものです。例えば「週に1課ずつ進んで、ほぼ1年で全課程を終える」などの計画を立て、一定のペースで持続的に学習しましょう。

- 教師につく場合と異なり、独習の場合は言語の音声的実態に触れることが疎かになりがちです。付録のCDの発音を聞き、必ず自分で**大きな声**で発音して、フランス語を身体的に修得しましょう。
- それぞれの課の冒頭で、〈例文〉あるいは〈対話〉が示されます。これらの文は学習の基本をなすものです。繰り返し読み、聞き、また書き取って、**全文を暗記**しましょう。そうすることで、単語もスムーズに覚えられます。
- 練習問題等は、少し分量が多いですが、全て実際にやってみましょう。答え合わせをし、間違ったところを直して、それぞれの課の理解を固めてから、先に進んでください。
- この教科書は、新しい語彙が出てきたときには意味とともに示してありますので、基本的には辞書を用いなくても勉強できるようになっています。単語帳などを作成し、語彙を確実に増やしていきましょう。掲載した単語は、現在使用されているフランス語における頻出度を踏まえ、精選したものです。
- 科目試験において、試験範囲に教科書の付録(p. 212-217)は含まれません。

【履修上の注意】

フランス語の予備知識は必要ありませんが、教科書は高等学校修了程度の英語の知識を前提として書かれています。とくに、基本的な英文法の用語（他動詞、自動詞、目的語、関係代名詞など）を知らないと、理解が困難となる可能性があります。

【参考文献】

代表的な仏和辞典としては、
『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社
『クラウン仏和辞典第七版』三省堂
があります。

本科目ではこれらの辞書を使う機会はあまりないでしょうが、今後もフランス語を続けて学習する際には必須の文献ですので、買っておいたほうが良いでしょう。

【レポート作成上の注意点】

第1回 第1節～第8節

第1回のレポートは教科書の復習と和訳を中心とした課題です。教科書の第8節までを範囲とします。教科書の指示通り第8節までを終えてから、レポートに取り組んでください。

第2回 第9節～第15節

第2回のレポートは和訳を中心とした課題です。教科書の第9節から第15節までを範囲とします。ただし、第8節までの語彙と文法事項を修得していることも必要なので、教科書全体をよく理解してからレポートに取り組んでください。

【成績評価方法】

科目試験による。試験では、和訳に限らずフランス

語の総合的な能力を問います。教科書とレポートの例文も多く出題されますので、それらを中心に学習してください。

フランス語第二部

2単位

A036-9501

【講義要綱】

フランス語第二部の教科書は、第一部で学んだ文法の知識を実際の文章の中で確認し、また、学習者自身でも活用してフランス語で表現できるようにする事に目標が置かれています。教科書の第1章は、フランス語の文法が日常生活の表現ではどのように活用されているかを見、それに慣れる為に、多くの会話を読む事になります。一方、第2章では、フランス語の文章を正確に読み抜く為に必須の文法事項の習得と、それらの知識を基にした読解が中心になります。この教科書で学ぶことは、フランス語第一部の教科書と併せて、今後、フランス語第三部、第四部での基礎になりますからしっかり勉強しましょう。

【履修上の注意】

「フランス語第一部」を履修し終えていること。またはそれに相応するフランス語力を有していることが、履修の条件です。

【参考文献】

新倉俊一他著『フランス語ハンドブック』白水社、1996年
朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』白水社、2002年

【レポート作成上の注意点】

フランス語第一部の教科書を参照しつつ、フランス語第二部の教科書にまんべんなく目を通すことが大切です。こうする事が、レポートで合格点を得る為の近道です。急がば回れ、と云う事です。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第三部

2単位

A057-0901

【講義要綱】

本科目は講義科目ではないのでいわゆるシラバスはありません。学習の目的についてだけ述べておきます。

第一部と第二部で習得した文法知識を基に、生きたフランス語の読解力を高めるステップです。断片的な文法知識を総合的に駆使し、読解力向上の訓練をする素材としてレポート課題を設定してあります。難しいと思われるかもしれませんが、ここでの訓練は科目試験での得点に直結します。科目試験可否の目安は、どれだけ課題レポートで頑張ったかにかかっていると言ってもいいでしょう。フランス語に限らずどの言語でもそうですが、辞書を丹念に引くことは当然ですが、

書かれている内容についての知識や旺盛な想像力がないと理解できないこともあるので、一般常識の獲得を始めとして、日頃から全方位的な知性を磨いておくことも重要です。

【テキストの読み方】

常時第一部と第二部のテキストを手元に置き、随時参照するようにしてください。第三部テキストは日常、単独で行う訓練の素材として活用してください。

【履修上の注意】

とにかく機会あるごとに基礎文法（第一部）を徹底的に復習すること。辞書を丹念に引くこと。日本語の表現力を磨くこと。第三部テキストに基づいて学習することが必要不可欠です。

【参考文献】

外国語読解力の向上の決め手は、良い辞書との出会いです。次の辞書をお薦めしておきます。小学館『小学館ロベール仏和大辞典』、旺文社『ロワイヤル仏和中辞典』、三省堂『クラウン仏和辞典』、白水社『デイク仏和辞典』、等々。なお、最近は電子辞書が流行していますが、動詞の活用を確かめるためにも、ある語彙の「全体を見渡す」ためにも、視覚的に記憶するためにも、上記辞書も紙媒体版の方を1つ用意してください。最近、電子辞書のスクロール不足による出鱈目なレポートが多いので注意すること。

【レポート作成上の注意点】

まずは辞書を徹底的に引くこと。構文を正確に把握すること（特に主語と述語動詞をはっきりさせること）。いろいろな代名詞（人称代名詞・関係代名詞・指示代名詞・中性代名詞）が何を受けているかをはっきりさせること。動詞の時制に注意すること。

訳文が出来上がっても自分で読み返してみ、日本語として意味が通らないうちは、正しく訳せていないということです。提出してはなりません。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第四部

2単位

A061-1402

【テキスト】

この科目のテキストは、2018年4月に改訂されました。改訂後の新しいテキストで履修してください。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド』を参照してください。

【講義要綱】

フランス語第四部は最も上級のレベルとなり、フランス語の総合的な運用能力習得を目指します。第四部の目標は3つです。はじめにフランス語で書かれた文書を正確に理解すること。次にフランス語の問いに的確に答えること。最後にフランス語で様々なことを伝えることです。具体的には課題文に対する質問への答

えと日本文の仏訳をレポートとして期間中、2回提出してもらいます。

フランス語を正確に、そして的確に運用するには、動詞などの個々の品詞をどのように変化させるのか（形態論）、主語と動詞の関係など文の構造をどうすれば良いか（統辞法）また自分の伝えたい内容にふさわしい語はどれか（語彙）などという点を総合的に考察する必要があります。第四部のレポートでそのコツをつかんでください。

【履修上の注意】

今まで勉強した文法事項を何度も読み返し完全に習得して下さい。さらに、言語の背景となっているフランス文化に関心を持つことが大切です。フランスの新聞、雑誌、小説等を積極的に読み、語彙、表現を学びながら、幅広く豊かな知識（歴史・現代社会・文化・文学・時事問題等）を身につけましょう。レポート作成、科目試験に役立つと思います。

【参考文献】

彌永康夫著『時事フランス語 読解と作文のテクニック』大修館書店、2011年
伊吹武彦編『フランス語解釈法』、白水社、2006年
嶋崎正樹『時事フランス語』東洋書店、2010年
原田早苗・水林章・萩原芳子・田島宏著『コレクション・フランス語〈7〉書く』、白水社、2002年
東京都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る―新フランス学入門―』、法政大学出版局、2003年
島居正文・金子美都子・田島宏『コレクション・フランス語〈8〉語彙』(CD付・改訂版)、白水社、2007年
三浦信孝・西山教行編著『現代フランス社会を知るための62章』(エリア・スタディーズ84)、明石書店、2010年

【レポート作成上の注意点】

これまでフランス語で自分の考えを表現する機会は少なかったと思います。レポートを作成しながら、自分の書いた文章を何度も読み返し、出来るだけ自然なフランス語で表現してみましょう。

【成績評価方法】

科目試験による。

保健衛生

2単位

A053-0704

【テキスト】

この科目のテキストは、2018年4月に改訂されました。改訂後の新しいテキストで履修してください。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド』を参照してください。

【講義要綱】

人生の基本は健康であり、人生80余年を健康で有意義に過ごすためには最新の医学知識を学び、いろ

ろな病気を予防・治療していくことが肝要です。また、親となりあるいは教育者となった場合には、将来を担う子供たちに正しい知識を教える必要があります。あらゆる面で情報の多い現代では、医学情報に関してもエビデンス（科学的根拠）に基づかないあやしい治療や「薬もどき」もたくさんあります。本「保健衛生」のレポートを通じ、エビデンスに基づいた正しい知識を身につけ、それを実践できるようになっていただければ幸いです。

【テキストの読み方】

項目ごとに精読し、索引などを使い関連項目も学習する。疑問点に関しては、教科書的な本と最新の文献を調べる。

【関連科目】

「体育理論」

【参考文献】

『きょうの健康』（NHK 出版）など。

【レポート作成上の注意点】

- (1) 2000字以内とは、課題や参考文献の記載を除いた本文がスペースを含んで1800字～2000字で完成させてください。スペースのあけ方は常識的に行ってください。
- (2) 参考文献は各課題についてテキスト以外に3編以上、出版年は10年以内のものとし、必ず各課題の本文の後に記載してください。「保健衛生」テキストは精読していることが前提です。その他の参考文献もエビデンスに基づいた信頼できるものを選び、少なくとも1編以上は成書を用い、インターネット利用の場合でも成書または学術誌がPDF化されたものを優先し、出所を明らかにしてください。
- (3) 『理科系の作文技術』（木下是雄著、中公新書）などを参考に、レポートを作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

体育理論

2単位

A052-0601

【講義要綱】

体育学は、人間の身体活動を対象とした応用科学であり、その範疇は広く人文・社会・自然科学全てに及びます。本科目は、人間の行う身体活動の意味を幅広く理解することを目的とするものです。健康で豊かな日常生活のための身体活動について、その現代的意義を考え、また運動として実践するための基礎的知識を得る、さらにスポーツ・運動が人間の社会にどのように根付いてきたか、その文化的背景などについての理解を深めていきます。

レポート課題は3題の中から1題の選択としますが、試験においては全範囲にわたって総合的な理解を求めます。

【テキストの読み方】

各章の最後にあげた参考文献を補助的に用いて、テキスト本文の理解を深めてください。補助教材『学習のすすめ』体育理論の学び方も参考にしてください。

【参考文献】

玉木正之『スポーツとは何か』講談社現代新書、1999年
安部孝・琉子友男編『これからの健康とスポーツの科学 第四版』講談社、2015年
宮下充正『トレーニングの科学的基礎（改訂版）』ブックハウスHD、2007年
杉晴夫『筋肉はふしぎ』講談社ブルーバックス、2003年
勝田茂『入門運動生理学 第3版』杏林書院、2007年

【レポート作成上の注意点】

3000字～4000字を目安とし、参考にした文献を明記してください。引用した場合、必ず文中に注・番号を入れ、文末に文献名・引用頁を明示して対応させてください。自身の主張と文献からの引用を区別して論述を展開するように心掛けてください。「塾生ガイド」の中の「レポート作成上の注意」を確認してください。特に「参考文献の使用」を熟読願います。

【成績評価方法】

科目試験による。

文学部専門教育科目

西洋哲学史Ⅰ—古代・中世—

4単位

L064-8801、L8840

【講義要綱】

西洋哲学の流れをたどり、その源泉となった著作を自ら精読することにより、哲学の問題と方法に触れることを目的とする。指定教科書の構成は以下の通りである。

序説 哲学史の意義とその研究方法

本論 第一部 古代哲学

第一篇 ギリシア自然哲学時代

第一章 イオニア学派

第二章 ピタゴラスとその学派

第三章 エレア学派とヘラクレイトス

第四章 多元論的宇宙観

第二篇 ギリシア人文啓蒙時代

第一章 ソフィスト達

第二章 ソクラテスとソクラテス学派

第三篇 ギリシア大系統出現の時代

第一章 デモクリトス

第二章 プラトン

第三章 アリストテレス

第四篇 ヘレニズムの時代

第一章 エピクロス学派

第二章 ストア学派

第三章 懐疑論者達

第四章 新プラトン学派

第二部 中世哲学

第一篇 教父哲学

第一章 ギリシア系初代護教家

第二章 アレクサンドリアの宗教哲学

第三章 後期のギリシア系諸教父

第四章 ラテン系諸教父

第二篇 スコラ哲学（抜粋）

第一章 ペトルス・アベラルドゥス

第二章 ギルベルトゥス・ポレタヌス

第三章 トマス・アキナス

参考文献 研究課題

あとがき

【参考文献】

内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕—フィロソフィアの源流と伝統』ミネルヴァ書房、1996年

内山勝利・中川純男ほか編『哲学の歴史』第1巻（古代Ⅰ）、第2巻（古代Ⅱ）、第3巻（中世）、中央公論新社、2007-2008年

【レポート作成上の注意点】

- ・レポートの書き方については、河野哲也『レポー

ト・論文の書き方入門』第3版、慶應義塾大学出版会、2002年を参考にすること。

- ・教科書や課題図書をそのまま引用するのではなく、自分のことばで考えて書くこと。
- ・課題図書の内容に言及するときは、巻、章、節など引用箇所を明記すること。とくに、①の場合は、欄外にある90A等の記号、②の場合は、欄外にある1253a等の記号を、③の場合は122等の記号を明記することが望ましい。
- ・課題図書、教科書、参考書以外に参考にした書物があるときは、レポートの末尾に、「参考文献」としてまとめ、文中で引用する場合には出典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋哲学史Ⅱ—近世・現代—

3単位

L007-5302、L17b

【講義要綱】

『西洋哲学史Ⅱ』では、西洋近代の主立った哲学者の思想を時代順に紹介していきます。哲学では自分で問題を立てて考えていくことが重要ですが、自分勝手な思考に陥らないために、過去の哲学者の思想に習熟することは重要な訓練になります。この科目ではそういった基礎的な哲学的な知見の獲得を目指します。

【テキストの読み方】

難解な概念に出会ったら、哲学辞典を繙いたり、参考文献・関連文献を読みながら、基礎知識を得た上で、何度も何度も反復して内容を考えることが必要です。「分かった」というのは、映画やドラマの一シーンのように、その思想の姿を心に思い描き、それを語ることができるようになった状態です。言葉を国語辞典を使って説明したような文章は分かっているとは言えません。心に「思想を表す絵、その姿」を思い描けるようになるまでじっくり読んでください。

【履修上の注意】

教科書に記されている概念や用語を羅列したり並べ直すことで済ませるのではなく、概念と思想を自分で理解した上で、身近な事例に引き寄せて考えるようにしてください。他人の思想を「写経」しただけではいかなる御利益も得られません。

【参考文献】

伊藤博明編『哲学の歴史』第4巻（ルネサンス）、小林道夫編同第5巻（デカルト革命）、松永澄夫編同第6巻（知識・経験・啓蒙）、加藤尚武編同第7巻（理性の劇場）、須藤訓任編同第9巻（反哲学と世紀末）、

【レポート作成上の注意点】

- ・レポートの書き方については、様々な論文執筆法が出版されていますので、かならずそれらに準拠して書いてください。優れたものはたくさんありますが、ここでは戸田山和久『論文の教室』（NHK ブックス）を挙げておきます。
- ・教科書や課題図書をそのまま引用するのではなく、自分の言葉で考えて書くこと。レポート作成は「写経」ではありません。いくら立派なことが書いてあっても、写しただけであったり、自分のものとして咀嚼されていなければ、コピー機の作業と同じです。それはレポートとは言えません。
- ・課題図書の内容に言及するときは、使用したテキストを出版社、出版年を含めて、頁数を銘記すること。その際に略号を使用する場合は、論文執筆法を参考にすること。
- ・課題図書、教科書、参考書以外に参考にしたものがある場合は、レポートの末尾に、「参考文献」としてまとめること。
- ・くれぐれも申し上げますが、ただ切り貼りして写しただけのレポートはレポートとは言えません。自分の言葉でまとめた結果、間違いが出てくるとしても、写しただけのものより数段優れています。自分の心に刻まれた思想を文章にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

論理学(L)

2単位

L037-7703、L7742

【講義要綱】

論理学の研究はアリストテレス以来長い歴史をもっています。私たちが何かを推理するときに不可欠の規則が論理規則と呼ばれ、それがないと考えることさえ覚束ない基本的な規則と考えられています。それを研究するのが論理学で、19世紀末のフレーゲの研究によって論理学はそれまでにない新たな発展をすることになります。数学的な思考と記号の使い方が論理学に取り入れられ、数学やコンピュータ科学と結びつきながら、様々な分野で応用され、基礎研究には欠かせない役割を演じています。

この講義では論理的な推論や真偽概念について基本的な事柄を学んだ人を対象に、それらを実際に使うことができるようにすることを目的にしています。それによって自分が論理的に考えることができるようになるだけでなく、他人の考えが正しいかどうかもしっかり判定できるようになれることを目指しています。

【テキストの読み方】

文学部の他のテキストと違って記号や数式、論理式がたくさん登場します。自然な言語ではなく、記号言語を使って文や命題を論理式に書き直し、推論が正しいかどうか調べるのが主要な内容ですから、それを

しっかり肝に命じて読み進めてください。実際に問題を解く解き方が丁寧に説明されていますから、普通に読み進めれば、テキスト以外の参考文献を参照しなくても完全に理解できます。根気強く読めば、このテキスト一冊だけで論理的な推論の構成や吟味が自分で理解できるようになります。その意味で、このテキストは論理的な推論についてのマニュアルだと考えてください。

【関連科目】

論理学が生まれた経緯や歴史から哲学が強い関連をもった科目です。推論することが主要な研究方法である哲学では論理的な推論が大切な道具になっていますから、論理学の知識は哲学の問題を扱う上で役立つはずです。また、数学的な形式をもった内容ですから、数学基礎論、計算理論、コンピュータ言語等は論理学と密接に結びついています。さらに、言語学との関連も20世紀後半には強くなり、統語論、意味論等で重要な役割を果たしています。

【参考文献】

論理学のテキストはたくさんありますが、テキストの読み方で書いたように、このテキストはマニュアルですから、複数のマニュアルは必要ありません。他の論理学のテキストをまずは忘れてこのテキストだけに集中してみてください。どれも似た内容なら一冊だけ暗記するほどに読むのが一番です。

【レポート作成上の注意】

他の文献を参照する必要はありませんから、テキストの内容だけを十分に使ってレポートを作成してください。文献を検索し、巧みにそれを使うのではなく、テキストの内容を正しく理解し、それだけを使って問題を解くことに専念してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

科学哲学

4単位

L089-0401

【講義要綱】

科学哲学は科学についての哲学で、それを概説したのがこのテキストです。テキストは第一部の総論、第二部の各論からなっており、第一部はテキストの順序通りに読んでください。第二部は順序通りでなくても構いません。

テキストでは科学的な知識がどのような特徴をもっているかが中心課題の一つになっており、それを「自然の変化」をめぐって考察する仕方で議論が進んでいきます。実際には各論から話を始める方が具体的なのですが、まず全体像を把握してもらうために科学史、思想史から始まっています。

科学を知った上で科学哲学を研究するのが普通ですが、テキストには科学的な事柄も必要なものは入っています。ですから、科学に関心さえあれば、テキストを読み進めていけるはずです。

【テキストの読み方】

テキストをどのように読み進めるかはきわめて重要です。そこでこのテキストの読み方について説明します。このテキストは論証の部分と、歴史的経緯や状況の説明の部分とからなっています。事件や事実を叙述する場合と、その背後のからくりや原因と結果の関係を推理する場合は大きく違ってきます。叙述の代表は小説や報道記事です。何が何時どのようなようになったかという報告は、素直に読むだけで事の経緯がわかりますから、考えながら読む必要はありません。映画やテレビドラマが面白いのは筋の展開や心理描写にあり、それらは考えなくてもわかります。一方、論証の代表例は数学の定理の証明です。シャーロック・ホームズの推理も論証の一つです。数学の定理や名探偵の推理はしっかり考えないとわかりません。このテキストはこれら二つの異なる部分、つまり論証部分と叙述部分からなっていることに注意してください。

読んでいる部分が論証なのか、叙述なのかをまず確認してください。いずれの部分かによって読み方が違ってきます。論証部分はかつて数学のテキストを読んだときのことを思い出しながら、その時と同じように読んでみてください。時間をかけてゆっくり読まなければなりません。途中でわからなくなったら先に進むのではなく、前に戻らなければなりません。何度も前のページを見返すことが必要になります。一人で読む場合、このような読み方は一方的に辛抱強さを要求しますから、ついつい加減になったり、読み飛ばしたりしてしまいます。辛抱強く、何度も読み返す、わかるまで頑張る、といった根気が求められます。これに対して、叙述の部分は日本語さえわかれば大抵苦勞なしに理解できます。正確に理解することを心掛ければまず心配は要りません。用語や人名が不明ならそれを調べる程度で済みます。でも、自分が正しく内容を理解したかどうかの確認は叙述の部分の方が厄介で、誤解しないよういつも注意しなければなりません。論証部分はわからない場合にはわからないという自覚が必ずあり、わからないことがはっきりわかります。

さらに、このテキストのもつ特徴は（問）があちこちにあることです。問は必ず解答してください。テキストの内容が理解できたかどうかの目安になります。テキストが二つの異なる部分をもつことを念頭に置きながら丁寧に読み進め、必ず「わかった」、「理解した」という確信がもてるまで頑張ってください。

また、テキストはページ数が多くて最初から読みたくないという気持ちになりそうですが、第二部の各章は半ば独立していますので、好きな章から読み始めて構いません。

【履修上の注意】

科学的な知識を多くもっている必要はありませんが、科学に関心・興味をもっていることが必要です。

【関連科目】

科学の哲学ですから、科学のどの科目も関連科目ということになります。しかし、伝統的に科学哲学は自然科学の哲学として研究されてきました。ですから、まずは自然科学が関連する科目であると考えてください。それらの多くは総合教育科目のはずです。社会科

学や歴史の科目であっても、研究の方法や対象に関する哲学的な考察が含まれていれば、十分に関連科目と言えます。

科学に関するニュース、記事等は実に多いですから、それらに関心を寄せ、気にするようにしてください。

【参考文献】

科学に関する啓蒙書、科学雑誌、科学的なエッセイ、伝記等、科学に関するあらゆる本が参考文献になります。科学についての知見を広めるためにいろんな文献を貪欲に読んでください。
西脇与作編『入門科学哲学』慶應義塾大学出版会、2013年
森元良太・田中泉史『生物学の哲学入門』勁草書房、2016年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献を写すのではなく、自分で推論した内容を書いてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

倫理学

2 単位

L065-8902、L8958

【講義要綱】

本書では、普遍的な倫理追究の型として、次の6つを取り上げて説明します。

- 1) ユダヤ・キリスト教
- 2) アリストテレスの目的論
- 3) カントの義務論
- 4) ムーアのメタ倫理学
- 5) シェーラーの価値倫理学
- 6) 生命倫理

【テキストの読み方】

『塾生ガイド』の「学習指導室から テキストの学習」（第4章「通信授業（テキスト）による学習①」）に従ってください。

【参考文献】

小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内一理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年
柘植尚則『プレップ倫理学』弘文堂、2010年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』の「レポート作成上の注意」（第5章「通信授業（テキスト）による学習②」）に従ってください。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代倫理学の諸問題

4単位

L045-7802、L7844

【講義要綱】

20世紀の倫理学をとりまく学問的状況、研究対象としている問題（実存、他者、世界、言語、宇宙における人間の位置、価値）を概観することを通して、倫理学という学問についてより深い理解を得ることを目的とします。

【テキストの読み方】

『塾生ガイド』の「学習指導室から テキストの学習」（第4章「通信授業（テキスト）による学習①」）に従ってください。

【関連科目】

倫理学

【参考文献】

山内志朗『小さな倫理学入門』慶應義塾大学出版会、2015年
柘植尚則『ブレップ倫理学』弘文堂、2010年
柘植尚則『入門・倫理学の歴史—24人の思想家—』梓出版、2016年
小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内—理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』の「レポート作成上の注意」（第5章「通信授業（テキスト）による学習②」）、『レポート課題集』の「レポート課題」の注意1～3をよく読んでください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本美術史Ⅰ

2単位

L116-1401

【講義要綱】

日本美術史のうち、江戸時代までを扱います。日本は中国および韓国から多大な影響を受けて自国の文化を形成しました。美術についても同様であり、これら大陸の美術状況を見無視してはこの時代の日本美術を語ることはできません。したがって、第一に中国や韓国のどのような影響を受けているのか、第二にそのような受容において日本独自のものがあるのか、あるとすればどのようなものか、という2つの視点が必要です。これを、観念的にではなく、自身の目で観察し、作品の特質とそのような作品が産み出された背景について、具体的な証拠を挙げて論証することが、美術史学です。したがって、テキストや文献を読むのと同時に、自身で作品と出会い、作品を「読む」こと、つまり観ることが重要です。

【テキストの読み方】

作品を味わうことがなければ「日本美」は理解できません。テキスト（『日本美術史Ⅰ』）は縄文時代以降の日本美術を通史的に扱っていますが、どのように作品を味わうかという点に重点を置いているため、取り上げている作品に限りがあり、重要作品全てを網羅するものではありません。したがって、参考文献に挙げた図書等を利用し、できるだけ多くの作品を多角的に見る訓練を積んでください。

【履修上の注意】

美術史学は読んで理解するだけではなく、自身の目で見て会得するものです。あるいは、自身で観察した上でなければ、どのような解説書を読んでも理解できないというべきでしょうか。したがって、履修者ではできれば実作品を見学するか、少なくとも写真によって観る訓練を積むことが必要です。概説を引き写しただけのレポートは評価しません。自身の観察したもので裏付けしつつ文献を読むように努めてください。

【参考文献】

- 『日本美術館』小学館、1997年 ほか美術史概説書類
- 『原色図典 日本美術史年表』集英社、1986年 ほか美術史年表類
- 『日本美術全集』講談社、1990—1994年 ほか大型日本美術の全集類
- 林温『日本美術がワカル本 「女性性」の文化』慶應義塾大学三田哲学会叢書、慶應義塾大学出版会、2017年

【レポート作成上の注意点】

インターネットを利用する場合、引用するなら文責者が明示されているものに限ります。ある著書からの引用なら、原本を参照すること。大事なことは、だれの意見なのかを明示することで、参考書の内容を自身の考えのように引き写さないこと。「だれそれはこう述べているが、自分はこれこれの理由でこう考える」といった論調が好ましい。したがって、本文中に引用を行う場合は必ず註を付け、最後に参考文献を挙げること。

また、レポートは感想文ではないということを忘れずに。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学史Ⅰ

2単位

L081-9791

市販書採用科目

【テキスト】

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣アルマ、1997年

【講義要綱】

「社会学史Ⅰ」では社会学の歴史の全体を概観する。おおまかに言えば、社会学の歴史は、サン＝シモン、

コント、マルクスらの第一世代とともに始まり（誕生期）、デュルケム、ウェーバー、ジンメル、ミードらの第二世代によって確立され（成立期）、パーソンズ、マンハイム、シュッツ、ブルーマーらの第三世代によって展開され（展開期）、そしてルーマン、コールマン、ハーバーマス、フーコー、ゴフマン、ガートン、インケル（エスノメソドロジー）、ブルデュー、ギデンズら現代の社会学者たちへと受け継がれている。まずこの社会学の流れの全体像を把握し、そのうえでいずれかひとりの社会学者をとりあげて、その社会学者の学説をさらに深く掘り下げて理解することがこの講義の目的である。

【テキストの学習方法】

まずテキスト（『クロニクル社会学』）を通読して社会学の歴史の全体像を把握する。そのうえでテキストで取り上げられている社会学者から、関心をもった社会学者をひとり選んで、テキストの「読書案内」にしたがって、さらにその社会学者の学説について研究を深める。

【参考文献】

わからない用語がでてきたときに自分で調べられるよう、以下の小辞典のうちいずれかを手元に置くことが望ましい。

『岩波小辞典社会学』岩波書店

『社会学小辞典』有斐閣

社会学全般に関しては、

長谷川公一・浜日出夫ほか『社会学』有斐閣

【レポート作成上の注意点】

「社会学史Ⅱ」と同一の文献を選択することはできない。

分量は4000字以内。ただし1割程度の誤差にとどめること。ワープロを使用する場合は、末尾に総字数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学史Ⅱ

2単位

L082-9591

市販書採用科目

【テキスト】

徳永恂・厚東洋輔編『人間ウェーバー』有斐閣双書、1995年

【講義要綱】

「社会学史Ⅱ」では、社会学の歴史全体を概観した「社会学史Ⅰ」をふまえて、第二世代の代表的な社会学者のひとりであるマックス・ウェーバーをとりあげ、その社会学の特徴をさらにくわしく考察する。したがって受講者は「社会学史Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

ウェーバーの業績は、（狭い意味の）社会学にとどまらず、宗教研究、政治論、学問論など広範な分野にまたがる。まずウェーバーの業績の全体像を概観した

うえで、いずれかひとつの分野をとりあげて、その分野におけるウェーバーの仕事をさらに深く掘り下げて理解することがこの講義の目的である。

【テキストの学習方法】

まずテキスト（『人間ウェーバー』）を通読してウェーバーの業績の全体像を把握する。そのうえでテキストの「読書案内」にしたがって、関心をもった分野におけるウェーバーの著作をひとつ選び、その著作を通してさらにその分野についての研究を深める。

【履修上の注意】

「社会学史Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

【参考文献】

「社会学史Ⅰ」と同じ。

【レポート作成上の注意点】

「社会学史Ⅰ」と同一の文献を選択することはできない。

分量は4000字以内。ただし1割程度の誤差にとどめること。ワープロを使用する場合は、末尾に総字数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会心理学

2単位

L087-0301

【講義要綱】

最初に「社会心理学とはどのような学問か」を歴史や方法を概観しながら理解する。その上で、個人の問題から社会の問題と順に展開する。まず、社会における個人の問題として「欲求と動機づけ」「自己」「社会的認知」の問題を扱う。次に、個人と個人の関係について「説得と態度変容」「対人魅力」「対人交渉」「攻撃と援助」などを学ぶ。最後に集団や社会について「リーダーシップ」「集団での意思決定」「マスコミュニケーション」「イノベーションの普及」などを学ぶ。社会心理学が扱う対象は私たちの暮らしの中で見出される現象と密接にかかわっている。身近な現象に対して、「なぜこのようなことが起きるのだろうか」「そのような問題が生じるのはなぜなのだろうか」といったことを想定しながらテキストや参考書をよく読み、理解を深める。

【テキストの読み方】

まず第1章で社会心理学を概観するが、最初は細部までこだわる必要はない。2章以降については順に読み進めるのが基本だが、関心のある章から順に読んでいってもよい。一通り読んだところで再び1章を読むと社会心理学の全体がよくわかる。

【履修上の注意】

テキスト以外に社会心理学関係の参考書を少なくと

も1冊は選び、読んでみてください。概論的なものでなく興味のある分野のものでも構いません。

【関連科目】

心理学Ⅰ—基礎過程—

心理学Ⅱ—実験・測定・モデル—

【参考文献】

小川一夫（編著）『新・くらしの社会心理学』福村出版、1995年。

永田良昭・飛田操（編著）『現代社会を社会心理学で読む』ナカニシヤ出版、2009年。

遠藤由美（編著）『社会心理学：社会で生きる人のいとなみを探る』ミネルヴァ書房、2009年。

安藤香織・杉浦淳吉（編著）『暮らしの中の社会心理学』ナカニシヤ出版、2012年。

堀毛一也・竹村和久・小川和美（共著）『社会心理学：人と社会の相互作用の探求』培風館、2017年。

【レポート作成上の注意点】

日常生活や社会でみられる様々な葛藤や課題について、社会心理学によって説明できることを目標とします。したがって、日ごろから対人関係、集団や社会の問題について目をむけ、そうした問題がなぜ生じるのかを考えてみるようにしてください。そうした人々の行動は、とらえ方によって複数の見方ができます。複数の理論やモデル、効果で説明されるというのはある行動が多面的に捉えられるということです。

テキストや参考書の中には、社会心理学の理論によって説明される具体例が掲載されていることもあります。そうした例を使用する際には、必ず引用箇所を明示し、それに類似した自分が経験した事例についても理論的に説明するようにしてください。インターネットで知識を得る場合も同様です。インターネットの活用も大事なことですが、出典を明示した上で引用は最小限にとどめ、必ず自分自身のコメントをつけるなど考察の材料となるようにしてください。この課題を考えるにあたり、社会心理学以外の参考書を用いることもできますが、その場合も社会心理学的な考察を必ず加えてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・都市社会学(L)

2単位

L127-1791

市販書採用科目

【テキスト】

松本康編『都市社会学・入門』有斐閣、2014年

【講義要綱】

本科目は、都市社会学の基本的な考え方を学ぶことをつうじて、都市社会現象を社会学的に理解する力を養うことを目的とする。

テキストにしたがい、つぎのような構成で議論をすすめてゆく。序章では「都市社会学の問い」を定式化

する。第Ⅰ部「都市化とコミュニティの変容」では「都市はなにを生みだすか」という問いの軸にそって、「都市社会学の始まり」「アーバンイズム」「都市生態学と居住分化」「地域コミュニティ」「都市と社会的ネットワーク」について論じてゆく。第Ⅱ部「都市の危機と再編」では「なにが都市を生みだすか」という問いの軸にそって、「都市圏の発展段階」「情報化・グローバル化と都市再編」「インナーシティの危機と再生」「郊外のゆくえ」について論じる。第Ⅲ部「時間と空間のなかの都市」では「いかに都市とかかわるか」という問いの軸にそって、「都市再生と創造都市」「文化生産とまちづくり」「アジアの都市再編と市民」「ボランティアと市民社会」「都市の防災力と復興力」について論じる。

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。コラムまで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。

- ・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年
- ・園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年
- ・吉原直樹・近森高明編『都市のリアル』有斐閣、2013年

【レポート作成上の注意点】

以下の5条件がそろわなければ合格となりませんので、注意してください。

1. テキスト以外に5点以上の参考文献を用いること。
2. 字数は3600字以上4000字以内（注を字数に含む。参考文献リストは字数に含めない）。
3. 論述は社会学的視点からなされること。
4. 注をつけること。
5. 参考文献リストを作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理学Ⅰ—基礎過程—

2単位

L048-7902、L7960

【講義要綱】

ここでは、感覚、知覚、認知、記憶、学習、動機づけ、感情などの基礎過程に関する個体の心理について学習する。ただし個体の心理といっても、知能・性格などの個体差についてではなく、個体に共通な一般的性質をとり上げる。

テキストは行動の科学としての心理学という視点か

ら述べられているが、心理学の諸学説を紹介するのも、特定の学説による主張をしようとしたのではない。むしろ、心理学が扱ってきた基礎過程に関する事実としての研究成果を、この視点から系統づけようとしたものであり、既に得られた心理学の知識を改めてこの視点から考えてみていただきたい。(テキストまえがきより一部改変)

【テキストの読み方】

専門用語を1つずつ、参考文献を利用しながら理解していくことが重要である。

【履修上の注意】

総合教育科目で心理学を修めたこと、もしくはそれと同等の学力を有していることを前提として、テキストは書かれている。

【参考文献】

中島義明ほか編『心理学辞典』有斐閣、1999年
J. E. メイザー著『メイザーの学習と行動 (日本語版 第3版)』二瓶社、2008年

【レポート作成上の注意点】

1. 参考文献を明らかにしていないレポートは採点できない。
2. 他人の著作を丸写しにただで、自分の見解のないレポートは、それだけで不合格となる。
3. 内外の学術論文を事前に充分参考とすることで書きはじめる前にレポートを構成する図表や、論文の書き方をよく理解すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理学Ⅱ—実験・測定・モデル— 2単位

L042-7702、L7761

【講義要綱】

この科目は、基礎の心理学の重要な研究方法である実験・測定・モデルについて学ぶことにより、実証科学としての心理学の考え方を理解することを目的とする。したがって履修者は、個々の現象や実験結果の細かい点に気を取られすぎずに、どうしてそのような実験が必要となったのか、実験結果からどのようにしてどのような考察が引き出されたのか、といった研究における考え方の流れを、論理的に筋道立てて理解するよう努力してほしい。

本テキストは書かれてからかなりの年月が経過し、その間に心理学は大きな発展を遂げている。その意味からもテキストだけを勉強するのではなく、下記の参考書などを十分に活用して勉強してほしい。特に(1)『認知心理学を知る』からは、毎回かならず科目試験の問題が出題されるので、テキストとあわせて十分に勉強しておく必要がある。

【テキストの読み方】

本テキストは独学で学ぶには非常に難解で、数学や

統計学の基礎知識もある程度高い水準のものが要求される。もちろんある程度の数学・統計学の知識は心理学を学ぶ上で必要なものである。しかし、本科目の履修に際しては、数式や数学的手法を完全に理解することよりも、考え方・精神を理解することに主眼を置いてほしい。

【履修上の注意】

履修者は、参考文献(1)の『認知心理学を知る』をあわせて勉強することが要求される。科目試験では、テキストのみではなく、この文献からも問題が出題される。また、ある程度の数学・統計学の知識があることが望ましい。最低限、総合教育科目の統計学、あるいは文学部専門教育科目の心理・教育統計学を修得している必要がある。

【関連科目】

「統計学(A)(総合教育科目)」、「心理・教育統計学(文学部専門教育科目)」

【参考文献】

- (1) 市川・伊東編『認知心理学を知る 第3版』おうふう、2009年
- (2) 井上・佐藤編『日常認知の心理学』北大路書房、2002年
- (3) 仲真紀子編『認知心理学』ミネルヴァ書房、2010年

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成に際しては、読者として「心理学Ⅱ」の授業を履修する基礎学力は持っているが、まだ履修前の学生を想定すること。実験の紹介は、目的、方法、結果、結論に分けて簡潔、かつ明瞭に記すこと。紹介する研究は、原則として専門誌などに掲載された論文に直接あたること。心理学研究、認知心理学研究、基礎心理学研究などの雑誌が読みやすいと思われる。ウェブ上でCiNii Articles、J-STAGEなどのデータベースを利用するのもよい。引用・参考文献はもらさず記す。その際、形式はテキストや参考書などに倣い、標準的な方法にして一貫性を保つこと。横書きに限る。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育学 3単位

L073-9301、L9383

【講義要綱】

いわゆる狭義の「教育」は人間形成の過程(学び)への意図的な介入として定義づけることができます。したがって「教育学」とは、こうした「教育」という視座に立つことによって、そこで生ずる実践上の様々な問題や理論的諸問題を解決しようとして成立した「術」であり、またその反省としての学問と考えることができます。つまり教育学とは「教育問題」の科学なのです。この科目ではこうした考え方を「学

問知」の成立や構造を理論的かつ歴史的に考察することが履修上の目標です。概念史的に見て「教育」という概念はいついかなる状況下で成立したのか、またその意味は何かを問うことの上で、その説明の仕方には歴史上様々のものがあり、それらはいくつかの類型に分類することができます。それらの説明の歴史と類型を踏まえて、さらに私たちは、この「教育」をどのように説明したらより適切な説明であるのか、その理論的提案を吟味します。さらに、この理解に立って、教育学上の主要問題のいくつかを分析・吟味することになります。

以上のような趣旨を充分に理解された上で、とりわけ現代の教育に思想的にも現実的にも直接の繋がりのある、17、18世紀に成立したいわゆる「近代教育理論」の形成と過程と理論構造の検討がこの科目の焦点となることは言うまでもありません。この世紀こそ「教育の世紀」と呼ばれるほど、子どもへの関心そして新たな教育への関心が増大し、また質的な発展を見せた時期はありません。この時期に誕生を見た近代教育学は多くの新しい示唆と観方を生み出しましたが、その一方で今日の近代教育批判にかかわる多くの問題性を潜在的に持っていました。したがってこの講義の履修を希望される方にはテキストの記述を参考に自からロックやカント、ルソーやヘルバルトさらにはデューイなどの言説を、古典的テキストを熟読吟味することを介してこうした問題性を考慮しながら批判的に考察して頂けることを期待します。

【関連科目】

「教育思想史」

【参考文献】

田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年
中内敏夫『教育学第一步』岩波書店、1988年
村井実『「善さ」の復興』東洋館出版社、1998年
*絶版本は図書館で借りるか、インターネットの古書サイトで入手可能。

【レポート作成上の注意点】

まず、レポート課題は何を問うているかを正確に理解すること。

次に、テキストを丹念に読み込んだ上でその正確な理解に立って課題の問いに応じた学習活動（参考文献の読み込みなど）を展開し、課題の問いに則してレポートを作成すること。レポートの冒頭にレポート課題を改めて記入することは不要。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育心理学

2単位

L114-1301

【講義要綱】

教育という人間に特有の学習のあり方の科学的解明をめざすのが教育心理学である。「発達」「学習」とい

う基本的な心理学的メカニズムの理解の上に、学習環境と教育実践に関する認識を深めてもらうことが本テキストの目的である。内容は古典的な学説から最新の知見まで含まれ、多数のコラムも加わって、教育心理学の多面性を学ぶことができるだろう。

【テキストの読み方】

テキスト本文の学習だけでなく、コラムにも関心を寄せて、具体的な事例を想定しながら理解を深めてほしい。

【参考文献】

並木博編著『教育心理学へのいざない（第3版）』八千代出版、2008年
鹿毛雅治編『教育心理学（朝倉心理学講座）』朝倉書店、2006年

【成績評価方法】

科目試験による。

教育史

4単位

L117-1401

【講義要綱】

「教育」の史的展開をマクロなレベルでとらえるならば、それを、①「習俗としての教育」（生活空間の中に教育空間が包摂される段階）、②「組織としての教育」（教育が一定の組織を通して行われる段階。階層差・地域差・性差などの偏差が存在）、③「制度としての教育」（②の段階に残されていた偏差を解消し、全国民子女を対象に組織的な教育が行われる段階）、という三つの段階を辿ってきたものと理解することができる。そして、今日の日本の教育が③の段階を基軸とするものであることは論を俟たない。

だが、①から③への教育史の進展は、これを単純に「進歩」や「発展」としてのみ評価できるものではなく、①や②の段階に包含されていた様々な教育的価値を切り捨てることで、③の段階の教育が成立したという見方も成り立つ。地域（共同体）の教育力の低下が叫ばれたり、子どもの学習意欲の低下が問題視されたりすることも、その一つの証左といえる。

本テキストは、この国において、近代以後に「制度としての教育」が確立・整備されてきたこと、しかもその教育制度が「国家による国民形成」として行われてきたことに着眼点を据え、その意味での日本の「近代教育」にどのような教育上の問題を認めることができるのか、に重大な関心を注いでいる。さらに、国家による国民形成としての「近代教育」をもって、唯一絶対の教育様態と理解するような発想を相対化し、教育のあり方を多様な視角から追求する必要を論じている。

履修者には、上記①②③の次の段階に到来することが期待される「教育のかたち」を追求することを目指して、テキストの叙述内容に思想的格闘を挑まれることを期待したい。なお、指定教科書の構成は次の通りである。

はじめに一本書の前提となる諸問題

- 第1章 「組織としての教育」の胎動と進展—古代・中世
- 第2章 近世における教育組織化の諸動向
- 第3章 江戸時代の「学び」
- 第4章 「近代教育」の発足（その1）—「学制」とその教育理念
- 第5章 「近代教育」の発足（その2）—「教育令」の制定と改正
- 第6章 「近代教育」の発足（その3）—復古主義の台頭
- 第7章 「近代教育」の確立（その1）—森文政期の教育改革
- 第8章 「近代教育」の確立（その2）—「教育勅語」の渙発
- 第9章 「近代教育」の確立（その3）—明治後半期の教育改革
- 第10章 「近代教育」の確立（その4）—明治期の教授理論
- 第11章 「近代教育」の見直し（その1）—大正新教育運動
- 第12章 「近代教育」の再編（その1）—大正期の教育改革
- 第13章 「近代教育」の再編（その2）—昭和戦前期の教育
- 第14章 「近代教育」の再編（その3）—戦争と教育
- 第15章 「近代教育」の見直し（その2）—戦後新教育の動向
- 第16章 「近代教育」の再興（その1）—講和・独立後の教育政策動向
- 第17章 「近代教育」の再興（その2）—高度経済成長と教育
- 第18章 「近代教育」の混迷—国家統制と市場原理
- むすび 「制度としての教育」の次へ

【テキストの読み方】

個々の教育史の動向を、絶えずより大きな教育史の流れの中に位置づけながら理解することに心掛けてほしい。

【履修上の注意】

テキストまたはスクーリングで「教育学」を履修していることが望ましい。なお、日本史の知識については、高等学校の教科書程度があれば問題ない。

【関連科目】

教育学

【参考文献】

- 天野郁夫『大学の誕生（上）（下）』中央公論社、2009年。
- 沖田行司『人物で見る日本の教育』ミネルヴァ書房、第二版、2015年。
- 海後宗臣・仲新『教科書でみる近代日本の教育』東京書籍、1979年。
- 佐藤秀夫『教育の文化史』全4巻、阿吽社、2004年。
- 辻本雅史・沖田行司編『教育社会史』山川出版社、2002年。

辻本雅史『「学び」の復権』岩波現代文庫、2012年。
『論集 現代日本の教育史』全7巻、日本図書センター、2013-14年。

【レポート作成上の注意点】

一つには、実証的な内容であることに留意すること。そのため、歴史事象の記述についてはできる限り第一次資料に基づいて出典を明記してほしい。もう一つには、教育史の流れを大局的に把握すること。そのため、時代背景を踏まえるとともに、事象が生起するに至るまでの歴史的経緯をよく理解してほしい。また、当該事象の今日的意義やその後の歴史に与えた影響を視野に含めた記述内容であることも必要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育思想史

4単位

L122-1601

【講義要綱】

現代教育の理念的基盤が成立した18、19、20世紀のヨーロッパとアメリカの教育思想、人間形成論の特徴を、古代、中世、近世の教育思想との比較の中で理解してもらうことを目指している。その際、特に政治や社会や文化との関係に着目し理解することを期待している。

【テキストの読み方】

全体を通読した上で、直接、課題のテーマにかかわる18世紀以降の部分を読解すること。

【履修上の注意】

教育学に関する基礎知識、西洋史の知識を学んだ上で履修するのが望ましい。

【関連科目】

教育学

【参考文献】

- 宮澤康人『近代の教育思想』（3訂版）放送大学教育振興会、2003年
- 宮澤康人『教育文化論』放送大学教育振興会、2002年
- 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年

【レポート作成上の注意点】

取り上げる思想家の著（訳）書（一冊）と、その思想家についての研究書を一冊以上読了した上で、レポート作成に取り組んでほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育社会学

2単位

L107-1091

市販書採用科目

【テキスト】

久富善之・長谷川裕編『教育社会学（教師教育テキストシリーズ5）』学文社、2008年

【講義要綱】

現代日本社会における教育を主たる対象として、社会的背景と関連させて教育的事象を捉える能力を身につけることが本科目の目標です。別の言い方をすれば、社会学が対象とする教育（現象）の多様さや広がりを確認した上で、それらは一見個々別々の事象ですが、近代社会という共通土台の上に成立している社会的事象であることを理解することが目標です。

加えて、その近代社会が行き着いた先に現代社会があり、近代の完成・成熟としての現代という時代変化への着目が重要です。教育社会学は教育現象を対象とする社会学ですが、教育という社会現象から現代社会を理解する社会学でもあります。よって、制度としての学校教育（1章、10章）や学校内での教育現象（2章～4章）に対象が限定されず、若者の生き方（5章）、〈移行〉（就職）（6章）、子育て（7章）、階層の再生産（8章）、ナショナリズム（9章）などについても教育社会学的考察の対象となります。指定教科書の構成は次の通りです。

序章 教職と教育社会学

第1章 学校という制度と時間・空間

第2章 学校で「教える」とは、どのようなことか

第3章 教師と生徒の関係とは、どのようなものか

第4章 学校教師とはどのような存在か

第5章 若者は今をどのように生きているか

第6章 〈移行〉の教育社会学

第7章 子育て・教育をめぐる社会空間・エージェンツの歴史的変容と今日・未来

第8章 学校の階級・階層性と格差社会

第9章 国民国家・ナショナリズムと教育・学校

第10章 教育改革時代の学校と教師の社会学

【テキストの読み方】

テキストは複数の研究者によって執筆されていて、テーマ也多岐にわたっています。しかし、テキストを通じての問題意識は共通しています。「学力」という言葉は、テキストの複数個所に登場します。どのような「学力」が近代教育において重要視されるのか、また、「学力」は現代社会においてどのように見られているのかについて、テキスト全体の問題意識に位置づけて理解してください。

【履修上の注意】

必修として履修しておくべき科目は指定しませんが、社会学と教育学の基礎知識があるとよい。これら2つの学問に関連する科目をそれぞれ1つ以上履修した上で、本科目を履修することを推奨する。

【関連科目】

上記の「履修上の注意」を参照。

【参考文献】

1. 荻谷剛彦『学力と階層』朝日新聞出版、2012年
2. 山内乾史、原清治編著『学力問題・ゆとり教育（リーディングス日本の教育と社会 第1巻）』日本図書センター、2006年
3. 教育科学研究会編『現代教育のキーワード』大月書店、2006年

【レポート作成上の注意点】

1. 課題は2つに分かれています。①と②が有機的に関連付けられることが求められていますので、一連の課題とであると考えてください。①と②は混在させず、別個に記述してください。
2. レポート執筆ではテキストの読解を中心に記述することが求められています。テキストを理解したうえで、さらにテキストの理解を深めるために参考文献で議論の補強を行い、また、関係するデータとの照らし合わせをしてください。テキスト各章末にある参考文献も活用してください。これらの作業の成果を含めてレポートを執筆してください。
3. レポート記述におけるテキストおよび参考文献の引用参照は、レポート本文中に注を入れて出典箇所の明示が必要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理・教育統計学

3単位

L070-9201、L9262

【講義要綱】

広く行動科学の研究方法としての統計学の入門コースであるが、特に推測統計学の理論的背景を十分理解していただけるようにという願いをこめてテキストを執筆した。このテキストが使用されるようになって、レポートの質が高くなり、また科目試験の成績も良くなっているといった印象を受けることを喜んでいます。

【参考文献】

- 並木博『個性と教育環境の交互作用—教育心理学の課題』培風館、1997年
芝祐順・南風原朝和『行動科学における統計解析法』東京大学出版会、1990年

【成績評価方法】

科目試験による。

法学概論(L)

2単位

L118-1501

【講義要綱】

「法学概論」は、文学部および経済学部専門教育科目として開講されるが、学習の目的とするところは、

法律学の基礎的事項についての知見を掌中にすることにある。今後の日常生活で法との接点を持たなければならない状況が生じた際、そこで得た知識を生かすこと、本講義を通じて法律学への興味が芽ばえ、さらに多くの法分野への取り組みを試みる「きっかけ」となる気持ちが生ずること、新たに修得した異なる分野に関する知識を、自らが専攻する文学・経済学・商学のより深い理解のための拠りどころとすること、いずれも本講義の目指す主旨に叶うものである。そうした意味で当該学科目の位置づけは、まさに「入門講座」の一語に尽きよう。

【テキストの読み方】

さて、それがために、皆さんに提供されたテキストは、できる限り平易な文章で綴られ丁寧な説明により要点の理解が可能であるよう心掛けて執筆された。もちろん初学者にとっては、それでさえも目の前に広がる未知の世界が、得体の知れない茫漠たるものに映るのは、むしろ当然であろう。しかし、まず第一歩を踏み出さないことには、何も始まらない。そこで学習をする、つまりテキストを読み進むために二つの提案をしておきたいと思う。

まず第一は、ひとたびテキストを読み始めたら、自分のできる範囲で分量・日程の予定を組み、冒頭から末尾までなるべく連続した期間のなかで、必ず順を逐って読み切ることを勧めたい。費やす期間はあまり長くないこと、毎日とはいわないまでも前回の記憶の途切れない程度の連続性が必要である。また、読み方は、多少乱暴な表現と受け取られるかも知れないが、とにかく「読破通読」を目標に遮二無二に読む、途中いささか理解に苦しむ箇所があっても、それはそれとして、決して章や一文の飛ばし読みをせず、最終ページにたどり着く姿勢が肝要である。

第二は、テキストを読み進める際に、まずその内容の国語的理解に努めること、すなわち個々の項目についての専門性を主眼とする細密な理解は二次的なものとし、そこに書かれている「日本語」の内容を正確に読み解くことに力を注いで欲しい。用いられた漢字や比喩の意味、主語・述語や文章の構造への誤りない把握は、いかなるジャンルのものであれ日本語による著作を受容する第一歩である。そこで、テキスト読了に向けて日本文の文意文脈を正しく捉えるための道具として、常に国語辞典や漢和辞典を座右に置き、手間を厭わず活用して欲しい。確かに法律学の世界に特有の専門用語の意味が正しく捉えられていないと、入門書とはいえ理解に齟齬を生じる場合もおき得るリスクは否定しないが、そうした点については、テキストの中にも解決の糸口が示されており、「読破通読」の余慶に与ることが可能である。

【履修上の注意】

なお最後に、私は、これまでの対面講義でも、法律学の学習に際し、常に現行法令集である『六法』を必携すべきとの指摘を繰り返してきた。これは本講義においても変更されるものではない。いかなる分野であれ法を対象とする学習においては、最新年度の『六法』をひも解き条文を参照する行動が必須である。その種類や選択を巡るヒントは、テキストに示されてお

り、ここで屋上屋を架することはせず、上述の結論を述べるにとどめた。

【関連科目】

「法学（憲法を含む）」

【参考文献】

霞信彦『法学講義ノート（第6版）』慶應義塾大学出版会、2016年

【レポート作成上の注意点】

叙述の、遮二無二にテキストを読み切るという作業は、一度のみならず繰り返しおこなうことが重要であり、回を重ね、併せて他者の著作を参照するなどの労を積むなかで、次第に理解に深みが増すと思う。こうした後に、初めてレポート課題取り組みへの途が開けることとなる。最初から課題の内容のみに注目してテキストの必要箇所を限定して学習を進めるなど、冒頭に述べた本講義の主旨のいずれにも合致しない。のみならず、体系への視野をもたない断片的かつ生半可な知識は、却って「百害あって一利なし」と言わざるを得ない。また、「まずレポートありき」の典型的なものとして、テキストや参考文献の丸写し・換骨奪胎による提出物（敢えてレポートとは表記しない）が散見されるが、これまた通信教育学習に取り組む本意の「はき違え」甚だしきものと断言しておきたい。いうまでもないが、参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

史学概論

2単位

L027-7403、L7470

【講義要綱】

歴史学は、実証と構想を繰り返しながら営まれる総合的な学問としての性質を有している。「史学概論」は、総合の科学としての歴史学の特性・理論・方法・分類、史料の特質、歴史観の歴史、歴史の事実認識や解釈の問題、歴史学と他の学問領域との関係、歴史補助学の種類などを学び、歴史叙述の意味と役割について考えるための概説的な科目である。それは、歴史を学ぶための入門であると同時に、歴史研究に携わる人にとって常に顧みられるべき重要な理論的諸問題を含んでいる。従って、本科目の主要な目的としては、歴史学の特徴を総合的に検討することによって、自己の歴史研究の成果を、卒業論文という形で執筆する際に必要な理論・方法・基礎概念などについて把握することが挙げられる。指定教科書の構成は次の通りである。

- 第一章 歴史の記述と理論
- 第二章 二つの歴史理論
- 第三章 歴史観の構造
- 第四章 歴史の歴史
- 第五章 歴史における自由と必然

【テキストの読み方】

テキスト並びに参考図書を熟読し、何が問われているのかについてよく理解することがレポート作成に必要である。その際に難解だと感じた箇所については、歴史学に関する事典・辞書・概説書などを用いて、可能な限り理解するための努力を行ってください。さらに、それを通して知的刺激を受け、自由意志で自己の関心を広げ、それと関連した文献を調べて、より多くの書籍を講読してほしい。

【履修上の注意】

「史学概論」に関わる文献だけではなく、歴史全般に関する概説書・研究書を積極的に講読してください。

【関連科目】

文学部第2類のすべての専門教育科目

【参考文献】

- ・E. H. カー 著／清水幾太郎訳『歴史とは何か』（岩波新書、2003年）。
- ・遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会、2010年）。
- ・林健太郎『史学概論』（有斐閣、1970年）。
- ・増田四郎『歴史学概論』（講談社学術文庫、1994年）。
- ・マルク・ブロック 著／松村剛訳『歴史のための弁明』（岩波書店、2004年）。
- ・西村貞二『ブルクハルト』（清水書院、2015年）。
- ・竹岡敬温『「アナール」学派と社会史―「新しい歴史」へ向かって』（同文館出版、1990年）。
- ・二宮宏之『マルク・ブロックを読む』（岩波書店、2005年）。
- ・ヨハン・ホイジンガ 著／里見元一郎訳『文化史の課題』（東海大学出版会、1978年）。
- ・ユルゲン・コッカ 著／仲内英三・土井美德訳『社会史とは何か：その方法と軌跡』（日本経済評論社、2000年）。
- ・弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年）。
- ・ゲオルク・G・イッガース 著／中村幹雄他訳『ヨーロッパ歴史学の新潮流』（晃洋書房、1986年）。
- ・ジョナサン・ハスラム 著／角田史幸・川口良・中島理暁訳『誠実という悪徳 E. H. カー1892-1982』（現代思潮新社、2007年）。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成の際には、単にテキストや参考文献を書き写すのではなく、自分の言葉でわかりやすく表現してください。様々な事柄を論理的に整理し、段落分けを行ってください。また、どのような文献を用いて文章を作成したのかについてわかるように、参照した文献とその頁数を注の中で明記してください。他人の説の引用と自分の考えの区別が明瞭にわかるように気をつけて、執筆してください。手書きでレポートを作成する場合には、読みやすい字で書くように常に心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史概説Ⅰ

2単位

L091-9692

市販書採用科目

（第1回）

【テキスト】

五味文彦・本郷和人・中島圭一著『日本の中世』放送大学教育振興会、2007年

【講義要綱】

源平の合戦・南北朝の内乱・戦国の争乱などに象徴されるように、中世は日本全体が大きく変動した時代でした。しかし、決して徒に戦乱に明け暮れていただけではなく、政治・経済・社会・文化など様々な面で、現代に直結する要素が歴史の表面に浮かび上がってくる時代でもありました。ただテキストを読むだけでなく、なかなか面白いのではないかと思います。さらに別掲の参考書や専門書などで知識と理解を深めてください。

【参考文献】

地域の歴史にアプローチする出発点となるのは、『～県の地名』（平凡社）や『角川日本地名大辞典』です。さらに詳しく調べるには、各自治体で編纂した『～県史』『～市史』の類が有用でしょう。いずれも近隣の図書館で探してみてください。また、テキストの内容を深めるためには、講談社版『日本の歴史』第07～15巻や『日本の中世』全12巻（中央公論新社）を、詳しく優れた通史として薦めます。

【レポート作成上の注意点】

周辺が中世には何という荘園（あるいは公領）だったのか、何という名前の武士（あるいは百姓・商人・職人など）がどのような活動をしていたのか等々、かなり具体的な地域史像を打ち出して下さい。そして同時に、単なる郷土史に終わってしまわないよう、当時の日本全体の情勢の中に、その地域の歴史を置いて論ずることが必要です。なお、海外在住者や北海道民など、現住所の中世を探るのが困難な場合は、何らかの形で自分とゆかりのある土地の中世史をレポートのテーマとして結構です。

また、当然のことですが、参考文献を引き写すだけではダメです。集めた情報をまとめ直した上で、自分の言葉でレポートにしてください。

（第2回）

【テキスト】

鳥海靖『日本の近代』放送大学教育振興会、1996年

【講義要綱】

幕末開国期以降、戦後の高度成長を経て現在に至るまでの日本近代における、それぞれの時期における特徴を、政治・経済・社会・文化など多様な視点から把握し、世界史全体の流れの中に位置づけるよう努めてください。

【テキストの読み方】

テキストはいくつかのテーマに分けて執筆されているので、適宜参考文献で補いつつ、日本近代史全体の流れを把握するようにしてください。

【参考文献】

五百旗頭真『日本の近代』6、中央公論新社、2001年
吉田裕『日本の時代史』26、吉川弘文館、2004年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献の抜き書き、コピーをせずに、自分の言葉と文章とで表現するように努力してください。また、ウェブ・サイトの記事を利用する際には、根拠となる資料に当たるなど、十二分に注意し、出典が明らかでないものは利用を控えるようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊Ⅰ

2単位

—法と政治の日本古代史—

L123-1601

【講義要綱】

日本古代の律令国家は天皇を頂点とする中央集権的な国家機構のもとに、唐制を範とした律令諸制を採用していた。しかし、その実態は唐制と全く同じものではなく、そこには大化前代からの氏族制的な要素が残されている。日本の律令国家が律令制と氏族制の二元的な性格をもっているといわれるゆえんである。そのような国家構造は王権と氏族との複雑な政治的関係の中から生まれた。

テキストでは邪馬台国時代の国家の発生期から大化改新を経て律令制へ、さらに平安時代までの法と政治の変遷を辿っている。日本古代における国家の法や制度の成立過程を辿り、その政治的背景を理解することで日本古代国家の特色を理解することが学習の目的である。

【テキストの読み方】

テキストは自主的な学習の発展に期待する意味で最小限の事柄だけを記しています。参考書と関連させて自分自身で内容の理解を深めてください。

【履修上の注意】

法制史に限らず日本古代史に関する概説書を読んでおいてください。

【参考文献】

篠川賢『飛鳥と古代国家』日本古代の歴史2、吉川弘文館、2013年
森公章編『倭国から日本へ』日本の時代史3、吉川弘文館、2002年
吉川真司『飛鳥の都』シリーズ日本古代史③、岩波新書、2011年

『岩波講座日本歴史』古代1～5、岩波書店、2013～2015年

『岩波講座日本通史』古代1～5、岩波書店、1993～1995年

歴史学研究会・日本史研究会編『東アジアにおける国家の形成』日本史講座第1巻、東京大学出版会、2004年

【レポート作成上の注意点】

参考書の使用について：『塾生ガイド』所収、「レポート作成上の注意」の中に記されているように、「利用した参考書については、必ずその書名および執筆者名を記し」、参考書からの引用文については「注1」等の記号を用い、レポート本文中に注記を付して自分の文章と区別して下さい。またテキストのほかに、参考書は最低2冊以上利用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊Ⅱ—キリシタン史—

2単位

L124-1601

【講義要綱】

ポルトガル人が初めて日本に渡来してから江戸幕府による「鎖国」至るまでの約一世紀間は、「キリシタン時代」と呼ばれる。この時代の対外関係をカトリック教会の布教事業を軸として捉えてみたい。

序 章 キリシタン史料

第一章 大航海時代と日本

- 1 大航海時代の国家と教会
- 2 ザビエルのインド・東南アジア布教
- 3 ザビエルの日本布教
- 4 キリシタンと日本の政権

第二章 巡察師ヴァリニャーノと適応主義

- 1 ヴァリニャーノの布教政策
- 2 キリシタン時代の教会領長崎
- 3 秀吉のキリシタン対策
- 4 文禄の役とキリシタン宣教師

第三章 イエズス会の教育と布教

- 1 イエズス会の教育
- 2 日本人聖職者の養成問題
- 3 日本における良心問題
- 4 イエズス会の中国布教

第四章 禁教、迫害、殉教

- 1 江戸幕府の禁教政策
- 2 キリシタンの迫害と殉教
- 3 元和の大殉教
- 4 島原の乱と「鎖国」
- 5 近世日本と東アジア

終 章 潜伏の時代へ

【テキストの読み方】

テキストを読むにあたっては、キリシタン史の全体像を理解することと、いくつかの個別の問題に対する理解を深めることに留意してもらいたい。

【参考文献】

松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』（全15冊）同朋舎、1987～98年
河野純徳訳『聖フランシスコ・ザビエル全書簡』平凡社、1985年
ヴァリニャーノ（松田毅一他訳）『日本巡察記』平凡社、1973年
五野井隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館、1990年
高瀬弘一郎『キリシタンの世紀—ザビエル渡日から「鎖国」まで—』岩波書店、1993年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、「史料」と「研究」を区別してもらいたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊Ⅳ

2単位

L111-1191

市販書採用科目

【テキスト】

浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか『日本経済史 1600—2015』慶應義塾大学出版会、2017年
※テキストは、浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか『日本経済史 1600-2000』（慶應義塾大学出版会、2009年）を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

テキストには、江戸時代から現代に至るまでの日本経済の流れが記されているが、日本の江戸時代がどのような「近代」を準備し、日本の近代はいかなる歩みをして現代に至っているのかということに留意しながら読んでほしい。

【テキストの読み方】

まずテキストを理解すること。読んでいって、難しいと感じる部分もあるかもしれないが、その場合は、日本史や経済学の辞典類を参考にしながら、できるだけ問題を解決してほしい。おおよそ理解できたら、勉強の場を関連図書類（テキスト末尾の参考文献参照）に広げ、理解を深めるとともに、関心を広げてほしい。

【履修上の注意】

高等学校レベルの日本史の知識と、経済学の基礎的な概念や理論をある程度知っておいた上で履修することが望ましい。

【参考文献】

井奥成彦『19世紀日本の商品生産と流通』日本経済評論社、2006年
井奥成彦編著『時代を超えた経営者たち』日本経済評論社、2017年
その他、テキストに掲載されている諸文献

【レポート作成上の注意点】

どこからどこまでが他人の説で、どこからどこまでが自分の説（考え）なのかをはっきりわかる書き方をすること。他人の説の引用については、必ず注を付けること。

【成績評価方法】

科目試験による。

古文書学

2単位

L052-4902、L29

【講義要綱】

古文書学とは、日本史研究の材料となる古文書について考える学問であり、日本史を学ぶ上での基盤となるものです。日本史に関する卒業論文の執筆を予定している学生は、是非とも履修してください。本テキストは文体が古風なため、読んで理解するにはいささか努力が必要かもしれませんが、古文書学の体系を要領よくまとめた名著として知られているものであり、別示した参考書も積極的に活用しながら、学習を進めてください。

【テキストの読み方】

まず第一～三章にひととおり目を通した上で、このテキストの学習の中心となる第四・五章に進みます。第四章は古文書を主に形態学的観点から分析したもので、限られた紙数に要点がまとめられています。第五項については、佐藤進一『花押を読む』（平凡社）をあわせ読むと理解しやすいでしょう。第九項の中の「特殊用語」は、指定参考書として掲げた佐藤進一『新版古文書学入門』等に豊富に掲載された古文書の実例に即して見ると、頭に入りやすいと思います。第五章については、やはり『新版古文書学入門』の記述が詳しいので、適宜参照しながら学習を進めてください。

【履修上の注意】

日本史に関する一般常識がなくては、十分な学習が望めません。「歴史（日本史）」を既に履修していることが望ましい。

【科目試験出題用指定参考書】

佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考文献】

古文書の種類については、佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）が詳しいので、是非とも参照してください。古文書を読む能力を養っていく上では、『演習古文書選』全8冊（吉川弘文館）などの古文書写真集や各種史料集が有用です。史料の読解に用いる国語辞典としては『日本国語大辞典』（小学館）、漢和辞典としては『大漢和辞典』（大修館書店）、日本史辞典としては『国史大辞典』（吉川弘文館）が優れているので、近隣の図書館等で利用して下さい。くずし字辞典としては『五体字類』（西東書房）、

『くずし字用例辞典』『くずし字解説辞典』（東京堂出版）などがあります。

【レポート作成上の注意点】

古文書の実物は、各地の博物館に足を運んで探してみてください。東京・京都・奈良・九州（福岡県太宰府市）の各国立博物館や国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）・国立公文書館（東京都千代田区）、あるいは都道府県立の歴史博物館には常設で展示してある可能性が高いほか、市町村の博物館や寺社付設の資料館・宝物館にも古文書を所蔵・展示しているところがあります。また、毎年秋には奈良国立博物館で正倉院展、京都府総合資料館で東寺百合文書展が開かれ、鎌倉の建長寺・円覚寺では文化の日前後の風入れ（虫干し）期間に所蔵文書が数日公開されており、そのほか古代・中世の歴史に関わる特別展があれば普通は何か出陳されています。

古文書の様式については、前掲の『新版古文書学入門』を必ず参照してください。内容については、博物館等の図録だけでなく、古代・中世の歴史に関する通史（記述が詳しいものとしては講談社版『日本の歴史』や中央公論新社『日本の中世』など）や専門書、あるいは関係する地域の自治体が編纂した『～県史』『～市史』の類を探して、詳しく調べてください。

レポート・試験ともに、学問の性格上、古文と漢文の読解力が要求されます。こまめに各種の辞典（国語・漢和・日本史・古文書など）を引くことで、そうした能力を身に付けてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史概説Ⅰ

2 単位

L031-7601、L7679

【講義要綱】

本科目は唐に至るまでの中国古代の歴史を扱います。この時代、中国世界は分裂と統合を繰り返しました。秦の始皇帝による統一、漢王朝、そして三国時代からはじまる魏晋南北朝の分裂、隋唐帝国による統一へと歴史は移り変わります。この過程は、農耕民と遊牧民の共生と抗争の歴史でもあります。中国古代の通史を匈奴・鮮卑・突厥・ソグドなどの遊牧民の動きに注目して、自分でまとめ、分析してみましょう。

【テキストの読み方】

殷・周から唐までの通史をきちんと把握しつつ読みこみ、参考文献を参照しつつ、自分なりの分析を試みてください。

【参考文献】

林俊雄『遊牧国家の誕生』山川出版社、2009年
鶴間和幸『秦漢帝国へのアプローチ』山川出版社、1996年
鶴間和幸『ファーストエンペラーの遺産（秦漢帝国）』講談社、2004年
川本芳昭『中国史のなかの諸民族』山川出版社、

2004年

関尾史郎『西域文書からみた中国史』山川出版社、1998年

李成市『東アジア文化圏の形成』山川出版社、2000年

石見清裕『唐代の国際関係』山川出版社、2009年

山本英史『中国の歴史』河出書房新社、2010年

村松弘一『中国古代環境史の研究』汲古書院、2016年

【レポート作成上の注意点】

参考文献のなかから数冊を必ず読み、それを手がかりに、自分の意見を書くようにしてください。参考文献からの長文の引用や Web からの直接引用は認めません。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史概説Ⅱ—中国史—

2 単位

L086-0301

【講義要綱】

本科目では、近代中国の歴史を扱う。近代中国はナショナリズムが台頭した時期である。19世紀から20世紀にかけて、西洋諸国の世界進出に伴い、近代西洋の経験から生まれた国民国家とナショナリズムは世界中に広まった。しかし、近代以前の中国にはこれらの価値観とは異なる一定の合理性に基づく制度や理念があった。そこには、華夷秩序や朝貢・冊封体制などといった儒教思想に基づく価値観などが含まれることをあげることができる。これらは、19世紀後半には対外関係の変化によって変容していくことになった。それとともに、伝統的な王朝国家が近代的な国民国家への転換を目指す中で上（統治者の側）からと下（社会の側）からの両面から中国におけるナショナリズムが形成されていった。これらのナショナリズムの台頭は、中国が国際関係のなかに組み込まれたことや清末民初以来の社会変動と連動しており、グローバル化する世界における中国の政治的ビジョン、文化的背景、社会構造の変化などをそこから読み取ることができる。以上のような多角的な視野をもって、中国におけるナショナリズムの生成と展開の過程を中国の近代が歩んだ歴史の一過程として分析しなさい。

【テキストの読み方】

指定教科書の附編「研究の手引き」及び参考文献①や②を参考に、指定教科書を通読して、現代にいたるまでの中国史の概観を把握してください。その上で、参考文献の③～⑥などの概説書を読み、近代中国がどのような時代であったか、世界の動きと合せて理解し、⑦～⑩などの関連書で課題にそったテーマを掘り下げてください。その他の参考文献は、テキスト⑦～⑩を手掛かりにして自分で探してください。

【参考文献】

①礪波護・岸本美緒・杉山正明編『中国歴史研究入

門』名古屋大学出版会 2006年

②岡本隆・吉澤誠一郎編『近代中国研究入門』東京大学出版会 2012年

③久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士『現代中国の歴史：兩岸三地100年のあゆみ』東京大学出版会 2008年

④吉澤誠一郎『清朝と近代世界—19世紀』（シリーズ中国近現代史①）岩波新書 2010年

⑤川島真『近代国家への模索—1894-1925』（シリーズ中国近現代史②）岩波新書 2010年

⑥石川禎浩『革命とナショナリズム—1925-1945』（シリーズ中国近現代史③）岩波新書 2010年

⑦吉澤誠一郎『愛国主義の創成：ナショナリズムから近代中国をみる』（世界歴史選書）岩波書店 2003年

⑧坂元ひろ子『中国民族主義の神話：人種・身体・ジェンダー』岩波書店 2004年

⑨小野寺史郎『国旗・国歌・国慶：ナショナリズムとシンボルの中国近代史』東京大学出版会 2011年

⑩小野寺史郎『中国ナショナリズム：民族と愛国の近代史』中公新書 2017年

【レポート作成上の注意点】

参考文献を手掛かりに、出来るだけ多くの文献を読んだうえで、自分の言葉で見解をまとめてください。その際に、どこからどこまでが他人の説で、どこからどこまでが自分の見解（考え）なのかがはっきりわかるような書き方をしてください。一次・二次資料やWEB ページを参考にした場合は、その都度、必ず註をつけて、文末に出典（著者、題名、出版社、出版年、頁数など）及び引用ページ（閲覧日時も必ず記載）を逐一示してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史特殊

2 単位

L098-0601

【講義要綱】

「東洋史特殊」のテキストは、主にトルコ系諸民族の歴史を通観しながら近現代における中央アジア、アゼルバイジャン、トルコにおける民族主義、ナショナリズムの発展などについて述べたものである。ソ連邦の崩壊によってユーラシアのアジア側の部分でさまざまな民族問題が噴出している。それらの歴史的な背景をトルコ系諸民族の文化を中心に考えていこうというのが、このテキストの目的である。本書を通じて広大な地域に分布するアラブとは異なるトルコ系諸民族の世界に関する理解が深まるものと思われる。

【履修上の注意】

総合教育科目の「歴史（東洋史）」を履修していることが望ましい。

【関連科目】

「ロシアの政治」

【参考文献】

永田雄三編『西アジア史Ⅱ イラン・トルコ』山川出版社、2002年

【レポート作成上の注意点】

課題・参考文献の文章を引用または典拠として利用した場合には、必ずその文献名と頁数を註として明記してください。なお、註はレポートの最後にまとめて示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史概説Ⅰ

2 単位

L119-1501

【講義要綱】

この概説は、ローマ帝国期から16世紀中頃までのヨーロッパ史を対象とします。ローマ帝国やヨーロッパ中世は、私たちが思っている以上に、いくつもの面で現代社会に影響を与えています。公正金利、国民、サイエンス、そして皆さんが通っている大学などです。本科目を取り上げるのは、ローマ帝国、その瓦解後の模索、帝国、教皇、周辺の国々、キリスト教の浸透、中世の生活、国民の出現、宗教改革、近代の芽生えなどです。

この主題についてさらに理解を深めるために、テキストの他に、堀越宏一ほか編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（ミネルヴァ書房、2013年）および以下の参考文献も読んでください。

【履修上の注意】

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが好ましい。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅱ」「西洋史特殊Ⅱ」「西洋史特殊Ⅲ」

【参考文献】

本村凌二『興亡の世界史 地中海世界とローマ帝国』（講談社学術文庫、2017年）あるいはアントニー・エヴァリット『アウグストゥス：ローマ帝国のはじまり』（白水社、2013年）を必ず読んでください。南川高志『新・ローマ帝国衰亡史』（岩波新書、2013年）、同『ローマ五賢帝「輝ける世紀」の虚像と実像』（講談社学術文庫、2014年）、ピエール・グリマル『アウグストゥスの世紀』（文庫クセジュ、2004年）、ペルナール・レミィ、『ディオクレティアヌスと四帝統治』（文庫クセジュ、2010年）、長谷川岳男・樋脇博敏『古代ローマを知る事典』（東京堂出版、2004年）なども有益です。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成のために、必ず上記の参考文献も読んでください。

レポートは、単にテキストと参考文献の丸写しや抜き書きではありません。自分自身の言葉でレポート課

題の問題に対応した答となるよう作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史概説Ⅱ

2単位

L062-8801、L8885

【講義要綱】

この科目はおよそ16世紀から20世紀までの西洋史概説を扱います。歴史上の大きな課題や事件を、世界史全体の構造のなかで捉えることを学習の目的とします。したがって、その課題や事件の特色や性格を把握し、現代世界を含む後代への影響や意義を考えることが肝要になります。

【テキストの読み方】

テキストに書かれている内容を表面的になぞって暗記するのではなく、テキストを歴史の流れを理解するためのガイドブックとして用いながら、参考文献を読むようにしてください。テキストに簡略にまとめられている事件や概念が成立した背景と意味は、複数の文献を批判的に読むことを通じてはじめて明らかになります。

【履修上の注意】

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが望ましい。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅰ」「西洋史特殊Ⅲ」

【参考文献】

- 柴田三千雄ほか編『世界歴史体系『フランス史2、3』山川出版社、1996、95年
村岡健次ほか編『世界歴史体系『イギリス史2、3』山川出版社、1990、91年
成瀬治ほか編『世界歴史体系『ドイツ史2、3』山川出版社、1996、97年
*以下は今年度レポート課題用参考文献
長谷川貴彦『産業革命』山川出版社：世界史リブレット116、2012年
R. C. アレン『世界史のなかの産業革命』名古屋大学出版会、2017年（英語版：ケンブリッジ大学出版会、2009年）
角山栄『生活の世界史〈10〉産業革命と民衆』河出文庫、1992年（旧版：河出書房新社、1975年）
T. S. アシュトン『産業革命』岩波文庫、1973年

【レポート作成上の注意点】

レポートは、テキストや参考文献の丸写しや抜書きではありません。自分自身の言葉で、レポート課題の問いに対応した答えとなるよう作成してください。その際、レポートの記述内容が、どの参考文献のどの部分によっているのか、きちんと註をつけて示してください。

レポート作成のために、複数の参考文献を使用して

ください。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史特殊Ⅰ—古代オリエント史— 2単位

L022-7203

【講義要綱】

現在アルファベットは、英語などのヨーロッパ諸語を通して一般化されており、言語表記の基本となっている。しかし、元来は古代西アジア世界で発達したものであり、アラビア語やヘブル語もアルファベット文字で記される。

古代西アジアで発達したアルファベット文字には、大きく二種類がある。その一つはメソポタミアの楔形文字アッカド語をもとに造られたもので、特にシリア沿岸部にあるウガリト遺跡を中心に知られるウガリト語である。楔形文字は、元来具体的なものを表す絵文字（表意文字）として生まれたが、次第に音価のみを表す文字（表音文字）として用いられる場合も出てきた。ウガリトでは紀元前14世紀頃、この表音文字だけを用いて、言語体系の異なる自分たちの言語を表すようになった。ちょうど漢字から五十音を生み出した万葉仮名のようなものである。こうして生まれたのがウガリト語であり、当時の神話や儀礼などをこの言語で記した貴重な粘土板文書が多数見つかっている。

この背景にはアッシリア、バビロニアというメソポタミアの大国が領域国家として広大な範囲を支配し、周辺諸民族と交易などを通して頻繁な接触があったことが大きな意味を持っている。アッカド語は当時のリンガ・フランカとなっていた。しかも、さらに遡ると、アッカド語自体がそれに先行するシュメル語を借用しているので、こうした異なる言語相互の影響はさらに古いものだったと言えるであろう。

古代西アジアで発達したもうひとつのアルファベットは原シナイ文字と呼ばれ、これが後のヨーロッパ言語のアルファベットの直接の祖先となった。エジプト語も、元来は象形文字から始まった表意文字であるがそのうちいくつかの文字は表音文字として用いられた。エジプトに滞在していたレヴァント地方の人々はこれを借用し、まったく異なる言語体系（セム語）をもつ自分たちの言語を表すようになったのである。

レヴァント地方の人々は、先王国時代からエジプトと関係を持っており、特にヒクソス時代にはデルタ地帯を支配するようになった。新王国時代になると、ヒクソスは追放されるが、エジプト国内にもかなりの数のセム系の人々が奴隷などとして残ったようである。この言語の例としては、特にシナイ半島のトルコ石鉱山で働いていたセム系の奴隷が残したものがよく知られている。これはヘブル語、フェニキア語などの先駆となり、旧約聖書もこの言語で書かれるようになった。

近年の考古学的調査では、紀元前二千年紀のシナイ半島や北アラビアに遊牧民の活動があったことがあきらかになってきており、こうした言語の発展を考える上で興味深い。また、イスラエルでは、この原シナイ文字と後のヘブル語の間にあたるような言語で記され

たオストラコンがテル・ケイファ遺跡など紀元前1000年頃の遺跡から出土しており、その経緯をたどる研究が進められている。

紀元前1千年紀になると、レヴァント地方のフェニキア人たちが地中海貿易を展開するようになり、その言語も広がっていった。商取引などの接触の中でギリシア人はフェニキア人の文字を学び、ギリシア語をその文字で書くようになった。これがヨーロッパ諸語がアルファベットで表されるようになったきっかけである。原シナイ文字や古いヘブル語のアルファベットとギリシア語のアルファベットを比べてみると随分違うように見えるかもしれないが、90度回転させると、それらの形が関係していることがわかるであろう。また、アルファベットの順序もほぼ同じである。

こうして考えると、アルファベットの発達は単に特定の言語やその表記法の発達を意味するだけでなく、その背景に西アジア世界の広域にわたる人々の接触や移動があることがわかる。今回は、ぜひそうした側面にも目を向けてレポートを作成してほしい。

【参考文献】

ヨセフ・ナヴェー『初期のアルファベットの歴史』法政大学出版会、2000年
栗田伸子、佐藤育子『通称国家カルタゴ（興亡の世界史03）』講談社、2009年
小川英雄『発掘された古代オリエント』リトン、2011年

【レポート作成上の注意】

1. 参考文献もかならず活用すること。
2. 論理の流れと段落を意識して書くこと
3. 議論、意見の根拠を明確に示すこと

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史特殊Ⅲ

2単位

—近代イギリス国家の成立(中世から近世へ)—

L044-7804

【講義要綱】

本科目のテキストでは、イギリスが近代化しデモクラシーへと発展する基礎が築かれる過程が中心に論じられている。特に、他のヨーロッパ諸国と違う独自の型の近代化を推進する基礎条件が、中世にいかに関与したかを書いたつもりである。イギリスでは、全体主義的王権や官僚組織の肥大化と硬直化といった弊害が比較的少ないのが特色だった。

イギリス史の特徴的発展の原因の一つとして、中世に一種の自主自営の「民」、即ち、ナイト、ジェントリー、スクワイヤー階層（いわゆる「独立自尊の民」の原型）が生まれ発展したことが指摘されている。また、他国と比較して、都市と農村部の有力者層の利害の調和と融合が進行したことも注目し得る。改訂版では、この点をやや具体的に述べた。

もう一つ重要な点は、イギリス中世社会においては、貨幣経済の浸透と社会全体の商業化が早くから顕著な

ことである。この傾向はすでに12世紀に萌芽的な形で見られ、13世紀に中間層を中心として封建的身分が主として貨幣収益を基準に再編成されていった（たとえば「騎士強制」）。後には、さらに上級階層の分化も貨幣収益を軸に進められた。封建制度の中核的義務である。ナイト勤務も12世紀末以来、軍役代納金制度の導入により、金納化が進んだ。イギリスは保守的でありながら社会の進歩に遅れることがなかった。これは、中世以来、社会の中産層以上が、時代の進展に耐えるか主導する人々によって占められていたからである。彼ら、社会を主導する層が政治権力に寄生する度合いが比較的低く、自己の力に依存する度合いが強かったのである。

しかし、このような特色のために、逆にイギリス社会の中に激しい生存競争を生むことになった。ある意味では、これは、安定的成長の代償かも知れない。ここに歴史の真の過酷さがある。これを何らかの方法で緩和するために、社会福祉制度や弱者救済の思想が必要となり、教会の慈善の役割が大きな意味を持つことになるのである。

さらに、イギリスの国制は早い時代から社会の進展に敏感に順応した。法や制度の柔軟性は、軍務の金納化や他の封建的付帯義務の金納化にも見られる。この現象はマグナ・カルタにも顕著である。マグナ・カルタには、封建的付帯義務の規定が多いが、その時点で封建的負担はすでに貨幣負担化の傾向が見られた。また、特に、ヨーロッパの中世王制には租税制度の欠陥が一般にみられるが、イギリスではその欠陥は13世紀の混乱を経て解決され、近代的租税制度への基礎が確立された。「国家による経済的要求は「民」の合意を要する」という原則が確立され、また国王も自由保有地にはみだりに立ち入れないという形で私有財産の権利が保障された。その結果、国王は、「民」の合意なしには国政の基礎である十分な収入を確保できなくなったのである。そのため、王権の強大化が抑止されることになり、また、「民」の合意を得るには国王は「民」の意に合う国政の改革を行わねばならないため、制度の進歩・発達が保証され、制度の硬直化が阻止されたのである。立法における「民」の請願の重要性、無能あるいは腐敗役人の弾劾など裁判や行政における中間層の役割などを保証したのは、議会の財政特権だった（中世末の議会制度の発達の項参照）。この発展の過程では、多くの混乱、時には犠牲者が見られたが、何度か革命の事態は回避された。

イギリス史はヨーロッパ全体の中で理解されねばならない。多くの外国勢力がイギリスに流入し、また多数のイギリス人が海外で活躍した。この外との交流と摩擦から多くの影響を受け、イギリスは文化的経済的にも豊かとなった。近年この側面の研究に多くの関心が払われているが、本テキストでは、紙数の制限や現在のわが国の研究状況のために説明が十分ではない。

また、記述が12・13世紀に詳しくそれ以外の時代がやや簡略であるが、それは著者の研究関心と同時に本国の研究状況にもよるものである。ただ、本テキストは、現在、イギリス中世国制史に関して邦文で最も詳細なものである。昨今新聞紙上を賑わすこともある租税徴収と国民経済との関連、官僚の恣意的な自由裁量の抑制、法の近代化の問題などを考える上で、日本

とイギリスを比較することは、興味深く思われるかもしれない。たしかに、このような方法は、研究の視角を決め問題を選択する時には有益であろう。しかし、このような「比較研究」は、現実には方法論的にきわめて難しいものであり、安易に行なうと単に読み物に終わる擬似的比較史に墮する可能性が高く、危険である。一にも二にも安易な比較を避け、対象とする国の史実をよく調べ、それをその時代の全状況の中に置いて考えることが重要である。歴史研究では、細かい問題を、あくまでもそれが置かれた広い状況の観点から考察するのが重要なのである。

【履修上の注意】

特に指定した科目の履修を終わっている必要はありませんが、まずイギリス中世史の基礎的な知識を身につけるために、エドモンド・キング『中世のイギリス』（慶應義塾大学出版会、2006年）を読んでください。そして、バーバラ・ハーヴェー『12・13世紀』（オックスフォード ブリテン諸島の歴史4巻）（慶應義塾大学出版会、2012年）とラルフ・グリフィス『14・15世紀』（オックスフォード ブリテン諸島の歴史5巻）（慶應義塾大学出版会、2009年）を読んでさらに知識を深め、その後、課題の内容を理解するために、朝治啓三、渡辺節夫、加藤玄編『中世英仏関係史 1066—1500年』（創元社、2012年）と城戸毅『百年戦争 —中世末期の英仏関係—』（刀水書房、2010年）を丁寧に読んでください。

【レポート作成上の注意点】

まずテキストを通読し、中世イングランド史の流れ、問題点をより大きな観点から理解してください。そして、個別のレポート課題をこの大きな流れの中に位置づけて考察してください。レポートを作成する際、それが課題の問いに対する直接の答えとなるように注意してください。また、それがテキストの抜き書き、丸写しにならないよう、自分自身の考えに基づき、自分自身の言葉で書いてください。これは、科目試験の際にも当てはまります。

【成績評価方法】

科目試験による。

オリエント考古学

2単位

L104-0991

市販書採用科目

【指定テキスト】

杉本智俊『図説 聖書考古学 旧約篇』河出書房新社、2008年

【講義要綱】

文明 civilization という言葉は、「都市の」civil という語が含まれていることからわかるように、「都市化」することが文明だとする近代思想を暗黙の前提としている。それは、まさに「市民」革命によってもたらされたものだからである。

「都市」の定義の仕方は種々提唱されているが、さまざまな人々を含む「複合社会」を都市と呼ぶことが

多い。定住集落の規模が拡大するにつれて世俗権力者（王）が生まれ、自分で食糧を生産しない支配者階層と被支配者階層の格差が明確化されるようになった。専門的な技術者も生まれてきた。そのような支配体制を維持するため、文字による財産の管理が行われ、法律が制定されるようになる。元来親族意識のない「よそ者」も多数共生するようになるので、社会は流動化し、都市同士、その支配者同士が権力の拡大に向けた戦争を行うようになった。

歴史的には、人間生活のありかたは都市に限られていない。人類は定住をしない生活形態、親族意識を持つ人々たちだけから成り立つ小集落、宗教的指導者を抱きながらも基本的に平等であった「首長制」社会なども経験してきた。しかし、人々が都市を形成するになると社会の様相は一変し、その後の領域国家や帝国、現在のように世界中がひとつの大きなシステムに巻き込まれるような時代を生み出すきっかけとなった。ゴードン・チャイルドという考古学者はこの変化を「都市革命」と名づけ、「新石器革命」と並ぶ人類史の大きな変化だと主張した。

このような都市は、メソポタミア南部のシュメル人の地域ではじめて形成されたとされる。考古学的に、都市は大きく都市計画性、行政機構、祭儀施設の3つの要素を持つものと考えられることが多い。祭儀施設（神殿など）は、都市が生まれる前から古代集落にあることも多かったので、都市に限定されるものではない。しかし、都市計画性は、権力者がその考えに従って指導力と財力を用い、被支配者層を動員して形成するものである。なにより典型的なのは市壁、市門、濠などの防御施設の建設であるが、道路網や水路の整備などもそれに含まれる。実際、都市であるかどうかの基準は、その規模よりも市壁の有無で判断されることが多い。ただ、市壁を建設しなければならないということは、戦争が現実的な脅威として存在するようになったことも意味している。権力者同士、都市同士の争いが増大したからである。行政機構は、神殿以外に世俗の権力者の住居（王宮）や財産管理のためのさまざまな公共建造物が建設されるようになったことに見ることができる。それまでの社会がほぼ均一な大きさの住居だけからなりたっていたのと大きな違いである。また、支配者の住居や墓からは、その権威を示すような宝物（威信財）も認められるようになる。

集落が都市化することにより人口や経済の規模は拡大し、技術的な発展が起こる便利な社会、刺激的な社会になったといえることができるが、同時に社会の格差は固定化され、戦争の危機は表面化していくこととなる。都市革命の功罪を考えることは、まさに現代社会のありようを考える上で大切な視点を提供してくれる。

今回のレポートでは、最初に都市革命を経験したシュメルの都市に関して、考古学的な証拠からどのように都市化のプロセスを跡づけることができるのかを示し、それが社会にどのような変化をもたらしたかを記してもらいたい。

【参考文献】

小泉龍人『都市誕生の考古学』同成社、2001年
前田徹『都市国家の誕生』（世界史ブックレット）山川出版社、1996年

小川英雄『発掘された古代オリエント』リトン、2011年

【レポート作成上の注意】

1. 参考文献もかならず活用すること。
2. 論理の流れと段落を意識して書くこと。
3. 議論、意見の根拠を明確に示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

考古学		2単位
L093-8891	市販書採用科目	

【テキスト】

鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年

【講義要綱】

考古学は、人類活動により残された様々な物的証拠の分析を通じて、過去の人々の生活のあり方やその変化について考える学問です。この科目の使用テキストは、考古学の全体的な枠組みを、具体的な事例を紹介しながら、平易に解説したものです。このテキストを熟読することにより、基本的な考古学の研究法・調査方法、考古学という学問の成り立ちや、関連諸学問との関係、現代社会との関わりまでを体系的に理解することができます。

ただし、このテキストは考古学の学問としての体系を解説した「概論」ですので、具体的な事例紹介にも限界があります。参考文献に挙げた図書は、テキストの著者が、これまでの自身の研究をわかりやすくまとめたものです。考古学という学問を、豊富な具体的な事例を通して理解することができるだけでなく、テキストの理解にも役立つと考えますので、併せて読むことをお勧めします。

【テキストの読み方】

まずはテキストを何度も読むことが大切です。その際、項目ごと、節ごとに、どんな内容が書かれているのかを自分の文章でまとめ、そしてそれらの間にどのような関係性があるのかを考えてみるのも有効でしょう。最初は理解できないことや誤読があるかもしれませんが、参考文献に挙げた図書を含め様々な本を読んだり、博物館などで実際の考古資料などを見たりするうちに、次第に理解が深まると思います。

【履修上の注意】

特別な注意点はありますが、強いて言えば日ごろから考古学に対する関心を強くもつことが重要です。そうすることにより考古学をめぐる報道や、考古学関連のさまざまな図書に自然と目が向くようになり、積極的に博物館・資料館、遺跡や発掘現場の見学に出かけられるようになれば、よりいいでしょう。

【関連科目】

「オリエント考古学」「西洋史特殊Ⅰ」

【参考文献】

鈴木公雄『考古学とはどんな学問か』東京大学出版会、2005年

ほかにも、考古学をめぐる様々な文献に目を通すことをお勧めします。ただし、自分が初心者だと思う方は、考古学の方法論を扱ったものよりも、具体的な研究成果を盛り込んだ概説的な本や、写真や図版を多用したものを読み、まずは考古学に対する関心を高めるのがいいでしょう。

【レポート作成上の注意点】

テキストのある科目ですので、まずはテキストや参考書を何度も読み込んで、内容を理解することが大切です。テキストの理解が足りないと思われるレポートは、まず合格点になりません。

また、課題で何を求めているのかをじっくり考え、盛り込むべき内容をしっかり整理してからレポートを書き始めるようにして欲しいと思います。

なお、レポートは、テキストや他の文献を読んだり、実物の資料を見て理解したことを、自分の文章で表現するものです。テキストの内容の要約ではありませんので注意してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅰ(L)		2単位
L103-0901		

【講義要綱】

地理学Ⅰは、「トランスナショナル化」の視点から、地球規模で展開する国際的な企業行動の変化やグローバル都市に関する話題など、現在進行形の社会経済事象に対する理解が深まることを目指して構成されている。この目的を達成するには、地理的な空間軸と、歴史的な時間軸の両方からこれらの現象を捉えることが求められる。

本科目を通じて、新聞記事や、入手可能な報告書や統計データを自分で集め、自分の頭で各種の事象を分析する習慣が身につくよう期待している。

【参考文献】

教科書の「引用文献・参考文献」を必要に応じて参照してください。

【レポート作成上の注意点】

基礎的な内容を理解すると同時に具体的な事例を用いて理解を深めるよう設定しているので、このことに注意してほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅱ(地誌学)(L)

2 単位

L108-1001

【講義要綱】

地理学は、古くて新しい学問である。「古くて」というのは、太古の昔から、地理への関心は、歴史への関心と並んで、様々な文明において示されてきたことから明らかである。「新しい」というのは、世界の動きや技術の進歩につれて、地理への関心のあり方も、時代に応じて変化を遂げ、地理学の内容を変容させてきたことからわかる。地理学のなかでも、地表の事物の姿やイメージを記述する地誌は、こうした変化を鋭敏に反映してきたといえよう。

地誌学の面白さは、具体的事例を徹底的に調べ上げ、様々な知見を、地域や場所という中で「総合化」することにある。

【参考文献】

参考文献は限りなく存在するので、取捨選択が大切である。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、客観的な事実やデータによって裏付けたり、新しい見方を獲得するように心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

人文地理学

2 単位

L095-0501

【講義要綱】

人文地理学は、人間およびその生活や文化、都市、社会、経済などを対象として、その地理的分布、地域的な特色、地域間や環境との関係などを研究する地理学の一部門である。学問自体の内的要請によって進化発展するものであるばかりではなく、時代の要請によっても変化するものである。

【参考文献】

参考文献は限りなく存在するので、取捨選択が大切である。

【レポート作成上の注意点】

教科書の理解度を示す記述を期待するとともに、その内容を事例とともに説明すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

国語学

2 単位

L003-4902、L1b

【講義要綱】

古代からの国語の変遷を通して、主に日本の古典文学の読解・鑑賞の質を高めること、および「ことば」に含まれる語義の多層性と汎用性をこまかに観察することにより、古典に見る日本人の心意の諸相を感知すると同時に、自身の言語の抛って立つところを洞察することを目的とする。

【参考文献】

[方言に関して]『講座方言学』『方言学概説』
[方言辞典]『標準語引き日本方言辞典』『日本方言大辞典』『現代日本語方言大辞典』
[言語地図]『日本言語地図』『方言文法全国地図』
[日本語の歴史に関して]『日本語の歴史(平凡社ライブラリー)』
[古語を多く収載する辞典]『日本国語大辞典 第2版』『角川古語大辞典』『古語大鑑』(刊行中)『時代別国語大辞典 上代編』『同 室町時代編』『近世上方語辞典』『江戸語大辞典』『江戸時代語辞典』

【レポート作成上の注意点】

引用は必ず「 」でくくり、出典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

国語学各論—さまざまな辞書たち— 1 単位

L112-1201

【講義要綱】

国語学が対象とするものは幅が広く奥行きも深い。国語の音韻・語彙・文法はもちろん、その背後にある歴史、民俗、文化、思想等さまざまなものを含むが、国語辞典・漢和辞典はそれらを包括し、規範となる説明を行なっているはずのものである。この各論では、現在・過去のいろいろな辞書・事典類を紹介した。但し冊子体のもののみを対象とし、電子辞書や玉石混淆のネット関係のものは除外してある。電子辞書の利便性はある程度認めるものの、紙媒体のものを電子化しただけのものや進化途上のものが多いからである。また、ネット上に氾濫している情報には、無責任で怪しげなものも多く、信頼に欠けるからである。

【テキストの読み方】

本テキストには数多くの注がつき、しかも詳細なものが多い。したがって注を読むことによって得られる知識その他は大きいと考える。また、第3章において、江戸時代の辞書・事典を取り上げているが、次々と出版された節用集や「増補大廣益會玉篇大全」、平安時代に成立し江戸時代によく参看された「倭(和)名類聚鈔(抄)」など、珍しいものではなく、普通に行なわれたものを紹介している。そして巻末の参考文献解

題はただ単なる書名の羅列ではなく、参照する際に役立つようにその章立て・内容等を記し、ときに批判も加えてある。書名や編集者名を覚えるだけではなく、注や参考文献を活用し、実際に当該文献を読んで行ってほしい。

【レポート作成上の注意点】

辞書・事典は、自分で読み、自分で引くもので、他人に引いてもらうものではない。したがって、参考文献やネット検索で得た知識をそのまま写すことは厳禁。利用してみてもの実体験に基づいた報告を期待する。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学	4 単位
L038-7701、L7701	

【講義要綱】

本科目では、『万葉集』『源氏物語』を中心に古典文学を学び、実際に読んでいく。その中で当時の人々の豊かな精神や現代とは異なる生活文化について学ぶことを目的とする。

指定教科書の構成は次の通りである。

序論 国文学研究・前言

第一部 日本文化の系図

第一章 大和時代

第二章 平安時代

第三章 鎌倉時代

第四章 室町時代

第五章 安土・桃山時代

第六章 江戸時代前期

第七章 江戸時代後期

第二部 日本文学の戸籍

第一章 万葉集

第二章 源氏物語

第三章 催馬楽

【参考文献】

『折口信夫全集』中央公論社

『日本文学の歴史』角川書店

池田彌三郎『万葉びとの一生』講談社現代新書、1978年

池田彌三郎『日本文学の素材』日本放送出版協会、1988年

藤原茂樹・坂本信幸『万葉から万葉へ』NHK 出版、2008年

藤原茂樹『万葉集の歩き方』NHK 出版、2013年

『源氏物語研究集成』風間書房、1998～2002年

『講座源氏物語研究』おうふう、2006～2008年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成に際して、自分自身の考えと、参考文献の文章を明確に区別すること。

○参考とした文献の文章は「 」に入れるかたちで引用して、研究書名・論文名・著者名・刊行年月・

ページ数などを明記する。（提示した参考文献以外のもので可）

○古事記・万葉集・日本書紀・続日本紀・源氏物語・歌謡などの古典文学のテキストは、新潮日本古典集成（新潮社）、新編日本古典文学全集（小学館）、日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）のシリーズを用いるのが好ましい。

○万葉の歌は、読み下し文でもよいが、訓読によって歌意が変化する場合などは原文表記を併記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学史	3 単位
L008-5902、L51	

【講義要綱】

国文学のながれを理解する科目。テキストは、現在の見地ではやや古風だが、基本をおだやかに網羅している。したがって、理解の補足のためには、参考文献として示したものが必要にもなる。しかし、それよりも第一に、テキストに引用されている様々の古典作品の具体にふれることが大事だ。『新 日本古典文学大系』（岩波書店）、『新編日本古典文学全集』（小学館）、『新潮日本古典集成』（新潮社）等の古典校注・訳注叢書を活用して欲しい。科目試験・レポートのために役だつだけでなく、自分たちの文化の理解にもつながるはずだ。

【参考文献】

『日本文学全史』学燈社

『岩波講座・日本文学史』岩波書店

『日本文学史 古代・中世編』ミネルヴァ書房

小西甚一『日本文藝史』講談社（絶版）

加藤周一『日本文学史序説』筑摩書房

『藝文研究 文献案内』慶應義塾大学藝文学会

【レポート作成上の注意点】

自分自身で作品を読んだ上で、実感に即しつつ、しかも論理的にまとめる必要がある。使用した校訂本文、注釈書、参考書などは著者（校訂者）・書名・刊行者（出版社）・刊行年を明記すること。また、作品は必ず原文（原典の本文）で読むこと。現代語訳を読んだだけでは、学力は身に付かない。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代日本文学

3 単位

L006-5204

【講義要綱】

日本近代文学の大きな流れを理解します。テキストの文学史は基本的、かつ明治期に集中していますので、参考文献として示したものも読んでください。また、『テキスト分析入門』にも概説がある語り分析（ナラトロジー）は、個別の作品を分析するためのツールとして欠かせませんので、この機会に合わせて学んでおきましょう。

【テキストの読み方】

テキストの内容を理解するだけでなく、扱われている作品のいくつかは、必ず自分で読み、自分ならどう解釈するかを考えてください。

【参考文献】

安藤宏『日本近代小説史』2015年、中央公論新社
三好行雄編『近代日本文学史』1975年、有斐閣
松本和也『テキスト分析入門』2016年、ひつじ書房
河野達也編『大学生のための文学トレーニング近代編』2011年、三省堂

【レポート作成上の注意点】

必ずレポートの書き方に関する文献を一読してください。どこにどの文献を参照したのかが明確にわかるように、どこからが自分の意見なのかははっきりわかるように書いてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅰ

1 単位

—御伽草子の世界—

L088-0401

【講義要綱】

御伽草子は、室町時代から江戸時代前期にかけて制作された短編の物語群の総称である。現在、約四百編の作品が存在している。この御伽草子の各作品について、テーマ毎に分類し、その特徴を学習する。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、御伽草子・室町物語関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅱ—1

1 単位

—近世前期小説の展開—

L013-6501、L52b、L6507a

【講義要綱】

日本の近代文芸にも大きな影響を与えた江戸時代の文芸のうち、仮名草子、西鶴を中心とする浮世草子、それに談義本の流れを辿るもので、それらのジャンルの様々な作品を読む際の基礎知識を得る。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、仮名草子、浮世草子関係書。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、テキストを精読し理解するのは勿論であるが、それだけでは十分とは言えない。まず、自身で図書や雑誌に掲載された論考を参照し、様々な学説を理解することに努めてほしい。最新のものを中心に複数の考え方を知ることによって、自ずと論述すべき問題の所在は明らかとなるはずである。次に、必ず個別の作品を読み、その本文を自ら分析してほしい。この講義では、作品本文を読解した形跡のないレポートには、合格を与えていない。

なお、レポートは、参考文献の文章と、自分自身の考えをはっきり区別して書くこと。参考文献は、著者名・書名・論文名・掲載書名もしくは雑誌名・巻数・刊行年及び当該ページなどを明記のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅱ—2

1 単位

—近世後期小説の展開—

L016-6901、L6907b

【講義要綱】

洒落本・人情本・滑稽本それに読本といった近世後期小説の展開を学び、黄表紙や合巻等の草双紙を含め、様々なジャンルの作品を実際に読んでいく。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、江戸後期小説関係書。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、テキストを精読し理解するのは勿論であるが、それだけでは十分とは言えない。まず、自身で図書や雑誌に掲載された論考を参照し、様々な学説を理解することに努めてほしい。最新のものを中心に複数の考え方を知ることによって、自ずと論述すべき問題の所在は明らかとなるはずである。

次に、必ず個別の作品を読み、その本文を自ら分析してほしい。この講義では、作品本文を読解した形跡のないレポートには、合格を与えていない。

なお、レポートは、参考文献の文章と、自分自身の考えをはっきり区別して書くこと。参考文献は、著者名・書名・論文名・掲載書名もしくは雑誌名・巻数・刊行年及び当該ページなどを明記のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・国文学古典研究Ⅲ

1 単位

—源氏物語と平安時代文学—

L129-1701

【講義要綱】

本科目では、日本の代表的な古典文学作品、『源氏物語』を扱い、他の文学作品と比較しつつその特色について学ぶ。先行の諸作品をいかに吸収して『源氏物語』という作品が生みだされたか、またこの物語が後続の文学作品にどれほど多大な影響を与えたかについて見ていく。

指定教科書の構成は次の通りである。

はじめに

- 一 桐壺巻と『更級日記』
- 二 帚木巻と『落窪物語』
- 三 夕顔巻と『江談抄』『宇治拾遺物語』
- 四 若紫巻と『紫式部日記』
- 五 末摘花巻と『古本説話集』
- 六 紅葉賀巻と『建礼門院右京大夫集』
- 七 花宴巻と『六百番歌合』
- 八 葵巻と『蜻蛉日記』
- 九 賢木巻と『枕草子』
- 十 須磨巻と『栄花物語』
- 十一 明石巻と『うつほ物語』
- 十二 濡標巻と『源順集』『本朝文粹』
- 十三 絵合巻と『竹取物語』
- 十四 薄雲巻と『今昔物語集』
- 十五 少女巻と『伊勢物語』
- 十六 玉鬘巻と『土佐日記』
- 十七 胡蝶巻と『狭衣物語』
- 十八 真木柱巻と『大鏡』
- 十九 梅枝巻と『古今和歌集』
- 二十 藤裏葉巻と『夜の寝覚』

【参考文献】

新潮日本古典集成（新潮社）、日本古典文学全集（小学館、新編を含む）、日本古典文学大系（岩波書店、新を含む）のうち、平安時代文学関係。

『講座源氏物語の世界』（有斐閣）など『源氏物語』の講座類。

【レポート作成上の注意点】

参考にした論文などの文章と、自分自身の考えをはっきり区別して書くこと。参考論文は、「」に引用をする形で明示する。（著者名・書名・論文名・掲

載書名もしくは雑誌名・巻数・刊行年及び当該ページ数など明記のこと。）

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅳ

1 単位

—平安和歌研究—

L074-9401、L9409

【講義要綱】

この科目は、日本文学で最も正統的なジャンルとみなされていた和歌について、基礎的な知識を身につけるためのものです。かつ平安時代と八代集を中心として、現在に至るまで一般に「古典和歌」として知られる歌風がいかに形成されていったのか、歴史的な変遷を理解することをも目的としています。

【テキストの読み方】

各時期ごとの歌風の特色を理解し、勅撰和歌集や主要歌人の業績をそうした歌風を体現するものととらえて、熟読してください。

【履修上の注意】

参考文献は数多くありますが、それを丸写しするだけでは評価の対象となりません。実際に歌集を繙き、作品に接して、自身が共感したり反撥したりしながら、理解を深めるようにしてください。

【関連科目】

国語国文学古典研究Ⅴ—中世和歌研究—

【参考文献】

平安時代の勅撰集、主な私撰集・私家集は新日本古典文学大系（岩波書店）・和歌文学大系（明治書院）などの叢書に収録されています。詳しくはテキストの「参考文献」を参照してください（平成27年1月増補）。

【レポート作成上の注意点】

辞典類の記述を調査の入り口とすることは構いませんが、必ず用例は八代集などの歌集に当たって収集し、自分で分析するよう心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国語国文学古典研究Ⅴ

2 単位

—中世和歌研究—

L120-1591

市販書採用科目

【テキスト】

小川剛生『武士はなぜ歌を詠むか—鎌倉将軍から戦国大名まで—』（角川選書）KADOKAWA、2016年

※上記のテキストは、小川剛生『武士はなぜ歌を詠む

か―鎌倉将軍から戦国大名まで―』（角川学芸出版、2008年）と同内容です。どちらを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

中世、鎌倉時代から戦国時代までの和歌史を対象とします。中世和歌の特色はいくつかありますが、新たな統治者となった武家が和歌を好んだ点は見逃せません。作歌人口が増大し、地方にも歌壇が形成されるなどして、和歌は中世文化の基盤としても機能しています。作品は歴大に残存しており、一見個性に乏しいものの、丁寧に読めばその歌人の特色のみならず、文学史・文化史にさまざまな新見をもたらすことができます。テキストでは各時期の有名歌人を取り上げて、その業績と歌風を解説する形で記述しました。まずは時代の雰囲気を理解した上で、参考文献を活用し、実際に歌集や詠草を繙いて、中世和歌の奥深さに触れてください。

【テキストの読み方】

人名・地名・作品名がやや多く出て来ますので、文学史・日本史の辞典を参照しつつ読み進めてください。

【履修上の注意】

文学史はもちろんですが、日本中世史についても一通りの知識を持って履修してください。

【関連科目】

国文学古典研究Ⅳ―平安和歌研究―

【参考文献】

作品本文は新編国歌大観（角川書店）・私家集大成（明治書院）などに収録されています。注釈書のある作品はまだ少ないですが、いくつかは新日本古典文学大系（岩波書店）・私家集全釈叢書（風間書房）・新注和歌文学叢書（青簡舎）・和歌文学大系（明治書院）などの叢書に収められています。

【レポート作成上の注意点】

辞典類の記述を入口とすることは構いませんが、参考文献を丸写しするものは評価の対象となりません。必ず作品に触れた上で記述してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

書道

2 単位

L040-7701、L9112

【講義要綱】

漢字の歴史は中国殷代の甲骨文字に遡ることができます。そこから時の政権とともに字体も変化してきました。即ち甲骨文・金文・篆書・隸書・草書・行書・楷書というように通行書体の変遷がありました。テキストでは時代を越えて遺った名跡の数々を取り上げており、それぞれ理解を深めて欲しいと思います。日本においては中国の書の模倣から始まりやがて日本独自の

の和様の書が完成しました。

この科目は書道史とともに実技が課せられています。提出にあたり十分な練習をすること。

【参考文献】

『中国書道文化辞典』西林昭一著 柳原出版

『中国法書ガイド』全60冊 二玄社

『中国法書選』全60冊 二玄社

『日本名筆選』全40冊 二玄社

上記二玄社刊は1冊単位で入手できる。

【レポート作成上の注意点】

作品提出の際、漢字作品は半紙に4文字を大きく書くこと。かな作品は口絵写真のとおり実物大で書くこと。これらは「臨書」という学書方法で、手本の筆づかいや字形を忠実に再現することが目的である。

【成績評価方法】

科目試験による。

中国文学史

2 単位

L057-8502

【講義要綱】

この科目は中国文学の全体像を通史的に学び、その歴史的展開の諸相と特質を理解することを目的とする。文学や文化が、政治・経済・社会との関わりの中で成立している点に留意しつつ、時代・分野・受容層の観点から多角的に考察する。

【テキストの読み方】

学習者はまずテキストを精読することによって、中国文学史について概括的な知識を得ること。その上で各自の関心に従って問題を設定し、その解明のために作品や先行研究を広く読んで欲しい。

【履修上の注意】

「漢文学Ⅰ」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」を履修する場合は、その前に当科目を履修することが望ましい。

【関連科目】

「漢文学Ⅰ」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

九州大学中国文学会編『わかりやすくおもしろい中国文学講義』中国書店、2002年

前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会、1975年

興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社、

1991年

奥野信太郎著・村松暎編『中国文学十二話』NHK ブックス、1968年

『中国古典文学案内』日外アソシエーツ、2004年

【レポート作成上の注意点】

参考文献等のまとめや引用と、自分の考察とを明確に区別して書くこと。レポート本文中で原文や参考文献を引用する場合は、出典を明記すること。とくに参

考文献の場合は、それに加えて必ず引用ページも明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

漢文学Ⅰ

2単位

L075-9601

【講義要綱】

当科目は中国文学の概説および作品選読である。「漢文学」という名称の通り、対象は中国の古典文学に限定し、近現代のものは含まない。中国で伝統的に「文学」と言う場合、言語によって表現される文芸・学問全般を指す。当科目では、その中の詩文・思想・歴史の三つの領域を扱う。

【テキストの読み方】

まず、テキスト第一部の「漢文学概説」を熟読すること。概説は各ジャンルの最も重要と思われる項目のみを簡略に紹介しているので、巻末の参考文献などによって不足の点を補ってほしい。

中国古典文学の全体的な流れが把握できた段階で、次の第二部「漢文学選読」に進むこと。テキストは原文に訓読と注釈を付しただけであるので、全文の解釈および作品の背景については各自で辞書・参考書を使って詳しく調べてほしい。

【履修上の注意】

「中国文学史」を履修済みであることが望ましい。

【関連科目】

「中国文学史」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

塩谷温『中国文学概論』講談社学術文庫、1983年
黎波『中国文学館』大修館書店、1984年
莊司格一ほか『中国文学入門』白帝社、1987年
九州大学中国文学会編『わかりやすくおもしろい中国文学講義』中国書店、2002年
松原朗ほか『教養のための中国古典文学史』研文出版、2009年

【レポート作成上の注意点】

参考文献を必ず明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

漢文学Ⅱ—論語—

1単位

L011-6201、L60b

【講義要綱】

『論語』は孔子の言行録であり、儒教の最も基本的な経典である。徳治主義、尚古主義、身分主義といった特徴を持つとされるその思想は、中国のみならず日

本、韓国、ベトナム等の東アジア諸国に大きな影響を与えた。まず『論語』の原典を通読し、数多くある参考書を参照しつつ、孔子の思想と儒教の特色の優れた点と限界について考察する。

【履修上の注意】

当科目を履修する前に、「中国文学史」を履修していることが望ましい。

【関連科目】

「中国文学史」「漢文学Ⅰ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

吉田賢抗『論語』新釈漢文大系、明治書院、1960年
平岡武夫『論語』全釈漢文大系、集英社、1980年
金谷治『論語』岩波文庫、1999年
加地伸行『論語 増補版』講談社学術文庫、2009年
吉川幸次郎『論語（上・下）』朝日出版社（朝日選書）、1996年
土田健次郎『論語集注 1～4』、平凡社東洋文庫、2013年～2015年
金谷治『孔子』講談社学術文庫、1990年
白川静『孔子伝』中公文庫、1991年
江連隆『論語と孔子の事典』大修館書店、1996年

【レポート作成上の注意点】

『論語』や孔子に関する参考書は数多く、それぞれの解釈には大きな違いがある場合も多いので、必ず複数を参照して考察すること。なお、原典や参考文献を引用したり使用する場合は、必ず自分の文章と区別できるようにし、出典や書誌情報、引用ページを明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

漢文学Ⅲ—孟子—

1単位

L009-6002、L60c

【講義要綱】

漢文に親しみ、中国古代の思想史を理解するために、『孟子』を題材にとり学習する。訓読（書き下し文）を通して解釈の方法を身につけると同時に、儒家としての孟子の「王道政治」「性善説」「易姓革命」等の思想の特色についての理解を深める。

【テキストの読み方】

『孟子』に関する参考書は『論語』と同様に数多く、それぞれの解釈には大きな違いがある場合も多いので、複数を参照して考察すること。

【参考文献】

島森哲男・浅野裕一『孟子・墨子』鑑賞中国の古典③ 角川書店
内野熊一郎『孟子』新釈漢文大系4 明治書院
宇野精一『孟子』全釈漢文大系2 集英社
大島晃『孟子』中国の古典4 学習研究社

貝塚茂樹『孟子』講談社学術文庫
小林勝人『孟子（上・下）』岩波文庫
浅野裕一『諸子百家』講談社学術文庫

【レポート作成上の注意点】

引用文は自分の文章と区別できるようにし、出典と引用箇所を明記すること。また、レポート本文中で参考文献を引用する場合は、参考文献の書誌情報に加え、必ずその引用ページも明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・現代英語学

3 単位

L131-1801

【講義要綱】

現代英語の特徴を多面的に研究する。英語が現代の世界で置かれている状況は明らかに他の個別言語と異なっている。また、言語だけを見ても、他のインド・ヨーロッパ語族にある言語とは異なった特徴がある。これらの視点をふまえて「英語らしい」英語の使用を考える。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【関連科目】

「英語学概論」「英語音声学」

【参考文献】

唐須教光（編）『開放系言語学への招待』慶應義塾大学出版会、2008年
井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』南雲堂、1999年
池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚』NHK ブックス、2006年
池上嘉彦『〈英文法〉を考える』ちくま学芸文庫、1995年
井上逸兵『バカに見えるビジネス語』青春新書インテリジェンス、2013年

【レポート作成上の注意点】

自分で事例を探すこと（言語学の文献などの例の2次利用は不可）。
ワープロで書くことが望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語学概論

3 単位

L121-1501

【講義要綱】

英語の言語上の特徴や英語と社会・文化・コミュニケーションとの関わりを見極めること。また、英語、

ならびに言語を分析するために発展してきた研究の流れを理解し、それをふまえて英語の使用を考察すること。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【関連科目】

「現代英語学」、「英語音声学」

【参考文献】

唐須教光（編）『開放系言語学への招待』慶應義塾大学出版会、2008年
井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』南雲堂、1999年
井上逸兵『ことばの生態系—コミュニケーションはどこでできているか』慶應義塾大学出版会、2005年
西光義弘（編）『日英語対照による英語学概論』くろしお出版、1997年
安井稔『英語学概論』開拓社、1987年

【レポート作成上の注意点】

自分で例をさがすこと（言語学の文献などの2次利用は不可）。
ワープロで書くことが望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語音声学

2 単位

L115-1301

【講義要綱】

一般音声学的理解を土台として、音声英語の調音的特徴、音響学的特徴を理解すること。また英語の韻律についても理解を深めること。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【履修上の注意】

文献・レポート等による学習だが、実際に自分で発音しながら学習してほしい。

【関連科目】

「英語学概論」「現代英語学」

【参考文献】

佐藤寧・佐藤努『現代の英語音声学』金星堂、1996年
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館書店、2007年
服部義弘〔編〕『朝倉日英対照言語学シリーズ2 音声学』朝倉書店、2012年

【レポート作成上の注意点】

・必ず、参考文献を参照すること（テキストだけでは

不十分)。文献を引用した場合は、出典を必ず明記すること。

- ・自分の言葉で書くこと（丸写しはダメ）。具体例はテキスト記載のものをそのまま使用せず、自分で考えたものにする。
- ・内容だけでなく、体裁にも気を配ること。
- ・ワープロによる作成が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語史

2単位

L047-7903

【講義要綱】

英語という言語の特徴を理解するためには、それがたどってきた歴史を学ぶことが不可欠です。英語の起源はどこにあるのか、英語に見られる不規則性は何に由来するのか、英語は将来どうなっていくのか、などの現代的な問題に歴史的・通時的な視点からアプローチすることで、多面的な英語観を形成することが、本科目の目標です。

【履修上の注意】

現代英語がなぜ今あるような言語となったのかを知ることが本科目の重要な目的の一つですから、高等学校までに学んだ現代英語に関する語学的な知識をきちんと整理しておいてください。レポート執筆のために、指定テキストのみならず、参考文献に挙げた他の複数の英語史概説書を読んでおいてください。

【関連科目】

「現代英語学」「英語学概論」「英語音声学」

【参考文献】

家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房、2007年。
唐澤一友『多民族の国イギリス——4つの切り口から英国史を知る』春風社、2008年。
寺澤盾『英語の歴史』中央公論新社〈中公新書〉、2008年。
中尾俊夫、寺島廸子『図説英語史入門』大修館書店、1988年。
橋本功『英語史入門』慶應義塾大学出版会、2005年。
堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解——納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、2011年。
堀田隆一『英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史』研究社、2016年。
松浪有（編）、小川浩、小倉美知子、児馬修、浦田和幸、本名信行（著）『英語の歴史』大修館書店、1995年。
渡部昇一『英語の歴史』大修館、1983年。

【レポート作成上の注意点】

文章中には具体的な専門用語、固有名詞、単語や例文などをなるべく多く含めるようにしてください。また、ワープロでレポートを作成の場合、ワープロで印字できない特殊な文字は手書きで記してください。と

くに発音記号などは、ほかの文字で代用しないようお願いいたします。

【成績評価方法】

科目試験による。

ACADEMIC WRITING I

2単位

—英語論文作成法—

L113-1201

【講義要綱】

本科目は、英語を学術的に書くことにおいて必要となる知識とスキルを習得することを目的としています。「アカデミック・ライティング」と一般的に呼ばれている作文技術が単なる「英作文」と異なっているのは、前者が「英語で書く」ということに加えて「学術的に書く」必要があるという点です。つまり、文法的・構文的に正確な文を作成するだけでなく、アカデミックな研究の性質や作法を十分に理解した上で論理的議論を構築し、それに応じた論文作成を行う能力が必要となります。本科目では、受講者の皆さんがテキストを通してこれらの技術を学び、レポート課題で実践することを目指しています。

指定の教科書『Academic Writing I—英語論文作成法—』は以下のような構成になっています。

Chapter 1 アカデミック・ライティングとは
Chapter 2 パラグラフとは
Chapter 3 エッセイの構造 (1)
Chapter 4 エッセイの仕組みを構想する
Chapter 5 文献資料の扱い方
Chapter 6 エッセイの構造 (2)
Chapter 7 完成に向けて
Appendix (エッセイ作成のスケジュールなど)

【テキストの読み方】

テキストは、受講者の皆さんに学術的な論文を書くための基本的な知識を技術の一つ一つ身につけてもらうことを目的として執筆されています。まずはアカデミック・ライティングとは何であるかについて概観したのち（Chapter 1）、論文の最小単位と言えるパラグラフ（段落）を書く技術を習得し（Chapter 2）、徐々に長い文章が書けるように誘導します（Chapters 4、7）。その過程で、長い文章の構造を俯瞰的に眺める視点も導入し（Chapters 3、6）、また、アカデミック・ライティングにおいて避けては通れない文献の引用の仕方や剽窃を避ける方法についても時間を割く予定です（Chapter 5）。

【履修上の注意】

本科目は、英語で言いたいことを辞書を使いながら表現できる学習者を対象としています。したがって、英文法の知識がおぼつかない方や辞書を使って一般読者向けの英文が読めない方は、事前に市販の書籍で最低限の知識と英語力を身につけてから履修するようにしてください。

【参考文献】

〈アカデミック・スキルズ解説書〉

- ・佐藤望編『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門（第2版）』慶應義塾大学出版会、2012年（論文作成だけでなく、大学での学び全般に役に立つスキルや知識習得を目指した入門書。）〈アカデミック・ライティング学習書〉
- ・アンドルー・アーマー、河内恵子、松田隆美、ウィリアム・スネル『アカデミック・ライティング応用編—文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版会、1999年
- ・上村妙子、大井恭子『英語論文・レポートの書き方』研究社、2004年
- ・佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック—ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房、2008年（英語ライティングに特化したものではないが、大学で研究を行い、その研究成果を効果的かつ正確に著すのに必要な作法や手順が丁寧に説明されている。）
- ・崎村耕二『英語論文によく使う表現』創元社、1991年
- ・ポール・ロシター、東京大学教養学部英語部会編『First Moves: An Introduction to Academic Writing in English』東京大学出版会、2004年（8章構成。各章で短い学術的テキストを土台に、アカデミック・ライティングの諸要素（英語表現の詳細も含む）を学ぶことができる構成になっている。練習問題と解答例あり。）
- ・Robyn Najar and Lesley Riley (2004). *Developing Academic Writing Skills*. Tokyo: Macmillan Language House. (15ユニットから成る大学生向け入門書。英語で書かれているが、文字が大きく、図表も多いので読みやすい。)
- ・Alice Oshima and Ann Hogue (2006). *Introduction to Academic Writing* (3rd edn). New York: Longman. (アカデミック・ライティング執筆に不可欠な知識、作法や手順が網羅されている。)
- ・Dorothy E. Zemach and Lisa A. Rumisek (2005). *Academic Writing: From Paragraph to Essay*. Oxford: Macmillan. 〈MLA スタイルの解説書〉
- ・Modern Language Association of America (2009). *MLA Handbook for Writers of Research Papers* (7th edn). New York: Modern Language Association of America.
- ・『MLA 英語論文の手引 第6版』北星堂書店、2004年（MLA Handbook 第6版の翻訳版。上記の第7版と異なる事項があるので注意すること。）
- ・Charles Lipson (2011). *Cite Right: A Quick Guide to Citation Styles - MLA, APA, Chicago, the Sciences, Professions, and More* (2nd edn). Chicago: University of Chicago Press. (様々な論文スタイルのガイド。)
- ・‘MLA Formatting and Style Guide’. <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/747/01/> (下記サイトの MLA スタイル解説のページ。)

〈アカデミック・ライティング学習のためのウェブサイト〉

- ・<http://owl.english.purdue.edu/> (アメリカ Purdue 大学で運営されているサイト。ライティングにおける重要事項を具体的、丁寧に解説。専攻分野ごとの説明もある。英語学習者むけ情報、練習問題も豊富。)
- ・<http://www.uefap.com/> (‘Using English for Academic Purposes: A Guide for Students in Higher Education’. イギリスの英語教育コンサルタントが運営するサイト。分野ごとに練習問題が豊富に掲載されている。オンラインで取り組むことができ、ほとんどの問題に解答がついているので、自習に最適。)

【レポート作成上の注意点】

教科書のチェックリストは、レポート課題に多く見られる問題点と本科目の学習事項をもとに作成されています。各項目と照合しながら、最低二回は論文を読み直してください。

特に、以下の問題のあるレポートが多いので注意してください。

- ・英語の誤り（主語と動詞の一致、冠詞、品詞、構文、時制等において）が目立つ
- ・議論の構成（論文の thesis が曖昧、論理的一貫性不足、客観的な立証不足）
- ・論文の構成（パラグラフの構造、イントロダクションの役割と構造）
- ・書式、引用方法、文献リストの不備

【成績評価方法】

科目試験による。

ACADEMIC WRITING II — 英米文学・文化研究における英語論文作成法 — 4単位

L080-9901

【講義要綱】

The aim of Academic Writing II is to research and write an academic essay on a literary theme in English, conforming to the guidelines described in the textbook. The essay will be evaluated according to the proficiency of English, the content (i.e. argument), and technical details such as use of quotation, punctuation, etc.

【履修上の注意】

This essay must conform to the style (s) and format explained in the textbook and should be typed using a computer or word processor. It is expected that the works and critical studies referred to are for the most part in English, although the use of Japanese books, journals, etc. is not discouraged.

【関連科目】

ACADEMIC WRITING I—英語論文作成法—

【参考文献】

「ACADEMIC WRITING I—英語論文作成法—」の参考文献を参照。

和英辞典だけでは十分ではありません。

- 1) Collocation Dictionary (ある語がどの語と組み合わせられて用いられるかを調べる辞書；活用辞典) 例 (e.g.): <http://www.freecollocation.com/>
 - 2) Thesaurus (シソーラス：同じ語を繰り返して用いないために用いる類語辞典) 例 (e.g.): <http://www.thesaurus.com/>
- 1) と 2) の両方とも、英語らしい英語を書くのに必須です。いずれの種類もいろいろなものがあるので、見やすく使い易いものを探してみてください。

【レポート作成上の注意点】

ワープロで体裁を調べて論文を提出することが望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代英文学

2 単位

L125-1601

【講義要綱】

20世紀以降のイギリス文学のありかたを小説を中心に把握すること。

【履修上の注意】

テキストの情報を参考に、少しでも多くの作品に実際にふれることが重要である。イギリス小説の多様性を理解してほしい。

【参考文献】

イギリスの現代史、小説史、文化史など。

【レポート作成上の注意点】

引用文の情報は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

英文学特殊

2 単位

L071-9201、L9239

【講義要綱】

近現代のイギリス文学とその歴史を、「言論の自由」と「信仰への態度」という二つの側面から考察する科目である。レポート課題自体は、両方の課題に解答する形式となっているので、単位の取得のためには両方の側面より見たイギリス文学に関する深い知識と見識を持つことが必要になる。

【テキストの読み方】

まずは、テキストを精読し、第1部で述べられている海保師の見解、第2部で述べられている上村師の作品論、それぞれについて正確に理解することが必要である。その上で、レポート課題などに応じて、参考文献を自分で探し、増やしながら、自分独自の意見を持つことが必要。

【履修上の注意】

テキストもさることながら、小説などの原典をじっくりと読むことが何より大事である。しかし、レポートの執筆においては、単なるテキストの要約や作品の紹介ではなく、研究対象についての自分独自の視点を強く打ち出すことが求められる。その意味で、参考文献を貪欲に読破することが大事。その上で、ただの要約や紹介ではなくて「論」を展開させるように、努力してください。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目】

特になし。

【参考文献】

文学部英米文学専攻のホームページにある『文献案内』または『藝文研究 別冊』の「文献案内」などを参考にしながら、妥当性が高いと思われる参考文献を一步一步、自分の力で探してみること。学習はそこから始まるのだから。

【レポート作成上の注意点】

レポート課題を熟読し、その趣旨をよく理解した上で、テキストおよび小説作品をまずはじっくりと読むことが大事である。そのうえで、課題に沿った、自分独自の視点から、論考を深めてゆくことが望まれる。レポートの執筆においては、単なるテキストの要約や作品の紹介ではなく、研究課題についての自分独自の意見をはっきりと述べる必要がある。その意味で、様々な参考文献を貪欲に読破し、謙虚かつ個性的に学習を深めるべきである。

【成績評価方法】

科目試験による。

中世英文学史

2 単位

L035-7601、L7622

【講義要綱】

中世の英文学は7世紀から16世紀前半までの時代にブリテン島で書かれた文献のほとんどを研究対象とします。そのなかには、1066年のノルマン征服以前の古英語期と以後の中英語期に大別される英語の文学、そしてブリテン島で英語以外の言語（フランス語、ラテン語など）で著された著作が含まれます。作品のジャンルも多岐にわたり、近代以降の文学とは異なるので、学生諸君は教科書を熟読して大きな流れを理解し

てください。文学史は、個々の作品の相互の影響関係や作品が著された文化的文脈を解説し、複数の作品を関連づけて解釈するための視点を提供してくれます。

【テキストの読み方】

テキストは中世英文学の大きな流れを、なるべく多くの作品に触れつつ概説しています。流れを理解するために最も重要なことは、文学上の専門用語の意味を理解し、個々の作品をなるべく多く読んでみることです。自ら年表を作成して、個々の作品が制作された時期にはどのような歴史的事件があったかを対照してみることが理解に役立ちます。

【履修上の注意】

テキスト末尾の「参考文献」にあげられている研究書へと読み進めてさらに理解を深めるとともに、何よりも中世英文学の作品をひとつでも多く読むように心がけてください。また、英文学関連の他の専門科目、英語史、西洋史の科目もあわせて履修することが望まれます。

【関連科目】

「近世英文学史」、「英語史」、「歴史（西洋史）」、「ACADEMIC WRITING II」

【参考文献】

高宮利行・松田隆美編『中世イギリス文学入門—研究と文献案内』（雄松堂出版、2008）
——中世英文学の全てのジャンル、作家に関する入門的解説と研究案内。参考文献も詳しい。
英文の主要な研究書については、テキスト巻末の文献案内を参考にすること。

主要作品の日本語訳
〈Old English の詩〉
忍足欣四郎訳『中世イギリス英雄叙事詩 ベーオウルフ』（岩波文庫、1990）— *Beowulf*
鈴木重威、鈴木もと子訳『古代英詩』（グローリア出版、1978）— Old English elegy
〈ジェフリー・チョーサー（Geoffrey Chaucer, c. 1340-1400）〉
『完訳 カンタベリー物語』榎井迪夫訳 上・中・下巻（岩波文庫、1995）— *The Canterbury Tales*
『カンタベリー物語』西脇順三郎訳 上・下巻（ちくま文庫、1987）
『トロイルス』岡三郎訳・解説、トロイア叢書4（国文社、2005）— *Troilus and Criseyde*
『チョーサーの夢物語詩』塩見知之訳（高文堂出版社、1981）
〈ウィリアム・ラングランド（William Langland, c. 1325/35-c. 1380）〉
『農夫ピアースの夢』柴田忠作訳註（東海大学出版会、1981）— *Piers Plowman* (B-Text)
『農夫ピアースの幻想』池上忠弘訳（中央公論社、1993）— *Piers Plowman* (A-Text)
〈ジョン・ガワー〉
『恋する男の告解』伊藤正義訳（篠崎書林、1980）
〈「ガウェイン詩人」(*The Gawain-Poet*)〉

『ガウェイン詩人全訳詩集』境田進訳（小川図書、1992）
田口まゆみ・横山茂樹 *Cleanness, with Japanese Translation*（英潮社、1993）
成瀬正幾『中世英詩「真珠」の研究』（神戸商科大学学術研究会、1981）— *Pearl* の研究と対訳。
『サー・ガウェインと緑の騎士』池上忠弘訳（専修大学出版局、2009）— *Sir Gawain and the Green Knight*
『白珠：いざりす中世詩』宮田武志訳（大手前女子学園アングロノルマン研究所、1980）
〈Middle English のロマンス作品〉
中世英国ロマンス研究会・訳『中世英国ロマンス集』第1-4巻（篠崎書林、1983、1986、1993、2001）— アーサー王以外のロマンス
清水阿や訳注『頭韻詩 アーサー王の死』、『八行連詩 アーサー王の死』『英和对訳 中世韻文アーサー物語三篇』（ドルフィン・プレス、1986、1985、1994）
厨川文夫・圭子訳『アーサー王の死—中世文学集1』（ちくま文庫）— *Sir Thomas Malory, Morte Darthur*
〈中世イギリスの演劇〉
石井美樹子訳『イギリス中世劇集—コーパス・クリスティ祝祭劇』（篠崎書林、1983）
鳥居忠信・山田耕士・磯野守彦共訳『イギリス道徳劇集』（リーベ出版、1991）
〈その他〉
作者不詳『不可知の雲』奥田平八郎訳（現代思潮社、1977）— 神秘主義文学 *The Cloud of Unknowing*
石井美樹子・久木田直江共訳『「マージェリー・ケンブの書」イギリス最古の自伝』（慶應義塾大学出版会、2008）— *The Book of Margery Kempe*
『マンデヴィルの旅』大手前女子大学英文学研究会訳、福井秀加・和田章監訳（英宝社、1997）／『東方旅行記』大場正史訳 東洋文庫19（平凡社、1964）— *Mandeville's Travels*
『梟とナイチンゲール—中世イギリス論争詩』佐々部英男訳（あぼろん社、1975）

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確に注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料（引用した作品そのものやその他の原典資料）と二次資料（研究書、研究論文など）に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は「学習の手引き」などを参考に正確に記すこと。また、「ACADEMIC WRITING II」のテキスト（通信教材）には、注の付け方や書式について、詳しい解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレポートは再提出となり、他の文献に記されている内容をあたかも自分の見解のように用いることは論文盗用と見なされ、処分の対象となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

近世英文学史

2単位

L036-7701、L7723

【講義要綱】

この科目は、16世紀から19世紀にかけてのイギリス文学の流れを、詩、散文、演劇を中心に概観することで、近代イギリス文学の基本的な枠組みと流れを知り、より専門的な個別研究の基盤を築くことを目的とする。テキストは、ジャンル毎に、その特色と変化を、チューダー朝からビクトリア朝まで時間軸にそってたどるとともに、主要作品が文学史のなかで伝統的にどのように位置づけられているかを簡潔に示している。

【テキストの読み方】

「近世英文学史」のテキストは、16世紀から19世紀末までのイギリス文学の流れを、時代を追ってジャンル別に概説している。本書で指摘されている各時代の背景や作家の特徴は、一国の文学の伝統を理解するために本質的なものばかりである。より専門的な学習・研究のためには文学史の知識は不可欠であり、細部までテキストを熟読し、自らの手でも系統的に整理することを薦める。また、下記の参考文献も併せて参照しつつ、可能な限り言及されている作品を実際に読んでみることで、知識を空疎なものにしないために重要である。

【関連科目】

「イギリス文学研究Ⅰ～Ⅲ」「英文学特殊」「シェイクスピア研究」「ACADEMIC WRITINGⅡ」

【参考文献】

斎藤勇『イギリス文学史』（研究社、1974年）
神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』（ミネルヴァ書房、1989年）
パット・ロジャーズ『図説イギリス文学史』青木健ほか訳（大修館書店、1990年）
橋口稔編著『コンパクトイギリス文学史』増補版（荒竹出版、1991年）
三ツ星堅三『イギリス文学史概説 社会と文学』（創元社、1993年）
関裕三郎『作品が語るイギリス文学史』（開拓社、2000年）
白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』（横浜市立大学学術研究会、2013年）
石塚久郎編『イギリス文学入門』（三修社、2014年）

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確に注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料（引用した作品そのものやその他の原典資料）と二次資料（研究書、研究論文など）に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は「学習のすすめ」などを参考に正確に記すこと。また、「ACADEMIC WRITINGⅡ」のテキスト（通信教材）には、注の付け方や書式についての解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレ

ポートは再提出となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅰ—散文—

2単位

L109-1101

【講義要綱】

第一次世界大戦を生き、描いた、イギリス女性作家たちのさまざまな立場を理解してもらいたい。時代と文学の多様性に注目することにより「戦争と作家」という視点をもつことが重要である。

【テキストの読み方】

通読して、文学史と文化史を把握してもらいたい。

【履修上の注意】

参考にした文献の情報は明確に伝えること。

【参考文献】

指定テキスト『イギリス文学研究Ⅰ—散文—』（『西部戦線異状あり』）に紹介されている文献案内を参照すること。

【レポート作成上の注意点】

引用文の情報は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅱ—詩—

2単位

L033-7603、L7628

【講義要綱】

ミルトン、シェイクスピア、キーツ、エリオットなど、16世紀末から20世紀初頭にかけてのイギリスの代表的詩人24人の作品を読み、通常の散文とは別世界である英語の言葉の展開を追う。

【テキストの読み方】

英詩の特徴と味わい方は、テキスト序文に尽くされているので、熟読されたい。様々な韻律法が紹介されているが、それを丸暗記する必要はない。しかしそこで強調されているように、詩の真髄は言葉のリズムにあるので、どの作品も単語の意味を調べるばかりではなく、是非声に出して読み、口で賞味して頂きたい。詩のリズムは、わらべうたのように、意味の把握以前に音楽的な調子をもって言葉に息吹を吹き込んでいるからである。その上で、言葉の意味から全体の構成、作者の伝記的背景、時代状況に至るまでの要素がない交ぜとなって、作品の鑑賞に奥行きが与えられるであろう。

【レポート作成上の注意点】

広く参考文献にあたり、使用部分には注を施して出

典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅲ—演劇— 2単位

L050-7902

【講義要綱】

文学作品の鑑賞において最も不可欠で重要な要因の一つであろうと思われるものを挙げるとすれば、作品との生の（直接の）触れ合いということになろう。これはジャンルを問わず、すべての芸術作品についても言えることである。その出会いの原点乃至は源流を辿ることがどれほど価値を有するものであり、どれほど多くの発見を内に秘めた試みであるのかは、実際にその冒険に挑んでみなければ何人たりともわかり得ないだろう。文字通りそれほど奥の深い試みなのである。

特定の作品との感動的出会いを誘発且つ可能ならしめるところの直接的及び間接的要因をテキストのどの言葉やどの台詞に見出すかは、個人によって異なるであろう。それは各人が今日まで歩んできたところの人生行路、歩みの過程における出会いとそれによって意識的あるいは無意識的に織りなしてきたところの人間模様、今日まで培ってきた美意識の根底に深く静かに横たわる様々な風景や自然、その他人生における諸々の体験などの積み重ねなどによって、どの言葉が琴線に触れるかは自ずから異なるからである。自然の摂理に従うより他に術はあるまい。それ故にこそ、各人の鑑賞法の尊さが存在し、各人の存在意義（the reason for being; the raison d'être）の再確認・再認識がなされて然るべきなのである。

出会いの原点乃至は源流を遡る試みの過程において最も必要とされるテキストは、自らが今日まで織りなしてきたところの人生という書物であろう。それは内にもまた外にも開かれた open text（socialized text）であり、文字通り未完成のテキストである。未完成ではあるものの完成への強い願望と意思とを宿したものであり、自己充足への実現を何よりも真摯に志向するものである。その未完成のテキストを抛り所として、目の前の作品と自分自身との影響関係を吟味・分析し、言語化し、表現するという作業に敢然と立ち向かわれんことを切望するのが、他ならぬ本講座の主眼である。

【テキストの読み方】

個々の作品世界に入り込むことが重要である。その鍵を握るのが登場人物の台詞であろう。台詞は言葉の集積である。それ故に、一語一語の意味を解き明かし、登場人物の心理や思想、行動様式や生き方などを理解する作業が不可欠である。行間を読む（read between the lines）という作業に挑むことこそが何よりも求められているということを、自覚してほしい。

【履修上の注意】

参考資料への過度の依存は避けるべきである。参考文献からの引用などは具体的引用箇所を明らかにすべ

きであり、断りなく書き写してはならない（cf. plagiarism）。稚拙な文章であると思われても、自分自身の頭で書き連ねる努力が大切である。行間に滲み出るものが、偽らざる自分自身の姿であり形であってほしいからである。

【関連科目】

「イギリス文学研究Ⅰ—散文—」、「イギリス文学研究Ⅱ—詩—」、「シェイクスピア研究」等の科目と有機的に関連していることは、理解できよう。

【参考文献】

個別の作家や作品に関する参考文献（テキストの「Ⅲ 参考文献集」を参照）は数多くあるが、あくまで参考程度にとどめることが肝心である。順序としては、テキストを読んでから参考文献に移ること。そうでないと、自らの読み（reading）の基本軸を失うことになるからである。

【レポート作成上の注意点】

このレポート課題の目的は「演劇史的意義」を論じるものであるため、くれぐれも感想文や作品紹介にならないように気をつけること。感想文や作品紹介になっているレポートは評価しない。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学

2単位

L105-1001

市販書採用科目※

【テキスト】

巽孝之『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』慶應義塾大学出版会、2003年

※「アメリカ文学」は上記市販書と、配本テキストのアンソロジー『アメリカ文学』の2冊が指定テキストとなります。

【講義要綱】

アメリカ文学思想史をふまえて多くの作品を読み進めていくなら、そこに17世紀ピューリタン植民地時代以来、人種・階級・性差を問わず連綿と培われたアメリカン・ナラティヴの伝統が脈々と息づいているのを見て取ることができる。テキスト『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』は、まさにそうした視点から、17世紀から19世紀にわたる男性、女性、混血の文学者を取り上げ、彼らがいかなるアメリカン・ナラティヴに準拠してきたかを克明に辿ったものだ。ジョン・ウィンズロップからベンジャミン・フランクリン、マーク・トウェインからF・スコット・フィッツジェラルド、トマス・ピンチオンからカレン・テイ・ヤマシタに至る壮大なパースペクティヴを、アンソロジー『アメリカ文学』の原文を読むことで確認し、そこに各作家独自の「テーマ」を読み取ってほしい。

【参考文献】

レポート作成、科目試験準備に当たっては、テキス

トに加え以下の参考文献も適宜参照すること。

Peter B. High, ed, *An Outline of American Literature* (New York: Longman, 1986)。

巽孝之『ニュー・アメリカニズム—米文学思想史の物語学』増補新版、青土社、2005年

【レポート作成上の注意点】

教科書を熟読した上で、その方法論を活かしつつ、代表的作品群を読み解くことが、このレポート課題の学生諸君に要求するところである。したがって、明らかに下記の三点に違反するものは不合格とする。

- (1) アンソロジー収録作品原典を必ず読み、そのことがはっきりわかるように原文からの引用と、できれば自身による試訳も含むこと。
- (2) 教科書で扱われているアンソロジー収録以外の作品の場合、教科書をふまえながらも、できるだけ別の見解を編み出すこと。
- (3) 教科書で扱われていない作品の場合、その作家に関する他作品及び二次資料をも、図書館できちんと調査・収集してから分析すること。

なお、レポートにはときとして教科書の記述を丸写しにして恥じないものが少なくない。そういう姿勢が露呈した場合、自動的に不合格となるので覚悟されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学研究Ⅰ

2単位

L030-7602、L7626

【講義要綱】

本講座は、19世紀前半に発表されたアメリカ文学作品を精読し、時代背景とともに作品内容を理解することを目的とする。本書で紹介するのは、アメリカ・ルネサンス期に属する6名の作家であるが、彼らの作品は現在もアメリカ文学史において「アメリカとは何か」を問いかける作品として重要視されている。本講座では、テキスト冒頭に収録されている歴史的背景を通読した上で、個々の作品を丹念に読み進め、その作品の意義を考察することが求められる。

【テキストの読み方】

冒頭の“American Renaissance”の解説をよく読んでから、テキストの精読に取りかかられたい。もちろん英語で執筆された文学作品を読み通すことは容易なことではない。急いで読み飛ばしてしまうようなことはせず、時間をかけて理解されたい。またその際、翻訳を補助的に使用してもよいが、原文から伝わるニュアンスを読み取る努力を大切にすることを念頭においてもらいたい。

【履修上の注意】

基本的な英語文法を習得していることが必要となる。またレポート作成にあたっては、作品や作家についてのリサーチが必要となるため、図書館でのリサーチや、データベースを用いた基礎的な資料調査方法を習得し

ていることが望ましい。

【関連科目】

「アメリカ文学」「アメリカ文学研究Ⅱ」

【参考文献】

テキスト末尾に記載されている Bibliography を参照のこと。また辞書は『リーダーズ英和辞典』など、収録語数が多いものを選ぶとよい。

【レポート作成上の注意点】

テキストを読みながら、印象に残った部分や疑問に思ったところなどに印をつけながら読むとよい。また、レポートの書き方については、事前に論文の書き方に関する文献を少なくとも一冊通読し、構成や引用の方法などを確認しておくこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学研究Ⅱ

2単位

L017-6901、L7931

【講義要綱】

文学研究において、実際の作品をどのように解読するかという作業は避けて通れないものである。この科目では、20世紀のアメリカ文学のいくつかの作品について、原文を注意深く読み、そこに描かれた物語の内容と形式に込められた意味をどのようにして理解すべきかという作業を行うことにより、アメリカ文学の読み方に関する技術を向上させることを目的とする。

【履修上の注意】

英語で書かれた作品の解釈を行うのであるから、英語の必要単位が全て取得済であることは、当科目の履修の条件として当然のことである。まとまった量の英語の読解に自信のない者には履修を勧めない。

【参考文献】

高田賢一・森岡裕一編『シャーウッド・アンダソンの文学』ミネルヴァ書房、1999年

大橋健三郎ほか編『総説アメリカ文学史』研究社、1975年

【レポート作成上の注意点】

文学作品を「論じる」という行為は、構成・技法・形式上の特質、登場人物の性格描写や人物造形、主題、文学史的価値などについて、作中の具体的な証拠（舞台設定や表現など）に基づいて論理的に説明し、自らの解釈を展開することである。作者は何を訴えようとしたのか、そのためにどのような工夫をしているのかを分析すること。これらの点について言及されておらず、あらずじ紹介や感想文に終始しているレポートは、「論じる」という次元に達していないものとして、全て不合格とする。また、作品の理解には、歴史的背景や文学史的知識が有効であることはいままでもないが、この科目は、それらの知識の有無を直接問うことが目

的ではない。それらの知識を参考にして、実際の作品の価値をどう解釈するかがあくまで重要なのであるから、歴史的背景や文学史的知識を羅列しただけのレポートも不合格とする。したがって、当科目のレポートを作成するに当たっては、テキストの原文を丹念に読むことはもちろん、作品の書かれた時代背景や作者の文学史的位置、作者が書いた他の作品や他の作家との比較等、幅広い知識を活用して、実際の作品を具体的な証拠からどう意味づけるか論理的に説明できなければならない。作品を一つ読めばレポートが書けるわけではなく、アメリカ文学の流れや個々の作家に関する相当な勉強量が求められていることを認識した上でレポート作成に取りかかること。なお、科目試験の受験に当たっては、このレポート作成に求められるのと同様の勉強をテキストに掲載された他の全ての作品についても行った上で臨むこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

シェイクスピア研究

2単位

L039-7702、L7730

【講義要綱】

シェイクスピアの劇作品は、16世紀以来、演出を変えてくりかえし上演され、また映画、絵画、オペラなど、異なったメディアでも扱われ続けてきた。そのようにテキストを受け止める文化的文脈が変化しても、変わらずに人気を保ち続けることは、シェイクスピア劇がまさに古典であることの証である。そうした永続的な魅力を一読者として知り、それを客観的に言語化できるためには、シェイクスピア解釈における様々な批評的立場を知り、それらを自己の解釈の確立に活用するとともに、何よりもテキスト本文の厳密な読みを心がける必要がある。それは、16世紀の英語を語学的に正確に読むということにとどまらず、作品中における特定の概念の意識的な主題化、イメージの連鎖、プロットの展開、登場人物の類型などに関して、分析的にテキストを読むことである。この点をふまえて、本科目の受講生は以下のようなプロセスで学習を進め、レポートの作成へと至って欲しい。

1. 教科書を通読し、エリザベス朝時代の演劇上演の背景やシェイクスピアの劇作品について、バランス良く基礎知識を習得する。シェイクスピアの英語（第7章）については、文法的特徴を現代英語との対比において理解する。
2. 教科書を参考にシェイクスピアの劇作品を複数選び、分析的に精読する。翻訳を活用して読み進めて良いが、定評ある学術的校訂版（The New Cambridge Shakespeare, The Oxford Shakespeare, The Arden Shakespeareなどのシリーズが、注が豊富である）を入手し、原文と意識的に対照させながら読むことが望ましい。また、各ジャンル（悲劇、喜劇、歴史劇、ロマンス劇）について、それぞれ一編ずつは読んでみるとよい。
3. シェイクスピア劇を実際にどのように分析する

のか、それを知り、自分の解釈を客観的に提示するための参考とするために、近年のシェイクスピア劇の研究書のなかから定評あるものを複数読んでみる（参考書リスト参照）。

【テキストの読み方】

本科目のテキストは、シェイクスピアを批評するために有益な、シェイクスピアに関する伝記的事実、作品の制作状況、エリザベス朝の世界観や上演形態に関する基礎知識を中心的に記述している。テキストを通して作品を読むための文化的文脈を理解してほしい。その上で、各自の興味に従ってシェイクスピアの劇作品を数点選び、じっくりと読み込んでほしい。

【関連科目】

「近世英文学史」「イギリス文学研究Ⅲ—演劇—」「ACADEMIC WRITING II」

【参考文献】

シェイクスピア研究には大量の研究書が存在しているので、良書のみを選び出して利用する必要がある。以下には日本語で読めるものに限って、(1) 研究ハンドブック的なもの、(2) 近年の定評ある研究書に厳選して列挙した。もちろん以下に示し得なかった研究書のなかにも重要なものは数多いが、このリストの書目を出発点としてさらに自分の興味にあった研究書を探して読み進めて欲しい。

シェイクスピアをはじめ16—17世紀イギリス文学に関する重要な参考文献については、英米文学専攻のウェブサイトでも紹介しているので参照のこと。

(http://www.flet.keio.ac.jp/englit/bibl/bibl_index.html)

- ・高田康成他編『シェイクスピアへの架け橋』（東京大学出版会、1998）
- ・小津次郎編『シェイクスピア作品鑑賞事典』（南雲堂、1997）
- ・高橋康也編『シェイクスピア・ハンドブック』（新書館、2004）
- ・C. L. Barber, *Shakespeare's Festive Comedy* (1959). C.L. バーバー『シェイクスピアの祝祭喜劇』玉泉他訳（白水社、1979）
- ・Stephen Greenblatt, *Renaissance Self-Fashioning: From More to Shakespeare* (Chicago: Univ. of Chicago, 1980). スティーブン・グリーンブラット『ルネサンスの自己成型』高田茂樹訳（みすず書房、1992）
- ・Stephen Greenblatt, *Shakespearean Negotiations* (1988). スティーブン・グリーンブラット『シェイクスピアにおける交渉』酒井正志訳（法政大学出版局、1995）
- ・Juliet Dusinberre, *Shakespeare and the Nature of Women* (1975). ジュリエット・デュシンベリー『シェイクスピアの女性像』森祐希子訳（紀伊國屋書店、1994）
- ・Terry Eagleton, *William Shakespeare* (1986). テリー・イーグルトン『シェイクスピア—言語・欲望・貨幣』大橋洋一訳（平凡社、1992）
- ・Anne Barton, *Shakespeare and the Idea of*

the Play (1962). アン・バートン『イリュージョンのカーシェイクスピアと演劇の理念』青山誠子訳(朝日出版社、1981)

- ・Robert Weimann, *Shakespeare and the Popular Tradition in the Theater*, ed. by Robert Schwartz (Baltimore, MD: Johns Hopkins UP, 1978). R・ヴァイマン[著]; R・シュワーツ[編]『シェイクスピアと民衆演劇の伝統』青山誠子・山田耕士訳(みすず書房、1986)
- ・Jan Kott, *Shakespeare Our Contemporary*, trans. by Boleslaw Taborski (1965). ヤン・コット『シェイクスピアはわれらの同時代人』蜂谷昭雄・喜志哲雄訳(白水社、1968)
- ・Jan Kott, *The Bottom Translation: Marlowe and Shakespeare and the Carnival Tradition* (1987). ヤン・コット『シェイクスピア・カーニヴァル』高山宏訳(平凡社、1989)
- ・岩崎宗治『シェイクスピアのイコノロジー』(三省堂書店、1994)
- ・蒲池美鶴『シェイクスピアのアナモルフォーズ』(研究社、1999)
- ・青山誠子『シェイクスピアの女たち』(研究社、1981)
- ・玉泉八州男『女王陛下の興行師たち』(芸立出版、1984)
- ・ノーマン・F・ブレイク『シェイクスピアの言語を考える』森祐希子訳(紀伊國屋書店、1990)

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確な注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料(引用した作品そのものやその他の原典資料)と二次資料(研究書、研究論文など)に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は『塾生ガイド』(または、『教職課程履修案内』)に掲載の「レポート作成上の注意」、そして『MLA 英語論文の手引き』などを参考に正確に記すこと。また、「ACADEMIC WRITING II」のテキスト(通信教材)には、注の付け方や書式について、詳しい解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレポートは再提出となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

日米比較文化論(総論)

2単位

L102-0891

市販書採用科目

【指定テキスト】

川澄哲夫『黒船異聞—日本を開国したのは捕鯨船だ』有隣堂、2004年

【講義要綱】

本講義の目的は、19世紀後半から20世紀初めにかけて、日本とアメリカがどのように出会い、文化的・文学的交流を持ったかを学ぶことです。南北戦争後の

アメリカは、国内においては急速な工業化がすすみ、国外においては南アメリカや太平洋への進出を図っていました。この領土拡張の気運のうちにペリーによる日本遠征はありました。一方の日本は、江戸幕府鎖国政策の下ながら、海外情勢への関心も高まりつつあり、アメリカの日本遠征は、政治外交においても社会経済においても、そして文化活動の面でも大きなインパクトを持つものでした。指定テキスト『黒船異聞—日本を開国したのは捕鯨船だ』は、アメリカの日本遠征の背景を考察するもので、目次は以下のとおりです。

序曲 日本開国の原点

第1章 たった一人の日本遠征——ジョン万次郎の決意

第2章 ペリー、日本遠征の途に

第3章 久里浜上陸

第4章 応接村は横浜村に

第5章 雛祭りの出来事——神奈川条約締結

第6章 ペリーの横浜村散策

第7章 下田村——日米異文化体験

第8章 黒船艦隊、箱館へ向かう

終曲 一発の砲弾を放つこともなく

こうして始まった異文化交流をとらえて、両国がいかにして互いを発見し、互いの文化を理解あるいは誤解し、体験していたのかを、具体的な事例や作品を取り上げる指定参考書『グレート・ウェイヴ——日本とアメリカの求めたもの』を手がかりに考えてみましょう。『グレート・ウェイヴ』が論じるトピックは、ハーマン・メルヴィルとジョン万次郎(第1章)、エドワード・S・モース(第2章)、岡倉覚三とイザベラ・ガードナー(第3章)、ヘンリー・アダムズとジョン・ラファージ(第4-5章)、パーシヴァル・ローウェルとメイベル・ルーミス・トッド(第6章)、ラフカディオ・ハーンとメアリー・フェノロサ(第7章)、セオドア・ローズヴェルトとウィリアム・スタージス・ビゲロウ(第8章)です。

【テキストの読み方】

指定テキストおよび課題指定参考書は、日米の多様な文化的・文学的交錯を多層的に考察するものです。学習の際には、まず基本的な歴史事実を確認するようにしましょう。そのうえで、日米関係のなかで日本とアメリカはどのように相対したか、それぞれの「日本らしさ」や「アメリカらしさ」はどのように形成されたか、という二点にとくに留意して考察を深めてください。

【履修上の注意】

テキストや参考書を読むだけでなく、言及されている人物や事例について調べたり、原著やほかの関連文献にも触れたりするように心がけてください。

【関連科目・分野】

アメリカ文学、日本文学、比較文学、地域研究

【参考文献】

Christopher Benfey. *The Great Wave: Gilded*

Age Misfits, Japanese Eccentrics, and the Opening of the Old Japan. New York: Random, 2004. 大橋悦子訳『グレート・ウェイズ——日本とアメリカの求めたもの』(小学館、2007年)

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考書から学んだことがらと、ご自身が考えたことがらを、きちんと分けて書いてください。文献を参照・引用した場合には、ご自身の文章と引用文とをきちんと区別して書き(引用部にはかぎっこを付し、出典頁を明記する)、レポートの最後には参考文献表を付けましょう。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代ドイツ小説

2 単位

L054-8302

【講義要綱】

教科書『近代ドイツ小説』では主に小説ジャンルに特化して、ドイツ文学史を語っています。受講生諸君はまずこの本を熟読することから始めてください。そして文学史の大体の流れが掴めたら、今度はそこに述べられていた小説のなかで気に入ったものを実際読んでみてください。それが第一歩です。この講義が刺激となってドイツ文学の世界に受講生の諸君が参入してくれることが第一です。そしてそれをきっかけとしてドイツ文化などについても考えてください。小説を読んで自らを反省し、あるいはドイツ人やドイツ文化についての知識を自分で広げていく、これが次の一歩です。そして最後には、自分の意見を表現してみましょう。

【テキストの読み方】

上記の教科書であれ、参考文献にあげられたものであれ、まず1冊の文学史を選択して、それを数度にわたって読んでください。それが基礎的知識を形成します。そしてそのあとで、参考文献の巻末についているはずの文献を渉猟して、徐々に知識を増加させてください。

【履修上の注意】

特にありませんが、ネットの文字情報等をそのままコピーして使用した場合、カンニング行為と見なされることがありますので、十分にご注意ください。

【関連科目】

文学はすべてに関連していますが、特に、哲学、美術史学、音楽などにも関心をもってください。余力があれば、さらに社会学、歴史学、科学史などにも進んでください。

【参考文献】

インターネットを活用できる方は、CiNiiなどの論文検索サイトを使ってみてください。ドイツ語のでき

る方であれば、積極的にドイツのネットで必要な情報を探すのもひとつの方法でしょう。ハインツ・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』(同学社、2002年)、藤本ほか著『ドイツ文学史(第2版)』(東京大学出版会、1995年)、佐藤晃一『ドイツ文学史』(明治書院、2002年)、岡田ほか著『ドイツ文学案内(増補新版)』(朝日出版社、2000年)、阿部謹也『物語ドイツの歴史』(中公新書、1998年)。

【レポート作成上の注意点】

自分の考えと、参考文献に書かれていることの間の「距離」を十分にとって、立体的に論熟してください。そのためには、文献を批判的に、つまり「他の考え方もあるのではないか」と考えながら読み込んでください。参考文献からの引用にはかならず出典を(通常は注として)明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代ドイツ演劇

2 単位

L023-7303

【講義要綱】

ドイツ演劇は18世紀の啓蒙主義の時代から著しく発展し始め、古代ギリシア悲劇やシェイクスピア演劇などの伝統を継承したり復活させたりしつつ、新たな様式やジャンルを開拓し確立していった。その後19世紀後半の自然主義演劇まで続くこの発展は近代演劇の歴史そのものといえる。20世紀に入りいわゆる現代演劇の時代になると、劇作家たちは近代演劇のありようを刷新したり、見直したりすることでアクチュアルな戯曲を創造し続け、今日に至っている。また、ドイツ演劇はドイツだけでなく、オーストリアやスイスの演劇も含み、この双方の国々からも重要な劇作家が輩出され、独自の演劇ジャンルや歴史が確立している。

【テキストの読み方】

テキスト全体を通読した上で、課題に関する記述を確認し、該当箇所を入念に読み直してください。

【履修上の注意】

テキストを通読した上で、関心のある戯曲を実際読んでみるといいでしょう。また、ドイツ演劇は社会の近代化とともに著しく発展し、近代化のプロセスで生じた社会的問題を批判的に描くことで歴史的展開を経てきました。したがって近代ドイツ演劇の足跡をたどる際に、時代の社会的状況とその変遷もたどることが望ましいでしょう。

【参考文献】

平田栄一郎『ドラマトウルク——舞台芸術を進化／深化させる者』(第1・2章) 三元社、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキスト「ドイツ近代演劇」に述べられている19世紀の演劇の特徴を導き出してください。その際18

世紀と20世紀に関する記述もよく読んでおくと、19世紀の特徴がより明確に理解できるはずです。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス文学概説

3単位

L106-1001

【講義要綱】

2010年度新設のこの科目は、フランス文学研究に役立つさまざまなテーマ系の発展の過程をたどりながら、作品解釈を進めるための方法論を学ぶことを目的としています。また、フランス語学史、作品伝播の手段の歴史、文学教育の歴史、(フランス本国ではなく)フランス語圏の文学についても多くの紙面を割いて紹介している点において、この科目で使用する教科書は、市販のフランス文学史の教科書とは一線を画しています。したがって、フランス文学にかんする卒業論文を執筆したいと考えているかたがたのみならず、さまざまな文学アプローチの可能性に関心を持たれているかたがたにとっても示唆に富んだものであると言えるでしょう。

【テキストの読み方】

まず目次に目を通し、興味を持った章を通読することからはじめてください。その中で特に関心をもった作品、作家にかんする項目について、他の章ではどのように扱われているか、さらに調べてみるようにしてみてください。その際、巻末のインデックスを活用してください。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識があることが望まれます。また、以下に挙げる関連科目と併せて履修すると、より理解が深まると思われます。

【関連科目】

「フランス文学史Ⅰ」、「フランス文学史Ⅱ」

【参考文献】

教科書に紹介されている作品のうち、興味を持ったものについては、ぜひとも自分で一読されることをお勧めします。また、各章末に挙げた参考文献を参照することによって、いっそう確実に知識を固めることができるでしょう。

【レポート作成上の注意点】

まず、教科書と分析対象として選んだ文学作品を熟読することからはじめてください。そして、テーマが絞られた時点で、関連する参考文献を探してみてください。

教科書や参考文献をただひきうつしたり、その内容をまとめたりしただけのレポートは評価の対象とはなりません。分析対象とする作品からは必ず引用をして、教科書の解説を参考にしながら、自分なりの分析をほどこすようにしてください。参考文献は、自分の見解

を支えるために活用すべきではありますが、大部分が引用で成り立つものは受け付けられません。自分の分析が主となっているようなレポートを作成するよう、心がけてください。

また、文学作品や参考文献からの引用については、必ず脚注、あるいは文末注に、著者、タイトル、出版社、出版年、ページなどの情報を明記してください。レポートの末尾にかならず総字数を明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス文学史Ⅰ

4単位

L130-1701

【講義要綱】

中世から18世紀までのフランス文学の歴史を概観します。それぞれの時代におけるジャンルの全体像をとらえつつ、主要な作家あるいはその作品の位置付けについて検討していきます。各世紀の執筆者は担当する世紀の時代背景の解説からはじまり、主要作品へのアプローチの仕方まで独習でもわかりやすいように解説をほどこしました。履修者のみなさんにとって、大学における文学作品の解釈方法について学ぶと同時に、卒業論文の題材を探すきっかけとなれば幸いです。

【テキストの読み方】

第Ⅰ部は中世、第Ⅱ部は16世紀、第Ⅲ部は17世紀、第Ⅳ部は18世紀と分かれています。最初から最後までまず簡単に目を通した上で、アンシャン・レジーム期の詩学、美学の変遷を大まかに捉えてみましょう。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識を有することが望ましい(もちろん同時進行で語学の勉強を進めるのも可)。

【関連科目】

「フランス文学概説」、「フランス文学史Ⅱ」、「文学」

【参考文献】

饗庭孝男(他編)『新装フランス文学史』白水社、1992年
横山安由美(他編)『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2002年
岩根久(他編)『フランス文学小事典』朝日出版社、2007年

【レポート作成上の注意点】

- 1) 対象とする作品を精読して、全体像を把握する。
- 2) レポートの課題にしたがって、作品の個々のテーマについて分析する。
- 3) 参考文献を精読し、焦点を絞り込む。
- 4) 自分の論が主となるよう、引用あるいは作品の要約ばかりのレポートとならないよう、気をつける。

フランス文学史Ⅱ

4単位

L126-1601

【講義要綱】

19世紀から現代までのフランス文学の歴史を概観します。それぞれの時代における詩、小説、演劇、批評、思想の全体像を把握しながら、個々の作家や作品の位置づけについて考えていきます。文学作品が生み出された歴史的背景や各時代の文学的争点を知ることがもちろん大切なことです。しかし、そうした知識をただ吸収することがこの講義の目的ではありません。それを出発点として作品をより深く味わい読み解くことが大学でフランス文学を学ぶ意義だといえるでしょう。

【テキストの読み方】

第Ⅰ部は19世紀の、第Ⅱ部は20世紀から現代までの文学・思想を紹介しています。第Ⅰ部・第Ⅱ部のそれぞれで、詩、演劇、小説、批評、思想というジャンルごとに一章が設けられています。一度最初から最後まで読み通して、その上でジャンルごとにどのような変遷があったのか見直してみましょう。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識を有することが望ましい。

【関連科目】

「フランス文学概説」

【参考文献】

饗庭孝男（他編）『新版フランス文学史』白水社、1992年
横山安由美（他編）『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2002年
岩根久（他編）『フランス文学小事典』朝日出版社、2007年
小倉孝誠（編）『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』世界思想社、2014年

【レポート作成上の注意点】

- 1) 対象とする作品を精読して、全体像を把握する。
- 2) レポートの課題にしたがって、作品の個々のテーマについて考察する。
- 3) 参考文献を参照し、論点を絞り込む。
- 4) 導入から結論に至る文章のアウトラインを考える。
- 5) 作品の引用を効果的に織り込みながら、自分の考えを展開する。
- 6) 引用文には出典と引用頁数を必ず明記する。

【成績評価方法】

科目試験による。

ロシア文学

2単位

L101-0701

【講義要綱】

ロシア文学は19世紀中葉に世界の最高峰にまで登りつめた文学で、その伝統は今でも生きています。トルストイやドストエフスキーやチェーホフなど、ぜひ人類の遺産とも言うべきロシア文学に、一度触れてみませんか。

当テキストは、ロシア文学を実際に手にとって味読してもらうための手引書であり、中世から19世紀、20世紀を経て現代に至るまでのロシア文学の彩り豊かな世界へと誘うものです。ゴーゴリやドストエフスキー、ブルガーコフ、パステルナーク、ソルジェニーツィン、ナボコフ、そしてペレーヴィンらの魂を揺さぶるような、あるいは読者の世界観までも変えてしまうようなエネルギーを感じてほしいと思います。また、ロシア文学を今日の視点から読み直し、私たちにも通ずる普遍的でアクチュアルな問題を考察するために、ジェンダーやポスト・コロニアリズムなど小説を読み解く視座を呈示するとともに、小説の普遍的テーマがオペラやバレエ、演劇、映画など他の芸術ジャンルによって表現されたケースについても紹介しています。ロシア文学の作品世界を多様な芸術言語で横断的に楽しむ案内として役立ててください。

なお、レポートの作成の際には、このテキストだけでなく参考書や他の参考文献も併用してください。科目試験では、テキストの中から重要と思われるテーマを選んで出題します。

【テキストの読み方】

1回目は個々の具体的な作品や作家の具体的な人間像を追って、イメージしながら読む。続いて2回目は、ロシアの時代の流れを通して、文学の主義や思想などを読み込む。そして3回目は、その他の細かい部分にも注意して読む。都合3回読むことで、テキストの内容が頭に入ってくると思います。

【参考文献】

水野忠夫編著『ロシア文学 名作と主人公』自由国民社、2009年
藤沼貴・水野忠夫・井桁貞義編著『はじめて学ぶロシア文学史』ミネルヴァ書房、2003年
藤沼貴・小野理子・安岡治子『新版 ロシア文学案内』岩波文庫別冊、2000年
川端香男里『ロシア文学史』東京大学出版会、1996年

【レポート作成上の注意点】

ロシア文学全体の流れをつかんだ上で、対象作品を精読してください。論述に際しては、課題で何が求められているのかを把握した上で、レポート全体の構成を考えてから執筆に取り組むようにしてください。引用・援用部分には必ず註を付けて典拠を明示してください。対象作品は何を用いたか、明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【成績評価方法】

科目試験による。

ラテン文学

1 単位

L056-8402、L8452

【講義要綱】

本科目では、古典ラテン語で書かれたラテン文学（古代ローマ文学）の主要な作家および作品について、基礎的な知識を学ぶと共に、翻訳を通じて作品に実際に触れることを目的とする。指定教科書の構成は次の通りである。

はじめに

第一章 ラテン文学発生期

第二章 黄金時代前期・キケロー時代

第三章 黄金時代後期・アウグストゥス時代

第四章 銀時代・初期帝政時代

【テキストの読み方】

人物名・作品名が多く出てくるので、繰り返し読むことを勧めます。また、テキスト内に書かれた邦訳の情報はいささか古いので、履修要領の参考文献の項目も合わせて参照してください。

【履修上の注意】

テキストを読んで、興味を持った作品に翻訳を通じてできるだけ多く触れてください。また、文学に限らず、広く古代ローマに関する本や映像資料などを合わせて参照することで、理解が深まると思います。

【参考文献】

現在では、ラテン文学に関する日本語文献も大幅に増えており、図書館を利用するなどして活用することを勧めます。

〈ラテン文学史〉

松本仁助・岡道男・中務哲郎編『ラテン文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1992）

高橋宏幸編著『はじめて学ぶラテン文学史』（ミネルヴァ書房、2008）

〈邦訳〉

多くの作品が京都大学学術出版会の西洋古典叢書に収められています。岩波書店もキケローやカエサル、セネカの作品集を出版しています。文庫本では特に岩波文庫（赤・青）や講談社学術文庫に多くのラテン文学作品が収められています。また、日本語で書かれた古代ローマに関する本も数え切れないほど出版されているので、適宜参照して知識を深めてください。

【レポート作成上の注意点】

ラテン文学作品を翻訳で読み、本文を具体的に引用しながら、自分の考えをまとめるようにしてください。他の書籍や資料も参照した場合には、必ず註や参考文献表をつけて典拠を示してください。

経済学部専門教育科目

経済原論(ミクロ経済学)(E) 2単位

E080-1801

【講義要綱】

経済学全般についての総論と、ミクロ経済学・マクロ経済学からなる経済理論のなかの、ミクロ経済学に対応する基礎理論を学習する科目である。マクロ経済学が国民総生産・失業率・物価水準といった経済全体の集計量を考察するのに対し、ミクロ経済学は家計や企業といった個々の経済主体の経済活動を分析対象とし、市場機構の効率性やその限界についても考察する。この科目は他の多くの経済学の分野に応用されるような、経済学の基礎理論を学ぶことを目的とする。

なお、テキストの学習範囲・試験範囲は以下のとおりとする。

「経済原論(ミクロ経済学)」の学習範囲・試験範囲：第1章～第5章

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにしてください。

【履修上の注意】

ある程度の数学的知識と論理的思考力を前提とします。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門(第3版)』有斐閣、2013年
塩澤修平『基礎コース・経済学(第2版)』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

記述のうえで、それが仮定あるいは前提であるのか、論理的展開であるのか、論理的帰結であるのか、といった区別を明確にしてください。

科目試験の受験については、『塾生ガイド』を参照のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済原論(マクロ経済学)(E) 2単位

E080-1801

【講義要綱】

本講義では、マクロ経済学の基本事項を解説する。レポートおよび科目試験の範囲は教科書の第1章、および第6章から第9章である。第6章では、まず日本のマクロ経済を概観し、国民経済計算システムについて説明する。有効需要の原理による所得決定の基本モデルとして45度線モデルを解説する。第7章では貨

幣について説明し、貨幣市場の均衡について解説する。そして財市場の均衡と貨幣市場の均衡を同時に満たすIS-LMモデルを解説する。第8章では長期のマクロ経済モデルを解説する。まず労働市場の均衡と潜在生産量を説明し、IS-LMモデルと統合することで財市場、貨幣市場、労働市場の一般均衡状態で長期の総生産、雇用、実質利利率が決まることを解説する。さらに長期の総生産の成長を説明する枠組みについても解説する。第9章では景気循環を理解するために短期のマクロ経済モデルを解説する。IS-LMモデルに代わり、金融政策ルールを明示化した総需要曲線を説明する。そして価格粘性を取り入れたそう供給曲線を説明する。この総需要総供給モデルによって生産ギャップ、インフレ率、失業率の関係や財政政策や金融政策の効果についての考え方を説明する。

【テキストの読み方】

用語を丁寧に理解するようにしましょう。マクロ経済についての事実を理解しましょう。

そして、その事実を説明するためのモデルではどのような変数がどういう理由で決定されるかを理解するようにしましょう。またそれらのモデルが前提(仮定)していることを理解するようにしましょう。

【履修上の注意】

微分、偏微分、差分方程式など、ある程度の数学の知識が必要です。またミクロ経済学の知識も必要です。

【関連科目】

「経済原論(ミクロ経済学)」 「数学(微分・積分)」

【参考文献】

クルーグマン & ウェルズ『クルーグマン マクロ経済学』東洋経済新報社、2009年
ジョーンズ『ジョーンズ マクロ経済学Ⅰ(長期成長編)』および『マクロ経済学Ⅱ(短期変動編)』東洋経済新報社、2011年
宮尾龍蔵『コア・テキスト マクロ経済学 第2版』新世社、2017年

【レポート作成上の注意点】

何を説明しようとしているのか記述の目的をはっきりさせてください。用語は正確にそして何らかの主張をする場合にはその根拠または論理的な理由を明確にしてください。記号を使う場合には(教科書に出た記号であっても)その記号の定義を記述してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・経済史

4 単位

E081-1891

市販書採用科目

【テキスト】

中西聡編『経済社会の歴史——生活からの経済史入門』名古屋大学出版会、2017年

【講義要綱】

本講義では、経済史という学問領域の基本的な要素を理解し、経済史的視点から歴史および現代社会を考察します。その場合、身近な視点から世界全体を見通す力を養うために生活に着目します。

【テキストの読み方】

テキストはテーマ別に章立てしており、各テーマごとにどのような歴史的視点から現代社会を見通すことができるかを考えさせるようになっています。その点に注意してバランスよく読んでください。

【履修上の注意】

本科目では、原則としてテキストに基づいて試験問題を出题していますが、レポートなどではテキスト以外の参考文献も活用して受講者が関心をもったテーマについて深められるように指導しています。テキストはもちろんのこと、参考文献も読み込んだ上で、科目試験やレポート作成にのぞんでください。

【関連科目】

世界経済史、日本経済史

【参考文献】

- ・ペネロピ・フランク／ジャネット・ハンター編（中村尚史・谷本雅之監訳）『歴史のなかの消費者』法政大学出版局、2016年
- ・中西聡『旅文化と物流』日本経済評論社、2016年
- ・満園勇『日本型大衆消費社会への胎動』東京大学出版会、2014年

【レポート作成上の注意点】

レポートは、テキストとともに参考文献も利用することになっているので、テキストおよび参考文献の利用箇所を、レポートの文章中に注をつけて明記してください。そして課題に対応したレポートを作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済政策学(E)

2 単位

E059-0801

【講義要綱】

市場機構は万能ではないため、政府が直接・間接に市場に介入し、市場の失敗の是正をはかっています。

経済政策学は、このような政府の活動の現状を明らかにすると同時に、望ましいあり方を提示することを

目的とする学問です。

本講義では、まず、必要な基本概念と経済理論を身につけ、その上で、直面する今日の政策課題を見極め、解決の方向を探ります。

【履修上の注意】

ミクロ経済学およびマクロ経済学に関する知識をもっていることが望ましいです。

【関連科目】

「経済原論（ミクロ経済学）」「経済原論（マクロ経済学）」「国民所得論」

【参考文献】

加藤創太・小林慶一郎『財政と民主主義 ポピュリズムは債務危機への道か』（日本経済新聞出版社）2017年
藤田康範『経済・金融のための数学』（シグマベイスキャピタル）2009年

【レポート作成上の注意点】

教科書を熟読するのみならず、巻末の参考文献や新聞・雑誌の経済記事・論文を読み、進んだ知識を積極的に取り入れるよう努力してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・財政論(E)

2 単位

E082-1891

市販書採用科目

【テキスト】

土居丈朗『入門財政学』日本評論社、2017年

【講義要綱】

この講義は、わが国の財政制度の基本を学ぶとともに、財政に関連した経済学の理論に基づく考え方を講義する。政府債務が累増している財政の現状とともに、国の予算制度、税制（所得税・法人税・消費税など）、社会保障制度（医療・介護・年金など）、地方財政制度などを取り上げる。

【参考文献】

土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002年
土居丈朗『日本の税をどう見直すか』日本経済新聞社、2010年
井堀利宏・小西秀樹『政治経済学で読み解く政府の行動』木鐸社、2016年

【レポート作成上の注意点】

この講義で取り上げる内容について、現行制度と経済理論をバランスよく理解することが重要である。現行制度だけでなく、財政に関連した経済学の理論にも関心を持ち、関連する政策について各省庁や政府の会議等で公表された資料も活用するとよい。

【成績評価方法】

科目試験による。ただし、テキストの第10章と第11章は対象としない。

金融論(E)

2 単位

E071-1302

【テキスト】

この科目は2017年4月に改訂されました。今年度から学習を開始する場合には、改訂後の新しいテキストによって履修することを勧めます。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド』を参照してください。

【講義要綱】

第1章 資金循環と資金の過不足

- 1-1 経済と金融の関係—資金循環勘定
- 1-2 政府の資金不足の調整
- 1-3 企業の資金過不足の調整 (I-S バランス)

第2章 企業の資金調達と投資

- 2-1 日本企業の資金調達と投資
- 2-2 利子率と投資の関係
- 2-3 トービンの q と企業の投資

第3章 金融商品のリスク制御と価格計算

- 3-1 家計のポートフォリオとリスク制御
- 3-2 債券市場・株式市場
- 3-3 新しい金融商品と価格計算

第4章 金融機関の仲介機能と証券市場

- 4-1 日本の金融機関の構成
- 4-2 銀行・協同組織金融機関、貸金業
- 4-3 証券会社と証券市場
- 4-4 生命保険会社・損害保険会社
- 4-5 機関投資家

第5章 金融行政と金融政策

- 5-1 金融システムの安定とバーゼル自己資本比率規制
- 5-2 証券化とオフバランスシート
- 5-3 金融政策と短期金融市場の金利調節
- 5-4 インフレ・ターゲティングとテイラー・ルール

第6章 財政と財政投融资

- 6-1 国債の発行増と金融機関の国債保有増
- 6-2 財政投融资制度と財政投融资改革
- 6-3 郵便貯金

第7章 貿易・資本移動と外国為替

- 7-1 国際収支
- 7-2 外国為替決定理論
- 7-3 国際資本移動と国際金融のトリレンマ
- 7-4 ユーロの危機

第8章 金融のミクロ理論

- 8-1 家計の金融行動
- 8-2 企業の金融行動
- 8-3 銀行の金融行動

第9章 金融のマクロ理論

- 9-1 ワルラスの法則と IS-LM 分析
- 9-2 9—2 所得と利子率の決定—IS-LM モデル
- 9-3 物価の決定—総需要—総供給モデル

9-4 合理的期待形成と金融政策

9-5 IS-LM-BP モデル (オープン・マクロモデル)

【成績評価方法】

科目試験による。

経営学(E)

3 単位

E072-1491

市販書採用科目

【テキスト】

岡本大輔・古川靖洋・佐藤和・馬場杉夫『深化する日本の経営』千倉書房、2012年

【講義要綱】

経営学は、企業経営、企業組織、経営者行動など、組織と経営現象に関する幅広いテーマを対象とした学際的な学問です。本科目では、その中でも、コア領域である、経営管理論、経営戦略論の分野を主な対象としています。これらを通じて、企業はどのように戦略的な意思決定を行うのか、組織運営の原理・原則は何か、成功する企業と失敗する企業の違いを説明することはできるのか、について学んでいただき、社会・経済の中で不可欠な存在である企業と組織に関する理解を深め、新しい視点から物事を観察し、解釈できる目を養っていただければと思います。

【参考文献】

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年
浅羽茂・須藤美和『企業戦略を考える』日本経済新聞出版社、2007年
谷本寛治『責任ある競争力』NTT 出版、2013年

【レポート作成上の注意点】

設問の意図を正確に理解し、レポートの構成を考えてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済変動論

2 単位

E042-9501

【講義要綱】

現実の経済は常に循環・成長しており、様々な経済変動にさらされている。この科目の目的は、こうした経済の変動のようすを理論的に探究し、変動の原因・理由を解明することにある。したがって分析対象は、必然的に経済の動態的な側面となる。たとえば国民所得や雇用（失業）の循環的変動や成長は、本科目の主要な関心事である。経済変動論は、景気循環理論と経済成長理論の2つの部分からなる。

【テキストの読み方】

予備知識として「経済原論」もしくは2018年度新設の「経済原論（ミクロ経済学）」および「経済原論

(マクロ経済学)」の内容が必要となる。これらの科目を履修、できれば単位を取得していることが望ましい。

【参考文献】

齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久 (著)『マクロ経済学 新版』有斐閣、2016年

【レポート作成上の注意点】

論理的な筋道をよく考えながら作成してほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

国民所得論

2単位

E060-0801

【講義要綱】

東京オリンピックが近づき、希望が見えてきた日本ですが、国際競争力の低下、財政赤字の累積等、日本の諸問題が東京オリンピックによって全て解決されるわけではありませんし、「景気が良くなったために構造改革が遅れ、その後に長期停滞がおとずれる」ということもバブル崩壊後の「失われた20年」で経験済みです。

一方、「時代が新しくなる局面では、経済が成長しながら格差が広がる」という傾向が1971年のノーベル経済学賞受賞者・クズネツ氏 (Simon Smith Kuznets, 1901-1985) によって見出されており、実際、人工知能等の発展による産業構造の変化に伴って「現在の小学生の65%は、現在存在していない職につく」という主張の現実性が高まってきています。

本講義では、このようにピンチとチャンスに満ちた経済を理解するための基礎理論、すなわち「国民所得論」について、その考え方を分かりやすく、しかも詳しく解説します。国民経済計算、短期の国民所得の決定の理論、中期・長期の国民所得の変動に関する理論、財政・金融政策の有効性・無効性などが主な項目です。

【テキストの読み方】

経済学は積み重ねの上に成り立っていますので、用語を正確に把握して読み進めて下さい。特に数式については、その意味を十分に理解することが必要です。わからなくなったら前に戻って用語や数式を再確認するよう心がけてください。

【履修上の注意】

J. M. ケインズが述べているように、経済学を学ぶ際には、出来合いの特効薬についての知識を詰め込むより、その発想や考え方を学ぶ方がはるかに大切です。

マクロ経済理論的な発想や考え方を学び、それに基づいて現実の経済を観察し、新たな認識の構造を築いていただけたらと希望しています。

【関連科目】

「経済原論」もしくは2018年度新設の「経済原論 (ミクロ経済学)」および「経済原論 (マクロ経済学)」を履修済みであることが望まれます。

【参考文献】

藤田康範『ビギナーズマクロ経済学』(ミネルヴァ書房) 2009年

藤田康範『経済・金融のための数学』(シグマベイスキャピタル) 2009年

【レポート作成上の注意点】

課題が求めていることを十分に読み取ってから着手し、全体の構成をよく考えて、結論に至る論理の道筋を整理してまとめてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

計量経済学

2単位

E069-1191

市販書採用科目

【テキスト】

秋山裕『Rによる計量経済学』オーム社、2009年

【講義要綱】

現代の経済分析では、計量的手法は欠かせない存在になっています。「計量経済学」は、経済理論を用いて実際の経済を統計学的に研究する学問です。非常に応用範囲が広く、学ぶべき項目も数多くあります。そのため、計量経済学を効率的に学ぶにはきちんとした段階を踏む必要があります。最初に (1) 分析方法の基礎、(2) 経済分析において生じやすい分析上の問題とその解決方法を学んだ上で、(3) 各自の持つ研究課題への応用という実践の段階に進むことが可能となります。

この科目では、計量経済学の基礎である上記 (1)、(2) について、近年、利用が広がっている統計分析フリーソフトウェアである「R」を用いながら学びます。この科目で学んだことを卒業論文などで現実の問題を研究するにあたって活用することにより、実践での力もついていくでしょう。

【テキストの読み方】

第1、2章では、計量経済学の考え方、実証分析の進め方について、第3、4章では、統計学で学んだ単純回帰の復習をしながら、「R」の基本操作について学びます。そして、第5章以降では、「R」の機能を活用しながら計量経済学の基本を学んでいきます。各章に例題があり、「R」による分析のしかたが説明されていますので、「R」を用いて結果を再現しながら読み進めていくとよいでしょう。また、章末問題は、実際の分析例を検討しながら各章で学んだことの復習を行えるようになっています。科目試験ではこのようなタイプの問題が出題され、計量経済学に関する理解が問われます。(科目試験では、解答に計算を伴う問題は出題されませんが、レポートで行ったRによる推定や検定の結果について正しく読み取ることができるかに関する問題は出題されます。)

実際に「R」を操作して計算することが理解への早道であるだけでなく、皆さんが卒業論文などで実証的分析を行う際に役に立つでしょう。

【履修上の注意】

「経済原論」もしくは2018年度新設の「経済原論（ミクロ経済学）」「経済原論（マクロ経済学）」、および「統計学」を事前に学習しておいてください。これは、「計量経済学」が、経済理論を用いて実際の経済を統計学的に研究する学問であるためです。また、数学については微分の知識が必要となりますが、そのレベルは「経済原論」もしくは2018年度新設の「経済原論（ミクロ経済学）」「経済原論（マクロ経済学）」で用いる程度をきちんと理解していれば問題はありませ

【関連科目】

「経済原論（E）」もしくは2018年度新設の「経済原論（ミクロ経済学）（E）」+「経済原論（マクロ経済学）（E）」、および「統計学（A）」の学習を終えていること。

【参考文献】

福地純一郎・伊藤有希『Rによる計量経済分析』朝倉書店、2011年
赤間世紀『Rで学ぶ計量経済学』工学社、2009年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年
蓑谷千風彦『計量経済学（第2版）』多賀出版、2003年

【レポート作成上の注意点】

計量経済学は計算結果を求め、図も描く科目ですので、特に分量に制約を設けません。添字、分数などの数式の表記が正確に出来る者のみワープロで提出することができます。

これらの表記が不明瞭であった場合は採点の対象とはなりません。

また、計量経済学のレポートではテキストで取り上げられるデータ分析の実践に重点が置かれるため、論述形式のレポートのような参考文献の使用は必要ありません。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本経済史

2単位

E075-1691

市販書採用科目

【テキスト】

中西聡編『日本経済の歴史—列島経済史入門—』名古屋大学出版会、2013年

【講義要綱】

本講義では、日本経済の変化を歴史的に概説しますが、講義の目標は過去を知ることによって将来を見通す力を養うことです。そして人間の経済活動の積み重ねとして経済史を捉えますので、テキストは古代から現代までを扱っています。受講者はテキストの学習を中心としながら、それ以外にも視野を広げて関心のあるテーマについて参考文献などで学習してください。

【テキストの読み方】

テキストは時期別に章立てされ、各章が対外関係・政策・生産・流通・生活（環境）のテーマ別の各節から構成されています。その点に、注意してバランスよく読んでください。

【履修上の注意】

本科目では、原則としてテキストにもとづいて試験問題を出題していますが、レポートなどではテキスト以外の参考文献も活用して、受講者が関心をもったテーマについて深められるように指導しています。テキストはもちろんのこと、参考文献も読み込んだ上で、科目試験やレポート作成にのぞんでください。

【関連科目】

新・経済史

【参考文献】

中岡哲郎・鈴木淳・堤一郎・宮地正人編『新体系日本史11 産業技術史』山川出版社、2001年
桜井英治・中西聡編『新体系日本史12 流通経済史』山川出版社、2002年

【レポート作成上の注意点】

レポートは、テキストとともに参考文献も利用することになっているので、テキストおよび参考文献の利用箇所をレポートの文章中に注をつけて明記してください。そして、課題に対応したレポートを作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

世界経済史

4単位

E077-1791

市販書採用科目

【テキスト】

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史—グローバル経済史入門—』名古屋大学出版会、2010年

【講義要綱】

本講義では、世界経済の変化を歴史的に概説しますが、講義の目標は過去を知ることによって将来を見通す力を養うことです。さらに、世界を知ることによって、日本の将来を考える手がかりを得ることも目標とします。受講者は、テキストの学習を中心としながら、それ以外にも視野を広げて関心のあるテーマについて参考文献などで学習してください。

【テキストの読み方】

テキストは、時期別に章立てして全体的流れを概説した第Ⅰ部とその内容をテーマ別に深めた第Ⅱ部からなります。第Ⅰ部は、アジアと欧米を対比できるような構成になっており、地域間のバランスを考えて世界全体を見通せるように工夫していますので、その点に注意して読んでください。

【履修上の注意】

本科目では、原則としてテキストにもとづいて試験問題を出題していますが、レポートなどでは、テキスト以外の参考文献も活用して、受講者が関心をもったテーマについて深められるように指導しています。特に、レポート作成には、参考文献も読み込んだ上で、のぞんでください。

【関連科目】

新・経済史

【参考文献】

樺山紘一・礪波護・山内昌之編『世界の歴史』全30巻、中央公論社、1996～99年のなかの関連する巻
山川出版社編集部編他『世界各国史〔新版〕』全28巻、山川出版社、1998～2009年のなかの関連する巻

【レポート作成上の注意点】

レポートは、テキストとともに参考文献も利用することになっているので、テキストおよび参考文献の利用箇所をレポートの文章中に注をつけて明記してください。そして、課題に対応したレポートを作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会思想史

4単位

E073-1591

市販書採用科目

【テキスト】

坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで—』名古屋大学出版会、2014年

【講義要綱】

本科目では、近現代の社会思想の歴史的展開を、「自由と公共の相克」という視点から統一的に概観する。グローバル資本主義・格差拡大・ポピュリズムといった現代の諸問題は、近代社会の原理から生じてきたものであり、その背後には、マキアヴェリからロールズにいたる西欧社会思想500年の展開と、その根底をつらぬく「自由と公共の相克」という中心的な論点が存在している。ここで重要な点は、近代の思想家たちが、現代の細分化された社会科学分野を前提にすることなく、各自が生きた時代と社会を、哲学的視点（人間本性の探求）と、社会科学的視点（政治・経済システムの探求）という二つの眼で探求してきたということである。同時に、彼らの思考は、すべて過去から受け継いだ思想伝統を継承しつつ、それを新たな時代のなかで大胆に革新することによって生まれたものである。この伝統と革新の絡まり合いを、「自由と公共の相克」という論点の下に跡づけることが本科目の狙いである。指定教科書の構成は次の通りである。

序章 「社会思想」とは何か

第1章 マキアヴェリ社会思想

第2章 宗教改革の社会思想

第3章 古典的「社会契約」思想の展開

第4章 啓蒙思想と文明社会論の展開

第5章 ルソーの文明批判と人民主権論

第6章 スミスにおける経済学の成立

第7章 「哲学的急進主義」の社会思想—「保守」から「改革」へ

第8章 近代自由主義の批判と継承—後進国における「自由」

第9章 マルクスの資本主義批判

第10章 ミルにおける文明社会論の再建

第11章 西欧文明の危機とヴェーバー

第12章 「全体主義」批判の社会思想—フランクフルト学派とケインズ、ハイエク

第13章 現代「リベラリズム」の諸潮流

終章 社会思想の歴史から何を学ぶか

【テキストの読み方】

履修者には、テキストを一章ずつ読み進めていく中で、過去の思想家との学問的対話を楽しみ、現代社会における「自由と公共の相克」という論点を自分なりに考え直すことが期待されている。テキストと参考文献を読破し、レポート課題と試験をパスするには、何よりも履修者自身の積極的な問題関心が不可欠である。自分が生きる時代と社会の問題を見つめながら、そのヒントを偉大な思想家たちの言説に見いだそうとする主体的な問題意識が要求される。

【履修上の注意】

本科目は経済学部専門科目としては対象とする範囲が幅広い。狭義の経済学はもちろん、哲学、思想、歴史、文化、芸術など、関連諸分野への幅広い関心がもとめられる。

【関連科目】

総合教育科目では、哲学、歴史（西洋史）、政治学、社会学などが関連深く、経済学部専門科目では、経済原論（ミクロ経済学）、経済原論（マクロ経済学）、経済史、西洋経済史（近世）などが重要であるが、いずれも本科目の履修条件というわけではない。これらの科目を本科目と平行して学ぶことにより、本科目の理解は大いに助けられるであろう。

【参考文献】

本テキストは類書のなかでも参考文献の充実を特徴のひとつとしている。履修者は各章ごとに示された数多くの文献から、自分の関心に近いものを選び、慶應義塾図書館をフル活用しながら、できる限り眼を通すことが望ましい。テキストの全体像を理解する上で購入するに値する類書としては、次のものがある。水田洋『新稿 社会思想小史』ミネルヴァ書房、2006年。R・L・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』筑摩学芸文庫、2001年。川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』岩波書店、2012年。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成の技術的側面については補助教材に示された基本的内容や参考文献を十分に踏まえること。

単にテキストの内容を要約しただけのレポートは評価されない。課された「問題」の意味を自分がどのように理解したかを示した上で、論述内容に自分自身の問題関心や思考の跡が分かるような内容が望まれる。テキスト以外にレポート作成上とくに参考とした文献があれば、それ（ら）を明示すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会政策(E)

2 単位

E068-1191

市販書採用科目

【テキスト】

駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』創成社、2011年
※2018年4月頃、新版刊行予定

【講義要綱】

本講義の目的は、急速な少子高齢化の中、社会政策の中で比重を増した社会保障制度の理解と社会経済システムとの整合について検討し、望ましい政策を自ら考えられるようにすることを目的としている。具体的政策としては、社会保障制度の中心領域である年金、医療、福祉以外に、関連領域である人口、家族、財政、労働等についてもカバーしている。

1. 成熟化社会、少子・高齢化社会における社会保障
2. 社会保障制度の機能と歴史
3. 社会保険（年金・医療・介護・雇用・労災保険）
4. 児童・高齢者・障害者のための福祉政策
5. 生活保護
6. 雇用政策（最低賃金制度）
7. 制度改革の方向性

【テキストの読み方】

まず第1～3章で、現行の社会保障制度を取り巻く変化を理解したうえで、第4章で社会保障制度の機能、第5章で社会保障の歴史を学んでください。第7章以降は各論ですので、各々関心をもった制度について掘り下げて、学んでください。第19章は、社会保障制度の枠組みの中で、どのように効率性を高め、限られた資源でより充実した社会保障を提供できるか、理論的背景とともに学び、社会保障の将来のあるべき姿について考えてください。

【履修上の注意】

経済学的な考え方を中心とした解説となっていますので、経済学の基本的な知識があった方が理解しやすいでしょう。また下記関連科目を併せて履修すれば、一層理解が深まるでしょう。

【関連科目】

「財政論」「人口論」「産業社会学」「労働法」

【参考文献】

城戸喜子・駒村康平編（2005）『社会保障の新たな制度設計』慶應義塾大学出版会。

厚生労働省『労働経済白書』、『厚生労働白書』各年版
厚生労働省サイト（<http://www.mhlw.go.jp/>）

【レポート作成上の注意点】

執筆する前にまず『塾生ガイド』の「レポート作成上の注意」をお読みください。課題1・2共に、引用・参考箇所（指定テキストを引用・参照する場合も含む）はレポート本文中に「」等の記号を用い、またどこからの引用・参照なのか著者姓（出版年）該当のページ数まで明示したうえで、対応する参考文献リストをレポートの末尾に掲載してください。また節ごとに小見出しを付け、内容的な区切りを明示してください。こうしたレポート作成のガイドラインに沿っていない場合、添削不能として内容にかかわりなく再提出となります。

また課題2については、政策に関するレポートですので、何らかの政策提言を行ってください。その際には、その政策提言の論拠を最新データに基づき明確に示してください。データはテキスト掲載以外のデータも併せて使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国際貿易論

4 単位

E063-0991

市販書採用科目

【テキスト】

木村福成『国際経済学入門』日本評論社、2000年

【講義要綱】

国際貿易論は、貿易パターンの決定メカニズムを分析する国際分業論と政策効果や社会的厚生の変化を分析する貿易政策論という2つの部分から成る。本講義ではその両者を学ぶ。それらを踏まえ、企業活動のグローバル化が進み、国際取引チャンネルの多様化が進行する国際経済の実態を理解するための経済学的・政治経済学的アプローチを考察し、さらに世界貿易機関（WTO）や自由貿易協定（FTA）等を通じた国際政策規律の意味するところを検討する。

【履修上の注意】

「経済原論」もしくは2018年度新設の「経済原論（ミクロ経済学）」および「経済原論（マクロ経済学）」を履修済みであること。

【参考文献】

三重野文晴、深川由起子編『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房、2017年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にかかる前に、題意をよく理解し、参考書を丁寧に読みこなしてもらいたい。執筆にあたっては、論旨が明確に伝わるように全体の構想を立て、その中でひとつひとつの文章、段落を練り上げていくことが望ましい。参考書を丸写しにせず、引用する場合は必ず注をつけること。

【成績評価方法】

科目試験による。

産業社会学(E)

2単位

E020-7502、E7553

【講義要綱】

現代社会は、産業化と切り離せない。産業社会学は、産業化された現代社会の社会的・人間的側面を明らかにしようというものである。現代人は、企業・官庁・非営利組織など、ほぼ例外なく何らかの組織に帰属して生活している。本科目で考えるべきことは、産業化にともなう諸課題であり、産業主義や民主主義もたらしめたもの、大量生産方式と大衆社会の到来から生じた課題、組織とコミュニティの問題、組織と個人の目的、その効率性と人間性、組織による人間疎外とその克服、あるいはリーダーシップやプロフェッショナリズム、余暇と労働の問題、教育と産業の関係、働き方改革への示唆など、そのテーマは幅広く、しかも身近である。テキストの構成は以下のようになっている。

序 章 産業社会学について

第1章 産業と人間

第1節 産業社会の展開

第2節 産業主義から人間主義へ

第3節 産業化の社会的背景

第2章 産業における組織問題

第1節 組織と人間

第2節 ビューロクラシーとプロフェッショナリズム

第3節 新しい組織

第3章 余暇社会における労働問題

第1節 労働社会から余暇社会へ

第2節 新しい労働者

みずからの仕事と生活をふりかえり、現代を考えるという意味で、生涯学習に最適な課題を含んでいる。本科目の学習を通じて、現代社会について一歩踏み込んで考えてほしい。

【テキストの読み方】

テキストは、書かれている数字や時代背景に古いものがあるが、時代を超えた「古くて新しい問題」を提起していて今日的な意味を失っていない。含蓄ある表現が随所にみられ、示唆に富むものでもある。テキスト全体の底流に流れている大きな主張を読み取ってほしい。

【履修上の注意】

産業化はわれわれのまわりに深く浸透している。産業化が社会や個人におよぼした影響を他人ごとのように批判するのではなく、自分のこととして考えてほしい。他人の文章を借りるのではなく、自分の考えをしっかり主張することが、履修上の条件である。

【関連科目】

特に指定しないが、経済学、経営学、社会学、心理学などに広がるテーマに関心をもっておいてほしい。

【参考文献】

テーラー『科学的管理法』ダイヤモンド社、2009年
フロム『自由からの逃走』創元社、1984年
ホワイト『組織のなかの人間』創元社、1984年
バーナード『経営者の役割』有斐閣、1979年
マグリガー『企業の人間的側面』産能大学出版部、1990年
ハーズバーグ『仕事と人間性』東洋経済新報社、1983年
ヴェブレン『有閑階級の理論』筑摩書房、2016年
井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房、2008年
井原久光『改訂増補版 社会人のための社会学入門』産業能率大学出版部、2015年など

【レポート作成上の注意点】

レポート課題はテキスト全体を通じて理解したことをたずねている。テキストの一部にある記述に頼るのではなく、全体を通じて学んだことをふまえて論じてほしい。また、今回のテーマは、産業社会に生きる私たちすべてに共通する課題といえる。社会批判や評論家的なレポートではなく、自分の問題として考えてほしい。レポートの分量については4,000字という制限にこだわっているわけではない。簡潔を旨としてほしいが、同時に、しっかりとした内容のものにしてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学 I (E)

2単位

E061-0901

【講義要綱】

地理学 I は、「トランスナショナル化」の視点から、地球規模で展開する国際的な企業行動の変化やグローバル都市に関する話題など、現在進行形の社会経済事象に対する理解が深まることを目指して構成されている。この目的を達成するには、地理的な空間軸と、歴史的な時間軸の両方からこれらの現象を捉えることが求められる。

本科目を通じて、新聞記事や、入手可能な報告書や統計データを自分で集め、自分の頭で各種の事象を分析する習慣が身につくよう期待している。

【参考文献】

教科書の「引用文献・参考文献」を必要に応じて参照してください。

【レポート作成上の注意点】

基礎的な内容を理解すると同時に具体的事例を用いて理解を深めるよう設定しているので、このことに注意してほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅱ(地誌学)(E)

2単位

E066-1001

【講義要綱】

地理学は、古くて新しい学問である。「古くて」というのは、太古の昔から、地理への関心は、歴史への関心と並んで、様々な文明において示されてきたことから明らかである。「新しい」というのは、世界の動きや技術の進歩につれて、地理への関心のあり方も、時代に応じて変化を遂げ、地理学の内容を変容させてきたことからわかる。地理学のなかでも、地表の事物の姿やイメージを記述する地誌は、こうした変化を鋭敏に反映してきたといえよう。

地誌学の面白さは、具体的事例を徹底的に調べ上げ、様々な知見を、地域や場所という中で「総合化」することにある。

【参考文献】

参考文献は限りなく存在するので、取舍選択が大切である。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、客観的な事実やデータによって裏付けたり、新しい見方を獲得するように心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

人口論

2単位

E047-8691

市販書採用科目

【テキスト】

河野綱果『世界の人口 [第2版]』東京大学出版会、2000年（オンデマンド版、2016年）

【講義要綱】

現在約76億人の世界人口は、開発途上地域においてなお増加が続いており、今世紀中に100億人に達する見通しである。同時に新興国を中心にめざましい経済発展を遂げつつある。一方、日本をはじめ多くの先進国は少子高齢化・人口減少に直面しており、経済・財政の面でも長期的な低迷に陥っている。とりわけ、日本は高齢化で世界の先頭を走っており、現在1億2700万人の日本人口は約50年後には8800万人、約100年後には5100万人にまで減少するという予測もある。21世紀に生きるわたしたちは、このように対照的な「膨張する世界」と「縮減する日本」がどのように向き合い、どのように交流していくのか、という大きな課題をつきつけられているといえよう。

この課題について考える上で、「人口学」の知識が不可欠である。「人口転換」と呼ばれる人口システムの長期的な変動（それは人口の総数だけでなく、年齢構造、人々のライフコースの変化でもあり、都市化や家族・ジェンダーのあり方とも連動している）が理解されれば、経済・社会システムの長期的な変化を理解

する上で大いに助けになるに違いない。講義内容は下記の通りである。

1. 世界人口の動向
2. 人口転換と人口推計
3. 死亡率転換と長寿化のゆくえ
4. 出生力転換とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ
5. 人口の年齢構造変化と社会経済開発
6. 都市化と国内人口移動
7. 国際人口移動
8. 人口と食料・資源・環境問題
9. 世界の人口開発問題と政策課題
10. 日本の人口問題

このうち1から9まではテキストの各章に対応している。日本の人口問題については、参考文献のうち、『ポスト人口転換期の日本』を参照されたい。

人口学の基本的な用語（定義・概念）、指標の見方、統計資料の入手・参照方法については、逐次解説する。これらの用語・指標・統計資料に関しては、『現代人口辞典』、『ポスト人口転換期の日本』、『人口統計資料集』を常時参照することが望ましい。

【テキストの読み方】

各章は基本的に各々のテーマについて、①現状と趨勢（国連等の統計資料による）、②要因、③政策課題を主な内容としている。ただし国連等の統計資料は1～2年ごとに更新されるため、より新しい資料が出ていることもある。この点については補足説明する。

【履修上の注意】

履修にあたって特別な知識やスキルは必要としない。初歩から順序立てて解説する。他の科目、一般書、マスコミ等で人口に関連した用語や指標を目にしたとき、よく留意し、テキスト・参考書を活用して理解に努めてほしい。

【関連科目】

統計学

【参考文献】

佐藤龍三郎・金子隆一（編）『ポスト人口転換期の日本』原書房、2016年
阿藤誠・佐藤龍三郎（編）『世界の人口開発問題』（オンデマンド版）原書房
人口学研究会（編）『現代人口辞典』原書房、2010年
国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』（同研究所のホームページに掲載）
森田朗（監修）、国立社会保障・人口問題研究所（編）『日本の人口動向とこれからの社会』東京大学出版会、2017年
京極高宣・高橋重郷（編）『日本の人口減少社会を読み解く：最新データからみる少子高齢化』中央法規、2008年
河野綱果『人口学への招待：少子・高齢化はどこまで解明されたか』中央公論新社、2007年
阿藤誠・津谷典子（編）『人口減少時代の日本社会』原書房、2007年
和田光平『Excelで学ぶ人口統計学』オーム社、

2006年
阿藤誠『現代人口学』日本評論社、2002年
(下記機関のインターネット・ホームページが参考になる)
国立社会保障・人口問題研究所
国連人口基金東京事務所
総務省統計局
日本人口学会
United Nations Population Division (国連人口部、英語)

【レポート作成上の注意点】

テキストを熟読するとともに、参考文献やインターネットを活用し、なるべく新しい統計資料を用いること。

【ワープロの使用について】

ワープロの使用は許可する。ワード、エクセルなどでの作表や作図なども可。但し、図表は多用せず、読み手の理解を促すため、明らかに必要と思われるところに使用すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・都市社会学(E)

2単位

E078-1791

市販書採用科目

【テキスト】

松本康編『都市社会学・入門』有斐閣、2014年

【講義要綱】

本科目は、都市社会学の基本的な考え方を学ぶことをつうじて、都市社会現象を社会的に理解する力を養うことを目的とする。

テキストにしたがい、つぎのような構成で議論をすすめてゆく。序章では「都市社会学の問い」を定式化する。第Ⅰ部「都市化とコミュニティの変容」では「都市はなにを生みだすか」という問いの軸にそって、「都市社会学の始まり」「アーバンイズム」「都市生態学と居住分化」「地域コミュニティ」「都市と社会的ネットワーク」について論じてゆく。第Ⅱ部「都市の危機と再編」では「なにが都市を生みだすか」という問いの軸にそって、「都市圏の発展段階」「情報化・グローバル化と都市再編」「インナーシティの危機と再生」「郊外のゆくえ」について論じる。第Ⅲ部「時間と空間のなかの都市」では「いかに都市とかわるか」という問いの軸にそって、「都市再生と創造都市」「文化生産とまちづくり」「アジアの都市再編と市民」「ボランティアと市民社会」「都市の防災力と復興力」について論じる。

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。コラムまで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。
・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年
・園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年
・吉原直樹・近森高明編『都市のリアル』有斐閣、2013年

【レポート作成上の注意点】

以下の5つの条件がそろわなければ合格となりませんので、注意してください。

1. テキスト以外に5点以上の参考文献を用いること。
2. 字数は3600字以上4000字以内（注を字数に含む。参考文献リストは字数に含めない）。
3. 論述は社会的視点からなされること。
4. 注をつけること。
5. 参考文献リストを作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営管理論

2単位

E036-8501、E8582

【講義要綱】

企業が長年に維持・発展をとげるためには従来研究されてきた経営管理技法の実践に加え、革新を通じあらたな戦略展開をはかることが重要となってきた。本科目では基本的な経営管理に関する理論を踏まえた上で、組織革新に纏わる管理問題を検討する。

【参考文献】

十川廣國『経営学イノベーション／1 経営学入門〔第2版〕』中央経済社、2013年
十川廣國『マネジメント・イノベーション』中央経済社、2009年

【レポート作成上の注意点】

「戦略経営」と「経営戦略」は異なる意味を持つことに留意すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営分析論

2 単位

E030-7803、E9183

【講義要綱】

- ① 企業を評価するにあたり、評価とは何か、評価要因としてどのようなものがあるのか、それぞれの要因をいかにして加工し、総合的な判断を行うのか等の基本的な概念を学習する。
- ② 経営分析で用いられる具体的な指標のそれぞれの意味を理解する。
- ③ いくつかの指標を組み合わせた総合評価法について学ぶ。

【テキストの読み方】

テキストでは、ある程度の簿記や簡単な財務指標の知識がある事を前提に、それらを用いてどのように企業を評価していくのかについて詳しく述べられています。そうした予備知識の無い学生は、下に挙げたような科目を同時に履修したり、参考文献等を活用するなどして学習してください。

【履修上の注意】

「会計学」、「簿記論」を併せて受講されることをお勧めします。

【関連科目】

「会計学」、「簿記論」、「経営学」、「経営管理論」、「経営数学」、「統計学」

【参考文献】

通商産業省産業政策局企業行動課編『総合経営力指標（製造業編、小売業編）』大蔵省印刷局
あずさ監査法人編『有価証券報告書の見方・読み方（第9版）』清文社、2015年
K・G・パレプ他、斎藤静樹監訳『企業分析入門（第2版）』東京大学出版会、2001年

【レポート作成上の注意点】

全ての課題に解答してください。テキスト等を抜き書きするのではなく、自分の言葉を使って出来るだけ詳細に論述してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営数学

2 単位

E027-7603、E7681

【講義要綱】

経営計画を策定する際、多くの手法が用いられる。そのほとんどはパソコンのソフトウェアによって自動的に実行される。したがって多くの場合、結果のアウトプットだけが示され途中の考え方、プロセスは示されない。重要なことはアウトプットの数字をどう解釈するかであるが、プロセスを理解していないと間違った判断を下す恐れが大きくなる。「経営数学」では現

代企業が利用している数学的・統計的手法を使いこなすため、それら手法のプロセス理解を目的としている。

【テキストの読み方】

皆さんの中には、数学なんて真っ平ごめんだ、という方も多いと思いますが、それは今まで何のために数学を勉強するのか、という目的がはっきりしなかったからではないでしょうか。

経営数学のテキストは現代企業が経営計画を設定する上で欠かせない基礎的な手法を多く扱っています。それらを分かりやすく説明するために、あるパン屋さんを想定し、市場調査をしてニーズを調べたり、それに見合った設備投資をしたり、工場を建設する手順を考えたりしながら、それぞれに必要な手法を勉強していく、という構成になっています。なるほど、この手法はこんな時にこんな具合に使えるのか、ということが分かります。

何事も目的をもった勉強をすると効率もやる気も飛躍的にアップする、ということを実感していただければ、と思っています。

【参考文献】

石村貞夫・石村光資郎『入門はじめての多変量解析』東京図書、2007年。
石村貞夫・石村光資郎『入門はじめての分散分析と多重比較』東京図書、2008年。

【レポート作成上の注意点】

課題はテキスト章末の練習問題ですから、テキスト本文をよく読んでから、問題を解いてください。他科目のレポートと異なり、参考文献を読む必要は特にありません。テキストを読んで、概念等が明確に理解できないときのみ、参考文献を使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

商業学

2 単位

E052-0191

市販書採用科目

【テキスト】

田村正紀『流通原理』千倉書房、2001年

【講義要綱】

製造業者によって生産された製品が、消費者によって消費されるまでの間には、所有、空間、時間、情報などに関して懸隔がある。これらのさまざまな懸隔を架橋するのが流通過程であり、それは、(1) 流通される製品、(2) 交換、物流、情報伝達、危険負担といった流通機能、および (3) 製造業者、卸売業者、小売業者などに代表される流通機関によって構成されている。そして、この流通過程は、全体的に見て、1つのシステムとして構造化・制度化されている。これが流通システムであり、それは市場経済が円滑に機能するうえで、きわめて重要な役割を果たしている。

さらに、流通システムの性質や役割は、生産技術や流通技術の進展、消費市場の変化、製造業者や流通業

者の革新的なマーケティング活動などによって、動態的に変化する。例えば、現在では、情報・通信技術の発展、市場の範囲のさらなる拡大、製品や組織間関係のモジュール化の進展が、流通システムに大きな変化をもたらしている。

本講座は、市場経済において重要な役割を果たしている流通システムの基本的な仕組み、また経済発展に伴う流通システムの変化傾向とその影響要因について理解することを目的としている。

【テキストの読み方】

- ・テキストの各章の最後にある要約を参考に（それに付け加える形で）、各章の内容をまとめたノートを作成すること。
- ・ある現象がなぜ生じているのかを理解すべく、その現象の背後にある原理（いくつかの重要な概念とそれらの間の関係）を押さえること。

【参考文献】

矢作敏行『現代流通：理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年
渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【レポート作成上の注意点】

テキストと参考文献それぞれの課題に関連する部分をよく読んだうえで、解答すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

保険学

3単位

E043-9501

【講義要綱】

保険制度は、社会に存在する多種多様なリスクに備えて経済的保障を提供する経済制度として、既に私たちの生活に深く浸透しています。私たちの安定した生活は、多くの人々との関わりの中で、さまざまな保険制度に支えられています。保険学は、保険制度が、現実社会の中でいかなる仕組みや原理に基づいて、社会的あるいは経済的機能を果たしているのかを理解することを目的とします。その対象も、生命保険や損害保険に限らず、公的年金や医療保険などの社会保険の分野をも含んでいます。しかも、諸制度と相互関連を深めていることから、社会制度全体の理解が必要とされます。そして常に、現代社会における保険制度のあり方を意識することで、社会問題の本質を保険学の立場で理解することが最終的な目的となります。

【履修上の注意】

レポートの成績評価基準は、以下のとおりである。
①テーマに対して的確に論述されているか、②参考文献を十分に読解したうえで論述されているか、③独自の見解を提示しているか、④規定字数を満たしているか、などの採点基準を設けて、総合的に評価する。

【参考文献】

堀田一吉『現代リスクと保険理論』東洋経済新報社、2014年
堀田一吉『保険理論と保険政策—原理と機能—』東洋経済新報社、2003年
堀田一吉・山野嘉朗編著『高齢者の交通事故と補償問題』慶應義塾大学出版会、2015年
堀田一吉編著『民間医療保険の戦略と課題』勁草書房、2006年
堀田一吉ほか編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会、2006年
近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦編著『保険学（補訂版）』有斐閣、2016年
田畑康人・岡村国和編著『人口減少時代の保険業』慶應義塾大学出版会、2011年
真屋尚生『保険の知識（第2版）』日本経済新聞社、2004年
下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険（改訂版）』有斐閣、2007年

【レポート作成上の注意点】

- まずは、できるだけ多くの教科書や参考書を一通り読んでから、課題を選択し、レポート作成に取りかかってください。一部分だけを読んで、無理にまとめようとする、学習効果はほとんどありません。
- 保険をめぐる現実社会で起こっている諸現象についても十分に関心をもってください。現実社会と照らし合わせることで、レポート作成の意義が大きく高まります。
- 自分なりのまとめ方を工夫してみてください。参考書にとらわれすぎずに、自分がどのように理解したかが伝わるような記述を心がけてください。
- 引用文献あるいは参考書については、必ず明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

会計学(E)

3単位

E062-0901

【講義要綱】

会計学、主として財務会計論の基礎を学習する。科目試験の出題範囲はテキストの内容に限るが、レポートの作成についてはより広範な学習にもとづくことを期待する。

【参考文献】

友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣、1996年
友岡賛『会計学原理』税務経理協会、2012年
友岡賛（訳）『歴史に学ぶ会計の「なぜ？」』税務経理協会、2015年
友岡賛『会計学の基本問題』慶應義塾大学出版会、2016年
友岡賛『会計と会計学のレーゾン・デートル』慶應義塾大学出版会、2018年
友岡賛『会計の歴史（改訂版）』税務経理協会、2018年

【レポート作成上の注意点】

できる限り、自分の言葉をもって述べ、また、参考文献は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

簿記論

2 単位

E021-7602、E7622

【講義要綱】

「簿記論」では、企業の経済活動を秩序正しく組織的に記録・計算・整理し、経営成績ならびに財政状態を明らかにするための記帳技術である複式簿記を学習する。複式簿記は他の会計科目を学ぶ上で不可欠のものであり、経営分析（財務分析）を行う際にも必要となる知識である。それゆえ複式簿記の基礎はできるだけ早めに習得することが望ましい。「簿記論」の学習にあたっては、単にテキストを読むだけでなく、練習問題を繰り返し解いてみるのが大切である。また、我が国では会計制度の変革が急速に進められているため、必ず最新版の参考書を利用して変更点等を確認しながら学習してもらいたい。テキストの構成は次のとおりである。

- 第1章 企業の計算制度と複式簿記
- 第2章 複式簿記の構造
- 第3章 勘定科目の説明（Ⅰ）
- 第4章 帳簿および帳簿組織
- 第5章 取引の記帳
- 第6章 決算の手続
- 第7章 決算にともなう勘定修正
- 第8章 勘定科目の説明（Ⅱ）

【科目試験出題用指定参考書】

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義 3級商業簿記』中央経済社

【参考文献】

『検定簿記講義 3級商業簿記』中央経済社・『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社

*必ず何年版かを確認の上、最新のものを購入すること。

【レポート作成上の注意点】

- ①参考文献も利用して必ず全問解答してから提出すること。
- ②解答に赤インクペンは使用しないこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

原価計算

2 単位

E067-1191

市販書採用科目

【テキスト】

園田智昭・横田絵理『原価・管理会計入門』中央経済社、2010年

【講義要綱】

原価計算は、特に原価情報の収集、伝達を目的に展開される企業会計の一分野である。原価計算を行うのは、一方で、その基礎数値を提供して企業外部に報告する財務諸表の作成を行うためであり、他方で、経営管理に役立つ情報を提供して企業経営の効率性・効果性の向上に資するためである。本講義は、原価計算の理論と計算方法の概要について学習することを目的とする。概ね以下の項目を学習する。(1) 原価計算の意義と目的、(2) 原価要素の分類、(3) 費目別計算、(4) 部門別計算、(5) 製品別計算、(6) 標準原価計算、(7) 利益管理のための原価計算、(8) その他。

【テキストの読み方】

学習に際してのテキストの使用にあたっては、次の点に注意すること。

- ① 原価集計の流れ及び学習項目の位置づけを把握し、自分が現在学習しているのはどこの部分なのかを意識しながら学習すること。
- ② 面倒でも、原価の集計プロセスを、数字を跡づけながら学習すること。
- ③ 原価計算は計算が中心であるから、読むだけでなく実際に計算をしながら学習していくこと。
- ④ まず、理解すること。理解したら、理解したことをスムーズに計算できるように練習すること。

【履修上の注意】

会計学、経営学に関する基礎的な学習が済んでいることが望ましい。

【参考文献】

小林啓孝『現代原価計算講義（第2版）』中央経済社、1997年

岡本清『原価計算（6訂版）』国元書房、2000年

【レポート作成上の注意点】

学習にあたっては、原価計算の大きな流れを理解し、個別の学習項目がそのどこに当たるのかを常に意識すること。原価計算は、文字通り計算が中心であるので、理論的学習と計算練習を常に連動させること。理論を理解するための計算の練習であり、計算を練習するための理論の理解である。レポート作成にあたっては、テキストの内容をよく理解した上で、自分の言葉で簡潔に説明すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

会計監査

2単位

E065-1091

市販書採用科目

【テキスト】

鳥羽至英ほか『財務諸表監査』国元書房、2015年
※上記のテキストは、鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度【基礎篇】』（国元書房、2009年）の姉妹版です。どちらを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

監査論の基礎を学習する。科目試験の出題範囲はテキストの内容に限るが、レポートの作成についてはより広範な学習にもとづくことを期待する。

【参考文献】

友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣、1996年
友岡賛『会計プロフェッションの発展』有斐閣、2005年
友岡賛『会計士の誕生』税務経理協会、2010年
友岡賛『会計学原理』税務経理協会、2012年
友岡賛『会計学の基本問題』慶應義塾大学出版会、2016年
友岡賛『会計と会計学のレーゾン・デートル』慶應義塾大学出版会、2018年
友岡賛『会計の歴史（改訂版）』税務経理協会、2018年

【レポート作成上の注意点】

できる限り、自分の言葉をもって述べ、また、参考文献は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

法学概論(E)

2単位

E074-1501

【講義要綱】

「法学概論」は、文学部および経済学部の専門教育科目として開講されるが、学習の目的とするところは、法学の基礎的事項についての知見を掌中にあることにある。今後の日常生活で法との接点を持たなければならない状況が生じた際、そこで得た知識を生かすこと、本講義を通じて法学への興味が芽ばえ、さらに多くの法分野への取り組みを試みる「きっかけ」となる気持ちが生ずること、新たに修得した異なる分野に関する知識を、自らが専攻する文学・経済学・商学より深い理解のための拠りどころとすること、いずれも本講義の目指す主旨に叶うものである。そうした意味で当該学科目の位置づけは、まさに「入門講座」の一語に尽きよう。

【テキストの読み方】

さて、それがために、皆さんに提供されたテキストは、できる限り平易な文章で綴られ丁寧な説明により要点の理解が可能であるよう心掛けて執筆された。も

ろ初學者にとっては、それでさえも目の前に広がる未知の世界が、得体の知れない茫漠たるものに映るのは、むしろ当然であろう。しかし、まず第一歩を踏み出さないことには、何も始まらない。そこで学習をする、つまりテキストを読み進むために二つの提案をしておきたいと思う。

まず第一は、ひとたびテキストを読み始めたら、自分のできる範囲で分量・日程の予定を組み、冒頭から末尾までなるべく連続した期間のなかで、必ず順を逐って読み切ることを勧めたい。費やす期間はあまり長くないこと、毎日とはいわないまでも前回の記憶の途切れない程度の連続性が必要である。また、読み方は、多少乱暴な表現と受け取られるかも知れないが、とにかく「読破通読」を目標に遮二無二に読む、途中いささか理解に苦しむ箇所があっても、それはそれとして、決して章や一文の飛ばし読みをせず、最終ページにたどり着く姿勢が肝要である。

第二は、テキストを読み進める際に、まずその内容の国語的理解に努めること、すなわち個々の項目についての専門性を主眼とする細密な理解は二次的なものとし、そこに書かれている「日本語」の内容を正確に読み解くことに力を注いで欲しい。用いられた漢字や比喩の意味、主語・述語や文章の構造への誤りない把握は、いかなるジャンルのものであれ日本語による著作を受容する第一歩である。そこで、テキスト読了に向けて日本文の文意文脈を正しく捉えるための道具として、常に国語辞典や漢和辞典を座右に置き、手間を厭わず活用して欲しい。確かに法学の世界に特有の専門用語の意味が正しく捉えられていないと、入門書とはいえ理解に齟齬を生じる場合もおき得るリスクは否定しないが、そうした点については、テキストの中にも解決の糸口が示されており、「読破通読」の余慶に与ることが可能である。

【履修上の注意】

なお最後に、私は、これまでの対面講義でも、法学の学習に際し、常に現行法令集である『六法』を必携すべきとの指摘を繰り返してきた。これは本講義においても変更されるものではない。いかなる分野であれ法を対象とする学習においては、最新年度の『六法』をひも解き条文を参照する行動が必須である。その種類や選択を巡るヒントは、テキストに示されており、ここで屋上屋を架することはせず、上述の結論を述べるにとどめた。

【関連科目】

「法学（憲法を含む）」

【参考文献】

霞信彦『法学講義ノート（第5版）』慶應義塾大学出版会、2013年

【レポート作成上の注意点】

叙述の、遮二無二にテキストを読み切るという作業は、一度のみならず繰り返しおこなうことが重要であり、回を重ね、併せて他者の著作を参照するなどの労を積むなかで、次第に理解に深みが増すと思う。こうした後に、初めてレポート課題取り組みへの途が開け

ることとなる。最初から課題の内容のみに注目してテキストの必要箇所を限定して学習を進めるなど、冒頭に述べた本講義の主旨のいずれにも合致しない。のみならず、体系への視野をもたない断片的かつ生半可な知識は、却って「百害あって一利なし」と言わざるを得ない。また、「まずレポートありき」の典型的なものとして、テキストや参考文献の丸写し・換骨奪胎による提出物（敢えてレポートとは表記しない）が散見されるが、これまた通信教育学習に取り組む本意の「はき違え」甚だしきものと断言しておきたい。いうまでもないが、参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

憲法(E)

2 単位

E076-1691

市販書採用科目

【テキスト】

駒村圭吾編『プレステップ憲法〔第2版〕』弘文堂、2018年

※テキストは、極力第2版を使用すること。

【講義要綱】

講学上、憲法は、統治の仕組みを対象とする「統治機構論」と、憲法上の人権を対象とする「人権論」とに大別される。本講義は、その両方を対象に、「法律」ではなく「憲法」で人権を保障するとはどういう意味を持つのか、憲法が保障する人権は誰に対してどの程度まで保障されるのかといった、憲法上の人権にかかわる抽象的な問題（人権総論）から、具体的に憲法により保障される個別の人権をめぐる解釈、判例、実践の問題（人権各論）、そして国家統治の仕組みとして憲法はどのような制度を構想しており、そこにはいかなる論点が伏在しているのか（統治機構論）など、憲法の全体像を把握したうえで、具体的な問題を自分で考える力を養うことを目的とする。

【テキストの読み方】

憲法に関する知識は、すでに小中高校でも学んでいるだろう。しかし、専門科目・法学としての憲法の場合、従来の知識がむしろ理解を妨げることもありうる。その場合、先入観を捨てて、テキストの説明を素直に読み、場合によっては法律用語辞典などを参考にしながら、理解に努めてほしい。

また、よくわからなかった部分については、別の教科書の記述を見てみるなどすると、理解が進むこともある。指定したテキストの末尾（166頁）に、定評のある教科書などが挙げられているので、それを参考にすること。

【関連科目】

「国際法」、「行政法」、「刑事訴訟法」など

【参考文献】

憲法に限らず、法学の学習において判例を参照する機会が多い。直接原文に当たることが必要な場合もあるが、本講義の場合、事実関係、判旨を整理したうえで、解説をしている判例集を参考にすればよいだろう。

定評のある判例集としては、次のものがある。

- ・高橋和之編『新・判例ハンドブック【憲法】』日本評論社、2012年
 - ・長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿『憲法判例百選 I、II』有斐閣、2013年
 - ・戸松秀典・初宿正典『憲法判例〔第4版〕』有斐閣、2014年
 - ・憲法判例研究会『判例プラクティス憲法〔増補版〕』信山社、2014年
- その他、指定テキストの末尾（166頁）の文献案内も参考のこと。

【レポート作成上の注意点】

- ① まず、問われている課題を十分に理解し、論点を整理することが必要である。そして、そのためには、テキストや参考文献をよく読むことが求められる。
- ② 当該論点については、すでに、関連する判例、学説などが存在しているはずである。それらをきちんと読み、判例はどのような立場なのか、学説は何を巡って対立しているのか、といった問題状況を把握することが求められる。
- ③ そのような問題状況に対して、レポート作成者はどのように考えるのか、そしてそのように考えた理由は何かを明らかにし、自分の考えを説得的に「レポート」する必要がある。
- ④ このようにレポートを作成するとすれば、必ず、先行業績を参考にしなければならないことに気づくだろう。参考にした先行業績は、必ず引用すること。他者の考えたこと、まとめたことを、あたかも自分が初めて考えたことのようにレポート作成する行為は、不正行為である。

【成績評価方法】

科目試験による。

民法

4 単位

E050-9792

市販書採用科目

【テキスト】

池田真朗『民法への招待〔第4版〕』税務経理協会、2010年

※本書〔第3版補訂版〕で学習を進めている者はそれでもよい。

【講義要綱】

民法は、法律科目の中で最も身近でかつ最大の単位を配当されている、私法分野の基本法である。契約や債権等、経済学部生にも必要な知識が含まれるばかりか、家族、相続等の分野も民法の範囲である。また、商法等の学習のためにも、民法の学習を先行させるのが望ましい（商法などの法律は、民法の特別法という位置づけになるので、基本法である民法の一般的な考

え方を先に学習しておくのが適切である)。本科目は、民法の財産法分野と家族法分野の全体にわたる基礎的な知識を身につけることを目的として配置されているものであるが、テキストは特に経済学や商学を学んでいる学生向けに書かれている。保証、債権回収、消費者契約等、今日の社会で問題になっているものも、この民法で学ぶことができる。なお、本テキストは2005年4月1日施行の現代語化新民法典に対応しており、公益法人関係など、この新民法典がさらに変わった部分(2008年12月施行)についても、2008年の第3版補訂版で記述を修正した。なお、2010年に横書きの第4版が出版されたため、現在のテキストはこの第4版であるが、第3版補訂版を使用して学習してもよいものとする。

【履修上の注意】

特になし。経済・商学関係の専門を学ぶ諸君が誰でも、私法の基本法たる民法をわかりやすく学べることを目的としている科目である。小型の六法(科目試験に持ち込めるもの)を1冊購入して、学習の際は常に条文を参照すること。六法は、最もコンパクトな『法学六法』(信山社)でもよい。

【参考文献】

- 池田真朗『新標準講義民法債権総論』慶應義塾大学出版会、2009年
池田真朗『新標準講義民法債権各論』慶應義塾大学出版会、2010年
池田真朗『スタートライン民法総論』日本評論社、2006年
池田真朗『スタートライン債権法 [第5版]』日本評論社、2010年
山田卓生ほか『民法Ⅰ [第3版補訂]』有斐閣Sシリーズ、2007年
淡路剛久ほか『民法Ⅱ [第3版補訂]』有斐閣Sシリーズ、2010年
野村豊弘ほか『民法Ⅲ [第3版]』有斐閣Sシリーズ、2005年
藤岡康宏ほか『民法Ⅳ [第3版補訂]』有斐閣Sシリーズ、2009年
池田真朗編『新しい民法』有斐閣ジュリストブックス、2005年

【レポート作成上の注意点】

まずテキスト全体を十分に学習して理解してから、レポート課題の問うている範囲を確認し、上掲の参考文献に当たってレポート作成を始めること。六法は、最もコンパクトな『法学六法』(信山社)でもよい。

【成績評価方法】

科目試験による。

労働法(E)

2単位

E064-1091

市販書採用科目

【テキスト】

神尾真知子・増田幸弘・内藤恵『フロンティア労働法 [第2版]』法律文化社、2014年

【講義要綱】

労働法とは、賃金を得て生活する者(労働者)と使用者との関係を規律する様々な法律の総称です。大別すると、以下の4つの領域として理解されます。

①、雇用関係に入る際の求人と求職に関わる法制度と政策を学ぶ、労働市場法。その中心的なテーマは、求職・求人にに関する行政的支援・職業能力開発・雇用安定等で、昨今問題とされることの多い労働者派遣などもこの中で学びます。②、労働契約締結からその終了に至るまでの法律問題を考察するのが、個別的労働関係法です。ここでは、労働者と使用者の二者間の契約に基づく様々な労働条件、およびその変更が中心のテーマとなります。③、労働者・使用者に加えて労働組合という第3の主体が加わり、憲法28条の労働基本権を三者の間で具体化する領域が、集团的労使関係法です。労働組合・団体交渉・労働協約・争議行為、等を議論します。④、最後に現代社会では、労使間の紛争をいかに処理するかも重要な課題です。このような労働紛争の解決にかかる様々な法制度にも目を配る必要があります。

テキストは、現代的視点も含め、以上の領域全てを学べるようになっています。

【テキストの読み方】

伝統的な労働法の論点は、上記の②と③の領域にあります。②は、民法の雇用契約を発展させた領域ですが、現在では労働契約法も施行され、労働法独自の体系が整ってきています。③の領域は、憲法第28条の趣旨を如何に具現化するかを重視しております。但し興味深い論点のいくつかは、個別法と集団法の2つの法理が交錯する部分に生じます。

また労働法学は、現実社会の紛争から切り離すことの出来ない領域です。労働法学の学習には、総合的かつ体系的な理論を学習することに加えて、具体的な裁判例を学ぶことが必須です。学習に際しては労働法判例百選なども利用し、当該テーマにかかる学説が、具体的にはどのような事案として生じているかを学んで下さい。

最後に労働法学は、研究者のスタンスが分かれやすい領域でもあります。1冊のテキストに偏ることなく、複数の参考書を読み、相互に比較検討することをお願いします。かつまた現代社会では雇用の流動化が進み、労働市場にも目を配る必要があります。

【履修上の注意】

法律学を学ぶ際には、まず一般法の知識を得た上で、特別法による修正法理を学ぶ方が効果的です。労働法を学習するには、まず憲法、民法総則、債権各論を学習した後に履修することをお願いします。労働法学は法解釈学であり、労働関係を対象としております。社

会政策学や労働経済学の隣接領域ですが、それらを主として学ぶわけではありません。あくまでも法学の1科目です。

【関連科目・分野】

上述したように法学としての労働法は、憲法、民法総則、債権各論を基礎としています。

さらに社会保障法とは、相互補完的な関係にあります。他学部の科目としては、社会政策学や労働経済学とも関連します。

【参考文献】

注意：労働法は改正が頻繁に行われる領域です。参考文献は、常に最新版を使用して下さい。(下記には、当該シラバス原稿作成時における情報を入れておきます。)

まず最初にテキストを用いて、当該テーマの全体像をつかみます。次にテーマに関連する専門書、あるいは法律専門誌や大学紀要に掲載されている専門的論文、さらには裁判例の原本に当たって考察を深めて下さい。

- 1) 指定テキストの他に、入手し易い初学者向けの参考書として、
 - ・中窪・野田『労働法の世界』(第12版)有斐閣、2017年
 - ・安枝・西村『労働法』(第12版)有斐閣ブリマ・シリーズ、2014年
- 2) 裁判例の概略を学ぶために
 - ・別冊ジュリスト・労働判例百選(第9版)有斐閣、2016年
 - ・唐津博・和田肇・矢野昌浩編『新版・労働法重要判例を読む1 総論・労働組合法関係』、『同・2 労働基準法・労働契約法関係』日本評論社、2013年
- 3) さらに専門的に学ぶための概説書
 - ・菅野和夫『労働法』(第11版補正版)弘文堂、2017年
 - ・荒木尚志『労働法』(第3版)有斐閣、2016年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する前に、まずテキストを通読して下さい。次にレポートの構成を考える際には、当該テーマに関する専門書・専門論文・判例等を収集し、読み比べ、論点を整理した上で取り組んで下さい。レポートの末尾に必ず参考文献一覧を明記すること。

時に、単なるテキストの要約を提出する学生がいます。これは評価できないのでご注意下さい。なお他の文献から直接引用する場合には、必ずその出典を明示して下さい。その際は、文献や判例の引用方法を確認すること。インターネットの情報を引用する場合には、作成者が明らかにされているもののみを補助的に用い、URLに加えて当該HPの作成者とそのHPの名称を明示して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・経済法(E)

2単位

E079-1791

市販書採用科目

【テキスト】

土田和博、栗田誠、東條吉純、武田邦宣『条文から学ぶ独占禁止法』有斐閣、2014年

【講義要綱】

本講義は、経済法の中核をなし、その基本的秩序を形成する「独占禁止法」の法構造とその最新の論点を学習することを目的としている。独占禁止法は競争法とも呼ばれており、市場経済の中核をなす法律である。また独占禁止法は、企業法務においても、非常に重要な法分野となっている。カルテル・談合規制のみならず、再販売価格維持行為、優越的地位の濫用規制など日々のビジネスに密接に関係する法規制が多く、きわめて実務に直結した法分野である。他方、経済法(競争法)は、グローバルな色彩が強く、比較法的な視点からの分析が盛んであり、経済法を学ぶことによって、実務の現状を理解することもできる。この経済法に関して、その中核をなす競争法の法原理・法構造の理論的な解説とともに、判例・審決を中心とするケーススタディを通じて、応用可能な知識の習得を目指す。なお適宜、比較法的な観点から米国、欧州そして中国の競争法規制にも言及することがある。

【テキストの読み方】

テキストを読む際には、理論的な説明とともに、事例について出来るだけ原文を参照するなどして、事例から考えることを意識してほしい。事例については、公正取引委員会のホームページで閲覧できる。また図書館で審決集や判例集を調べるという作業も併せて行ってほしい。

【履修上の注意】

履修に際し、他の特定の科目を事前に履修している必要はない。なお経済法は、ミクロ経済学、産業組織論との関連性が深いので、講義において適宜、言及する場合がある。

【関連科目・分野】

経済法・独占禁止法は、取引を扱うため、民法、商法、会社法とも関わりがある。経済活動に対する公的な規制という観点もあるので、憲法や行政法との関係も深い。他方、各種事業法との関係も深い。また経済法の理論的前提のなかには、ミクロ経済学、産業組織論、最近ではゲーム理論の影響も見られる。このような法学分野以外の隣接領域も関連分野となる。

【参考文献】

白石忠志、多田敏明『論点体系独占禁止法』(第一法規出版、2014年)
村上政博、内田晴康、石田英遠、川合弘造、渡辺恵理子、伊藤憲二『条解独占禁止法』(弘文堂、2014年)

【レポート作成上の注意点】

レポート作成に際しては、次の3点に注意して調査・執筆することを求める。第一に、課題の内容を十分に理解し、課題に対し適切な解答となるレポートを作成する必要がある。この点、レポートのなかには、課題と無関係な記載になっていて不合格となる場合がある。第二に、課題は、教科書を読むだけでは執筆できない。調査が必要であり、参考文献や論文そして判例や審決について十分な調査を行っていないとレポートとして評価対象とならない。第三に、引用のルールを厳守である。教科書や概説書をそのまま引用している場合や、判例の引用なのか、個人の意見なのか、混同している例が多く、疑わしい場合は、評価対象とならないだけでなく、不正なレポートと判断される可能性がある。

【成績評価方法】

科目試験による。

会社法(E)

4単位

E057-0792

市販書採用科目

【テキスト】

宮島司『新会社法エッセンス〔第4版補正版〕』弘文堂、2015年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版(2014年)を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

会社の経営者、従業員、会社と取引する相手方、株主などにとって、会社がどのような法制度によって規制され、どのように行動するべきかを正しく理解することは、大変重要である。

平成17年に制定された会社法は、平成26年に改正を受け、平成27年5月から施行された。これにより、平成26年改正前に用いられていた委員会設置会社の名称が指名委員会等設置会社に変更されたほか、コーポレート・ガバナンスの改善のため、監査等委員会設置会社の新設、社外役員の要件の見直し、公開会社における支配権移動を伴う募集株式発行等についての特別規制、親子会社の法規制の見直しのため、多重株主代表訴訟(特定責任追及訴訟)の導入、特別支配株主による株式等売渡制度の新設、企業再編行為の差止請求権の許容、許害的会社分割が行われた場合の債権者保護規制の整備など、多くの点で改正がされた。

【テキストの読み方】

会社法全体に対して理解できるようになるためには、時間と根気が必要である。細部にこだわるよりも、まず、テキスト全体を通読して全体像を把握する、あるいは、株式・機関の辺りを熟読してそれを理解したのちに、他の部分を読むなど、工夫して学習を進めてほしい。なお、科目試験範囲は第2編株式会社第5章資金調達までとする。

【関連科目】

商法総則・商行為法、手形法、保険法

【参考文献】

江頭憲治郎『株式会社法(第7版)』有斐閣、2017年
山本為三郎『会社法の考え方(第10版)』八千代出版、2017年

鈴木千佳子『入門講義会社法(第2版)』慶應義塾大学出版会、2017年

田中亘『会社法』東京大学出版会、2016年

【レポート作成上の注意点】

テキストを丸写しすることなく、他にも参考書を読むなどして、問題点を多角的に分析し、再構成することを心がけてほしい。また、会社に関する法制度は頻繁に改正を受けているため、参考文献を用いる際は、どの時点で執筆された文献かをよく見極め、常に最新の規定との整合性を検討しなくてはならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

法学部専門教育科目

憲法(J)

4単位

J110-1691

市販書採用科目

【テキスト】

駒村圭吾編『プレステップ憲法〔第2版〕』弘文堂、2018年

※テキストは、極力第2版を使用すること。

【講義要綱】

講学上、憲法は、統治の仕組みを対象とする「統治機構論」と、憲法上の人権を対象とする「人権論」とに大別される。本講義は、その両方を対象に、「法律」ではなく「憲法」で人権を保障するとはどういう意味を持つのか、憲法が保障する人権は誰に対してどの程度まで保障されるのかといった、憲法上の人権にかかわる抽象的な問題（人権総論）から、具体的に憲法により保障される個別の人権をめぐる解釈、判例、実践の問題（人権各論）、そして国家統治の仕組みとして憲法はどのような制度を構想しており、そこにはいかなる論点が伏在しているのか（統治機構論）など、憲法の全体像を把握したうえで、具体的な問題を自分で考える力を養うことを目的とする。

【テキストの読み方】

憲法に関する知識は、すでに小中高校でも学んでいるだろう。しかし、専門科目・法学としての憲法の場合、従来の知識がむしろ理解を妨げることもありうる。その場合、先入観を捨てて、テキストの説明を素直に読み、場合によっては法律用語辞典などを参考にしながら、理解に努めてほしい。

また、よくわからなかった部分については、別の教科書の記述を見してみるなどすると、理解が進むこともある。指定したテキストの末尾（166頁）に、定評のある教科書などが挙げられているので、それを参考にすること。

【関連科目】

「国際法」、「行政法」、「刑事訴訟法」など

【参考文献】

憲法に限らず、法学の学習において判例を参照する機会は多い。直接原文に当たることが必要な場合もあるが、本講義の場合、事実関係、判旨を整理したうえで、解説をしている判例集を参考にすればよいだろう。

定評のある判例集としては、次のものがある。

- ・高橋和之編『新・判例ハンドブック【憲法】』日本評論社、2012年
- ・長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ』有斐閣、2013年
- ・戸松秀典・初宿正典『憲法判例〔第7版〕』有斐閣、2014年

・憲法判例研究会『判例プラクティス憲法〔増補版〕』信山社、2014年
その他、指定テキストの末尾（166頁）の文献案内も参考のこと。

【レポート作成上の注意点】

- ① まず、問われている課題を十分に理解し、論点を整理することが必要である。そして、そのためには、テキストや参考文献をよく読むことが求められる。
- ② 当該論点については、すでに、関連する判例、学説などが存在しているはずである。それらをきちんと読み、判例はどのような立場なのか、学説は何を巡って対立しているのか、といった問題状況を把握することが求められる。
- ③ そのような問題状況に対して、レポート作成者はどのように考えるのか、そしてそのように考えた理由は何かを明らかにし、自分の考えを説得的に「レポート」する必要がある。
- ④ このようにレポートを作成するとなれば、必ず、先行業績を参考にしなければならないことに気づくだろう。参考にした先行業績は、必ず引用すること。他者の考えたこと、まとめたことを、あたかも自分が初めて考えたことのようにレポート作成する行為は、不正行為である。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・民法総論

3単位

J119-1891

市販書採用科目

【テキスト】

平野裕之『コア・テキスト民法Ⅰ 民法総則（第2版）』新世社、2017年

【講義要綱】

民法は、私達が共に幸福な社会生活を営むために不可欠な、基本ルール（社会規範）の一つです。すなわち、私達が共に幸福な社会生活を営むためには、自分が望む権利移転の効果をどのように求めるのか。自分の財産をどのように守るのか。私達が利己的になり他人の生命や財産を侵害しないようにするにはどうすればよいのか等々の基本ルールが必要ですし、それらは社会生活上とても大切なものの一つなのです。したがって、社会の構成員として皆さん一人一人に、民法を学問として学んでいただきたいと思っています。

また、本講義でとりあげる「新・民法総論」は、民法典を理解する上での基本原則を内容とする民法総則編を領域としますが、民法典制定以来の大改正といわれる今回の債権法改正は、本領域にも及びますので、本講義では、2年後に施行が予定されます改正部分に

についても言及されている教科書に刷新して、民法の基本だけではなく、債権法改正が求められた社会的背景や理由等についても学んでいただきたいと思います。

- 第1部 自然人及び法人
- 第2部 法律行為
- 第3部 代理制度
- 第4部 条件及び期限
- 第5部 時効制度
- 第6部 物
- 第7部 民法の通則

【テキストの読み方】

本講義で採用する『コア・テキスト民法Ⅰ 民法総論（第2版）』は、筆者が、学説・判例の引用を省き、一般的な民法の入門書より少し深い内容を記述した講義テキストです。各争点について十分な内容で記述されていますので、同テキストの内容をしっかりと読み込んでいただき、科目試験等にのぞんでいただきたいと思います。

なお、前述のように、民法は私達の市民生活の基本ルールであり、しかも私達の生活の最も身近な問題を対象とし、立場や価値観の異なる人々の間に生じる利害の牴牾と法的解決をとりあげる、親しみやすく解りやすい学問領域です。しかし、残念ながら、いざ民法を学ぼうとすると、法律用語や法文書の表現が固苦しく専門的なために、とても難解で取り組みにくいような印象を与えがちですが、同テキストは、具体例や図を多く用いながら、民法の基本体系や各規定内容の相互関係を明確にし、さらに民法改正の論点についても非常に詳しく説明されていますので、繰り返し読んで、私法学習の第一歩を踏み出していただきたいと思います。

【履修上の注意】

- 1 法律用語を正確に理解して使えることは重要です。法律用語辞典等を手許において、解らない用語はすぐに調べるようにしましょう。
- 2 各制度の制度趣旨や他の制度との相違等を考え、整理できることも大切です。新しく学んだことは、常に既に知っていることと、どのように関連するのか、或いは異なるのかを考えるようにしましょう。
- 3 教科書を読む前に必ず、単元の範囲の一連の条文に目を通して、各規定がどのような事例を想定しているのかのイメージをもってから、教科書を読むようにして下さい。理解が深まります。
- 4 独りで教科書を読む繰返しに終らせないで、必ず講義に参加して、独学では想像できなかった事例や解説等を聞き、講義内容をじっくりと考え、友人達と議論を交したり、担当教員へ質問する等の作業を通して、実践的かつ有機的な民法学の理解へと繋げて下さい。
- 5 なお、科目試験はテキスト全領域から、テキストの内容の理解を問われているものです。指定テキストから離れたような自分の思いや感想、経験の記述については、一切、成績評価の対象とはなりませんので、くれぐれも指示通りの作業を終えて受験をお願いします。

【参考文献】

潮見佳男、道垣内弘人編『判例百選民法Ⅰ（第7版）』（別冊ジュリスト No.223）、有斐閣、2015年、定価2,268円（本体2,100円）ISBN978-641-11523-1
その他、判例解説の市販書等の利用。

【レポート作成上の注意点】

- 1 テキストや参考文献、法務省ホームページでの審議録等でそのアウトラインをよく把握してからレポートの作成をはじめして下さい。
- 2 単なる引き写しではなく、自己の頭で整理して十分に問題点を理解した上で、できるだけ自己の言葉で説明して下さい。
- 3 読み手の立場に立った気持ちで、丁寧にレポートすることが大事です（レポートは文章です。図版等を利用した箇条書のレジュメではありませんので、章立て、各段落、接続語に意味を持たせて、流れのある内容で書いて下さい）。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑法総論

3単位

J089-0991

市販書採用科目

【テキスト】

井田良『講義刑法学・総論』有斐閣、2008年

【講義要綱】

本科目では、主として犯罪論、すなわち、因果関係、故意・過失、未遂、共犯といった、あらゆる犯罪に共通する犯罪の一般的な成立要件に関する議論に関して学びます。判例を参照しつつ、自らの力で事例問題を解決する力を身に付けることを目的とします。

- 第1章 刑法の存在理由と機能
- 第2章 刑法の基本原則
- 第3章 刑法、刑法典、刑罰法規
- 第4章 犯罪論の基礎理論
- 第5章 構成要件
- 第6章 結果と因果関係
- 第7章 不作為犯
- 第8章 故意
- 第9章 錯誤論
- 第10章 過失犯
- 第11章 結果的加重犯
- 第12章 違法性と違法性阻却事由
- 第13章 正当行為
- 第14章 正当防衛
- 第15章 緊急避難およびその他の緊急行為
- 第16章 自己決定に基づく違法性阻却事由
- 第17章 過失犯と違法性阻却事由
- 第18章 違法性阻却事由の錯誤
- 第19章 責任論の基礎
- 第20章 責任要素
- 第21章 未遂犯と実行の着手

第22章	不能犯
第23章	中止犯
第24章	正犯と共犯
第25章	共同正犯
第26章	教唆犯と幫助犯
第27章	共犯（広義）をめぐる諸問題
第28章	犯罪の個数および競合
第29章	刑罰とその種類
第30章	刑罰の適用および刑罰の執行

【テキストの読み方】

刑法総論は高度に体系的な学問であるため、全体像が理解できないと教科書の最初の方に書いてあることも十分に理解できないということが起こります。そのため、少なくとも、第20章までは石にかじりつく気持ちで通読してください。テキストを読んで難しすぎると感じた場合、下記の参考書を一度通読した後に再びチャレンジしてください。

【履修上の注意】

刑法総論と各論は密接な関連性を有しますから、レポート課題を解くにあたっては、刑法各論の知識も不可欠となります。

【関連科目】

刑法各論、刑事訴訟法、刑事政策学

【参考文献】

井田良『入門刑法学・総論』（有斐閣、2013年）
成瀬幸典・安田拓人編『判例プラクティス刑法Ⅰ 総論』（信山社、2010年）

【レポート作成上の注意点】

事例問題を解くにあたっては、まず課題のストーリーを読み、六法をめくりながら、刑法典の条文に該当しそうな事実を抽出しなくてはなりません。これにより、何罪の成否が問題となるかを明らかにします（刑法総論のレポート課題の場合、この作業はあまり難しくはありません）。

次に、その罪の成否との関係でどのような法的論点が生じるのかを示します。課題には、刑法総論上の論点が複数隠れています。

続いて、論点ごとに判例・学説を調査してその内容を要約し、それらのうちのどの考え方を支持するかを提示します。その際、当然、論拠を示すことが必要になります。

最後に、自分の見解を課題の事例にあてはめ、何罪が成立するのかを明らかにします（まったく犯罪が成立しないケースもあるかもしれません）。

以上のことを簡単にまとめると以下ようになります。

- 第1のステップ：事実の抽出
- 第2のステップ：問題提起
- 第3のステップ：既存の判例・学説の要約
- 第4のステップ：私見の提示・あてはめ
（以上の作業を論点ごとに行い、最終結論を出す）

なお、刑法のレポート作成の際の文章作法については、井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）187頁以下が参考になります。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・法哲学

2単位

J116-1801

【講義要綱】

法哲学は、法および法学をめぐる現象について、哲学の手法を活用しながら理論的に解明することを目的とする分野です。しかしその具体的内容については論者ごとに大きな違いがあり、現代アメリカの正義論やドイツの法解釈理論、場合によっては東洋法思想なども含まれます。実定法のように対象となる領域と必要となる知識が決まっているような分野とは異なり、法が実際にどのように動作しているのか・それはなぜなのかを哲学的見地から問題にし続ける観点（とそれを支える理論知）が法哲学なのだと考えるべきでしょう。

この分野は大きく、以下の三つの領域に分かれると理解されています。第一に、法やそのなかで使われるさまざまな概念（自由・権利・解釈など）はどういうもので何を本当は意味しているのかを解明することを目的とする法概念論。第二に、法を通じてその構築・実現が目指される「あるべき社会」の姿とその正当化理由について探求する正義論。第三に、これらの問題についてこれまでのさまざまな論者がどのように考えてきたのか・それはなぜなのかを考える法思想史。これらの分野をバランスよく学修することによって、法の本質について考える自分なりの観点を構築することが最終的には求められますが、テキストではこのうち正義論を中心に扱っています。

法学部の他の科目と比較すると抽象的・理論的と位置付けられることの多い法哲学ですが、他方でそれは、現実の法現象をどのように理解することができるか、どのように改善することができるかという実践的関心に裏付けられたものでもあります。その意味で、現実の法に関する認識を中心とした実定法学の知識が当然に必要となる一方で、「あるべき法」について考え現実の法を批判するための足場を持つために、法以外の実践や政治学・経済学などの理論、文学や芸術などを通じた社会認識も必要になってきます。それらについては必ずしもテキストで扱えるわけではありませんので、各自が視野を広げて知見を得るように努めてください。

【テキストの読み方】

この分野では特に1970年代以降に英米を中心とした法解釈理論と正義論の発展があり、現在ではそのウェイトが大きく増しています。新しいテキストはその内容を反映した構成になっています。参考文献に挙げたより新しい教科書を併読し、知識・関心の幅を広げるようにしてください。概ね2000年以前の教科書・文献を参照する場合には、このような論点の変化があったことを踏まえて理解するよう、注意してください。

理論的な見解は必ず実践的な関心や意義に裏付けられています。実践的な側面との関係については、具体的な問題を中心に構成している瀧川『問いかける法哲学』のほか、やはり参考文献に挙げた近時の議論などを参照してください。

テキストや上記の教科書類を読み進めるなかで、自分にとって気になる思想家や理論——それは肯定的に「この考え方が腑に落ちる」という場合もあれば、否定的に「とにかくどこかが気に入らない」ということもあります——が見つかるでしょう。それはなぜなのか、そこに自分は引っ掛かりを覚えたのかを自覚的に分析することによって、自分の視点が定まってきます。気になった議論については、テキスト・教科書類から進んでさまざまな解説書・専門書、さらに本人の書いた著作へと探求を進めていくことによって、より理解が進むことになると思います。特に専門書・原書を読むのには相当の時間・努力が必要になりますが、そのような機会をできるだけ持ってもらいたいと考えます。

【履修上の注意】

法哲学の論点を理解するためには、実定法学の理解だけでなく、社会・文化に対する広い関心が必要になります。憲法・民法・刑法など基本的な法律科目を学修するとともに、政治学・経済学・哲学・論理学など関連する分野の履修を広く行なうことを勧めます。

【関連科目】

特に政治思想・経済思想・社会思想などの分野と強い関連があります。

【参考文献】

《最近の教科書》

瀧川・宇佐美・大屋『法哲学』有斐閣、2014年。現在のスタンダードである英米の問題意識・研究水準を反映したもの。

青井秀夫『法理学概説』有斐閣、2007年。ドイツ系の法解釈理論に強い力点をおいたもの。

田中成明他『法思想史』有斐閣、1997年。共著による法思想史のスタンダード。

中山竜一『二十世紀の法思想』岩波書店、2000年。法理論の20世紀の展開に重点を置いたもの。

深田・濱編『よくわかる法哲学・法思想〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2015年。広い領域をカバーしたわかりやすいもの。

瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2016年。

《近時の議論》

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011年。

井上達夫『リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いにならないでください』毎日新聞出版、2015年。

大屋雄裕『自由か、さもなくば幸福か?』筑摩書房、2014年。

【レポート作成上の注意点】

課題について、何が問題になっているかという論点を明確にし、それに対する関係論者の見解を整理した

うえで、自身の主張を展開してください。単に抽象的に記述するのではなく、具体的な例や事案などを参照することによって主張を裏付ける努力を怠らないことが必要です。教科書・参考書を単に書き写す結果に終わらないよう、十分注意してください。文献を参照した場合には注で明記し、著者名・著書名・出版社名・出版年・ページ数など、適切な出典情報を明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本法制史Ⅰ—古代—

2単位

J044-8603

【テキスト】

この科目のテキストは、2018年4月に補訂されました。改訂後の新しいテキストで履修してください。同テキストの入手方法は、『塾生ガイド』を参照してください。

【講義要綱】

まず、テキスト巻頭に示されている著者の「日本法制史」という学問に対する考えを熟読して欲しい。つまり、現代の法典や司法制度との関連を考えつつ、必ずテキストの全体を読み通し理解を深めることが必要である。

【履修上の注意】

テキストは、紙数の関係から、多くの歴史的事実を省略している。従って受講者は、近年復刊された中公文庫の「日本の歴史」（中央公論新社）や高等学校の日本史教科書などをまず一読し基礎知識を涵養してもらいたいと思う。

【参考文献】

霞信彦・原禎嗣・神野潔・兒玉圭司・三田奈穂『日本法制史講義ノート〔第2版〕』慶應義塾大学出版会、2012年

浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』青林書院、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキスト・参考書の丸写しにならないように留意することが必要である。併せてそれら参考文献を換骨奪胎してレポートを作成することも、評価の対象とならない。参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本法制史Ⅱ—中世・近世・近代— 4単位

J099-1201

【講義要綱】

本講義は、歴史的な法や制度のうち、中世・近世・近代の法制についての知見を深めるために開講される。すなわち、武家政権による封建的前近代的な法制から、西洋法を継受し近代的な法典へと変ぼうを遂げる明治時代までの法制について、焦点をあてたものである。受講にあたっては、過去の法を単なる歴史としてとらえるのではなく、現代の法典や司法制度との関連を考えながら学習をすすめてもらいたい。その際、必ずテキストの全体を読み通し理解を深めることが必要である。

【履修上の注意】

テキストは、紙数の関係から、多くの歴史的事実を省略している。従って受講者は、近年復刊された中公文庫の「日本の歴史」（中央公論新社）や高等学校の日本史教科書などをまず一読し基礎知識を涵養してもらいたいと思う。また、日本法制史を通史として理解するためには、「日本法制史Ⅰ—古代—」も併せて履修することが望ましい。

【関連科目】

日本法制史Ⅰ—古代—

【参考文献】

霞信彦・原禎嗣・神野潔・兒玉圭司・三田奈穂『日本法制史講義ノート〔第2版〕』慶應義塾大学出版会、2012年
浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』青林書院、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキスト・参考書の丸写しにならないように留意することが必要である。併せてそれら参考文献を換骨奪胎してレポートを作成することも、評価の対象とならない。参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・国際法Ⅰ

4単位

J111-1791

市販書採用科目

【テキスト】

大森正仁編著『よくわかる国際法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2014年

【講義要綱】

経済活動や環境問題を考えると私たちが生きている社会は様々な部分で国際的になってきています。また、難民問題は大きな関心事項です。その国際社会におい

て生じている状況に対応するために、国際法は多様な規則を提供してきました。国内社会の一員であると同時に国際社会の一員である私たちがそこで起きている出来事に敏感であることが求められています。国際社会の理解を法という視点から行うための力を養うこと、これが「国際法Ⅰ」の目標です。この学習を通じて国際社会を身近に感じてほしいと願っています。

「国際法Ⅰ」は、国際法の主体、法源、責任を対象とし、指定教科書の構成は次のとおりです。

第1部 総論

I 主体

- 1 国
- 2 国家承認・政府承認
- 3 国際機構
- 4 裁判権免除
- 5 個人
- 6 NGO

II 法源

- 1 条約
- 2 留保
- 3 強行規範
- 4 慣習法
- 5 国際機構の決議
- 6 国際法の国内的実施

III 責任

- 1 国際責任の発生要件
- 2 国際責任の法的結果（賠償）
- 3 国際責任の履行

【テキストの読み方】

条約集を手元に置いて該当する条約、条文を参照しながらテキストを読んでください。また、判例集の活用も有効です。

テキスト第2部各論についても、第1部総論とのつながりで読み進めてください。

【履修上の注意】

法学の基本的な知識を修得しておくことが必要ですが、何よりも国際社会で生じている出来事に強い関心を持って問題を考えることが重要です。

【参考文献】

岩沢雄司編『国際条約集』（有斐閣、2018年）
位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集』（三省堂、第2版、2015年）
小寺彰他編『国際法判例百選』（有斐閣、第2版、2011年）

【レポート作成上の注意点】

課題は国際法の基本的な問題として法源と主体の意義を理解することを求めています。テキストの内容を理解した上で自分の言葉でそれを表現してください。

作成にあたっては参考文献を検索して利用するように努めてください。文献引用はレポートの一部ですので丁寧に行う必要があります。どこまでが他の人の意見で、どこからが自分の意見なのかを明確にすることが求められます。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・国際法Ⅱ

2単位

J112-1791

市販書採用科目

【テキスト】

大森正仁編著『よくわかる国際法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2014年

【講義要綱】

私たちの生きている社会は様々な部分で国際的になってきています。しかしながら、そこで起きている紛争は依然として多数にのぼります。このように生じている状況に対応するために、国際法は武力紛争に適用するための多様な規則を発達させてきました。依然として限界は存在しますが、それをどのように乗り越えていこうとしているのかを学ぶこと、これが「国際法Ⅱ」の目標です。この学習を通じて国際社会で起きている紛争に国際法がどのように対応しているのかを理解をして欲しいと思います。

「国際法Ⅱ」は紛争解決、武力紛争法（国際人道法）を対象とし、指定教科書の構成は次のとおりです。

第1部 総論

Ⅳ 紛争解決

紛争の平和的解決手続とは

- 1 非裁判手続
- 2 仲裁裁判
- 3 国際司法裁判所（ICJ）
- 4 国際海洋法裁判所（ITLOS）
- 5 人権裁判所
- 6 国際刑事裁判所（ICC）

第2部 各論

X 戦争と国際法

- 1 戦争の禁止
- 2 平和に対する罪
- 3 人道に対する罪
- 4 戦争犯罪
- 5 集団安全保障
- 6 自衛権
- 7 日米安保
- 8 国際人道法
- 9 捕虜
- 10 文化財の保護
- 11 化学兵器の禁止
- 12 核兵器
- 13 軍縮

【テキストの読み方】

条約集を手元に置いて該当する条約、条文を参照しながらテキストを読んでください。また、判例集の使用も有効です。

【履修上の注意】

法学の基本的な知識を修得しておくことが必要ですが、何よりも国際社会で生じている出来事に強い関心

を持つことが重要です。

【関連科目】

国際法Ⅰ

【参考文献】

岩沢雄司編『国際条約集』（有斐閣、2018年）
位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集』（三省堂、第2版、2015年）
小寺彰他編『国際法判例百選』（有斐閣、第2版、2011年）

【レポート作成上の注意点】

課題は武力紛争の際に適用される規則について基本的な意義を理解することを求めています。国際法においてどのような条約規定が武力紛争の際に義務を課しているのかをまず検討してください。また、具体的な紛争を検討してそこで用いられた規則について考えることを求めています。この50年間に起きた事例を選んで検討をしてください。

参考文献を自分で検索して利用するように努めてください。文献引用はレポートの一部です。どこまでが他の人の意見で、どこからが自分の意見かがわかるようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

行政法

4単位

J106-1591

市販書採用科目

【テキスト】

櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第5版〕』弘文堂、2016年
※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版（2013年）を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

行政法は、国や地方公共団体という行政活動の主体が当事者として登場する法律問題を考察対象とする。私たちの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。各種の公的手続に必要な住民票は、市町村が管理している。自動車を運転するには、都道府県の公安委員会が発行する免許が必要である。普段利用する鉄道の運賃は、国（国土交通大臣）の認可を受けたものである。このように行政法は国や地方公共団体が広く、深く関わる社会システムの存在理由、構造と機能を法的な視点から議論し、国民と行政の関係を考えるのである。

この科目を通じて、行政法について特に学ぶべきエッセンスとして、次の3つの観点を挙げておこう。第一に、行政活動には具体的にどのようなものがあり、その法的な仕組み、特徴はなにか。第二に、それらの行政活動は、いかなる場合に違法となるか。第三に、行政活動によって権利が侵害されたり、財産上の損害をこうむった国民は、どのような手続を通じて自己の権利や利益を回復することができるか。

現代社会において、行政活動は、実に多くの場面で活発に行われ、かつ役割も重要である。そこでは、既存の法律や、これまでに積み上げられてきた判例・学説によって解決可能な問題ばかりではなく、新たに政策形成を試み、制度の構築を図る必要に迫られる問題もあるだろう。また、行政手続法や情報公開法の立法、行政事件訴訟法や行政不服審査法の改正などの法整備は言うに及ばず、規制改革・行政改革の波は、行政活動を取り巻く環境を着実に変化させている。現実の問題を前にしたとき、主権者たる国民にとって最善の解決策は何かということを常に考えながら、行政法の意義を学んでほしい。

指定教科書の構成は次のとおりである。

- 第1章 行政法の基本構造
- 第2章 法律による行政の原理
- 第3章 行政法の一般原則
- 第4章 行政上の法律関係
- 第5章 行政組織法
- 第6章 行政基準
- 第7章 行政行為
- 第8章 行政裁量
- 第9章 行政契約
- 第10章 行政指導
- 第11章 行政計画
- 第12章 行政調査
- 第13章 行政上の義務履行確保
- 第14章 行政罰
- 第15章 行政手続
- 第16章 情報公開・個人情報保護
- 第17章 行政上の救済手続
- 第18章 行政事件訴訟法概観
- 第19章 取消訴訟（その1）——訴訟要件
- 第20章 取消訴訟（その2）——審理・判決・執行停止・教示
- 第21章 取消訴訟以外の抗告訴訟
- 第22章 当事者訴訟・争点訴訟
- 第23章 国家賠償
- 第24章 損失補償

【テキストの読み方】

行政法の体系は、行政組織法、行政作用法、行政救済法から構成される。テキストに指定した櫻井敬子・橋本博之『行政法』は、このような行政法の体系全体をコンパクトに一冊にまとめたものである。参考文献に挙げた教科書・基本書には、同様に行政法の体系全体を一冊にまとめた稲葉ほか『行政法』もあれば、行政作用法（行政組織法の概略を含む）と行政救済法を分冊する大橋『行政法Ⅰ現代行政過程論』『行政法Ⅱ現代行政救済論』もある。いずれの場合も、とりわけ行政作用法と行政救済法が相互に連係することを意識しながら、読み進めるとよい。

【履修上の注意】

「憲法」及び「民法」の基礎を学んだうえで、履修すること。

【参考文献】

- *教科書・基本書
稲葉馨・人見剛・村上裕章・前田雅子『行政法』有斐閣、第3版、2015年
大橋洋一『行政法Ⅰ現代行政過程論』有斐閣、第3版、2016年
大橋洋一『行政法Ⅱ現代行政救済論』有斐閣、第3版、2018年
- *学習用判例解説集
『判例百選』シリーズ
『重要判例解説』シリーズ

【レポート作成上の注意点】

- (1) 設問をよく読むこと。例年、設問の趣旨を無視し、「行政法とは何か」などを書いてくるレポートが散見される。
- (2) 法学の基礎知識を確認すること。根拠条文の引用方法、裁判判決の出典の表記方法など、基本的な約束事が守られていない場合が多い。
- (3) 構成を練ること。文章を書き連ねるだけでは、読み手に訴える説得力に乏しい。小見出しを付ける、（一部に）箇条書きのスタイルを取り入れる等の工夫を試みてほしい。『法学教室』、『法学セミナー』等の法律雑誌に掲載された論文等に接することも、書きかたを学ぶためには有益である。

【成績評価方法】

科目試験による。

物権法

3単位

J101-1391

市販書採用科目

【テキスト】

石田剛・武川幸嗣・占部洋之・田高寛貴・秋山靖浩『民法Ⅱ 物権〔第2版〕』（リーガルクエスト）有斐閣、2017年

※テキストは最新版の使用が望ましいが、2010年版を用いて学習しても構いません。

斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅱ【物権法】』中央経済社、2009年

※『レーアブーフ民法Ⅱ【物権法】』は、出版社品切れのため大学を通しての購入申し込みはできません。入手困難な場合は、『民法Ⅱ 物権〔第2版〕』（リーガルクエスト）のみを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

民法第二編・物権編において規定されている諸制度を総称して、講学上「物権法」とよんでいます。物権は債権と並ぶ主要な財産権ですが、それでは、物権とはどのような権利なのか。いかなる種類・内容の権利があって、それらが取引社会においてどういう役割を果たしているのか。さらに、どのような場面において、いかなる形で物権をめぐる利害が対立し、それらについてどのように調整すべきなのか。こうしたことについて規律するルールが物権法なのです。本科目では、その全容について学びます。

【テキストの読み方】

物権法は私たちの財産および経済活動に関する基本的なルールですので、確かな理解と納得を一つ一つ丁寧に積み上げていくことを心がけてください。

【履修上の注意】

本科目を履修するに先立って、「民法総論」を履修することが望まれます。また、本科目と並行または前後して、「債権各論」および「債権総論」を履修することを推奨します。

【関連科目】

「債権各論」、「債権総論」

【参考文献】

『民法判例百選Ⅰ〔第7版〕』（有斐閣、別冊ジュリスト）
『民法の争点』（有斐閣、別冊ジュリスト）

【レポート作成上の注意点】

テキストを精読し、しっかり理解した上で、課題が何に関するどのような理解を問うているのかについて正確に把握し、必要に応じて参考文献を活用しながら作成に着手してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

債権総論

3単位

J055-9903

【講義要綱・テキストの読み方】

本テキストの各章の冒頭に四角囲みで各章の概要を提示しているので、それをもって講義要綱（シラバス）に代替する。また本テキストは、学習方法のアドバイス等についても記述しているので（特に第8章「学習ガイダンス」）、適宜参照されたい。

なお、平成29年6月2日に、「民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号）」が公布されているが（それによって改正された民法を「平成29年改正民法」という）、同法の施行は、公布の日から起算して3年を超えない範囲内において政令で定める日と定められており（附則第1条）、平成30年度の本講義においては施行されていない見込みであるので、本年度の講義は、現行法である「改正前民法」に準拠して行うこととする。ただし、「平成29年改正民法」を学習した者については、不利益とならないよう配慮する。

【履修上の注意】

本科目の履修を開始する前に、「民法総論」を履修していることが望ましい。本科目と前後して、「債権各論」を履修することを推奨する。

【関連科目】

民法総論、物権法、債権各論

【参考文献】

中田裕康『債権総論〔第3版〕』岩波書店、2013年

潮見佳男『プラクティス民法・債権総論〔第4版〕』

信山社、2012年

奥田昌道、池田真朗＝潮見佳男編『法学講義民法4債権総論』悠々社、2007年

奥田昌道・安永正昭・池田真朗編『判例講義民法Ⅱ債権〔補訂版〕』悠々社、2005年（追補判例集付き増補版2010年）

別冊ジュリスト224号民法判例百選Ⅱ債権〔第7版〕有斐閣、2015年

鎌田薫ほか編『民事法Ⅱ担保物権・債権総論〔第2版〕』日本評論社、2010年

池田真朗編『民法 Visual Materials〔第2版〕』有斐閣、2017年

（平成29年改正民法については以下参照）

潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』金融財政事情研究会、2017年

平野裕之『債権総論』日本評論社、2017年

【レポート作成上の注意点】

まずは、テキストを十分に理解してから、課題が何を要求しているかをじっくりと検討し、その後でレポート作成に着手するように心掛けたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

債権各論

3単位

J090-1001

【講義要綱・テキストの読み方】

債権各論は、民法上の財産権である物権と債権のうち、債権の発生原因を扱う分野である。債権は、契約、事務管理、不当利得及び不法行為の四つの発生原因に基づいて発生する権利であるが、とりわけ、これらの発生原因の中で、契約と不法行為が重要である。契約については、民法521条以下、696条まで170箇条以上の条文があり、その内容を丹念に理解することが必要であるのに対して、不法行為については、709条から724条まで僅か16箇条しかなく、条文の細かな解釈というよりも、判例法の分野であるから、判例の丹念な勉強が必要となる。テキストは、契約に関して比較的丁寧な解説が付されているが、不法行為については、基本的な解説が付されているにすぎないため、不法行為の勉強に当たっては、たとえば、近江幸治『民法講義Ⅵ事務管理・不当利得・不法行為〔第2版〕』（成文堂）といった他の不法行為等を扱う詳しい教科書を参照することも心がけて欲しい。いずれにせよ、教科書や参考文献を読む際には、それを暗記するのではなく、一つ一つの制度の趣旨やその意義、その要件と効果を良く理解して、具体的にどのような場面で当該制度がどのように機能するのかをイメージしながら、勉強を進めて欲しい。

なお、2020年4月より改正債権法が施行される予定であるが、今年度は改正前の民法を対象とする。ただし、改正債権法を学習した者については、不利益とならないよう配慮する。

【履修上の注意】

債権各論は、民法財産法の一分野であるから、民法総則の理解は当然の前提として、関連が深い債権総論の勉強と関連づけて勉強をして欲しい。とりわけ、債権総論の債権の目的、債権の効果、分けても債務不履行の分野、債権の消滅の中でも弁済や弁済の提供、相殺といった分野の理解は、債権各論を理解するうえで必ず必要になるため、そうした分野との関連を必ず意識して欲しい。

【関連科目・分野】

民法総則、債権総論

【参考文献】

参考書：内田貴『民法Ⅱ〔第2版〕』（東京大学出版会、2007年）、近江幸治『民法講義Ⅵ事務管理・不当利得・不法行為〔第2版〕』（成文堂、2007年）等の定評のある一般的な教科書
判例解説：『民法判例百選Ⅱ〔第7版〕』（有斐閣、別冊ジュリスト）、松本恒雄・潮見佳男編『判例プラクティス・民法Ⅱ債権』（信山社、2010年）等の判例の解説書。

なお、レポート作成に際して最新の判例を参照する必要が生じる場合があるが、その際には、裁判所のWeb ページや、『平成〇〇年度重要判例解説』（有斐閣、ジュリスト臨時増刊）などの判例解説なども適宜参照されたい。

改正債権法については以下の文献を挙げておく。

潮見佳男『基本講義債権各論Ⅰ〔第3版〕』（新世社、2017年）

【成績評価方法】

科目試験による。

親族法

1 単位

J104-1391

市販書採用科目

【テキスト】

高橋＝床谷＝棚村『民法7 親族・相続（第5版）』有斐閣、2017年

※旧版を購入済みの場合は、図書館などで第5版の内容を確認しておくことを強く勧める。

【講義要綱】

民法・親族編を対象としています。法が家族に関してどのような規律を行っているのか、法の基本的考え方を踏まえて理解しましょう。まず、夫婦とは何か、成立及び効果を学び、次に婚姻の解消＝離婚の手續及び効果について理解します。第2に、親子関係について、法的親子（実親子、養親子）関係の発生や、親権制度について理解します。最後に、それ以外の親族関係について生じる扶養や後見制度について学習します。

【テキストの読み方】

参考文献①を熟読することにより、テキストの概説の理解を補ってください。

最近の判例の動向は②を参照してください。

【履修上の注意】

「民法総論」を履修済みであること。

【関連科目】

「相続法」

【参考文献】

①犬伏＝石井＝常岡＝松尾『親族・相続法（第2版）』弘文堂、2016年

②水野紀子ほか『民法判例百選Ⅲ（第2版）』有斐閣、2018年

【レポート作成上の注意点】

基礎知識をふまえて論点を整理すること。教科書・参考書の丸写しはしないこと。参考文献①は最新の知識を踏まえた内容であり、必読である。

【成績評価方法】

科目試験による。

相続法

1 単位

J108-1691

市販書採用科目

【テキスト】

高橋＝床谷＝棚村『民法7 親族・相続（第5版）』有斐閣、2017年

※旧版を購入済みの場合は、図書館などで第5版の内容を確認しておくことを強く勧める。

【講義要綱】

民法・相続編を対象とします。ある人が死亡し、権利能力を失った結果、その者（被相続人）の財産について生じる権利義務の承継に関してどのようなルールが定められているかを理解します。法定相続のルール、遺言事項にかかわるルールを理解し、法定相続人の地位、相続人間の平等、遺言制度の意義について理解します。

【テキストの読み方】

全体像の把握に努め、理解できない部分は、参考文献で必ず確認し、理解を深めること。条文を理解すること。

【履修上の注意】

民法一財産法及び親族法の知識が不可欠です。これらの分野について理解していることが必要です。

【関連科目】

「親族法」

【参考文献】

①犬伏＝石井＝常岡＝松尾『親族・相続法（第2版）』弘文堂、2016年

②水野紀子ほか『民法判例百選Ⅲ（第2版）』有斐閣、2018年

【レポート作成上の注意点】

基礎知識をふまえて論点を整理すること。教科書・参考書のまる写しはしないこと。参考文献①は最新の情報に基づくものであり、必読である。

【成績評価方法】

科目試験による。

会社法(J)

4単位

J083-0792

市販書採用科目

【テキスト】

宮島司『新会社法エッセンス〔第4版補正版〕』弘文堂、2015年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版（2014年）を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

会社の経営者、従業員、会社と取引する相手方、株主などにとって、会社がどのような法制度によって規制され、どのように行動すべきかを正しく理解することは、大変重要である。

平成17年に制定された会社法は、平成26年に改正を受け、平成27年5月から施行された。これにより、平成26年改正前に用いられていた委員会設置会社の名称が指名委員会等設置会社に変更されたほか、コーポレート・ガバナンスの改善のため、監査等委員会設置会社の新設、社外役員の要件の見直し、公開会社における支配権移動を伴う募集株式発行等についての特別規制、親子会社の法規制の見直しのため、多重株主代表訴訟（特定責任追及訴訟）の導入、特別支配株主による株式等売渡制度の新設、企業再編行為の差止請求権の許容、許害的会社分割が行われた場合の債権者保護規制の整備など、多くの点で改正がされた。

【テキストの読み方】

会社法全体に対して理解できるようになるためには、時間と根気が必要である。細部にこだわるよりも、まず、テキスト全体を通読して全体像を把握する、あるいは、株式・機関の辺りを熟読してそれを理解したのちに、他の部分を読むなど、工夫して学習を進めてほしい。なお、科目試験範囲は第2編株式会社第5章資金調達までとする。

【関連科目】

商法総則・商行為法、手形法、保険法

【参考文献】

江頭憲治郎『株式会社法（第7版）』有斐閣、2017年
山本為三郎『会社法の考え方（第10版）』八千代出版、2017年

鈴木千佳子『入門講義会社法（第2版）』慶應義塾大学出版会、2017年

田中亘『会社法』東京大学出版会、2016年

宮島司『新会社法エッセンス〔第4版補正版〕』弘文堂、2015年

【レポート作成上の注意点】

テキストを丸写しすることなく、他にも参考書を読むなどして、問題点を多角的に分析し、再構成することを心がけてほしい。また、会社に関する法制度は頻繁に改正を受けているため、参考文献を用いる際は、どの時点で執筆された文献かをよく見極め、常に最新の規定との整合性を検討しなくてはならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

商法総則・商行為法

2単位

J080-0791

市販書採用科目

【テキスト】

落合誠一・大塚龍児・山下友信『商法I—総則・商行為〔第5版〕』有斐閣、2013年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版（2009年）、第3版補訂版（2007年）、第3版（2006年）を用いて学習しても構わない。

【講義要綱】

商法とは企業に関する法である。商法は、企業と企業取引に関する特別な規定を置いており、これらの規定を理解することは、私法の一般法である民法の理解をさらに深めることに役立ち、また、この他の企業法の分野に属する会社法や手形法・小切手法、保険法、海商法などを学ぶ橋渡しともなるであろう。商法総則と商行為法は平成17年に改正を受けている。条文番号や内容にも変容があったので、注意しなければならない。

なお、平成29年5月に「民法の一部を改正する法律案」が成立し、平成32年4月1日から施行されることとなった。これによって、商行為法の分野には大きな影響が生じる。まだ施行はされていないが、すでに民法改正についての解説書はたくさん出版されているので、改正点にも注意して、勉強してほしい。

【テキストの読み方】

わからない部分はそのままにしないで、ゆっくり内容を確認しながら読むとよいであろう。特に、商人と商行為の概念ならびにこれらの相互の関係は重要なので、かならず理解するようにしてほしい。なお、テキストの第3編の9章保険取引は、当該科目のレポート、科目試験の出題範囲から除くものとする。

【履修上の注意】

民法総則は履修済であること。他の民法の科目（債権総論、債権各論など）についても履修していることが望ましい。

【関連科目】

民法関連科目全般、会社法、手形法、保険法・海商法。

【参考文献】

近藤光男『商法総則・商行為法（第6版）』有斐閣、

2013年
 弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法（第2版補正版）』（有斐閣、2014年）
 北居功＝高田晴仁編著『民法とつながる商法総則・商行為法』（商事法務、2013年）
 民法改正による商法改正への影響については、浅木慎一『商法学通論〔補巻Ⅰ〕』（信山社、平成28年）などを参照のこと。

【レポート作成上の注意点】

テキストを丸写しせずに、問題点を検討し、自らの力で問題点を書き表すように努力して欲しい。参考文献を探す際には、出版年を確認して、平成17年改正商法を前提に改訂された書物や雑誌記事で勉強する方が間違いを避ける意味でもよく、改正前の文献を用いる場合には改正点をよく把握した上で利用しなければならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

保険法・海商法	
	3 単位
J086-0892	市販書採用科目

【テキスト】

山野嘉朗編著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』（中央経済社、2013年）

【講義要綱】

〔保険法〕

人は常にいろいろな危険（偶然な事故により経済的損失を被る可能性）に対峙しているため、多くの人は保険に加入しています。保険とは、同種の危険にさらされている者が集団（保険団体）を形成した上で、各人がその危険率に応じた資金（保険料）を拠出することにより共同的備蓄（保険基金）を形成し、特定の者に一定の事故（保険事故）が発生した場合に、その者が保険基金から所定の金額（保険金）の支払いを受ける制度です。保険法はこのような保険の法的構造を理解することを目的とした科目です——保険商品の紹介や比較を行うわけではありません。近時の商事判例の中では保険契約に関する裁判例が最も多く、また、企業再編の流れの中で保険相互会社の株式会社への組織変更が急速に進んでいます。さらに、規制緩和は、金融業の中の保険業、金融商品としての保険という位置づけを求めるでしょう。ますます重要性が増大する保険法ですが、前提知識を欠くと理解が困難です。民法（財産法：民法総則、債権総論、債権各論）および会社法の基礎を理解した上での履修を薦めます。なお、「保険法」は平成20年に制定された比較的新しい法律です（保険法施行前は、実質的意義における保険法は商法典中の商行為編の保険の章で規定されていました）。注意してください。

〔海商法〕

海商法——海上企業法は、①海上企業の組織、②海上企業の活動、および③海上損害に関する規定から構成されます。①は人的組織として企業主体（船舶の所

有者、賃借人、共有者）と企業補助者（船員）、物的組織として船舶、そして船舶金融（船舶債権者）、②は海上の、つまり船舶による物品運送と旅客運送、③は航海に伴う危険は特殊性が強いので、その損害に関して、積極的対策（共同海損、海難救助）と消極的対策（船舶衝突、海上保険）、これらをそれぞれ対象としています。海商法は古い時代から発達してきており、いわば商法の起源ともいえる領域ですが、特殊性を有するので、民法（財産法：民法総則、物権法、債権法）、商法（商法総則、商行為法）、および有価証券法（海商法には船荷証券をめぐる諸問題があります）の基礎を理解した上での履修を薦めます。なお、現在、「商法及び国際海上物品運送法の一部を改正する法律案」が国会に提出されており、数年内に改正が予定されています。

【関連科目】

上記講義要綱参照。

【参考文献】

〔保険法〕

甘利公人＝福田弥夫『ポイントレクチャー保険法〔第2版〕』（有斐閣、2017年）

岡田豊基『現代保険法〔第2版〕』（中央経済社、2017年）

山下友信＝竹濱修＝洲崎博史＝山本哲生『有斐閣アルマ保険法・第3版補訂版』（有斐閣、2015年）

山下友信＝永沢徹編『論点体系保険法1・2』（第一法規、2014年）

山下友信＝洲崎博史編『保険法判例百選』（有斐閣、2010年）

甘利公人＝山本哲生編『保険法の論点と展望』（商事法務、2009年）

〔海商法〕

中村眞澄＝箱井崇史『海商法・第2版』（成文堂、2013年）

重田晴生＝中元啓司＝志津田一彦＝伊藤敦司『海商法』（青林書院、1994年）

落合誠一＝江頭憲治郎編集代表『海法大系』（商事法務、2003年）

【レポート作成上の注意点】

複数の文献を読み、参考にした文献を明示してください。

丸写しレポートに対しては、課題を理解していないと判断します。引用部分には、例えば、（甘利公人＝福田弥夫『ポイントレクチャー保険法〔第2版〕』★頁）のように引用元文献を括弧書きしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

手形法

2単位

J063-9892

市販書採用科目

【テキスト】

宮島司『やさしい手形法・小切手法〔第2版〕』法学書院、2003年

【講義要綱】

権利の行使や移転を合理化する有価証券は企業社会において広範に利用されています。特に、典型的な有価証券である手形および小切手は企業（特に製造業）の経済生活において重要な地位を占めています。現在では、支払決済手段の多様化に伴い、手形・小切手の利用は減少していますが、その仕組みや理論は他の支払決済制度に大きな影響を与えています。手形法・小切手法の知識は応用範囲が広いわけです。ただし、高度な技術的性質が強いため、その勉強によって論理的な面白さを感じるとは思いますが、前提知識を要します。そこで、民法（財産法：民法総則、債権総論、債権各論）、商法（商法総則、商行為法）、および会社法の基礎を理解した上での履修を薦めます。

【関連科目】

上記講義要綱参照。

【参考文献】

小塚荘一郎＝森田果『支払決済法〔第2版〕』（商事法務、2014年）
神田秀樹＝神作裕之編『手形小切手判例百選〔第7版〕』（有斐閣、2014年）
三枝一雄＝坂口光男＝南保勝美編『論点整理 手形・小切手法』（法律文化社、2003年）

【レポート作成上の注意点】

複数の文献を読み、参考にした文献を明示してください。

丸写しレポートに対しては、課題を理解していないと判断します。引用部分には、例えば、（神田秀樹＝神作裕之編『手形小切手判例百選〔第7版〕』★頁（宮島司））のように引用元文献を括弧書きしてください（上記の例では、★頁を執筆しているのが宮島司先生）。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑事政策学

2単位

J085-0891

市販書採用科目

【テキスト】

守山正・安部哲夫編著『ビギナーズ刑事政策〔第3版〕』成文堂、2017年

【講義要綱】

本科目は、刑事政策における基本的な諸論点について、学習するものです。刑事政策の概念や歴史といっ

た理念を学ぶ部分から始まり、刑罰論（総論的部分及び死刑・自由刑・財産刑といった各刑罰について）、犯罪者処遇論（総論的部分と施設内処遇、社会内処遇について）へと進めてもらいます。また、被害者学に関する諸問題についても学びます。最後に、各論的問題として、薬物犯罪・性犯罪・家庭内犯罪・少年犯罪などの個別犯罪についてその対策を学ぶということになります。

本科目は、単に刑事政策に関する制度を覚えるということを目的とはしていません。現代社会に生起するさまざまな犯罪に対する法的対応の検討を通じて、政策論的手法と思考能力を養っていただきたいと思います。

指定教科書の構成は次の通りです。

- 第1講 刑事政策の概念
- 第2講 刑事政策の歴史
- 第3講 刑事政策の動向
- 第4講 犯罪予防
- 第5講 刑事制裁（刑罰と処分）
- 第6講 刑事司法・少年司法機関の役割
- 第7講 犯罪被害者の支援と法的地位
- 第8講 死刑
- 第9講 自由刑
- 第10講 財産刑
- 第11講 保安処分をめぐる問題
- 第12講 犯罪者の処遇
- 第13講 施設内処遇
- 第14講 社会内処遇
- 第15講 わが国の犯罪情勢
- 第16講 個別犯罪と対策

【履修上の注意】

刑事政策は、刑法、刑事訴訟法など刑事法の知識が前提となる学問領域です。したがってこれら関連分野への基本的知識を有していることが望ましいです。

【関連科目】

刑事政策を学ぶにあたっては、刑法、刑事訴訟法の知識が必要となります。したがって、法学部専門科目では、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法などを併せて履修することが望ましいです。

【参考文献】

岩井宣子編『ファミリー・バイオレンス〔第2版〕』（尚学社、2010年）
富永忠祐編『Q&A ドメスティック・バイオレンス児童・高齢者虐待対応の実務』（中央法規出版、2009年）
「特集 ファミリー・バイオレンス」刑法雑誌50巻3号391ページ以下（2011年）

のほか、

内閣府男女共同参画局 HP「配偶者からの暴力被害者支援情報」(http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/index.html)ではドメスティック・バイオレンスに関する最新の情報や調査研究を入手することができます。

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献の内容をまとめるだけではなく、そこにどのような問題があり、それに対してあなたがどのように考えるのかを参考文献を根拠として引用し、論じることが重要です。また、あなたと異なる見解がある場合には、その見解を無視して論じてはいけません。あなたがなぜその見解をとらないのかということも含めて論じる必要があります。

その他レポート作成上の一般的な注意事項は、塾生ガイドにしっかりと従ってください。不正行為や論文の盗用があった場合には、成績評価がつかないだけでなく処分の対象となりますので、くれぐれも注意してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑法各論

4単位

J072-0291

市販書採用科目

【テキスト】

井田良＝佐藤拓磨『新・論点講義シリーズ2 刑法各論〔第3版〕』弘文堂、2017年

※第2版を購入済みであっても、図書館などで第3版の内容を確認しておくことを強く勧める。

【講義要綱】

刑法各論では、刑法典「第2章 罪」に列挙されている個々の犯罪の成立要件をめぐる議論について学びます。判例を参照しつつ、自らの力で事例問題を解決する力を身に着けることを目的とします。

- 第1章 イントロダクション
- 第2章 刑法における生命の保護
- 第3章 身体に対する罪
- 第4章 生命・身体に対する危険犯
- 第5章 自由に対する罪
- 第6章 個人の私的領域を侵す罪
- 第7章 社会的存在としての人の保護
- 第8章 財産の刑法的保護
- 第9章 窃盗罪と器物損壊罪
- 第10章 強盗罪
- 第11章 詐欺罪と恐喝罪
- 第12章 横領罪と背任罪
- 第13章 盗品等に関する罪
- 第14章 公共危険罪
- 第15章 文書偽造罪
- 第16章 その他の偽造罪
- 第17章 風俗に対する罪（風俗犯）
- 第18章 公務執行妨害
- 第19章 司法手続の保護
- 第20章 職権濫用の罪
- 第21章 賄賂の罪

【テキストの読み方】

各論上の論点を理解する上で、刑法総論や民法の知識が不可欠になることがあります。そのような場合、

億劫がらずにそれらの科目のテキストを見返して知識を確認してください。テキストが難しいと感じたら、参考文献欄に掲げた入門書を読んでください。

【履修上の注意】

各論では、総論とは対照的に、条文の文言をめぐる精緻な解釈論が展開されます。したがって、学習の際には常に六法を手元に置き、条文のどの文言に関する議論を学んでいるのかを常に確認してください。また、総論と比較して議論が具体的であるため、判例学習の重要性が増します。判例教材を活用しながら学習を進めてください。

【関連科目】

刑法総論、刑事訴訟法、刑事政策学

【参考文献】

井田良『入門刑法学・各論』（有斐閣、2013年）

成瀬幸典・安田拓人・島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ 総論』（信山社、2012年）

【レポート作成上の注意点】

事例問題を解くにあたっては、まず課題のストーリーを読み、六法をめくりながら、刑法典の条文に該当しそうな事実を抽出しなくてはなりません。これにより、何罪の成否が問題となるかを明らかにします。

次に、その罪の成否との関係でどのような法的論点が生じるのかを示します。課題には、複数の論点が隠れています。

続いて、論点ごとに判例・学説を調査してその内容を要約し、それらのうちのどの考え方を支持するかを提示します。その際、当然、論拠を示すことが必要になります。

最後に、自分の見解を課題の事例にあてはめ、何罪が成立するのかを明らかにします（まったく犯罪が成立しないケースもあるかもしれません）。

以上のことを簡単にまとめると以下ようになります。

第1のステップ：事実の抽出

第2のステップ：問題提起

第3のステップ：既存の判例・学説の要約

第4のステップ：私見の提示・あてはめ

（以上の作業を論点ごとに行い、最終結論を出す）

なお、刑法のレポート作成の際の文章作法については、井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）187頁以下が参考になります。

【成績評価方法】

科目試験による。

民事訴訟法

4 単位

J065-9892

市販書採用科目

【テキスト】

池田辰夫編『新現代民事訴訟法入門』 法律文化社、2005年

【講義要綱】

民事訴訟は、広い意味では、民事紛争（私人間の生活に関する紛争）を解決するための手続を指します。けれども、普通、民事訴訟とは、「判決」という慎重な形式の裁判によって、権利の存否を確定することにより、民事紛争を解決する手続のことで、「判決手続」ともいいます。この科目は、判決手続を対象とするものです。そのなかでも、とくに第一審の手続（訴えから第一審判決に至るまでの手続）を中心に扱います。

【テキストの読み方】

現在のテキストは、やや古く、刊行後の法改正を織り込んでいないため、近い将来に変更することを予定しています。なお、現在のテキストについては、実質的な改訂版として、池田辰夫編『アクチュアル民事訴訟法』（法律文化社、2012年）があります。

現在のテキストを読む場合には、条文や参考文献にあたる等して、近年の法改正に十分に注意を払うことが必要です。

【履修上の注意】

民法総論・物権法・債権総論・債権各論・会社法などの民法・商法の基本科目について学習していることが望まれます。

【関連科目】

破産法（破産法を履修する場合は、民事訴訟法について学習を終えていることが必要でしょう）

【参考文献】

(1) 体系書

伊藤眞『民事訴訟法（第5版）』（有斐閣、2016年）
三木浩一ほか『民事訴訟法（第2版）』（リーガルクエスト）（有斐閣、2015年）

新堂幸司『新民事訴訟法（第5版）』（弘文堂、2011年）

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（第2版補訂版）（上）（下）』（有斐閣、（上）（下）2014年）

松本博之＝上野泰男『民事訴訟法（第8版）』（弘文堂、2015年）

(2) 判例

伊藤眞＝高橋宏志＝高田裕成編『民事訴訟法判例百選（第5版）』（有斐閣、2015年）

(3) コメントール（注釈書）

兼子一原著 松浦馨ほか著『条解民事訴訟法（第2版）』（有斐閣、2011年）

菊井維大＝村松俊夫原著・秋山幹男ほか著『コメントール民事訴訟法Ⅰ～Ⅶ』（巻により版が異なる）（日本評論社、2002年～2016年）

笠井正俊＝越山和広編『新・コメントール民事訴訟

法（第2版）』（日本評論社、2013年）

【レポート作成上の注意点】

民事訴訟法の第一審手続の全般を理解した上で、レポートに取り組むようにしましょう。課題は、基本的な問題です。しかし、問題点を正確に把握して、論じるようにしてください。参考文献も必ず表記するようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

破産法

2 単位

J077-0591

市販書採用科目

【テキスト】

加藤哲夫『破産法』（弘文堂、第6版、2012年）

※第5版（2009年）で学習を進めても構いません。

【講義要綱】

倒産法は、倒産状態にある債務者につき、総債権者の公平を確保しつつ、債務者の財産の清算または債務者の再建・再生を図る手続を規律する。「倒産法」という法典はわが国には存在せず、倒産手続を規定する代表的な法律としては破産法、民事再生法、会社更生法および会社法第2編第9章第2節（特別清算）がある。中でも破産法は、債務者の事業を終了させた上で、総財産を換価し債権者に平等に分配する「清算型」の手続であり、対象とする債務者の資格に制限はない。破産法以外の3法は、多少の差はあれ破産法を基礎としているため、倒産法全体を理解するには、まずは破産法からということになる。指定教科書の構成（抜粋）は次の通りである。

序章 社会現象としての「倒産」と法制度の対応

第1章 破産者

第2章 破産裁判所

第3章 破産手続上の機関

第4章 破産手続開始の原因と破産手続開始の申立て

第5章 破産手続開始の決定

第6章 破産財団と自由財産

第7章 破産と利害関係人（1）破産債権者

第8章 破産と利害関係人（2）担保権者

第9章 破産と利害関係人（3）取戻権者

第10章 破産と利害関係人（4）相殺権を行使する者

第11章 破産と利害関係人（5）契約の当事者

第12章 破産と利害関係人（6）訴訟などの当事者

第13章 破産と利害関係人（7）財団債権者

第14章 破産と利害関係人（8）全部義務を負う者と債権者

第15章 破産財団の維持と増殖—否認権

第16章 破産財団の換価と配当

第17章 破産手続の終了

第18章 破産者の更生を助ける制度—免責・復権

【テキストの読み方】

破産手続は、裁判所、破産管財人、破産債権者など

様々な主体の行為が積み重なって進行する。そこで、学習の初期の段階では細部に拘泥せず、手続の基本構造や、手続開始から終結までの大まかな流れを把握することが推奨される（下記の参考文献で「入門書」として紹介されている文献を通読してもよい。）。その上で、個別の制度や議論が手続のどの段階で問題になるのかを意識しながら、必要に応じて参考文献も併用しさらに深く読み込むのが効率的である。

また、「履修上の注意」でも述べているとおり、倒産法は、民法、民事訴訟法、民事執行法のいわば応用編であり、必要に応じこれらの復習も厭うべきではない。

【履修上の注意】

民法（財産法）および民事訴訟法を履修済みであることが望ましい。民事執行法は科目として設けられていないが、その基本的知識を有する方が破産法の理解が容易になる。

【関連科目】

民法、民事訴訟法、会社法、商法総則・商行為法、手形法

【参考文献】

- (1) 入門書
山本和彦『倒産処理法入門』（有斐閣、第4版、2012年）
中島弘雅＝佐藤鉄男『現代倒産手続法』（有斐閣、2013年）
徳田和幸『プレップ破産法』（弘文堂、第6版、2015年）
- (2) 体系書
山本克己ほか『破産法・民事再生法概論』（商事法務、第2版、2012年）
伊藤眞『破産法・民事再生法』（有斐閣、第3版、2014年）
山本和彦ほか『倒産法概説』（弘文堂、第2版補訂版、2015年）
三上威彦『倒産法』（信山社、2017年）
- (3) 判例集
伊藤眞＝松下淳一『倒産判例百選』（有斐閣、第5版、2013年）
瀬戸英雄＝山本和彦編『倒産判例インデックス』（商事法務、第3版、2014年）
- (4) コンメンタール
山本克己＝小久保孝雄『新基本法コンメンタール破産法』（日本評論社、2014年）
伊藤眞ほか『条解破産法』（弘文堂、第2版、2014年）

【レポート作成上の注意点】

事例問題では、①事案の分析・論点の抽出、②判例・裁判例や学説の議論の紹介、③自説の論証、④事案へのあてはめの順序で論じるのが定石である。一般的傾向として①や④がおろそかになり易く、時に事例に直接関係しない基本原則や制度を長々と論じる例が見受けられるので注意されたい。また、「判例」や「通説」はあくまで一つの考え方であり、直ちに「正

解」となるものではない。それらを自説とすることは構わないが、対立する見解からの批判を克服する論証を③において行う必要がある。

なお、参考文献に、司法試験予備校のテキストや、一般向けの安価なマニュアル本の類を用いるのは適切ではない。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑事訴訟法

4 単位

J107-1502

【テキスト】

この科目は2017年4月に改訂されました。今年度から学習を開始する場合には、改訂後の新しいテキストによって履修することを勧めます。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド2018』を参照してください。

【講義要綱】

刑事訴訟法では、捜査から判決までの一連の手続きの流れを学ぶとともに、事実認定の資料となる証拠法に関しても学びます。刑事訴訟法では、ある「犯罪」という出来事について、捜査、公訴、公判・証拠、裁判と様々な場面で論点が密接な関連をもっていますので、ある局面だけで考えるのではなく、例えば、捜査段階での違法が認められる場合、公訴提起できるのか、公判ではどのような争点が生じるのか、証拠法では何が争点となるのか、結果的に有罪判決を言い渡せるのか、を検討する必要があります。

なお、テキストの目次を参照して、どのような論点があるのかをつかんでください。

【テキストの読み方】

テキストでは多くの判例をとりあげています。刑事訴訟法の理論が実際に判例でどのようにあてはめられているのかを学んでください。なお、テキストを読むときには必ず該当条文を参照してください。

【履修上の注意】

刑事訴訟法を履修するにあたって、「法学」の基礎知識と「刑法」についても勉強しておいてください。

【関連科目】

憲法・刑法

【参考文献】

- 安富潔『刑事訴訟法〔第2版〕』三省堂、2013年
亀井源太郎『ロースクール演習刑事訴訟法〔第2版〕』法学書院、2014年
亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』信山社、2016年
井上正仁ほか編『刑事訴訟法判例百選〔第10版〕』有斐閣、2017年

【レポート作成上の注意点】

1. 法学では、正確な概念の理解が不可欠です。しっかりテキストを読んでからレポートを書いてください。
2. 課題では何が論点なのかよく考えてください。
3. きちんと条文を参照しながら文章を作成してください。なお、法律改正に留意して最新の『六法』を用意してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国際私法

2単位

J097-1191

市販書採用科目

【テキスト】

櫻田嘉章『国際私法〔第6版〕』有斐閣（有斐閣Sシリーズ）、2012年
※第5版（2006年）を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

国際私法とは、涉外的な私法関係（外国的な要素を何らかの形で含んでいる民商法に関連する事実関係）に、適用すべき法を指定する規則のことです。

例えば、「婚姻の身分的な効力」、「不法行為債権の成立」、「物権変動」など予め典型的に分類された法律関係（単位法律関係）ごとに、もっとも密接に関連する事項（連結点）を定めておき、この事項が存在する国の法が指定されます。

具体的には、A国航空会社の飛行機が、B国内で墜落し乗客が死亡した場合には、「不法行為の成立」が単位法律関係とされますが、この連結点は「結果発生地」と定められていますから、B国の民法が指定されることになります。このB国の民法を、準拠法（準拠実質法）といいます。

学習は、予め分類されている単位法律関係ごとに、その連結点と準拠法を確認してゆくという作業によって行います。加えて、その分類の妥当性、連結点の設定の仕方の妥当性（制定法の正当性）をも、検討する必要があります。

【テキストの読み方】

財産関係については、参考文献も参照すること。

【履修上の注意】

国際私法は、民法、商法、民事訴訟法の基礎知識があることが前提とされています。不安のある方は、少なくとも「民法総論」の教科書を復習しておく必要があると思います。

【関連科目】

民法、商法、民事訴訟法など

【参考文献】

澤木敬郎・道垣内正人著『国際私法入門〔第7版〕』
有斐閣（有斐閣双書）2012年
横山潤著『国際私法』三省堂、2012年

【レポート作成上の注意点】

国際私法の基本的な法源である「法例」は、2006年12月31日をもって廃止され、翌2007年1月1日からは、名称が変更されて、「法の適用に関する通則法」として施行されました。財産関係を中心に大きな改正がなされたため、旧い教科書では、内容上対応できません。したがって、前掲の参考文献を必ず使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

労働法(J)

2単位

J092-1091

市販書採用科目

【テキスト】

神尾真知子・増田幸弘・内藤恵『フロンティア労働法〔第2版〕』法律文化社、2014年

【講義要綱】

労働法とは、賃金を得て生活する者（労働者）と使用者との関係を規律する様々な法律の総称です。大別すると、以下の4つの領域として理解されます。

①、雇用関係に入る際の求人と求職に関わる法制度と政策を学ぶ、労働市場法。その中心的なテーマは、求職・求人に関する行政的支援・職業能力開発・雇安定等で、昨今問題とされることの多い労働者派遣などもこの中で学びます。②、労働契約締結からその終了に至るまでの法律問題を考察するのが、個別的労働関係法です。ここでは、労働者と使用者の二者間の契約に基づく様々な労働条件、およびその変更が中心的テーマとなります。③、労働者・使用者に加えて労働組合という第3の主体が加わり、憲法28条の労働基本権を三者の間で具体化する領域が、集团的労使関係法です。労働組合・団体交渉・労働協約・争議行為、等を議論します。④、最後に現代社会では、労使間の紛争をいかに処理するかも重要な課題です。このような労働紛争の解決にかかる様々な法制度にも目を配る必要があります。

テキストは、現代的視点も含め、以上の領域全てを学べるようになっています。

【テキストの読み方】

伝統的な労働法の論点は、上記の②と③の領域にあります。②は、民法の雇用契約を発展させた領域ですが、現在では労働契約法も施行され、労働法独自の体系が整ってきています。③の領域は、憲法第28条の趣旨を如何に具現化するかを重視しております。但し興味深い論点のいくつかは、個別法と集団法の2つの法理が交錯する部分に生じます。

また労働法学は、現実社会の紛争から切り離すことの出来ない領域です。労働法学の学習には、総合的かつ体系的な理論を学習することに加えて、具体的な裁判例を学ぶことが必須です。学習に際しては労働法判例百選なども利用し、当該テーマにかかる学説が、具体的にはどのような事案として生じているかを学んで下さい。

最後に労働法学は、研究者のスタンスが分かれやすい領域でもあります。1冊のテキストに偏ることなく、複数の参考書を読み、相互に比較検討することをお願いします。かつまた現代社会では雇用の流動化が進み、労働市場にも目を配る必要があります。

【履修上の注意】

法律学を学ぶ際には、まず一般法の知識を得た上で、特別法による修正法理を学ぶ方が効果的です。労働法を学習するには、まず憲法、民法総則、債権各論を学習した後に履修することをお願いします。労働法学は法解釈学であり、労働関係を対象としております。社会政策学や労働経済学の隣接領域ですが、それらを主として学ぶわけではありません。あくまでも法律学の1科目です。

【関連科目・分野】

上述したように法律学としての労働法は、憲法、民法総則、債権各論を基礎としています。

さらに社会保障法とは、相互補完的な関係にあります。他学部の科目としては、社会政策学や労働経済学とも関連します。

【参考文献】

注意：労働法は改正が頻繁に行われる領域です。参考文献は、常に最新版を使用して下さい。（下記には、当該シラバス原稿作成時における情報を入れておきます。）

まず最初にテキストを用いて、当該テーマの全体像をつかみます。次にテーマに関連する専門書、あるいは法律専門誌や大学紀要に掲載されている専門的論文、さらには裁判例の原本に当たって考察を深めて下さい。

- 1) 指定テキストの他に、入手しやすい初学者向けの参考書として、
 - ・中窪・野田『労働法の世界』（第12版）有斐閣、2017年
 - ・安枝・西村『労働法』（第12版）有斐閣プリマ・シリーズ、2014年
- 2) 裁判例の概略を学ぶために
 - ・別冊ジュリスト・労働判例百選（第9版）有斐閣、2016年
 - ・唐津博・和田肇・矢野昌浩編『新版・労働法重要判例を読む1 総論・労働組合法関係』、『同・2 労働基準法・労働契約法関係』日本評論社、2013年
- 3) さらに専門的に学ぶための概説書
 - ・菅野和夫『労働法』（第11版補正版）弘文堂、2017年
 - ・荒木尚志『労働法』（第3版）有斐閣、2016年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する前に、まずテキストを通読して下さい。次にレポートの構成を考える際には、当該テーマに関する専門書・専門論文・判例等を収集し、読み比べ、論点を整理した上で取り組んで下さい。レポートの末尾に必ず参考文献一覧を明記すること。

時に、単なるテキストの要約を提出する学生がいます。これは評価できないのでご注意ください。なお他の

文献から直接引用する場合には、必ずその出典を明示して下さい。その際は、文献や判例の引用方法を確認すること。インターネットの情報を引用する場合には、作成者が明らかにされているもののみを補助的に用い、URLに加えて当該HPの作成者とそのHPの名称を明示して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・経済法(J)

2単位

J114-1791

市販書採用科目

【テキスト】

土田和博、栗田誠、東條吉純、武田邦宣『条文から学ぶ独占禁止法』有斐閣、2014年

【講義要綱】

本講義は、経済法の中核をなし、その基本的秩序を形成する「独占禁止法」の法構造とその最新の論点を学習することを目的としている。独占禁止法は競争法とも呼ばれており、市場経済の中核をなす法律である。また独占禁止法は、企業法務においても、非常に重要な法分野となっている。カルテル・談合規制のみならず、再販売価格維持行為、優越的地位の濫用規制など日々のビジネスに密接に関係する法規制が多く、きわめて実務に直結した法分野である。他方、経済法（競争法）は、グローバルな色彩が強く、比較法的な視点からの分析が盛んであり、経済法を学ぶことによって、実務の現状を理解することもできる。この経済法に関して、その中核をなす競争法の法原理・法構造の理論的な解説とともに、判例・審決を中心とするケーススタディを通じて、応用可能な知識の習得を目指す。なお適宜、比較法的な観点から米国、欧州そして中国の競争法規制にも言及することがある。

【テキストの読み方】

テキストを読む際には、理論的な説明とともに、事例について出来るだけ原文を参照するなどして、事例から考えることを意識してほしい。事例については、公正取引委員会のホームページで閲覧できる。また図書館で審決集や判例集を調べるという作業も併せて行ってほしい。

【履修上の注意】

履修に際し、他の特定の科目を事前に履修している必要はない。なお経済法は、ミクロ経済学、産業組織論との関連性が深いので、講義において適宜、言及する場合がある。

【関連科目・分野】

経済法・独占禁止法は、取引を扱うため、民法、商法、会社法とも関わりがある。経済活動に対する公的な規制という観点からすれば、憲法や行政法との関係も深い。他方、各種事業法との関係も深い。また経済法の理論的前提のなかには、ミクロ経済学、産業組織論、最近ではゲーム理論の影響も見られる。このよう

な法学分野以外の隣接領域も関連分野となる。

【参考文献】

白石忠志、多田敏明『論点体系独占禁止法』（第一法規出版、2014年）
村上政博、内田晴康、石田英遠、川合弘造、渡辺恵理子、伊藤憲二『条解独占禁止法』（弘文堂、2014年）

【レポート作成上の注意点】

レポート作成に際しては、次の3点に注意して調査・執筆することを求める。第一に、課題の内容を十分に理解し、課題に対し適切な解答となるレポートを作成する必要がある。この点、レポートのなかには、課題と無関係な記載になっていて不合格となる場合がある。第二に、課題は、教科書を読むだけでは執筆できない。調査が必要であり、参考文献や論文そして判例や審決について十分な調査を行っていないとレポートとして評価対象とならない。第三に、引用のルール厳守である。教科書や概説書をそのまま引用している場合や、判例の引用なのか、個人の意見なのか、混同している例が多く、疑わしい場合は、評価対象とならないだけでなく、不正なレポートと判断される可能性がある。

【成績評価方法】

科目試験による。

英米法

2単位

J039-7902、J7932

【講義要綱】

この科目の学習目的は、大陸法とは対極にある法体系としての英米法、即ち、コモンロー体系について理解することにある。

何故、大陸法系の法制度を持つ日本の法律を学ぶものが英米法を学ぶか。それは法の本質、法と民主主義、正義のあり方、裁判所の役割等につき、より深く正しく理解し、我が国の法及びそれをとりまく制度につき、批判的に理解するためである。

それゆえ、この科目においてはコモンローの特徴である判例法主義、陪審制、また、連邦制及び、それを形成する基盤たるアメリカ合衆国憲法、マグナカルタ等が、歴史的にどのように出現し、現在、それがどのような制度として確立されているかを知り、理解すべく、学習研究を行わなければならない。

【履修上の注意】

「法学（憲法を含む）」、「刑法各論」、「憲法」、「債権総論」、「債権各論」、「民法総論」、「商法」、訴訟法1つ（「民事訴訟法」か「刑事訴訟法」か）、「国際私法」、以上の科目を履修済みであることが望ましい。

【参考文献】

『英米法判例百選』（ジュリスト）有斐閣
『アメリカ法判例百選』（ジュリスト）有斐閣
伊藤正己・木下毅『アメリカ法入門〔第3版〕』日本

評論社、2000年

田中英夫『英米法概説〔再訂版〕』有斐閣、1981年
『英米法』（現代法学全集48）筑摩書房、1985年
樋口範雄『はじめてのアメリカ法 補訂版』有斐閣、2013年
その他。

【レポート作成上の注意点】

- ・テキストをしっかりと通読すること：異なる法体系について学ぶのだから、その法体系の特徴、性質をしっかりと理解してからレポートに取り組む必要があります。
- ・何が問われているかをよく考えること：論点は何かをしっかりと把握し、それに沿ったレポートの構成を考えて自分の言葉で議論をすすめる必要があります。参考書をつぎはぎにしたような表現はしないこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治学(J)

6単位

J022-7201、J7251

【講義要綱】

以下を修得することを目標とする。

1. 政治過程に関する知識
私達の将来を決める政治的決定は、決定を決める決定（制度、ルール）、様々な状況などから生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼んでもよい。選挙などを通して私たちはこの決定に関わっている。
2. 政治におけるものの見方
民主主義とは何か？ どこまで平等を達成すべきなのか？ こうした問いに自然科学的意味での「正解」はない。知識を蓄積するだけではなく、それをどう見るかという様々な「ものの見方」について学ぶ必要がある。
3. 理論と現実
理論として合理的であっても、現実がそれに一致しない場合もある。理論から現実を曲げるのではなく、その相違が意味することを考える必要がある。

【テキストの読み方】

意味のわからない語をそのままにせず、辞書やインターネットで調べる習慣をつけられたい。

テキストに書いてあることをその通りに受容するだけが勉強ではない。時にはその意味を疑い、自分で調べ考える必要もある。

【履修上の注意】

すべての学問はそうであるがとりわけ政治学は、幅広い知識とそれを統合する現実的感覚が必要である。日本政治、国際政治はもちろんであるが、社会、歴史、経済、文化等にも目配りが必要である。その上で移り変わる現象だけでなく、不変なもの、普遍なものは何かを見抜く眼を養われたい。

【関連科目・分野】

「憲法」、「法学」、「経済学」、「社会学」、「歴史学」、「心理学」

【参考文献】

堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社、2014年

【レポート作成上の注意点】

- ・論文・レポートの書き方には一定のルールがあり、それを踏まえた方が、よりよい文章となる。論としての構成の作り方など基本的事項をまず身に付けられたい。
- ・参考文献は一冊では十分ではないので必ず複数あたること。また事典、辞典の類も概念把握には役立つ。注意して使用すればホームページなども参考になる。
- ・テキストを丸写しすることは、必ずしもよいとは限らない。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治哲学

2単位

J093-1091

市販書採用科目

【テキスト】

デイヴィッド・ミラー『政治哲学〈一冊でわかるシリーズ〉』岩波書店、2005年

【講義要綱】

「権力」、「権威」、「正統性」、「イデオロギー」、これらは政治学の基礎概念中の基礎概念であるが、学習者がこれらの概念の相互連関について明確に理解できていないことが多い。もっとも「概念」というのは分析のための道具であって、しっかりと定義され、ぶれることなく用いられていれば「定義」に誤った定義と正しい定義があるわけではない。（ちなみに「定義」とは自分の用いる「概念」を明確に規定し説明する行為を指す。）要はその定義を用いることでこれまで見えなかった現実がよりよく説明できるかどうかである。

そうは言っても、上記の一連の概念のあいだにはおよそすべての政治学者にある種の共通理解であるのも事実であるので、あえてそれから外れる「定義」を自分が採用する場合には、それだけいっそう、その定義を採用する利点が明確化されなければならない。

【テキストの読み方】

意味のよくわからない専門用語などはそのつど辞書や事典、ウェブなどで調べてください。分からないまま、勝手な理解で読み進めていては勉強になりません。またテキストに書いてあることをそのまま受け入れ、覚えようとするのではなく、おかしいと思うところは自分でさらに調べ、自分の頭で理解し、自分の言葉で表現する癖をつけてください。

【履修上の注意】

政治学、近代政治思想史、法学、法哲学の基礎知識

が必要です。

【関連科目・分野】

政治学、近代政治思想史、法学、法哲学、哲学

【参考文献】

- なだいなだ『権威と権力』、岩波新書
S. ルークス『権力と権威』、思索社
S. ルークス『現代権力論批判』、未来社
杉田敦『権力』、岩波書店
L. クリーガー他、『権威と反抗』、平凡社、叢書ヒストリー・オヴ・アイディアズ
M. ウェーバー『支配の諸類型』、創文社
K. マンハイム『イデオロギーとユートピア』、中公バックス世界の名著68、『マンハイム・オルテガ』所収
H. アレント、『暴力について』、未来社

【レポート作成上の注意点】

講義要綱にあげた理由から、さまざまな「概念」は、実際にそれを使ってどれだけうまく現実が説明できるにかかっている。そのためには教科書やレポート課題用参考文献はもちろんのこと、いくつか挙げておいた参考文献などにも目を通し、自分なりに諸「概念」を正しく理解（ないしは改造）して、自分の身の回りの現実をうまく説明する工夫をしてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本政治史Ⅰ—古代—

2単位

J034-7702、J7740

【講義要綱】

古代日本の国家形成・発展について、王朝と王位継承の観点から考察する。

【参考文献】

笠原英彦『皇室がなくなる日』新潮選書、2017年
荒木敏夫『日本古代の王権』敬文舎、2013年

【成績評価方法】

科目試験による。

日本政治史Ⅱ—中世—

2単位

J042-8502、J8571

【講義要綱】

朝幕関係論や権門体制論などを踏まえ、中世国家の政治構造を考える。

【参考文献】

村井章介『日本の中世10 分裂する王権と社会』中央公論新社、2003年
村井章介『日本の時代史10 南北朝の動乱』吉川弘文館、2003年

【成績評価方法】
科目試験による。

日本政治史

2単位

J024-7202、J7254

【講義要綱】

日中戦争以降、いかなる戦時体制が構築されたのか、テキストによりしっかり学んでください。

その上で、かかる時局は国民生活にいかなる影響を与えたか冷静（印象論や情緒に流されず）に分析してください。

【テキストの読み方】

日中戦争から敗戦までの戦局の推移とそれに伴う政治体制の変容を、きちんとテキストで学んでください。

【履修上の注意】

戦時体制といっても、戦局の推移に伴い変化し、その変化は国民生活にも反映されていきます。「戦争の時代」を一様に捉えず、丁寧に見ていくことが必要です。

【参考文献】

玉井清編著『写真週報とその時代・上・戦時日本の国民生活』（慶應義塾大学出版会、2017）。

【レポート作成上の注意点】

上記の参考文献以外の文献を参照しても構いませんが、取り上げられている事柄がいつの時期（「戦時」と言ってもさまざまです）のものかきちんと意識して考察することが必要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

ヨーロッパ政治史

1単位

J023-7201、J7256

【講義要綱】

20世紀のヨーロッパ政治の歴史を、ヨーロッパ統合を中心として各国政治の発展と結びつけながら学習します。ヨーロッパ主要国の歴史と、ヨーロッパ統合の歴史、そして冷戦や国際環境の変化などを総合的に把握してください。

【参考文献】

遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、2008年。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ政治史

4単位

J095-1091

市販書採用科目

【テキスト】

紀平英作編『新版世界各国史24 アメリカ史』山川出版社、1999年

【講義要綱】

アメリカ合衆国の政治史の概説。植民地時代から現代までをバランスよく学ぶ。アメリカ政治の特徴についての歴史的なアプローチであるといつてよいであろう。いわゆる文学部西洋史学科の歴史科目よりは政治学的あるいは理論的な分析視角が入っているものの、基本的に歴史であることには変わりがない。

本科目においては、アメリカの国内政治の展開だけでなく、外交政策の展開も重視されている。日本にとってもっとも重要な国であるアメリカ合衆国の内政および外交について、とくに歴史的背景を重視して学びたいものに薦めたい。

【テキストの読み方】

テキストだけでもかなり詳細に解説されているものの、併せて以下の本とともに読みすすめればより高度な理解が可能になるであろう。

大下尚一・有賀貞・志邨晃佑・平野孝編『史料が語るアメリカ：1584—1988』（有斐閣、1989年）

歴史的に重要な資料を訳出した簡便な資料集。テキストと並行して読みすすめることを強く薦めたい。

有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』（山川出版社、2009年）

基本的な歴史の流れをおさえた読者向けに、最新の研究動向を時期別・テーマ別に平易に紹介しており、文献調査の方法も示されている。テキストを読んだうえで是非読み進んでほしい。

久保文明編『アメリカの政治』（弘文堂、2013年）

アメリカ政治の初歩をわかりやすく解説。

有賀貞『アメリカ・ヒストリカルガイド』（改訂新版）（山川出版社、2012年）

政治を中心にアメリカ史をコンパクトに解説。

有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝ほか『アメリカ史1・2』（山川出版社、1993、94年）

細かい事実を調査するのに便利。必要に応じて適宜参照されたい。

アメリカ学会訳編『原典アメリカ史1—9』（岩波書店）

歴史的展開の概説と資料の訳出およびその解説からなるきわめて有益な参考書。くわしく知りたいテーマについて学習する際に非常に便利である。

【研究課題】

以下に、自主学習の目安として、練習問題を記す。（基本的に解答は本文のなかに存在するか、少なくとも示唆されている。）

第1章 北米イギリス植民地の建設と発展

- 問題一 18世紀後半にイギリスから独立する13植民地は、どのような政治社会的特徴を持っていたのか、地域間の比較をしつつまとめてみよう。
- 問題二 13植民地は、イギリス帝国内部、さらにはヨーロッパやアフリカを含めた大西洋世界においてどのような政治経済的な位置づけに置かれていたのだろうか。時期の違いにも留意しながらまとめてみよう。

第2章 独立から建国の時代

- 問題一 独立に至り、さらにアメリカ合衆国成立へと帰着する経緯を、反対派の存在にも注目して、他の文献も参照してまとめてみよう。これらの経緯はどの程度「必然的」であったといえるのであろうか。
- 問題二 建国初期の政治的対立のあり方は、現代のそれとどのように異なると考えられるだろうか。政党政治に着目してまとめてみよう。

第3章 共和国の成長と民主制の登場

- 問題一 19世紀初頭のアメリカにおいて、南部や西部といった地域的まとまりはいかなる政治的意義をもっただろうか。具体的な争点の展開にも注目しつつ、まとめてみよう。
- 問題二 「ジャクソニアン・デモクラシー」はどの程度「革命的」であったか。変化と継続の両面に注意を払いながら、他の文献も参照して考えてみよう。

第4章 「明白な運命」と南北対立の激化

- 問題一 黒人奴隷制の存続の是非をめぐる、賛否両面から様々な議論が展開されたが、前章の記述も併せて整理してみよう。
- 問題二 領土の拡大に起因する出来事を中心に、奴隷制をめぐる南北対立の展開を整理してみよう。後の南北戦争は、歴史的必然だったのか、それとも別の解決がありえたのだろうか？

第5章 南北戦争と再建の時代

- 問題一 これまでのアメリカ史上最大の死者数を出した南北戦争は、その後のアメリカ史にどのような影響や記憶を残しているだろうか。他の文献にもあたってまとめてみよう。
- 問題二 戦後の再建はいかなる成果を生み、そこにはどのような限界があったのか、それぞれの原因を考えながらまとめてみよう。

第6章 爆発的工業化と激動の世紀末

- 問題一 南北戦争後の数十年を、戦前と20世紀の橋渡しをした時期と考え、この間に現代につながるいかなる変化が生じたと考えられるか、政治を中心にまとめてみよう。
- 問題二 アメリカの労働運動、社会主義運動、そして農民運動の特徴は何か。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題三 婦人参政権運動、禁酒運動、移民制限運動など、19世紀半ばから1920年代にかけて登場した運動について、その勢力伸長の理由と運動の成果、支持した人びと、指導者などの側面に分け、他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題四 人民党の運動と革新主義の運動を、担い手、

目標とした政策、獲得した支持と成果、その遺産などの側面に分け、他の文献も参照しながら比較してみよう。

第7章 革新主義と世界大国アメリカ

- 問題一 革新主義運動はどのような形をとったのか、整理したうえで、それが後世にどのような影響を与えたのかまとめてみよう。
- 問題二 セオドア・ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの革新主義との関わりを整理してみよう。
- 問題三 米西戦争を契機にアメリカの対外政策はどのように変化したといえるだろうか。また、それはどの程度、いかなる意味で「帝国主義的」だったといえるだろうか。まとめてみよう。
- 問題四 アメリカの第一次世界大戦との関わりは、どのようなものだったか、アメリカの国内社会への影響にも注意しながらまとめてみよう。この戦争は、その後のアメリカ史にとってどのような意味をもっただろうか。

第8章 繁栄と大恐慌

- 問題一 国際連盟加盟に反対した共和党の外交政策は1921年から1933年までどのように展開されたであろうか。それを孤立主義と断定することはどの程度妥当であろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題二 大恐慌に対するフーヴァー、フランクリン・ローズヴェルト両政権の対策を比較すると、そこにはいかなる共通点と違いがあるだろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題三 ニューディール政策は大きく二次に分けられ、その後行き詰まりへと変遷するが、それはアメリカの政治や国家機構のあり方をどのように変えたであろうか。またそこにはいかなる限界があったといえるか、まとめてみよう。
- 問題四 アメリカの第二次世界大戦への参戦の過程と理由を、第一次世界大戦への参戦の過程と理由と比較しながら、他の文献も参照して検討してみよう。また、国内の政治状況、少数集団や戦争への批判者に対する対応ではどのような異同があったのであろうか。併せて調べてみよう。
- 問題五 「ニューディール連合」とは何か。その安定性の理由はどこに求められるか。それ以前の多数派連合とどのように違うか。また内部の対立要因ないし矛盾はどこにあったか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題六 1930年代の南部の政治は、いかなる点で他の地域の政治と異なっていたか。またそれはニューディールの展開や戦争政策の展開に対して何らかの影響を及ぼしていたのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題七 真珠湾攻撃にいたるまでの日米交渉では何が焦点であったか。戦争を避ける可能性はあったのだろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

第9章 第二次世界大戦から冷戦へ

- 問題一 第二次世界大戦中のアメリカとイギリス、そしてソ連は、それぞれ何を目的としていたの

- だろうか。またローズヴェルト大統領の外交にはどのような特徴があったであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題二 大戦中に策定されていたアメリカの戦後構想はどのような性格を持っていただろうか。またそれはどの程度実現し、いかなる限界を持っていたのだろうか。
- 問題三 大戦を通じて、アメリカの社会はどのような変化を経験しただろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題四 ソ連に対するローズヴェルト、トルーマン、アイゼンハワー、ケネディ、そしてジョンソン各政権の政策を比較検討し、ソ連との対立がどのように激化し、また緩和したかについて、他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題五 ニューディール期に成立したアメリカの福祉国家はその後、トルーマン、アイゼンハワー、ケネディ、ジョンソンの各政権の下でどのように変化したであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題六 マッカーシズムはアメリカにおいて例外的現象であろうか、それともアメリカ本来の体質から直接的に発したものであろうか。他の文献も参照して考えてみよう。
- 第10章 バクス・アメリカナとその陰りの始まり**
- 問題一 南北戦争後の再建から1964年の市民権法成立まで約一世紀かかっているが、なぜ黒人の地位向上はこれほどの時間を要したのか、他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題二 ジョン・F・ケネディは今日でもアメリカで国民的人気を誇るが、それはなぜか、他の文献も参照して調べてみよう。またケネディ政権の内政と外交はどう評価できるだろうか。
- 問題三 「偉大な社会」計画による改革とニューディール期の改革を、その担い手、課題、目標、政治的支持集団などの点から、他の文献も参照しながら比較検討しなさい。
- 問題四 アメリカがベトナム戦争に深入りしたのは特定の政権の責任であろうか。それともアメリカの外交政策が本来的にもっていた体質の故であろうか。他の文献も参照して、自分の考えをまとめてみよう。
- 問題五 対抗文化やフェミニズムに代表される、それまでの社会のあり方に対する異議申し立ては、中長期的にみていかなる政治的な影響をもったと考えられるだろうか。
- 問題六 ニクソン＝キッシンジャー外交はアメリカ外交史においてどのような特徴をもっているか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題七 20世紀を通じて、「帝王的大統領制」はいかにして生み出されたと考えられるだろうか。
- 第11章 ふたたび変貌するアメリカ**
- 問題一 共和党はレーガンを当選させるにあたって、どのようなそれまでと違う新規の政策を用意したのであろうか。アメリカの保守主義はどのような過程を経て、いかなる理由で復活したのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

- 問題二 レーガン外交の特徴はどこにみられるであろうか。同じ共和党のニクソン＝キッシンジャー外交とどのように異なっていたのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題三 ニューディール連合はいかなる過程を経て、いかなる理由で解体したと考えられるであろうか。またこんにち、民主党と共和党はどのような集団から支持されているのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題四 クリントンは自らを「ニュー・デモクラット」（新しい民主党員）と定義しているが、彼はどのような点でそれまでの民主党政治家と異なり、どの部分で同じなのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題五 1994年中間選挙で勝利して翌年から成立した共和党多数議会は、それまで40年間の議会と、内政、外交、あるいは大統領との関係などにおいて、どのように異なっていたであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題六 民主党が1992年と1996年の大統領選挙で連続して勝利を収めた要因は何であろうか。また、中間選挙としては例外的に1998年に民主党が議席を増やした原因は何であろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題七 冷戦の終結によって、アメリカの対外政策の課題はどのように変化したと考えられるだろうか。ブッシュ（父）、クリントン両政権の対応を比較しつつ考えてみよう。

【参考文献】

- 上杉忍『アメリカ黒人の歴史—奴隷貿易からオバマ大統領まで』（中公新書、2013年）
- 奥田暁代『アメリカ大統領と南部—合衆国史の光と影』（慶應義塾大学出版会、2010年）
- 兼子歩・貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を考える』（彩流社、2017年）
- 鎌田遵『ネイティブ・アメリカン—先住民社会の現在』（岩波新書、2009年）
- 川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』（名古屋大学出版会、2005年）
- 貴堂嘉之『アメリカ合衆国と中国人移民—歴史のなかの「移民国家」アメリカ』（名古屋大学出版会、2012年）
- 田中きく代『南北戦争期の政治文化と移民—エスニシティが語る政党再編成と救済』（明石書店、2000年）
- 西山隆行『移民大国アメリカ』（ちくま新書、2016年）
- ジョン・ハイナム（斎藤眞・阿部斉・古矢旬訳）『自由の女神のもとへ—移民とエスニシティ』（平凡社、1994年）
- ジェイムズ・T・パターソン（靱岡宏成訳）『ブラウン判決の遺産—アメリカ公民権運動と教育制度の歴史』（慶應義塾大学出版会、2010年）
- 樋口映美・中條献編『歴史のなかの「アメリカ」—国民化をめぐる語りと創造』（彩流社、2006年）
- 古矢旬『アメリカニズム—普遍国家のナショナリズム』

ム』（東京大学出版会、2002年）
 松本悠子『創られるアメリカ国民と「他者」―「アメリカ化」時代のシティズンシップ』（東京大学出版会、2007年）
 簗原俊洋『アメリカの排日運動と日米関係―「排日移民法」はなぜ成立したか』（朝日新聞出版、2016年）
 村田勝幸『〈アメリカ人〉の境界とラティーノ・エスニシティ―「非合法移民問題」の社会文化史』

【レポート作成上の注意点】

さまざまな参考文献を読み足した上で、必ず参照した文献について適切な形式で注をつけて作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

ロシアの政治

2単位

J075-0502

【テキスト】

この科目は2016年4月に改訂されました。改訂後の新しいテキストによって履修してください。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド2018』を参照してください。

【講義要綱】

現在のロシアは、国力から見てもはやソ連時代のような超大国ではありません。それでも国際政治に大きな影響を与える国家として、世界の多くの国に関心を持たれています。その一方で、ロシアは隣国でありながら、昔から日本と経済的関係も文化的関係もそれほど密接ではないので、なかなか理解が難しい国であることは確かです。ロシアの政治を客観的に理解するためには、感情的に好きか嫌いかで判断するのではなく、どこがどのように変わってきたのか、あるいはどこが歴史的に見てあまり変化していないと言えるのか、具体的に見ていく必要があります。特にこの講義では、欧米諸国の政治制度をモデルにすることを意識的に避けるようになった2000年以降（プーチン登場以降）に注目し、以上のような変化の問題を考えたいと思います。指定教科書の構成は次の通りです。

歴史編

- 1 自然環境と国土
- 2 宗教と民族
- 3 ツァーリ（皇帝）の支配
- 4 被支配者としてのナロード（民衆）
- 5 近代化
- 6 革命
- 7 スターリン時代
- 8 フルシチョフとブレジネフ
- 9 ゴルバチョフの改革
- 10 ソ連の崩壊

政治編

- 1 市民生活の傾向

- 2 経済改革から新政治体制へ
- 3 一九九三年憲法体制
- 4 連邦制
- 5 選挙と政党
- 6 大統領と立法過程
- 7 マスメディア
- 8 地方自治体レベルの政治
- 9 司法と保安機関
- 10 プーチン時代の内政

対外政策編

- 1 地理的要因
- 2 対外的イデオロギー
- 3 対外政策の決定システム
- 4 外務省
- 5 軍部と国防省
- 6 対外経済関係
- 7 世論
- 8 政治文化
- 9 プーチン時代の対外政策

【テキストの読み方】

まず全体を読み通して、ロシアについてイメージを描いてください。現状を理解するには、ソ連時代の政治はもちろん、その前の時代の政治について知識を持つことが必要です。次にもう一度、今度は日本の政治とはどこが違うのか考えながら読んでください。理解が深まるはずです。

【履修上の注意】

特にありませんが、地域研究の一部門ですから、「地域研究基礎」もしくは「政治学基礎」を予め学習しておく、内容がよくわかると思います。関連する本や教科書を読んでください。

【関連科目・分野】

「歴史学」「政治学」「東洋史概説」「西洋史概説」「ロシア文学」

【参考文献】

比較的新しい政治の概説書は、横手慎二編『ロシアの政治と外交』放送大学出版会、2015年。歴史の概説として、田中陽児、倉持俊一、和田春樹編『世界歴史体系：ロシア史』1―3巻、山川出版、1994―1997年と和田春樹編『ロシア史』（世界各国史22）山川出版社、2002年。なお、現代に関しては、新聞、インターネットなどを通して政治、経済に関する情報を収集し、得られたものを相互に比較しつつ、利用してください（新聞やインターネットによる情報は、しばしば異なる解釈が付されているので、複数の新聞や情報源を利用してください）。

【レポート作成上の注意点】

レポートはたんなる感想文ではないので、論点を整理して論じるよう心がけてください。予め論点を箇条書きにしておくなど、書くべきポイントをきちんと整理してから書いてください。これは努力すれば、誰でもかなり身につくものです。ワープロを利用するとき

は、変換ミスのないように注意してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代中国論

2 単位

J102-1391

市販書採用科目

【テキスト】

毛里和子『現代中国政治〔第3版〕—グローバル・パワーの肖像—』名古屋大学出版会、2012年

【講義要綱】

「台頭する中国」への関心が日本のみならず国際社会で高まっている。それは、一つには過去20年以上にわたって、中国が急速な経済成長を実現し、「世界の工場」、「世界の市場」として世界経済を牽引する力と認識されてきたからである。いま一つには、その経済力を背景に国際政治における発言力が高まり、「大国」として認知されてきたからである。しかし、「台頭」だけが中国の真の姿ではない。一方において中国は多くの深刻な問題に直面しており、「台頭」とは異なる側面にも留意しなければならない。

こうした多面性を持つ中国の現状を理解する上で不可欠であるのが、歴史的背景への理解である。すなわち、現在、中国が直面する問題を理解するためには、その歴史的背景に踏み込む必要がある。そうすることによって、中国の政治・外交の今後の展望を知る手がかりを得られるはずである。以上の問題意識に基づき、本講義では、「歴史的連続性」の視点を踏まえて、中国の政治・外交の問題を扱う。本講義の中心は1949年以降の中華人民共和国期であるが、無論、それ以前の中華民国期への理解も必要とされる。こうして、現代中国に生じたさまざまな事象の中から、中国の政治・外交の全体像を理解する上で有意義な個別のテーマを選び、学習を進めてゆく。

中国は日本と地理的にも文化的にも近接した存在であるがゆえに、理解が比較的容易であると思われがちである。しかし、いったん学習を始めるとその奥深さと複雑さに困惑するに違いないが、それこそが中国研究の醍醐味と言えよう。

【テキストの読み方】

本レポート課題に取り組むためには、当然のことながら、近年の中国政治に関する理解だけでは不十分である。

現在、中国において生起している様々な事象の背景を理解するためには、少なくとも、中華人民共和国建国以降の中国政治全体に関する理解が必要である。そのために課題提出者は、まず中華人民共和国の政治を通史的に理解しなければならない。差し当たり、テキストとともに下記の参考文献を読むことをおすすめする。それぞれの著者が、様々な視点から中華人民共和国の歴史を整理していることが理解できるはずである。これらを比較し、批判的に検証しながら、自分自身の力で中華人民共和国史を整理し直す作業を踏まえて、本レポート課題に取り組んで欲しい。

【履修上の注意】

平素より、中国の動向に関心を持ち、中国に関する報道や情報に注意を傾け、一定の基礎的な理解があることが望ましい。

【参考文献】

安田淳他編『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年
高橋伸夫編著『現代中国政治研究ハンドブック』慶應義塾大学出版会、2015年
西村成雄・小此木政夫『現代東アジアの政治と社会』放送大学教育振興会、2010年
国分良成編著『現代東アジア—朝鮮半島・中国・台湾・モンゴル—』慶應義塾大学出版会、2009年
西村成雄・国分良成『党と国家—政治体制の軌跡—』岩波書店、2009年
山田辰雄『中国近代政治史』放送大学教育振興会、2007年
阿部純一他編『中国をめぐる安全保障』ミネルヴァ書房、2007年
国分良成編『中国の統治能力』慶應義塾大学出版会、2006年
家近亮子ほか編『5分野から読み解く現代中国』晃洋書房、2005年
国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会、2004年
天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動』講談社、2004年
天児慧『中華人民共和国史』岩波新書、1999年
小島朋之『中国現代史』中公新書、1999年

【レポート作成上の注意点】

レポート課題に関しては、上記の参考文献以外にも、膨大な書籍と論文がある。課題提出者は、それらをできるだけ系統的かつ批判的に読みこなすことが要求される。なお、言うまでもないが、課題に関する書籍や論文を単純に丸写ししたり、或いは部分的に切り取ったりしたものを要約しただけでは、合格点には達しない。課題提出者自身が本課題に真摯に取り組み、たとえ未熟ではあっても、自らの言葉で記述することが要求される点に留意されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本外交史 I

4 単位

J025-7301、J7359

【講義要綱】

日本の開国以降第二次世界大戦終結までの（いわゆる戦前の）日本外交に関して、日本の指導者がみた主観的世界像および自国像と欧米およびアジアの国際政治の現実の間の関係・相互作用に留意して、理解を深めたい。

【参考文献】

入江昭『日本の外交—明治維新から現代まで』中公新

書、1966年

【レポート作成上の注意点】

レポート課題に対するいわゆる「正解」は存在しない。また、単なる事実関係の羅列に終わらないように留意したい。分析視角（事実関係に一定の意義付けを与える一貫した視点）に一定のセンスや論理性があり、全体の考察に分析的なまとまりがあることが重要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本外交史Ⅱ

2単位

J048-9301、J9360

【講義要綱】

第二次世界大戦後の日本外交は、今日に至るまで、戦後処理としての戦後憲法（特に第九条）と冷戦の産物としての日米安保条約を二本柱とする枠組み（「九条・安保体制」）に支えられている。その間言論界や政治の世界で改憲論や対米依存への違和感が繰り返し示されてきたにもかかわらず、その構図は今も（戦後レジーム）からの脱却を唱える安倍政権下においても）基本的に変わっていない。その戦後のプロセスを実証的に理解し、なぜそうなのかを深く考えたい。

【参考文献】

添谷芳秀『日本の外交―「戦後」を読みとく』ちくま学芸文庫、2017年

【レポート作成上の注意点】

レポート課題に対するいわゆる「正解」は存在しない。また、単なる事実関係の羅列に終わらないように留意したい。分析視角（事実関係に一定の意義付けを与える一貫した視点）に一定のセンスや論理性があり、全体の考察に分析的なまとまりがあることが重要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋外交史

4単位

J033-7702

【講義要綱】

第一次世界大戦から現在に至るまでの西洋外交史を対象にしています。外交の変容を中心として、大きな歴史の流れを理解していただきたいと思います。

【参考文献】

細谷雄一『外交―多文明時代の対話と交渉』有斐閣、2007年

【レポート作成上の注意点】

(1) 参考文献を読んでください。

(2) 著者の文章と自分の文章を区別して、論文形式で執筆してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治思想史

4単位

J109-1601

【講義要綱】

本講義では、「コスモス」・「運命」・「時間」・「法」などのカテゴリーを中心に西洋政治思想の特徴と歴史の展開を概観します。その際、ホメロス、悲劇詩人、トゥキディデス、プラトン、アリストテレス、マキアヴェリ、ホッブス、ロック、ルソーらの古典的著作に注目し、それらにまつわる多様な解釈やアイロニカルな政治的作用にも着目します。

【テキストの読み方】

テキストの記述を鵜呑みにするのではなく、批判的に吟味してください。つまり、解釈の多様性を意識しつつ、どの解釈が妥当か、また別の解釈もありうるかを自分で考え、可能であればテキストの議論を踏まえた上で（いわばテキストと対話をする形で）持論を展開してください。その際、注はヒントとなるでしょう。ただ、注をすべて読む必要はありません。必要に応じて参照していただくということで構いません。

【履修上の注意】

「ヨーロッパ中世政治思想」と「政治哲学」をあわせて履修されることをおすすめします。

【関連科目】

「ヨーロッパ中世政治思想」、「政治哲学」、「法哲学」

【参考文献】

クエンティン・スキナー『近代政治思想の基礎』門間都喜郎訳、春風社、2009年
川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』岩波書店、2012年

【レポート作成上の注意点】

重要なのは基礎知識を押さえた上で批判的に思考することです。ですので、テキストの内容を素材としつつ、思考のプロセスを反映してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ヨーロッパ中世政治思想

2単位

J052-9801

【講義要綱】

ヨーロッパの政治思想が中世と呼ばれる時期（テキストではそれを9世紀から15世紀までの約700年間に設定しています）において遂げた展開を講義します。

その際、「普遍」と「特殊」との関係ならびにその変遷過程が重要なテーマとなります。

【テキストの読み方】

古典古代の哲学や宗教（キリスト教）といった多様な要因が、ヨーロッパ人の政治理解に大きな影響を与えていく、その消息に関心を払ってください。またテキスト執筆者にはメタレベルでの問題意識があります。それは、近代以降の日本人にとってヨーロッパ文化が第二の自我になっているということ、したがって日本人にとってヨーロッパ文化がもっている意義の把握は今日においても極めて重要だ、ということです。これらの点を意識しつつ、テキストを読まれることを強く願います。

【履修上の注意】

「政治思想史」をあわせて履修されることをお勧めします。

【関連科目】

「政治思想史」、「西洋哲学史Ⅰ－古代・中世－」、「歴史（西洋史）」

【参考文献】

鷲見誠一『ヨーロッパ文化の原型』南窓社、1996年
パコー著、坂口昂吉・鷲見誠一訳『テオクラシー』創文社、1985年
ティアニー著、鷲見誠一訳『立憲思想』慶應義塾大学出版会、1986年
モラル著、柴田平三郎訳『中世の政治思想』平凡社ライブラリー、2002年
佐々木毅著『宗教と権力の政治』講談社学術文庫、2012年
将基面貴巳著『ヨーロッパ政治思想の誕生』名古屋大学出版会、2013年
田上雅徳著『入門講義 キリスト教と政治』慶應義塾大学出版会、2015年

【レポート作成上の注意点】

どの科目のレポートもそうなのでしょうが、論理的な流れのはっきりしたレポートを作成してください。当該科目のように歴史的な科目のレポートでは、往々にして「〇〇年に××ということが起こった。次いで△△年には□□という事件が生じた」といった事実の羅列を記しただけのものが見受けられます。これは年表ではあってもレポートではありません。〇〇年の××を受けて△△年に□□が起こったとして、そこに一体いかなる因果関係が認められるのか。その点を意識した記述を心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

コミュニケーション論

4単位

J079-0603

【テキスト】

この科目は2016年4月に改訂されました。改訂後の新しいテキストによって履修してください。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド』を参照してください。

【講義要綱】

この科目の主たる目的は、「コミュニケーション」概念を軸としつつ多様な学問領域の成果を用いて思考することの面白さを理解してもらうところにある。もともと「コミュニケーション」論は学際的な学問領域であり、政治学、社会学、心理学、社会心理学などの隣接分野との関わりが深いため学習範囲が広い。テキストや参考書だけでなく、関連する社会科学の文献をなるべく多く読むことが望まれる。今回のテキスト改訂により、ソーシャル・メディアのデータが一層充実した。その点に留意されたい。

【テキストの読み方】

テキストの内容で分からない箇所がある場合は、テキストの文章が参照している参考文献にまでさかのぼって、自分の理解を深めることが望ましい。

【履修上の注意】

事前に履修すべき科目や、あらかじめ学んでおくべき知識は特にない。しかし、学習にあたってはテキストだけでなく他の複数の文献を読んで幅広く勉強することが必要である。参考文献で悩む場合、テキストの中で数多くの文献が紹介されているので、これらの文献を実際に自分の眼で読んでみるのが最も参考になる。

【関連科目】

「政治学」、「社会学」、「社会心理学」

【参考文献】

大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房、1998年
大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房、2005年
大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社、2006年
大石裕編『戦後日本のメディアと市民意識』ミネルヴァ書房、2012年
大石裕『メディアの中の政治』勁草書房、2014年
池上彰ほか『ジャーナリズムは甦るか』慶應義塾大学出版会、2015年
大石裕『批判する／批判されるジャーナリズム』慶應義塾大学出版会、2017年

【レポート作成上の注意点】

レポートのタイトルを自分で考え、冒頭に明記すること。

レポート作成を行う際に参照した文献、論文、資料

などを明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・都市社会学(J)

2 単位

J115-1791

市販書採用科目

【テキスト】

松本康編『都市社会学・入門』有斐閣、2014年

【講義要綱】

本科目は、都市社会学の基本的な考え方を学ぶことをつうじて、都市社会現象を社会的に理解する力を養うことを目的とする。

テキストにしたがい、つぎのような構成で議論をすすめてゆく。序章では「都市社会学の問い」を定式化する。第Ⅰ部「都市化とコミュニティの変容」では「都市はなにを生みだすか」という問いの軸にそって、「都市社会学の始まり」「アーバンイズム」「都市生態学と居住分化」「地域コミュニティ」「都市と社会的ネットワーク」について論じてゆく。第Ⅱ部「都市の危機と再編」では「なにが都市を生みだすか」という問いの軸にそって、「都市圏の発展段階」「情報化・グローバル化と都市再編」「インナーシティの危機と再生」「郊外のゆくえ」について論じる。第Ⅲ部「時間と空間のなかの都市」では「いかに都市とかわるか」という問いの軸にそって、「都市再生と創造都市」「文化生産とまちづくり」「アジアの都市再編と市民」「ボランティアと市民社会」「都市の防災力と復興力」について論じる。

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。コラムまで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。

- ・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年
- ・園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年
- ・吉原直樹・近森高明編『都市のリアル』有斐閣、2013年

【レポート作成上の注意点】

以下の5つの条件がそろわなければ合格となりませんので、注意してください。

1. テキスト以外に5点以上の参考文献を用いること。
2. 字数は3600字以上4000字以内（注を字数に含む。参考文献リストは字数に含めない）。

3. 論述は社会的視点からなされること。
4. 注をつけること。
5. 参考文献リストを作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

産業社会学(J)

2 単位

J028-7502、J7591

【講義要綱】

現代社会は、産業化と切り離せない。産業社会学は、産業化された現代社会の社会的・人間的側面を明らかにしようというものである。現代人は、企業・官庁・非営利組織など、ほぼ例外なく何らかの組織に帰属して生活している。本科目で考えるべきことは、産業化にともなう諸課題であり、産業主義や民主主義もたらしめたもの、大量生産方式と大衆社会の到来から生じた課題、組織とコミュニティの問題、組織と個人の目的、その効率性と人間性、組織による人間疎外とその克服、あるいはリーダーシップやプロフェッショナリズム、余暇と労働の問題、教育と産業の関係、働き方改革への示唆など、そのテーマは幅広く、しかも身近である。テキストの構成は以下になっている。

序 章 産業社会学について

第1章 産業と人間

第1節 産業社会の展開

第2節 産業主義から人間主義へ

第3節 産業化の社会的背景

第2章 産業における組織問題

第1節 組織と人間

第2節 ビューロクラシーとプロフェッショナリズム

第3節 新しい組織

第3章 余暇社会における労働問題

第1節 労働社会から余暇社会へ

第2節 新しい労働者

みずからの仕事と生活をふりかえり、現代を考えるという意味で、生涯学習に最適な課題を含んでいる。本科目の学習を通じて、現代社会について一歩踏み込んで考えてほしい。

【テキストの読み方】

テキストは、書かれている数字や時代背景に古いものがあるが、時代を超えた「古くて新しい問題」を提起していて今日的な意味を失っていない。含蓄ある表現が随所にみられ、示唆に富むものでもある。テキスト全体の底流に流れている大きな主張を読み取ってほしい。

【履修上の注意】

産業化はわれわれのまわりに深く浸透している。産業化が社会や個人におよぼした影響を他人ごとのように批判するのではなく、自分のこととして考えてほしい。他人の文章を借りるのではなく、自分の考えをしっかりと主張することが、履修上の条件である。

【関連科目】

特に指定しないが、経済学、経営学、社会学、心理学などに広がるテーマに関心をもっておいてほしい。

【参考文献】

テラー『科学的管理法』ダイヤモンド社、2009年
フロム『自由からの逃走』創元社、1984年
ホワイト『組織のなかの人間』創元社、1984年
バーナード『経営者の役割』有斐閣、1979年
マグレガー『企業の人間的側面』産能大学出版部、1990年
ハーズバーク『仕事と人間性』東洋経済新報社、1983年
ヴェブレン『有閑階級の理論』筑摩書房、2016年
井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房、2008年
井原久光『改訂増補版 社会人のための社会学入門』産業能率大学出版部、2015年など

【レポート作成上の注意点】

レポート課題はテキスト全体を通じて理解したことをたずねている。テキストの一部にある記述に頼るのではなく、全体を通じて学んだことをふまえて論じてほしい。また、今回のテーマは、産業社会に生きる私たちすべてに共通する課題といえる。社会批判や評論家的なレポートではなく、自分の問題として考えてほしい。レポートの分量については4,000字という制限にこだわっているわけではない。簡潔を旨としてほしいが、同時に、しっかりとした内容のものにしてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済原論（ミクロ経済学）(J) 2単位

J117-1801

【講義要綱】

経済学全般についての総論と、ミクロ経済学・マクロ経済学からなる経済理論のなかの、ミクロ経済学に対応する基礎理論を学習する科目である。マクロ経済学が国民総生産・失業率・物価水準といった経済全体の集計量を考察するのに対し、ミクロ経済学は家計や企業といった個々の経済主体の経済活動を分析対象とし、市場機構の効率性やその限界についても考察する。この科目は他の多くの経済学の分野に応用されるような、経済学の基礎理論を学ぶことを目的とする。

なお、テキストの学習範囲・試験範囲は以下のとおりとする。

「経済原論（ミクロ経済学）」の学習範囲・試験範囲：第1章～第5章

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにしてください。

【履修上の注意】

ある程度の数学的知識と論理的思考力を前提としま

す。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門（第3版）』有斐閣、2013年
塩澤修平『基礎コース・経済学（第2版）』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

記述のうえで、それが仮定あるいは前提であるのか、論理的展開であるのか、論理的帰結であるのか、といった区別を明確にしてください。

科目試験の受験については、『塾生ガイド』を参照のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済原論（マクロ経済学）(J) 2単位

J117-1801

【講義要綱】

本講義では、マクロ経済学の基本事項を解説する。レポートおよび科目試験の範囲は教科書の第1章、および第6章から第9章である。第6章では、まず日本のマクロ経済を概観し、国民経済計算システムについて説明する。有効需要の原理による所得決定の基本モデルとして45度線モデルを解説する。第7章では貨幣について説明し、貨幣市場の均衡について解説する。そして財市場の均衡と貨幣市場の均衡を同時に満たすIS-LMモデルを解説する。第8章では長期のマクロ経済モデルを解説する。まず労働市場の均衡と潜在生産量を説明し、IS-LMモデルと統合することで財市場、貨幣市場、労働市場の一般均衡状態で長期の総生産、雇用、実質利利率が決まることを解説する。さらに長期の総生産の成長を説明する枠組みについても解説する。第9章では景気循環を理解するために短期のマクロ経済モデルを解説する。IS-LMモデルに代わり、金融政策ルールを明示化した総需要曲線を説明する。そして価格粘性性を取り入れたそう供給曲線を説明する。この総需要総供給モデルによって生産ギャップ、インフレ率、失業率の関係や財政政策や金融政策の効果についての考え方を説明する。

【テキストの読み方】

用語を丁寧に理解するようにしましょう。マクロ経済についての事実を理解しましょう。

そして、その事実を説明するためのモデルではどのような変数がどういう理由で決定されるかを理解するようにしましょう。またそれらのモデルが前提（仮定）していることを理解するようにしましょう。

【履修上の注意】

微分、偏微分、差分方程式など、ある程度の数学の知識が必要です。またミクロ経済学の知識も必要です。

【関連科目】

「経済原論（ミクロ経済学）」「数学（微分・積分）」

【参考文献】

クルーグマン & ウエルズ『クルーグマン マクロ経済学』東洋経済新報社、2009年
ジョーンズ『ジョーンズ マクロ経済学Ⅰ（長期成長編）』および『マクロ経済学Ⅱ（短期変動編）』東洋経済新報社、2011年
宮尾龍蔵『コア・テキスト マクロ経済学 第2版』新世社、2017年

【レポート作成上の注意点】

何を説明しようとしているのか記述の目的をはっきりさせてください。用語は正確にそして何らかの主張をする場合にはその根拠または論理的な理由を明確にしてください。記号を使う場合には（教科書に出た記号であっても）その記号の定義を記述してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・財政論(J)

2 単位

J118-1891

市販書採用科目

【テキスト】

土居丈朗『入門財政学』日本評論社、2017年

【講義要綱】

この講義は、わが国の財政制度の基本を学ぶとともに、財政に関連した経済学の理論に基づく考え方を講義する。政府債務が累増している財政の現状とともに、国の予算制度、税制（所得税・法人税・消費税など）、社会保障制度（医療・介護・年金など）、地方財政制度などを取り上げる。

【参考文献】

土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002年
土居丈朗『日本の税をどう見直すか』日本経済新聞社、2010年
井堀利宏・小西秀樹『政治経済学で読み解く政府の行動』木鐸社、2016年

【レポート作成上の注意点】

この講義で取り上げる内容について、現行制度と経済理論をバランスよく理解することが重要である。現行制度だけでなく、財政に関連した経済学の理論にも関心を持ち、関連する政策について各省庁や政府の会議等で公表された資料も活用するとよい。

【成績評価方法】

科目試験による。ただし、テキストの第10章と第11章は対象としない。

金融論(J)

2 単位

J103-1302

【テキスト】

この科目は2017年4月に改訂されました。今年度から学習を開始する場合には、改訂後の新しいテキストによって履修することを勧めます。改訂されたテキストの入手方法は、『塾生ガイド』を参照してください。

【講義要綱】

第1章 資金循環と資金の過不足

- 1-1 経済と金融の関係—資金循環勘定
- 1-2 政府の資金不足の調整
- 1-3 企業の資金過不足の調整（I-S バランス）

第2章 企業の資金調達と投資

- 2-1 日本企業の資金調達と投資
- 2-2 利子率と投資の関係
- 2-3 トービンの q と企業の投資

第3章 金融商品のリスク制御と価格計算

- 3-1 家計のポートフォリオとリスク制御
- 3-2 債券市場・株式市場
- 3-3 新しい金融商品と価格計算

第4章 金融機関の仲介機能と証券市場

- 4-1 日本の金融機関の構成
- 4-2 銀行・協同組織金融機関、貸金業
- 4-3 証券会社と証券市場
- 4-4 生命保険会社・損害保険会社
- 4-5 機関投資家

第5章 金融行政と金融政策

- 5-1 金融システムの安定とバーゼル自己資本比率規制
- 5-2 証券化とオフバランスシート
- 5-3 金融政策と短期金融市場の金利調節
- 5-4 インフレ・ターゲティングとテイラー・ルール

第6章 財政と財政投融资

- 6-1 国債の発行増と金融機関の国債保有増
- 6-2 財政投融资制度と財政投融资改革
- 6-3 郵便貯金

第7章 貿易・資本移動と外国為替

- 7-1 国際収支
- 7-2 外国為替決定理論
- 7-3 際資本移動と国際金融のトリレンマ
- 7-4 ユーロの危機

第8章 金融のミクロ理論

- 8-1 家計の金融行動
- 8-2 企業の金融行動
- 8-3 銀行の金融行動

第9章 金融のマクロ理論

- 9-1 ワルラスの法則と IS-LM 分析
- 9-2 所得と利子率の決定—IS-LM モデル
- 9-3 物価の決定—総需要—総供給モデル
- 9-4 合理的期待形成と金融政策
- 9-5 IS-LM-BP モデル（オープン・マクロモデル）

【成績評価方法】

科目試験による。

経済政策学(J)

2単位

J087-0801

【講義要綱】

市場機構は万能ではないため、政府が直接・間接に市場に介入し、市場の失敗の是正をはかっています。

経済政策学は、このような政府の活動の現状を明らかにすると同時に、望ましいあり方を提示することを目的とする学問です。

本講義では、まず、必要な基本概念と経済理論を身につけ、その上で、直面する今日の政策課題を見極め、解決の方向を探ります。

【履修上の注意】

ミクロ経済学およびマクロ経済学に関する知識をもっていることが望ましいです。

【関連科目】

「経済原論（ミクロ経済学）」「経済原論（マクロ経済学）」「国民所得論」

【参考文献】

加藤創太・小林慶一郎『財政と民主主義 ポピュリズムは債務危機への道か』（日本経済新聞出版社）2017年
藤田康範『経済・金融のための数学』（シグマベイスキャピタル）2009年

【レポート作成上の注意点】

教科書を熟読するのみならず、巻末の参考文献や新聞・雑誌の経済記事・論文を読み、進んだ知識を積極的に取り入れるよう努力してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会政策(J)

2単位

J098-1191

市販書採用科目

【テキスト】

駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』創成社、2011年
※2018年4月頃、新版刊行予定

【講義要綱】

本講義の目的は、急速な少子高齢化の中、社会政策の中で比重を増した社会保障制度の理解と社会経済システムとの整合について検討し、望ましい政策を自ら考えられるようにすることを目的としている。具体的政策としては、社会保障制度の中心領域である年金、医療、福祉以外に、関連領域である人口、家族、財政、労働等についてもカバーしている。

1. 成熟化社会、少子・高齢化社会における社会保障

2. 社会保障制度の機能と歴史
3. 社会保険（年金・医療・介護・雇用・労災保険）
4. 児童・高齢者・障害者のための福祉政策
5. 生活保護
6. 雇用政策（最低賃金制度）
7. 制度改革の方向性

【テキストの読み方】

まず第1～3章で、現行の社会保障制度を取り巻く変化を理解したうえで、第4章で社会保障制度の機能、第5章で社会保障の歴史を学んでください。第7章以降は各論ですので、各々関心をもった制度について掘り下げて、学んでください。第19章は、社会保障制度の枠組みの中で、どのように効率性を高め、限られた資源でより充実した社会保障を提供できるか、理論的背景とともに学び、社会保障の将来のあるべき姿について考えてください。

【履修上の注意】

経済学的な考え方を中心とした解説となっていますので、経済学の基本的な知識があった方が理解しやすいでしょう。また下記関連科目を併せて履修すれば、一層理解が深まるでしょう。

【関連科目】

「財政論」「人口論」「産業社会学」「労働法」

【参考文献】

城戸喜子・駒村康平編（2005）『社会保障の新たな制度設計』慶應義塾大学出版会。
厚生労働省『労働経済白書』、『厚生労働白書』各年版
厚生労働省サイト（<http://www.mhlw.go.jp/>）

【レポート作成上の注意点】

執筆する前にまず『塾生ガイド』の「レポート作成上の注意」をお読みください。課題1・2共に、引用・参考箇所（指定テキストを引用・参照する場合も含む）はレポート本文中に「」等の記号を用い、またどこからの引用・参照なのか著者姓（出版年）該当のページ数まで明示したうえで、対応する参考文献リストをレポートの末尾に掲載してください。また節ごとに小見出しを付け、内容的な区切りを明示してください。こうしたレポート作成のガイドラインに沿っていない場合、添削不能として内容にかかわりなく再提出となります。

また課題2については、政策に関するレポートですので、何らかの政策提言を行ってください。その際には、その政策提言の論拠を最新データに基づき明確に示してください。データはテキスト掲載以外のデータも併せて使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営学(J)

3 単位

J105-1391

市販書採用科目

【テキスト】

岡本大輔・古川靖洋・佐藤和・馬場杉夫『深化する日本の経営』千倉書房、2012年

【講義要綱】

経営学は、企業経営、企業組織、経営者行動など、組織と経営現象に関する幅広いテーマを対象とした学際的な学問です。本科目では、その中でも、コア領域である、経営管理論、経営戦略論の分野を主な対象としています。これらを通じて、企業はどのように戦略的な意思決定を行うのか、組織運営の原理・原則は何か、成功する企業と失敗する企業の違いを説明することはできるのか、について学んでいただき、社会・経済の中で不可欠な存在である企業と組織に関する理解を深め、新しい視点から物事を観察し、解釈できる目を養っていただければと思います。

【参考文献】

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年
浅羽茂・須藤美和『企業戦略を考える』日本経済新聞出版社、2007年
谷本寛治『責任ある競争力』NTT 出版、2013年

【レポート作成上の注意点】

設問の意図を正確に理解し、レポートの構成を考えてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

会計学(J)

3 単位

J088-0901

【講義要綱】

会計学、主として財務会計論の基礎を学習する。科目試験の出題範囲はテキストの内容に限るが、レポートの作成についてはより広範な学習にもとづくことを期待する。

【参考文献】

友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣、1996年
友岡賛『会計学原理』税務経理協会、2012年
友岡賛（訳）『歴史に学ぶ会計の「なぜ？」』税務経理協会、2015年
友岡賛『会計学の基本問題』慶應義塾大学出版会、2016年
友岡賛『会計と会計学のレーゾン・デートル』慶應義塾大学出版会、2018年
友岡賛『会計の歴史（改訂版）』税務経理協会、2018年

【レポート作成上の注意点】

できる限り、自分の言葉、をもって述べ、また、参考文献は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

教職課程専門教育科目

教育基礎論

2 単位

P035-1191

市販書採用科目

【テキスト】

沼野・松本・田中・白石・米山『教育の原理〔第4版〕』学文社、2010年

【講義要綱】

『教育の原理』〔第4版〕の内容構成は、第1章「教育とは何か」、第2章「文化と教育のかかわり」、第3章「学校式教育と人間教育」、第4章「何を教えるか」、第5章「いかに教えるか」、第6章「職業としての教師」となっている。第4版と第3版では、学習指導要領の改訂があったために第4章が、教育職員免許法の改正があったために第6章が大きく変わっている。しかし、第4版出版後にも学習指導要領の改訂や教育職員免許法の改正などが行われており、テキストの改訂が間に合っていない状態である。ただし、テキストに通底する教育原理に変化があるわけではない。新しい学習指導要領や教育職員免許法については、教育六法などで確認し、テキストの教育原理に照らして、検討してみることも大切である。教職課程の科目であるから、実際に自分が教師となることができるかどうかを自分に問いつつ、テキストの教育原理と向き合うことが重要である。

【テキストの読み方】

テキストは複数の執筆者が書いている。執筆者によって、微妙に教育原理の理解に違いがある可能性がある。テキストを理解するとともに、批判的に検討することも必要である。

【履修上の注意】

「現代教師論」や「教育学」を履修していることが望ましいが、必須ではない。

【関連科目】

「現代教師論」、「教育学」

【参考文献】

『解説 教育六法』三省堂、2018年
村井実『日本教育の根本的変革』川島書房、2013年
日本教育法学会編『教育法の現代的争点』法律文化社、2014年

【レポート作成上の注意点】

しっかりとテキストを読み、テキストを踏まえて、課題が何を要求しているかをよく理解した上で、レポートを作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

青年の心理

1 単位

P028-0091

市販書採用科目

【テキスト】

遠藤由美『青年の心理』サイエンス社、2000年

【講義要綱】

青年期におけるさまざまな身体的・心理的・社会的変化について理解すると同時に、そうした青年期の成長に関わる教師として、どのような関わり方が求められるかについて考える機会にしてほしいと思います。その際、いろいろな文献に当たると同時に、現代社会で展開されている社会問題・教育問題にも関心を広げてほしいと思います。

【履修上の注意】

基本的な専門用語を理解するようにしてください。また、自らの青年時代を振り返りつつ、現代社会における青年たちの現状について関心を持つように心がけてください。

【参考文献】

加藤隆勝・高木秀明『青年心理学概論』誠信書房、1997年
落合良行・伊藤裕子・斎藤誠一『青年の心理学 改訂版』有斐閣、2002年
落合良行・楠見孝『自己への問い直し—青年期』金子書房、1995年
伊藤美奈子『思春期の心さがしと学びの現場』北樹出版、2000年
伊藤美奈子編『思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店、2006年

【レポート作成上の注意点】

テキストをはじめ、文献等を参考にしながら、青年期の本質に迫ると同時に、その青年たちに関わる立場に身を置いて考えることを求めます。

またその際、自分の考えと、引用した文献等とを区別し、後者については引用文献として明記するようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

学校カリキュラム論

2単位

P034-1091

市販書採用科目

【テキスト】

田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年
※2018年に第2版が刊行されているが、2009年版を使用すること。

【講義要綱】

カリキュラムの意義とその編成について総合的・多角的に研究し、カリキュラムを自主編成する力量を養うことを目的とする。特に、「総合的な学習の時間」に象徴されるような広領域な学習領域を組織し評価する力量を養うことは、カリキュラム全体を組織・編成する力量養成に通じるものである。また、カリキュラム論といえば、自らの教育経験や子育て経験などを通じてある一定の「考え」をすでに（時には堅固に）有している受講生も多いと思われるが、本科目を通じてそれらを相対化し客観的に評価しうるようになることもそのねらいの一つである。

なおテキストには下表の通り修正を要する箇所があるので留意すること。

該当箇所	誤	正
199頁 22行目	1998年版学習指導要領は2001(平成13)年に実施されますが	1998年版学習指導要領は2002(平成14)年に実施されますが

指定の教科書の構成は以下の14パート構成である。
「学校づくりとカリキュラム」「内容選択の基準」「カリキュラム編成の原理」「子どもの発達とカリキュラム」「教科書」「カリキュラムと教育現場」「達成されたカリキュラム」「カリキュラムの履修スタイル」「教科のカリキュラム」「教科外カリキュラム」「近年のカリキュラム改革の動向」「日本の教育課程改革の歴史」「学習指導要領の変遷」「諸外国のカリキュラム」

【テキストの読み方】

事項別の解説書となっているが、学習指導要領を中心とした学校におけるカリキュラム編成のための基礎概念のみならず、背景にあるカリキュラム研究の知見をたえず意識しながら読むことが望まれる。また、テキストの解説項目は正確におさえながら、教育課程改革がすすむ現在の動向ともたえず連動させた視点をもって読み進めることにも努めてほしい。

【参考文献】

田中耕治・井ノ口淳三編著『学力を育てる教育学』八千代出版、2008年
「現行および次期の中学校・高等学校の学習指導要領およびその解説」（これらは文部科学省のホームページからダウンロード可能ですし、政府刊行物の取り扱い書店にて購入も可能です。）

【成績評価方法】

科目試験による。

国語科教育法

3単位

P006-7901、P9408

【講義要綱】

国語の教師となるにあたって、どのような知識が必要かということだけでなく、教師になってからどのような姿勢を保ち続けられるかということ意識したい。さらに、知識・理解だけではなく、生身の人間同士による対話から学びが作られていくことを忘れてはならない。

テキストのみではなく、広く現代の生徒像をイメージしてもらいたいため、参考文献を以下に示した。

【テキストの読み方】

物語の読み取りだけが国語の力ではない、評論や古典、さらには表現など幅広く生徒に力をつけさせるよう指導をしていくことを念頭におきたい。テキストを出発点として、さらに幅広く教材や研究書に向かうこと。

【履修上の注意】

一つの教材に対して正しい一つの授業があるとは思えない。そこにはまず生徒の人数規模や性格、そして学校の特色、教師の性質など、様々な要素を含んだうえで一つの授業を教室で実践している。教材研究の深さはもちろん大前提として必要だが、授業のスタイルはその時その時に最適なものを常に考えてほしい。したがって、世の中に存在する先行研究、実践例、指導案などを丸写しに行動する姿勢では良き教師たりえない。本講義の試験やレポートにおいても同様である。

【参考文献】

新学習指導要領（平成29年3月公示）※文部科学省のホームページよりダウンロードできる
「文部科学省検定済教科書 中学校国語 または 高等学校国語」各出版社
町田守弘『実践国語科教育法——「楽しく、力のつく」授業の創造』2012.9 学文社
中原國明 大熊徹編『国語科授業用語の手引き 第二版』2009.1 教育出版
堀裕嗣『教室ファシリテーション 10のアイテム・100のステップ』2012.3 学事出版

【レポート作成上の注意点】

履修上の注意でも述べた通り、先行研究を鵜呑みにするのではなく、教材を確実に自分のものとした上で成果をまとめてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会科・地理歴史科教育法

3 単位

P021-9992

市販書採用科目

【テキスト】

白井嘉一・柴田義松編著『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

小池俊夫・古屋野素材『「新しい社会科」を創る（修正版）』学芸図書、2000年

※『「新しい社会科」を創る（修正版）』は、絶版のため大学を通しての購入申込はできません。入手困難な場合は、『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』のみを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

現行教育制度がスタートした昭和22年から、小学校、中学校、高等学校における教科目として社会科が学ばれるようになった。この教科はその後、平成元年の学習指導要領改定から高等学校では地理歴史科と公民科へ移行したことにより、中等教育の教員免許取得においては、中学校教諭においては「社会」、高等学校においては「地理歴史」と「公民」の三免許体制となった（国語や数学その他は二免許）。そのことはとりもなおさずこの教科の特殊性であり、社会科の成立やその後の変化、どういった教育が行われようとしたのかを理解する必要がある。

この理解の上に立って、では中高生に社会認識を深めさせていく教育とはいかなるものが考えられるのか。そのひとつが「地理歴史」を通じて、地理的な空間認識を学ぶことと歴史的な時間（歴史）認識を学ぶことであり、こうしたことは事実上即して具体化させたものでしか教育的効果は期待できないのではないだろうか。社会科・地理歴史科教育法を学ぶにあたって自らのような教育が行えるか模索してもらいたい。

【参考文献】

日本社会科教育学会編『社会科教育事典（新版）』ぎょうせい、2012年

全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書、2011年

以上2点は書店で手に入るもの。以下2点は絶版のもの。

勝田守一『戦後教育と社会科』（勝田守一著作集1）国土社

上田薫『問題解決学習の本質』（社会科教育著作集1）明治図書

テキストとしてあげたもの以外に上記の文献が参考となる。図書館などで閲覧してもらいたい。

また、教育実習などで実際に授業を行う際や教員採用試験の勉強のために『中学校学習指導要領解説—社会—』『高等学校学習指導要領解説—地理歴史編—』を購入し、現在の社会科及び地理歴史科の教科の目的や目標、指導上の留意点なども理解を深めてほしい。

【レポート作成上の注意点】

1 について：社会科教育における問題解決型学習と系統学習は、一大論争を巻き起こしたものである。参考文献にあるもののほか、『梅根悟教育著作選集』（全

8巻、明治図書、1977年）の中から、勝田守一との社会科論争を取りあげ、検討してみるのがよい。

2 について：学習指導案の作成については、明確な基準といったものはなく、皆さんが教育実習に参加される学校や教育委員会ごとに作成の様式が異なっているといえるだろう。ここでは、テキスト本の中にある事例の中から最も授業を表現しやすいものを選んで作成してもらいたい。例えば、テキスト『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』の167頁から170頁を参考とすれば、課題の構成でいう①は（4単元名、5単元目標）、②は（7本時の内容と教材解釈、留意点）、③は（9授業展開）、④は（8準備する資料教材、参考文献・資料）となる。学習指導案は、実際に授業に臨まなくともどういった授業であったか復元することが可能となるものであり、なによりも生徒の学習する内容を明確にし授業前に構想したものと授業後の反省を可能とするものである。そうしたことから、作成においては、十分な説明を加えた文章にしてほしい。なお、国の基準である学習指導要領も参考にしてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会科・公民科教育法

3 単位

P023-9992

市販書採用科目

【テキスト】

白井嘉一・柴田義松編著『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

小池俊夫・古屋野素材『「新しい社会科」を創る（修正版）』学芸図書、2000年

※『「新しい社会科」を創る（修正版）』は、絶版のため大学を通しての購入申込はできません。入手困難な場合は、『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』のみを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

直接的には、高等学校公民科（現代社会・政治経済・倫理）一種免許にかかわる科目であるが、中学校社会科とも関連させながら、中等教育全体における社会科教育（学習）のあり方について幅広い考察をめざしたい。選挙権を行使して国政へ参加する主権者として、また、一経済主体である消費者として、子どもたちは、公民の授業を通して、さまざまな社会問題への関心を深めていくであろう。学生にとっても、積極的に社会に参加し、果たすべき役割を考える機会となることを期待する。

指定教科書の構成は、以下のとおりである。まずは、興味のある箇所から目を通してみるのでかまわないが、いずれは通読してもらいたい。

まえがき

第1章 中等社会・地歴・公民科教育の歴史

第2章 中等社会科カリキュラムの内容と構成

第3章 中等社会科・地歴・公民科の授業づくりと方法

第4章 中等社会科教育の課題

【参考文献】

指定したテキストのほかに、どの会社のものでもよいので、高校教科書の「現代社会」または「政治経済」と「倫理」が手元で参照できる状態であることがのぞましい。教科書の購入は、各居住地域の「教科書取次店」で入手できる（参考までに、東京地区では、千代田区神田駿河台の三省堂書店本店が便利である）。各教科書の価格は書店で確認してほしい。

また、今回のレポートの作成にあたっては、地域の図書館等を利用し、それぞれのテーマに関連して、各省庁から出ている白書類（『経済財政白書』『防衛白書』等）や、全国紙の縮刷版、時事用語事典類（『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』等）を参照することも重要である。できるかぎり新しい資料の活用に努めること。

なお、公民科としての学習領域とその内容を把握するために『高等学校学習指導要領解説—公民編—』（文部科学省）を手元に用意しておくことがのぞましい。

【レポート作成上の注意点】

（1）について：1200字は、写真などをのぞくと、高等学校の標準的な教科書の2～3ページ程度のボリュームである。したがって、できるかぎり要点を絞って書くことがのぞまれる。高校教科書の執筆者になったつもりで記述するとよい。いずれのテーマも、できるかぎり多角的なアプローチで考察してほしい。

（2）について：かならずしも学習指導案の形式をとる必要はないが、第三者からみて、授業の流れとそのようすがわかるような構成となるように工夫すること。また、授業の基本は、教師側からの問題提起（発問）とそれに対する生徒の応答である。つねに生徒が積極的に授業に参加できるような仕掛けを盛り込んでほしい。全体の授業時間（基本は1コマ50分）の配分も念頭において計画すること。

なお、インターネットで検索した資料を利用することは差し支えないが、参照したホームページのURLと、アクセスした日付を明記することがルールであるのは言うまでもない。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会科・地理歴史科教育法特論Ⅱ 2単位

P022-9992

市販書採用科目

【テキスト】

白井嘉一・柴田義松編著『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

小池俊夫・古屋野素材『「新しい社会科」を創る（修正版）』学芸図書、2000年

※『「新しい社会科」を創る（修正版）』は、絶版のため大学を通しての購入申込はできません。入手困難な場合は、『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』のみを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

社会科教育はその成立した当初から、初等教育（小学校）と中等教育（中学校及び高等学校）の間で教育方法や取り扱う内容などに関して異なった考え方が存在していた。これは当時の文部省にあって担当した調査官の相違などによるところも大きい。しかしながら、小学校から高校までの教育で児童・生徒に社会をどう認識させるかといった共通した理解の下に、社会科ではどういった内容をいかに学ばせるかを検討してきた歴史がある。ところが平成元年版の学習指導要領改定からは、小学校低学年（一年・二年）では生活に変更され、高等学校では地理歴史科と公民科に解体されることとなったのである。

本科目「社会科・地理歴史科教育特論Ⅱ」では、地理歴史科という解体された対象である地理と歴史に焦点をあて、特に歴史教育について検討してもらいたい。それは現在でも政治問題となるのが常に歴史教育に関することであるようにもともと社会から注目されるものであるからである。

もちろん地理歴史科という教科はその関係性を重視して教育することが求められており、すなわち空間的把握の地理と時系列的把握の歴史の連関する視点から社会認識を深めようとしているものである。

本科目指定のテキストと参考書を参照するときには、こういった観点を意識して学んでもらいたい。

【参考文献】

歴史教育に関して問題意識を深めるためには、家永三郎の著作を読んでほしい。『一歴史学者の歩み』は比較的手に入れやすいので必読である。

・家永三郎『一歴史学者の歩み』岩波現代文庫、2003年。

・家永三郎『家永三郎集』第1巻～第16巻、岩波書店、1997年～1999年。

また、学習指導要領は学校教育における国の教育内容の基準であるので必ず目を通しておくこと。下記した学習指導要領解説とは文部科学省が法規の一種である学習指導要領の内容を理解してもらうために項目ごとに解説したものであり運用するときの参考となるものである。

・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月）、日本文教出版。

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（平成22年6月）、教育出版。

【レポート作成上の注意点】

1 について：社会科教育としての歴史教育とは、どのようなものだろうか。家永三郎は参考に上げた著作以外に『検定不合格日本史』（三一書房）を出版（絶版）した。これは、教科書検定で不合格になった教科書を一般出版物として刊行したものであるが、元々教科書であるため、そこには学び方などが記載されている。こうしたものも参考として家永三郎の考え方を整理するとよい。また、レポート記載に当たっては、現在の歴史教育に関する政治家の発言なども取り入れながらあなたの考えをまとめてもらいたい。歴史観については、どのような立場（価値観）であつてもそれを評価の観点にしないので自由に記載してもらいたい。

2について：学習指導案作成に関しては、指定テキストの中にあるものを参考として工夫してほしい。インターネットで調べると教育委員会などで作成したものも見られるのでいろいろな書き方があることも学べるだろう。

今回のレポートについては、学習指導要領の指定の内容の部分は教科書で見ると多様な問題を分けて記述しているのがわかると思う。こういったテーマでもかまわないが、世界と日本といった観点と現代史としての授業は守ること。また授業については、資料として写真その他を使用するほか、博物館見学や施設見学を含めた授業構成でもかまわない。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会科・公民科教育法特論Ⅱ 2単位

P024-9992

市販書採用科目

【テキスト】

白井嘉一・柴田義松編著『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

小池俊夫・古屋野素材『「新しい社会科」を創る（修正版）』学芸図書、2000年

※『「新しい社会科」を創る（修正版）』は、絶版のため大学を通しての購入申込はできません。入手困難な場合は、『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』のみを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

現在、中学校社会科は「地理」「歴史」「公民」の3分野に分かれ、また高等学校では1989年の学習指導要領改訂により総合教科としての社会科は「地理歴史科」と「公民科」に分割され消滅した。しかし現行学習指導要領において、高等学校公民科は中学校社会科や地理歴史科との関連を図ることが、また中学校社会科では「地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するこの教科の基本的な構造に留意して、全体として教科の目標が達成できるようにする」ことが求められている。社会科公民的分野および公民科が、地理的分野や歴史的分野および地理歴史科とは異なる総合的性格を付与されていると言えよう。このような特徴を持つ中学校社会科公民的分野、高等学校公民科の各科目において、中等社会科・公民科の歴史の変遷およびその理論を基礎としながら、いま現実目の前にいる生徒をふまえた上でいかなる授業を構想することが可能か。教科書分析を初めとする教材研究を深め、講義や討論、班活動、発表などの授業形態を選択し、生徒の多様な学習のあり方を「評価」することが本講義の最終的な目標である。

なお、指定テキストの構成は以下のとおりである。

- 第1章 中等社会・地歴・公民科教育の歴史
- 第2章 中等社会科カリキュラムの内容と構造
- 第3章 中等社会科・地歴・公民科の授業づくりと方法
- 第4章 中等社会科教育の課題

【参考文献】

中学校社会科「公民的分野」の教科書（各地の「教科書取次店」で入手可能。）

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、2008

文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房、2009（学習指導要領およびその解説は文部科学省のホームページからダウンロード可能。）

なお、授業を構想する際には社会科公民的分野および公民科の事例はもちろんのこと、他の分野・教科での実践事例が手がかりとなることも多い。ぜひ参考にされたい。

安井俊夫『主権者を育てる公民の授業―婚姻届から核戦争まで―』あゆみ出版、1986

久保田貢ほか編著『日本国憲法に出会う授業―子どもたちはどう学んだか―』かもがわ出版、2005

田中耕治編『時代を拓いた教師たち―戦後教育実践からのメッセージ―』日本標準、2005

田中耕治編『時代を拓いた教師たちⅡ―実践から教育を問い直す―』日本標準、2009

【レポート作成上の注意点】

中学校、高等学校の別や共学か別学か、また学年や学級の数などを詳細に設定し、それらの条件を前提に、教師の働きかけと想定される生徒の反応・学習活動を具体的に記述すること。

授業を構想するということは、履修者自身が受けてきた授業、ひいては学校経験を相対化することに他ならない。自らがどのような授業を構想し、それはどのような経験に基づいて（とらわれて）いるのか、レポート作成を通じて自らと対話しながらこれまでの授業経験をふりかえってもらいたいと考えている。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・英語科教育法

3単位

P040-1791

市販書採用科目

【テキスト】

石田・小泉・古家『新しい英語科授業の実践』金星堂、2013年

【講義要綱】

英語科の教員として必要となる英語教育学の理論と実践について教科書および参考書を通して学ぶ。特に、日本の学校英語教育における目的論、カリキュラム論、教材論、学習者論、教授法、評価方法、4スキル・文法等の指導実践に関する各論を研究する。また、教育実習に備え、教案（英語版）の作成方法も学習して欲しい。

【テキストの読み方】

常に実践を意識しながら、しっかりと読んで「基本」を学んでほしい。なお、講義要綱に記載の分野（目的論・カリキュラム論・教材論・学習者論・教授法・評価・指導実践各論）については、複数の参考書を使い、その理解を深めてほしい。

【履修上の注意】

履修上の条件は特に無いが、教職に関する科目（特に教育心理学・教育方法論・学校カリキュラム論等に関連する科目）や、教科に関する科目（特に英語学・言語学・英米文学・比較文学などに関連する科目）等と同時にしないはその履修後にとりかかるとを勧める。

【関連科目】

上記（「履修上の注意」）参照

【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領』
文部科学省『中学校学習指導要領』
文部科学省『高等学校学習指導要領』
文部科学省『中学校学習指導要領解説―外国語編―』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』
（なお、これらの学習指導要領については、最新のものを入手するか文部科学省のホームページから最新のものをダウンロードすることもできる）
浅羽亮一他著『わかりやすい英語教育法〔改訂版〕小中高での実践的指導』三修社、2013年
石田雅近他編『英語教師の成長：求められる専門性』大修館書店、2011年
JACET 教育問題研究会編『新しい時代の英語科教育の基礎と実践』三修社、2012年
JACET SLA 研究会編著『第二言語習得と英語科教育法』開拓社、2013年
木村松雄編『新版英語科教育法：小中高の連携―EGP から ESP へ』学文社、2011年
三浦省五・深沢清治編『新しい学びを拓く英語科：授業の理論と実際』ミネルヴァ書房、2009年
望月昭彦編『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店、2010年
村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店、2006年
村野井仁『統合的英語科教育法』成美堂、2012年
高橋一幸『成長する英語教師』大修館書店、2011年
土屋澄男編著『新編英語科教育法入門』研究社、2011年
（以上の参考書については、改訂されている場合は、新学習指導要領に基づくものを利用すること。）

【レポート作成上の注意点】

課題1は英語で書くこと。教育実習生の英語力の低下が現場では問題となっているので、英語の辞書や英語そのものに関する参考書を使い、英語の教員としてふさわしい完璧な英語で作成して欲しい。また、教案は人に見てもらえることが多いので、第三者がみても分かり易いフォーマットで作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

道徳教育論

2単位

P025-7001

【講義要綱】

本科目は、中学校教育職員免許状取得を念頭に、学校の教育活動全体を通じて行うものとされる道徳教育について多角的に考察することを目的とする。

古来より哲学・倫理学が問うてきた道徳教育に関するいくつかの問題は、解消される類の問題ではない。道徳教育を実施するに当たっては、そのような問いに対して各教師が自覚的になったうえで教育目標や方法を設定する必要があると考えられる。そのためには、各自が学習指導要領を批判的に読み、その問題点を明らかにしなければならない。それはつまるところ、自分が現に生きている「道徳」を一旦自分自身から引き離して客観視する作業を欠くことができない、ということでもある。したがって、本科目の受講にあたっては多量の読書と多量の考察が避けられないことを記しておく。

【テキストの読み方】

テキストと合わせて、「参考文献」に挙げた平成27年度3月改定版中学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」、および中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳篇（いずれも文科省ホームページから PDF ファイルをダウンロードして入手できる。）を必ず入手してよく読むこと。

【科目試験出題用指定参考書】

※7月、10月、1月の科目試験について
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？―「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター、2011年

【参考文献】

平成27年度3月改定版中学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」、および中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳篇
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？―「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター、2011年
宇佐美寛『「道徳」授業に何ができるか（教育新書）』明治図書、1989年
パオロ・マッツァリーノ『みんなの道徳解体新書』ちくまプリマー新書、2016年
越野章史『市民のための道徳教育―民主主義を支える道徳の探求』部落問題研究所、2016年
渡辺雅之『いじめ・レイシズムを乗り越える「道徳」教育』高文研、2014年

【レポート作成上の注意点】

テキスト、学習指導要領とその解説編に加え、その他参考文献に挙げた書籍を少なくとも2冊以上じっくり読み込んで、学習指導要領に対して自らの意見を持ったと自覚できた時点で書き始めること。

当方が参考文献に指定していない書籍を加えて読むことは一向にかまわないが、いわゆる道徳教育の「教

科書」として書かれた書物は読むだけ無駄なものも多い。できれば道德教育に関する概説的な書物を避け、特定のテーマについて論じた書物を選ぶとよい。

【成績評価方法】

科目試験による。

特別活動論

2 単位

P031-0492

市販書採用科目

【テキスト】

高旗正人・倉田侃司編著『新しい特別活動指導論〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2011年

【講義要綱】

本科目では、特別活動の教育課程上の位置づけや内容、指導方法、評価などの特質から、人間形成における特別活動の意義や役割について概観する。具体的には、学年の違いによる活動の変化や他教科との関連、「チーム学校」としての家庭・地域との連携という観点から特別活動の特質について学ぶ。本科目では、特別活動の教育的意義や役割について考察することを通して、各活動・学校行事の特質やそれぞれの指導法を理解し、教員としての基礎的な力量を養うことを目的としている。指定教科書の構成は次の通りである。

序章

第1部 特別活動の考え方・進め方

- 第1章 特別活動の目標
- 第2章 学級活動（ホームルーム活動）
- 第3章 児童会・生徒会活動
- 第4章 学校行事
- 第5章 クラブ活動と部活動

第2部 新しい学校と特別活動の課題

- 第6章 特別活動の今日的課題
- 第7章 「総合的な学習の時間」と特別活動
- 第8章 教科指導と特別活動の関連

第3部 特別活動を考えるための基礎

- 第9章 学級・学校集団の理論
- 第10章 特別活動の歴史

終章

【履修上の注意】

文部科学省ホームページを閲覧し、新学習指導要領（平成29年3月）の内容と比較・考察しながら、テキストを読み進めてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育方法論

2 単位

P039-1691

市販書採用科目

【テキスト】

岩川直樹編『教育の方法・技術』学文社、2014年
メディア教育開発センター『教師の力量アップをめざ

して ICT 編』（DVD 教材）放送大学教育振興会、2005年

【講義要綱】

教育の方法を探究し改善することは、一般に思われているような単純なノウハウを覚える作業ではありません。この科目では、そもそも教育方法を探究するとはどのようなことを、さまざまな角度から学び、自分なりの教育方法を探究する土台を築いていくことを目標とします。

【テキストの読み方】

冒頭の第1章と、最後の第8章が、総論となっています。教育の方法を探究するとはいったいどういうことでしょうか。教育方法観そのものが多様であること、一つ一つの教育方法が各時代の政治・経済・文化と深く結びついていることを、まず理解してください。

第2章から第7章は、教育の方法を、特定の角度から具体的に考察した内容になっています。子どもの学びをどのように観察し、どう子どもにフィードバックするか、子どもに向き合う教師自身の考え方や価値観をどう振り返るかなど、各論の内容をそれぞれよく理解してください。

各論の内容を具体的に理解するためには、以下に示す具体的な教育実践に関する参考書をあわせて読むと参考になります。

そのうえで、もう一度、冒頭の1章と、最後の8章を読みましょう。二回目に読むと、総論がどのようなことか、認識が深まることでしょう。

【履修上の注意】

教材はテキストとDVDです。両者を十分に活用してください。DVD教材については、すべて視聴すること。

【参考文献】

- 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店、1996年
- 金森俊朗『希望の教室—金森学級からのメッセージ』角川書店、2005年
- 金森俊朗『町にとびだせ探偵団—お米と水をさぐる』ゆい書房、1994年
- 小林光彦『格差を越える中学校—荒れの克服と学力向上』解放出版社、2008年
- 志水宏吉『公立学校の底力』ちくま新書、2008年
- 仁藤夢乃『難民高校生』英治出版、2013年
- 青砥恭『ドキュメント高校中退』ちくま新書、2009年

【レポート作成上の注意点】

また、レポートおよび試験については、具体的な実践例を文献等で調べてから臨み、必ず実践例を引用しながら論じてください。

具体的な実践例とは、例えば〇〇学校の〇〇教諭による〇年生〇〇科の〇〇という授業または△△という取り組み、あるいは〇〇氏によるルポルタージュによる△△の事例、といった具合の具体さを求めます。実践例としては、まず以下に列挙した参考文献を手がか

りにしてください。

レポート文中の引用に際しては、文献を最後に記すだけでなく、必ず記述ごとに脚注をつけ、その記述内容がどの文献を根拠にしているのかをはっきりわかるようにしてください。脚注および参考文献が不十分なレポートは不合格になりますのでご注意ください。

【成績評価方法】

科目試験による。

生活指導論

2単位

P037-1192

市販書採用科目

【テキスト】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ13——生活指導』改訂版、学文社、2014年

【講義要綱】

個々の生徒の「問題行動」の背後には、しばしば、深刻で多様な矛盾を含む社会の現実がある。この事実、今日、いかなる具体的様相を呈しているか。また、それらの諸矛盾の克服が課題として提起されるように生徒たちの学習を共同化しようとするとき、教師たちはどのような手だてを講じるべきか。こうした問題に答えを出すべく、生活指導、進路指導、教育相談の理論と方法を学びながら、子どもたちのあいだに関わり合いとしての集団が組織されることの重要性について、理解を深めよう。

【テキストの読み方】

テキストの内容を十分に理解するには、少なくとも、すべての章（巻末の実践編を含む）について、その章の内容を的確に要約するようなノートを作るべきである。印象に残りやすかったところだけを断片的に書き留めるのではなく、章の表題や小見出しも手掛かりにして、各節の内容や複数のキーワードが互いにどう関わっているのかということろまで、しっかり考えるようにするのがよい。また、満足なレポートを書くためには、参考文献を読むことによってテキストの内容に関する理解を補うことも欠かせない。

【参考文献】

岩川直樹・伊田広行編著『未来への学力と日本の教育 8——貧困と学力』明石書店、2007年
照本祥敬・加納昌美編著『シリーズ教師のしごと 3——生活指導と学級集団づくり 中学校』高文研、2015年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』を読んで所定の字数制限を踏まえるように。講義要綱は、レポートを書き上げたときにも、読み返してみるとよい。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育臨床論

2単位

P038-1591

市販書採用科目

【テキスト】

伊藤直樹編『教育臨床論—教師をめざす人のために—』批評社、2009年

【講義要綱】

教師に必要とされる教育臨床的な視点を理解し、その視点から学校教育で生起している諸現象について考えることができるようになることが目標です。また、その学習過程において基本的な専門用語を知識として身に付けることが求められます。

【履修上の注意】

テキストの内容を単に理解するだけではなく、テキストの論述についてクリティカルに考えることも求められます。

【関連科目・分野】

「青年心理学」、「教育心理学」、「生徒指導論」、「学校カウンセリング」

【参考文献】

伊藤美奈子『スクールカウンセラーの仕事』岩波アクティブ新書、2002年
伊藤美奈子編『思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店、2006年

【レポート作成上の注意点】

テキスト、参考文献のほか、関連文献について広く目を通したうえで自分なりの考え方や言葉を大事に論じて頂きたい。教師として学校現場に立った自分を想定し、その目を通して考えて頂きたい。

【成績評価方法】

科目試験による。